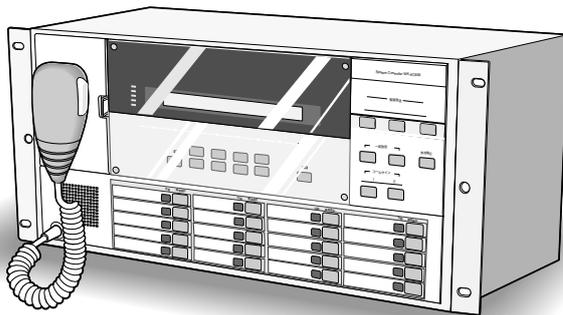


Panasonic®

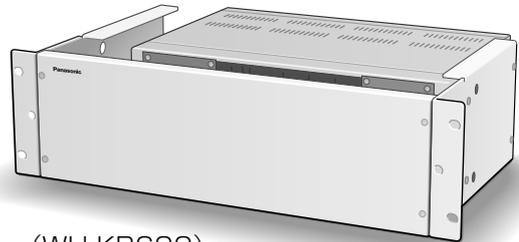
工事説明書

業務放送システム

品番 WL-K600



(WK-KC600)



(WU-KR600)

商品概要

本業務放送システム（WL-K600 以下、本機）は、公共施設・工場・店舗などに館内放送を行うための放送装置です。

- ・本機は、システムコントローラー（WK-KC600）と、入出力制御ユニット（WU-KR600）とで構成されています。
- ・システムを構成するためには、以下のユニット（本機を含む）が必要となります。必要に応じて別売のその他のユニットをあわせてご使用ください（システムの概要→12ページ）。また、周辺機器を組み合わせることにより、建物や運用形態に応じたシステムを構築することができます。

本機および接続する主な機器の名称と製品品番は以下のとおりです。本書中では、製品品番を省略する場合があります。

機器名称	製品品番	備考
システムコントローラー	WK-KC600	本機（WL-K600）
入出力制御ユニット	WU-KR600	
電源制御ユニット	WU-L62	別売品・必須
電力増幅ユニット	WU-P51、WU-P52、WU-P53	別売品・必須
増設用操作ユニット	WK-EX510、WK-EX520	別売品
増設用出力制御ユニット	WU-ER551、WU-ER552	別売品
入力マトリクスユニット	WU-MX544	別売品
拡張制御ユニット	WU-EX590	別売品
非常制御出力ユニット	WU-EM552	別売品
リモコンマイク	WR-210A、WR-205A、 WR-201、WU-RM205	別売品
マルチリモコンマイク (本書中ではマルチリモコン)	WR-MC100A	別売品
非常電源ユニット	WP-570B	別売品
ニッケルカドミウム蓄電池	NCB-600、NCB-350	別売品
ラック	WU-RS80、WU-RL85	別売品

2009年7月現在の情報を記載しています。最新の情報については、販売店にご確認ください。

くわしい使いかたは、各機器の取扱説明書をお読みください。

取扱説明書について

本書は、業務放送システム（WL-K600 以下、本機）の工事説明書です。本機の説明書は分冊構成になっています。作業する内容や目的により、参照する説明書が異なります。

説明書	記載内容	対象
業務放送システム 取扱説明書 (別冊)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緊急放送、業務放送のしかた ・ 音量調整のしかた ・ プログラムコントローラーの操作 ・ プログラム設定 など 	放送運用／管理者 工事／設置者
業務放送システム 工事説明書 (本書)	<ul style="list-style-type: none"> ・ システム構成について ・ 設置・接続方法 ・ 保守・点検方法 ・ 本体操作による設定方法 ・ PCカードの扱いかた など 	工事／設置者

工事に関する詳細は、業務放送システムの本書を、本体操作に関する詳細は、取扱説明書をお読みください。また、各説明書の「はじめに」は、作業を始める前に、必ずお読みください。

ソフトウェアのバージョン情報など本書中に示す画面図は表示例であり、実際のものとは異なる場合があります。

付属品をご確認ください

取扱説明書 1冊
 工事説明書（本書） 1冊
 保証書 1式

以下の付属品は設置工事で使用します。

本体マイクロホン 1個
 DATA BUS Cケーブル（20ピン、2.5m） 1本
 PWR CONT変換ケーブル（15 cm） 1本
 ケーブル用ラベル（印刷あり） 1枚
 ケーブル用ラベル（印刷なし） 1枚
 緊急スイッチカバー 1個
 2芯シールドケーブル（2 m） 1本
 PWR CONTケーブル（10ピン、2.5 m） 1本
 束線バンド 10本
 ラックマウント用バインドねじ
 （呼び径5×12、リブ付き） 8本

登録商標・商標について

- ・ Compact Flash（コンパクトフラッシュ）は米国SanDisk社の商標です。
- ・ AdobeおよびReaderは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・ Microsoft、Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・ その他、本文中の商品名は各社の登録商標または商標です。

略称について

- ・ 本書では、以下の略称を使用しています。
- ・ Microsoft® Windows® XP Professional SP3日本語版をWindows XPと表記しています。
- ・ Microsoft® Windows® Vista™ Business SP1（32ビット）、またはHome Premium SP1（32ビット）日本語版をWindows Vistaと表記しています。

はじめに

商品概要	2
取扱説明書について	3
付属品をご確認ください	3
登録商標・商標について	4
略称について	4
安全上のご注意	10
システムの概要	12
おもな機能	12
機器一覧	13
工事部品一覧表	16
ユニット構成について	17
本機に必要なユニット	17
システムコントローラーの業務選択スイッチについて	18
リモコンマイク・マルチリモコンについて	19
システム電源早見表	20
設置工事の前に	27
接続線について	27
AC電源配線について	28
マルチリモコンマイク (WR-MC100A) の接続線	28
リモコンマイク (WR-201/205A/210A) の接続線	28
設置上のご注意	29
設置工事の推奨手順	31

設置

ラックに取り付ける前に	32
システムコントローラー	32
本体マイクロホンの接続	32
緊急放送スイッチの外しかた	33
スイッチの設定	34
入出力制御ユニット	35
ラックへの取り付け	39
ユニットの収納位置について	39
ユニットの設置について	40

はじめに

設置

接続

システムの応用

通電時の確認

書き込み

動作確認と調整

保守点検

必要なとき

接続

ユニットの接続.....	42
システム接続例	42
システムコントローラーの接続	44
入出力制御ユニットの接続	47
電源制御ユニット WU-L62	49
電力増幅ユニット WU-P51/P52/P53	52
外部機器との接続.....	54
入出力制御ユニットの通線のしかた	54
端子台の接続	54
スピーカー出力端子の接続	55
マルチリモコンマイク WR-MC100A	56
リモコンマイクの接続	59
外部制御入力の接続	62
ページング制御端子の接続	64
BGM起動端子の接続	65
チャイム制御端子の接続	67
RU+端子の接続	68
汎用出力端子の接続	68
状態出力機能	69
EMG24Vブレイク端子の接続	70
非常放送優先入力端子の接続	71
時刻補正端子の接続	72
バックアップ放送について	74
接続のしかた	75
PCとの接続	77
PC接続の概要	77
PC1コネクタ (USB) での接続	78
PC2コネクタ (RS-232C) での接続	78
緊急放送について.....	79
機能概要	79
緊急放送を行うための設定	79
停電放送について.....	81
停電時に緊急放送・業務放送を行うには	81
外部制御入力の停電起動設定	83
リモコンマイクによる停電放送	84
非常電源ユニットの収納と接続	87
ユニットの増設.....	88
増設用操作ユニットの増設	88

システムの
の応用

はじめに
設置
接続
システムの応用
通電時の確認
書き込み
動作確認と調整
保守点検
必要なとき

増設用出力制御ユニットの増設	91
拡張制御ユニット/非常制御出力ユニットの増設	96
ミキサーユニットについて	101
モニターユニットについて	102
増設用操作ユニットの機能について	103
スピーカー選択スイッチ・放送ブロックスイッチ	103
汎用出力スイッチ・メッセージスイッチ	104
多元放送について	105
多元放送とは	105
入力マトリクス構成の考えかたについて	105
入力マトリクスユニット スイッチ設定	106
入力マトリクスユニットの接続のしかた	107
フェード動作について	115
入力音量／出力音量の調整	116
設置完了確認チェックポイント	117
接続点検	117
電源投入時の確認	118
時刻設定のしかた	119

通電時の確認

書き込み

書き込みの概要	120
書き込みとは	120
設定項目一覧	122
画面の流れ	126
1. 機器構成設定画面の流れ <キキコウセイ>メニュー下	126
2. 緊急放送設定画面の流れ <キンキュウ>メニュー下	128
3. 業務放送設定画面の流れ <ギョウム>メニュー下	132
4. 緊急放送と業務放送の共通設定画面の流れ <キョウツウ>メニュー下 ...	138
5. 高度な設定画面の流れ <コウドナセッテイ>メニュー下 ...	140
6. その他の設定画面の流れ <ソノタ>メニュー下	144
7. PCカードの設定画面の流れ <PCカード>メニュー下	146
基本的な操作のしかた	148
操作パネルの名称（書き込みに使用する部分のみ）	148
液晶画面の見かた	149
書き込みメニュー画面を表示する	150
項目選択のしかた	151
数値入力 of のしかた	152

書き込み

書き込みを保存して終了する 153

機器構成設定のしかた 154

 機器構成設定の概要 154

 機器構成情報を取得し、初期値上書きする 156

 機器構成情報を取得する 158

 機器構成情報を確認・設定する 159

緊急放送設定のしかた 162

 緊急放送設定の概要 162

 緊急放送の設定対象の選択 166

 緊急放送の音声の設定 167

 緊急放送先（スピーカー回線）の設定 168

 緊急放送の優先順位の設定 168

 外部制御入力による緊急放送の設定解除 169

 一斉EMG24Vブレイクの設定 169

 汎用出力の設定 170

 ライン2入力の設定 170

業務放送設定のしかた 171

 業務放送設定の概要 171

 業務放送の音声の設定 173

 放送ブロックスイッチの音声設定 174

 マルチリモコン／リモコンマイクの音声設定 174

 外部制御入力／拡張外部制御入力の音声設定 175

 チャイム／ページング／BGMの音声設定 176

 プログラム起動の音声設定 176

 業務放送先（スピーカー回線）の設定 177

 業務放送の優先順位の設定 178

 同順位の放送が重なる場合の設定 178

共通機能の設定のしかた 179

 共通設定の概要 179

 汎用出力／拡張汎用出力の設定 181

 状態出力の設定 182

 出力CHのスピーカー回線登録 183

高度な設定のしかた 184

 高度な設定の概要 184

 個別EMG24Vブレイクの設定 187

 コールサインスイッチへの音源の設定 188

 マルチリモコン／リモコンマイクの一斉スイッチの動作設定 189

 制御グループの設定 190

はじめに

設置

接続

システムの応用

通電時の確認

書き込み

動作確認と調整

保守点検

必要なとき

制御グループの解除	191
メッセージスイッチの音声設定	192
プログラムコントローラーの設定	193
その他の設定.....	195
その他の設定の概要	195
パスワードの変更	195
蓄電池点検時刻の設定.....	196
動作履歴データの消去	196

動作確認 と調整

音量調整	197
対象音源一覧	197
本体マイク、BGM、ライン1、ライン2の音量調整	198
モニタースピーカーの音量調整	198
その他の音量調整	199
動作確認	203
動作確認	203
絶縁抵抗試験のしかた	204
表示カードの記入・取り付け	205
PCカードによるデータの扱いかた.....	206
取り扱うデータについて	206
PCカードについて	207
本体からPCカードに	209
PCカードから本体に	210

保守点検

点検のしかた.....	212
点検の概要	212
手動点検	213
運用点検	216
システム監視と異常発生時の確認	218
蓄電池の点検と交換.....	220
注意喚起メッセージと対処方法.....	222

必要な とき

故障かな!?	225
システム設定表.....	229

安全上のご注意

必ずお守りください

はじめに

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

 **警告** 「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。

 **注意** 「傷害を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。(次は図記号の例です)

 してはいけない内容です。

 実行しなければならない内容です。

警告

工事は販売店に依頼する

 工事には技術と経験が必要です。火災、感電、けが、器物損壊の原因になります。

●必ず販売店に依頼してください。

雷のときは工事、配線をしない

 火災や感電の原因になります。

禁止

不安定な場所に置かない

 落下などで、けがの原因になります。

禁止

ねじやボルトは指定されたトルクで締め付ける

 落下などで、けがの原因になります。

●取付工事は販売店に依頼してください。

異常があるときは、すぐ使用をやめる

 煙が出る、臭いが出るなど、そのまま使用すると火災の原因になります。

●直ちに電源を遮断して、販売店にご連絡ください。

機器の上や周囲に水などの入った容器を置かない

 水などが中に入った場合、火災や感電の原因になります。

水ぬれ禁止

●直ちに電源を遮断して、販売店にご連絡ください。

配線器具の定格を超える使い方や、交流100V以外での使用はしない

 たこ足配線などで、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

禁止

異物を入れない

 水や金属が内部に入ると、火災や感電の原因になります。

禁止

●直ちに電源を遮断して、販売店にご連絡ください。

分解しない、改造しない

 火災や感電の原因になります。

分解禁止

●修理や点検は、販売店にご連絡ください。

警告

取り付けは、必ず電源を切ってから行う



感電の原因になります。

決められたヒューズを使う



規定以外のヒューズを使うと、火災の原因になります。

ぬれた手で、ケーブルの抜き差しはしない



ぬれ手禁止

感電の原因になります。

電源ケーブルを破損するようなことはしない

(傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重いものを載せたり、束ねたりしない)



禁止

傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。

- ケーブルの修理は販売店にご相談ください。

水をかけたり、ぬらしたりしない



水ぬれ禁止

火災や感電の原因になります。

- 直ちに電源を遮断して、販売店にご連絡ください。

振動や強い衝撃を与えない



禁止

火災や感電、故障の原因になります。

湿気やほこりの多い場所に設置しない



禁止

火災や感電、故障の原因になります。

注意

コネクタの抜き差しは電源を切ってから行う



クリック音でスピーカーが破損する恐れがあります。

通風孔をふさがない



禁止

内部に熱がこもり、火災の原因になります。

システムの概要

おもな機能

■最小のユニット構成

- ・10局10回線まで放送エリアを分けることができます。
- ・緊急外部制御入力や緊急放送スイッチによる、緊急放送が可能です。
- ・本体内蔵音源（ウェストミンスターの鐘・緊急地震速報 など）による放送が可能で、外部音源機器なしで対応できます。
- ・マルチリモコンマイクを最大8台、リモコンマイクを最大6台接続できます。（本機から電源供給可能なマルチリモコンマイクは最大4台ですので、5台目以降はACアダプターが別途必要です。）
- ・放送起動を行うための外部制御入力を10接点・外部機器の制御やシステム状態を出力することができる汎用出力が10接点あります。
- ・プログラムコントローラーを内蔵しています。週間スケジュール、年間スケジュールを設定して作成したスケジュール通りに放送することができます。
- ・放送の優先順位が1位から16位まで設定可能で、放送の重複を防ぐことができます。

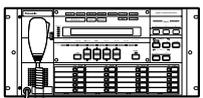
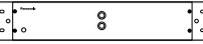
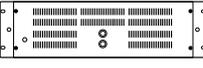
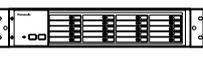
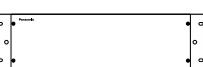
■システムの拡張

- ・最大340局330回線まで放送エリアを拡大することができます。
- ・入力マトリクスユニットを使用することにより、32入力8出力または8入力32出力までの多元放送ができます。
- ・非常電源ユニット・蓄電池を接続して、停電時にも放送を行うことができます。
- ・ユーザーオリジナルのメッセージ・コールサインを本体に登録し、必要に応じて放送することができます。
- ・外部制御入力を160接点、汎用出力を150接点まで拡張することができます。（拡張外部制御入力および拡張汎用出力）

メモ

- システムの拡張のしかたについては、「システムの応用（→79ページ）」をお読みください。
 - 設置工事を行う前にシステム設計書・納入仕様書など、システムの詳細が記載されている資料を今一度読み直し、ユニットや工事部品などに欠品がないかご確認をおすすめします。
-

機器一覧

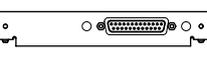
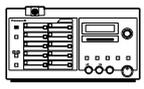
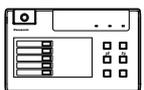
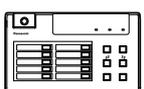
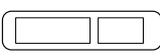
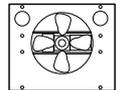
品名	品番	外観	高さ	AC100V 消費電力	DC24V 消費電流	概要
業務放送システム	WL-K600					
システム コント ローラー	WK-KC600 (20局)	 単品販売しません	5U		370 mA	<ul style="list-style-type: none"> ●業務選択スイッチ20局は、スピーカー選択スイッチや放送ブロックスイッチ、メッセージスイッチとして10局単位で設定
入出力 制御 ユニット	WU-KR600	 単品販売しません	3U		480 mA	<ul style="list-style-type: none"> ●リモコンマイク、マルチリモコンマイク、外部制御、その他周辺機器との接続用ユニット ●外部制御入力 10端子、リモコンマイク制御入力 10端子は、5端子単位でいずれかに割り振り可能、最大で20の外部制御入力またはリモコンマイク制御入力として使用可能 ●汎用出力は10端子あり、5端子単位で状態出力として使用可能
電力増幅 ユニット	WU-P51 (60 W)		2U	60 W ※	1.3 A	●AC/DC兼用の電力増幅ユニット
	WU-P52 (120 W)			115W ※	3.3 A	
	WU-P53 (360 W)		3U	310W ※	8.6 A	
電源制御 ユニット	WU-L62		1U	140W (DC3.6 A出力時) ※		<ul style="list-style-type: none"> ●各ユニットのDC24 V電源を供給する ●システムの規模により増設が必要 (→20ページ)
増設用 操作 ユニット	WK-EX510 (10局)		2U		60 mA	<ul style="list-style-type: none"> ●業務選択スイッチの増設用ユニット ●10/20局単位で合わせて最大16台、340局まで増設可能 ●ユニット単位でスピーカー選択スイッチまたは放送ブロックスイッチとして設定 ●設定により、内蔵音源のメッセージ再生 (メッセージスイッチ10) と汎用出力 (汎用出力スイッチ10) を行うユニットへ変更可能 (本機能はシステムで1台のみ設定可能)
	WK-EX520 (20局)		2U		90 mA	
拡張制御 ユニット	WU-EX590 (20接点)		3U		430 mA	<ul style="list-style-type: none"> ●外部制御入力および汎用出力を20接点/台で増設するユニット ●ディップスイッチにより、リモコンマイク制御入力として設定可能 ●拡張外部制御入力のグルーピングが可能 ●非常制御出力ユニット (WU-EM552) と合わせてシステムに最大7台まで接続可能

↑
1U=44.45 mm

※「電気用品安全法技術基準」による消費電力

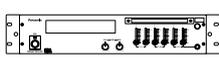
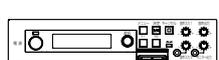
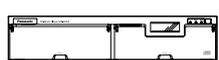
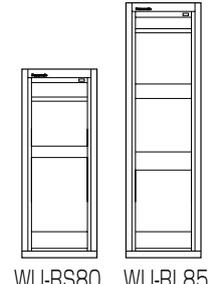
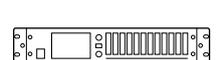
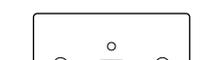
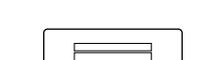
システムの概要 (つづき)

はじめに

品名	品番	外観	高さ	AC100V 消費電力	DC24V 消費電流	概要
増設用 出力制御 ユニット	WU-ER551 (10回線)		3U		690 mA	<ul style="list-style-type: none"> ●スピーカー回線 (10/20) の接続、制御ユニット ●階別信号入力端子 (10/20) 装備 ※本機に接続時には動作しません。 ●10回線、20回線合わせて合計330回線まで拡張可能 ●10回線と20回線のユニット合わせてシステムで最大16台まで接続可能
	WU-ER552 (20回線)		3U		1 A	
スピーカー 制御状態 出力ボード	WU-EZ552		—		180 mA	<ul style="list-style-type: none"> ●スピーカー回線の制御に同期してメイク信号を出力するボード ●周辺機器を放送と連動させて制御できる ●増設用出力制御ユニットへ実装するオプションボード (入出力制御ユニットWU-KR600Iには実装できません)
非常制御 出力 ユニット	WU-EM552 (20系統)		3U		2.5 A	<ul style="list-style-type: none"> ●EMG24 Vブレイク信号を個別に20系統出力できる ●拡張外部制御入力20接点を持ち、ディップスイッチによりリモコンマイク制御入力として設定可能 ●拡張制御ユニット (WU-EX590) と合わせてシステムに最大7台まで接続可能
マルチ リモコン	WR-MC 100A		—		250 mA	<ul style="list-style-type: none"> ●20のブロック放送、個別放送、一斉放送が可能 ●最大8台まで接続可能 ●壁取り付けが可能 ●5台目以降、ACアダプター (WZ-MC100) が必要
リモコン マイク	WR-201 (単局用)		—		45 mA	<ul style="list-style-type: none"> ●単局/5局/10局のリモコンマイク ●合計で最大6台まで接続可能 ●WR-205A/210Aは別売金具により壁取り付けが可能
	WR-205A (5局用)		—		45 mA	
	WR-210A (10局用)		—		45 mA	
	WU-RM205 (5局増設用)		—		—	
非常電源 ユニット	WP-570B		2U	24 W ※	—	<ul style="list-style-type: none"> ●停電時の業務・緊急放送用の電源を供給するユニット ●蓄電池 (別売品) と充電制御部より構成される ●システムの規模により使用台数が変わる (→20ページ)
ニッケル カドミウム 蓄電池	NCB-350 NCB-600		—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ●WP-570Bに組み込んで使用する ●システムの規模により、非常電源ユニット1台あたりに組み込む種類、本数が変わる (→20ページ) <div style="text-align: right;">  Ni-Cd </div>
ファン ユニット	WU-L45A		—	24 W	—	ラック内の電力増幅ユニットの合計定格出力が720 Wを超える場合、ラック最上部に取り付けます

↑ 1U=44.45 mm

※「電気用品安全法技術基準」による消費電力

品名	品番	外観	高さ	AC100V 消費電力	DC24V 消費電流	概要
入力マトリクスユニット	WU-MX544		1U	—	220 mA	<ul style="list-style-type: none"> ●4入力、4出力のマトリクスユニットで多元放送が可能 ●最大16台（8入力32出力または32入力8出力）まで拡張可能 ●外部からの接点制御によるマトリクス切換制御が可能
ミキサーユニット			2U	5 W	100 mA	<ul style="list-style-type: none"> ●業務放送用に音声入力を拡張しミキシングするユニット ●ラジオチューナーを使用する場合には、本ユニットが必要
ラジオチューナーユニット	WU-T60A		—	—	WU-M60Aから供給 120 mA	<ul style="list-style-type: none"> ●AM/FM用のラジオチューナーユニット ●ミキサーユニット WU-M60Aに組み込んで使用
デジタルICレコーダー	WZ-DP150 WZ-DP250		—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ●SDメモリーカードで録音・再生ができません（録音はWZ-DP250のみ） ●8種の音源をあらかじめ内蔵
CD-MUSICプレーヤー	WB-655A		—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ●5ディスク連続再生によりステレオで最大20時間連続演奏が可能 ●液晶ディスプレイに時間、年月日、曲順を表示
ラック	WU-RS80 (スタンダード)	 WU-RS80 WU-RL85	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ●収納ユニット数 29U ※サービスユニット、ブランクパネルを除く
	WU-RL85 (ロング)		—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ●収納ユニット数 41U ※サービスユニット、ブランクパネルを除く
モニターユニット	WU-M30		2U	—	345 mA	<ul style="list-style-type: none"> ●電力増幅ユニットの出力およびライン出力を12系統モニター可能（内部にてレベル切り換え） ●多元システムでの放送モニターユニット
	WU-M20		2U	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ●電力増幅ユニットの出力を4系統モニター可能 ●多元システムでの放送モニターユニット
スピーカー制御ボックス	WU-R45		—	0.5 W	—	<ul style="list-style-type: none"> ●露出または埋め込みボックス組込型でスピーカーを本機からの放送（メインアンプ）用とローカル放送用に兼用し、EMG24 Vブレイク（非常外部制御）信号でスピーカーを本機からの放送（メインアンプ）用に切り換える制御器 ●制御電流DC24 V 10 mA
電源制御器	WU-R40B		—	1 W	—	<ul style="list-style-type: none"> ●露出または埋め込みボックス組込型で非常放送時に、EMG24 Vブレイク（非常外部制御）信号でローカルアンプの電源を遮断する電源制御器 ●制御電流DC24 V 0.5 mA

↑
1U=44.45 mm

システムの概要（つづき）

はじめに

工事部品一覧表

※印は斡旋品です。詳しくは販売会社へお問い合わせください。

部品名		品番	備考	
ブランクパネル 1U		YBSPN010※	ユニット収納後の空きスペースを覆うパネル	
ブランクパネル 2U		YBSPN011※		
ブランクパネル 3U		YBSPN012※		
スリットパネル 1U		YBSPN013※	放熱効果を得たい場合のパネル	
2本のラック間を接続する場合に必要	PWR CONTケーブル	3 m	WQ-ELP803	システム電源の系統を延長するときに必要
		5 m	WQ-ELP805	
	CONT BUS A	3 m	WQ-ELA803	CONT BUS A系統を延長するときに必要
		5 m	WQ-ELA805	
	CONT BUS B	3 m	WQ-ELB803	CONT BUS B系統を延長するときに必要
		5 m	WQ-ELB805	
	2芯シールド線		WL6655SR01A (サービス部品)	複式プラグー複式プラグの音声用ケーブル
	音声ケーブル	3 m	WQ-EXA803	電力増幅ユニットと入出力制御ユニットや増設用出力制御ユニットを延長接続するときに必要
		5 m	WQ-EXA805	
	多芯音声ケーブル		WQ-ELM502	入力マトリクスユニットを増設する場合に必要
平衡トランス		YWIT-1106 (サービス部品)	ミキサーユニット (WU-M60A) の入力を平衡にする場合必要	
複式プラグ		YWPLUG-3	音声入出力線を現地作成する場合に必要 ※2芯シールド線は現地調達	
単頭プラグ		YPM-KM003BA	音声入出力線を現地作成する場合に必要 ※2芯シールド線は現地調達	
RCAプラグ		YWPP001PLUG	音声入出力線を現地作成する場合に必要 ※単芯シールド線は現地調達	

ユニット構成について

本機に必要なユニット

本機単体（システムコントローラー（WK-KC600）と入出力制御ユニット（WU-KR600））では動作しませんので、システム設計書、納入仕様書を参照しながらシステム構成に合わせて必要なユニットを準備してください。

必要なユニット（最小限）とその台数について

●電源制御ユニット（WU-L62）

- ・電源制御ユニットは各ユニットに電源（DC24 V）を供給するためのユニットです。
- ・システムの規模（局数・スピーカー回線数）や周辺ユニットの構成により使用台数を決定します。

●電力増幅ユニット（WU-P51（60 W）、WU-P52（120 W）、WU-P53（360 W））

- ・スピーカー回線から拡声するために音声信号を増幅するユニットです。
- ・AC100 V/DC24 Vの兼用です。
- ・スピーカー回線ごとの容量（ワット数）を算出し、その合計値以上になるような定格出力の電力増幅ユニットを選択か複数台組み合わせる使用台数を決定します。

メモ

- 本機の入出力制御ユニットに接続できる電力増幅ユニットのコネクターは2系統（PA1、PA2）でそれぞれ480 W、合計960 Wまでです。それ以上の電力増幅ユニットを接続する場合は、並列接続してください。
 - 電力増幅ユニットを並列接続するときの台数は、WU-P53（360 W）を含む場合は3台まで、含まない場合は4台までです。（→37ページ）
-

●周辺ユニットについて

- ・入力マトリクスユニット・非常電源ユニット・蓄電池が、システム構成により多元放送や停電放送を行うときに必要になります。

ユニット構成について（つづき）

はじめに

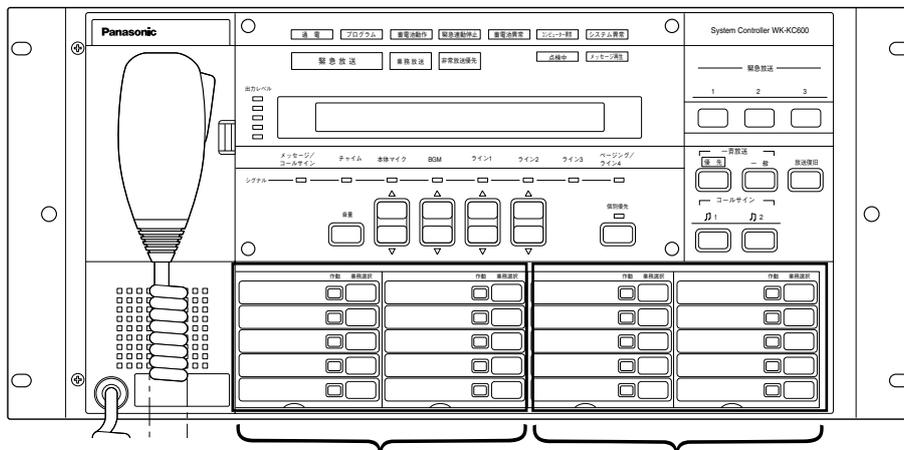
システムコントローラーの業務選択スイッチについて

システムコントローラーには20個の業務選択スイッチがあり、このスイッチには以下の3つの機能があります。

- ・スピーカー選択スイッチ：あらかじめ設定したエリアに放送を行います。
- ・放送ブロックスイッチ：あらかじめ設定した複数のエリアをまとめて選択します。
- ・メッセージスイッチ：本体内蔵音源のメッセージを選択し放送します。

以下の表のように、スイッチは10個を一単位として機能を割り当てたパターンが5種類ありますので、システム構成に応じて使いやすいパターンを選択してください。

初期値はパターン1です。



	業務選択スイッチ	1～10	業務選択スイッチ	11～20
パターン1	メッセージスイッチ	1～10	スピーカー選択スイッチ	11～20
パターン2	スピーカー選択スイッチ	1～10	スピーカー選択スイッチ	11～20
パターン3	放送ブロックスイッチ	1～10	スピーカー選択スイッチ	11～20
パターン4	メッセージスイッチ	1～10	放送ブロックスイッチ	11～20
パターン5	放送ブロックスイッチ	1～10	放送ブロックスイッチ	11～20

メモ

- 業務選択スイッチは、向かって左一番下が「1」、右一番上が「20」です。
- 「優先一斉スイッチ」や「一般一斉スイッチ」は、スピーカー選択スイッチに登録されたスピーカー回線が選択されます。
- 増設用操作ユニット（WK-EX510、WK-EX520）を使用すると、スピーカー選択スイッチ、放送ブロックスイッチ、メッセージスイッチ以外に、汎用出力を手動で出力する「汎用出力スイッチ」に設定することができます。（→159ページ）

リモコンマイク・マルチリモコンについて

- ・本体から離れた場所から放送を行う場合に使用します。
- ・あらかじめ設定を行うことにより任意の放送エリアに放送を行うことができます。
- ・使用用途により使用するリモコンを決めます。

品名	リモコンマイク	マルチリモコンマイク
製品品番	WR-210A (10局) WR-205A (5局) WR-201 (単局)	WR-MC100A
電源	DC 24 V (本体から供給)	DC 24 V (本体から供給) または、 AC 100 V (ACアダプターを接続して供給)
局数	単局/5局/10局	20局
	5局・10局は増設ユニット(WU-RM205)を接続することにより最大30局(6台)まで5局単位で増設可能。	テンキーで330回線指定可能
優先順位	リモコンマイクすべて同順位	マルチリモコンマイクごとに設定可能
使用中表示	使用不可	液晶表示(放送中の他機器表示)
コールサイン音源	なし(システムコントローラーから本体内存音源を使用) ※WR-201(単局)はリモコンマイクにコールサインを内蔵しています。	10個(初期値 上り4音/下り4音、または、システムコントローラーから本体内存音源を使用)
接続可能数	6台	8台

重要

- 本体から電源供給が可能なマルチリモコンマイクの台数は最大4台です。5台以上接続する場合には、5台目以降のマルチリモコンマイクに別売りのACアダプター(WZ-MC100)を接続してください。

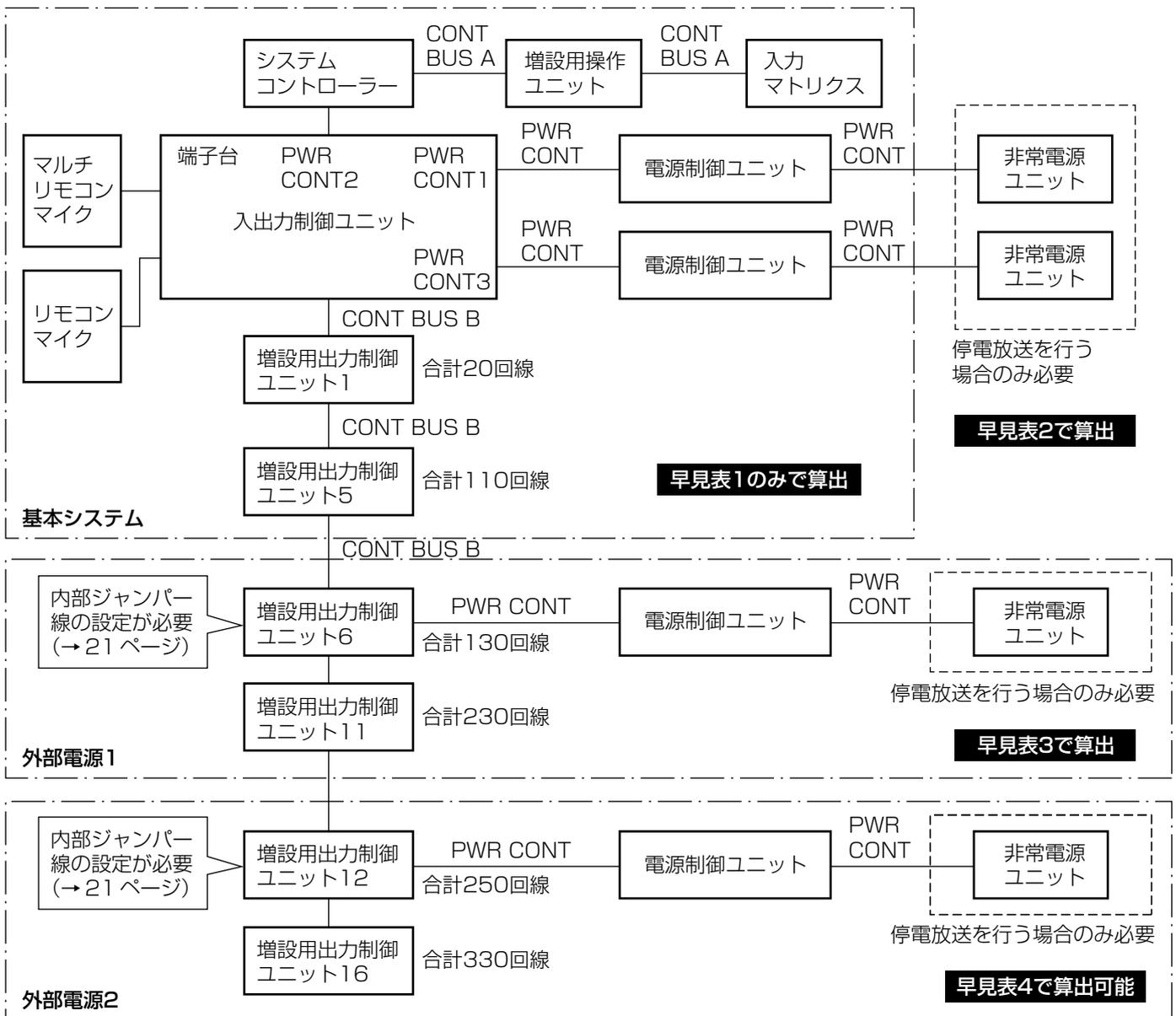
メモ

- リモコンマイクの局数が10局を超える場合は入出力制御ユニットの外部制御入力端子をリモコンマイク端子へと設定を変更してから接続してください。(→159ページ)
- マルチリモコンマイク/リモコンマイクと本体間の接続距離により使用するケーブルの線径を決定してください。(→28ページ)
- マルチリモコンマイクで停電放送を行う場合は、ACアダプターを使用せずに、本体より電源を供給してください(停電状態からの起動は入出力制御ユニットの停電起動端子を使用してください)。
- リモコンマイクでも停電放送を行うことができます(停電状態からの起動には、入出力制御ユニット前面のスイッチ設定が必要です)。

システム電源早見表

■システム電源の考えかた

- ・電源制御ユニットの必要台数は、システムの構成や規模により異なり、スピーカー回線数により決まるユニット合計台数のDC24 V容量と電力増幅ユニットや周辺機器等によるAC100 Vの容量により必要台数が決まります。
- ・停電放送を行う場合は、非常電源ユニット蓄電池が必要です。
- ・スピーカー回線が110回線を超える場合は、スピーカー回線数により、外部電源1、外部電源2が必要になります。



■システム電源必要ユニット数の求めかた

●スピーカー回線が110回線以下のとき

- ・ 停電放送を行わないシステムでの電源制御ユニットの必要台数は、**早見表1**で求めます。
- ・ よこ軸をスピーカーの回線数、たて軸を電力増幅ユニットの定格出力とし、その交点が必要ユニット数です。
- ・ マルチリモコンマイク・入力マトリクスユニットを接続する場合は、それぞれ対応する台数のスピーカー回線数を参照してください。
- ・ 停電放送を行うときは、**早見表2**より、非常電源ユニット・蓄電池の必要台数を求めます。
- ・ **早見表2**、**早見表1**に記載された電力増幅ユニットの定格出力で不足する場合は**早見表5**により、増設する電力増幅ユニットの定格出力に応じて電源制御ユニットを追加します。

メモ

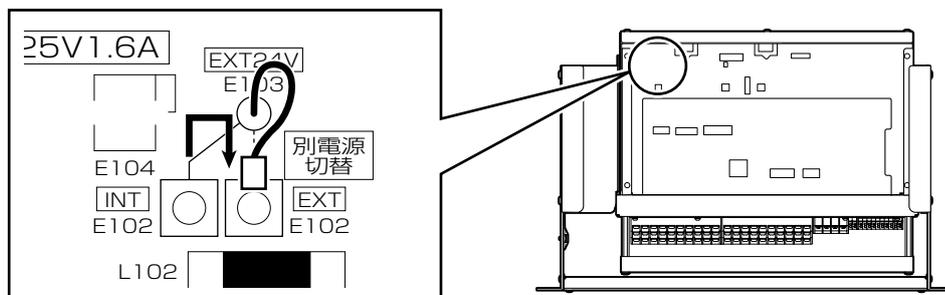
- **早見表1**には増設用操作ユニット・増設用出力制御ユニット・入力マトリクスユニット・マルチリモコンマイクに必要な電源も計算に入れてあります。
- 入力マトリクスユニット・マルチリモコンマイクの合計使用台数により、電源制御ユニットの必要な台数は異なります。
- 拡張制御ユニット2台で20回線、非常制御出力ユニット1台で60回線相当のスピーカー回線数に換算してください（拡張制御ユニットは、1台でも20回線で換算してください）。
- 電力増幅ユニットの必要台数はそれぞれの定格で最適な台数としています。

●スピーカー回線が110回線を超えるとき

- ・ 110回線を超えたシステムでは、230回線以下のシステムは**早見表3**で必要台数を求め、**早見表1**と合算してください。230回線を超えるシステムでは**早見表1**+**早見表3**+**早見表4**の合計台数になります。
- ・ 停電放送を行う場合は、**早見表2**で求めた非常電源ユニット、蓄電池も必要となります。**早見表3**、**早見表4**は非常電源ユニット、蓄電池の必要台数も記載しています。
- ・ 電力増幅ユニットの定格出力で不足する場合は、**早見表5**により、増設する電力増幅ユニットの定格出力に応じてユニットを追加します。

メモ

- スピーカー回線が110回線を超えるシステムでは、電源システムを分離し、外部電源として電源を供給する必要があります。
- 外部電源により増設用出力制御ユニットに電源を供給する場合は、内部ジャンパー線の設定を変更する必要があります。
- 接続するユニットの天板を外し、メイン基板上の別電源切替ジャンパー（E103）をINT側（出荷時）からEXT側へ接続を変更します。



- 拡張制御ユニット、非常制御出力ユニットに外部電源を接続する場合も、上記と同じ設定にしてください。
- 基本システムや外部電源間は、PWR CONTケーブルを接続しません（基本システムやそれぞれの外部電源内のユニット間のみPWR CONTケーブルを接続します）。

ユニット構成について（つづき）

はじめに

■スピーカー回線が110回線以下のシステム（停電放送なし）

早見表1 電源制御ユニットの必要台数

		スピーカー回線									
入力マトリクス マルチリモコン 合計台数	なし	10	30	50	70	90	110				
	~4台		10	30	50	70	90	110			
	~8台			10	30	50	70	90	110		
	~12台				10	30	50	70	90	110	
	~16台					10	30	50	70	90	110
電力増幅ユニット		電源制御ユニット必要台数									
定格出力[W]	必要台数										
60	WU-P51×1	1	1	1	2	2	2	3	3	4	4
120	WU-P52×1	1	1	1	2	2	2	3	3	4	4
180	WU-P51×1 WU-P52×1	1	1	1	2	2	2	3	3	4	4
240	WU-P52×2	1	1	1	2	2	2	3	3	4	4
360	WU-P53×1	1	1	1	2	2	2	3	3	4	4
480	WU-P52×1 WU-P53×1	1	1	1	2	2	2	3	3	4	4
600	WU-P52×2 WU-P53×1	1	1	1	2	2	2	3	3	4	4
720	WU-P53×2	1	1	1	2	2	2	3	3	4	4
840	WU-P52×1 WU-P53×2	1	1	1	2	2	2	3	3	4	4
960	WU-P52×2 WU-P53×2	1	1	1	2	2	2	3	3	4	4
1,080	WU-P53×3	—	2	2	2	2	2	3	3	4	4
1,200	WU-P52×1 WU-P53×3	—	2	2	2	2	2	3	3	4	4
1,320	WU-P52×2 WU-P53×3	—	2	2	2	2	2	3	3	4	4
1,440	WU-P53×4	—	2	2	2	2	2	3	3	4	4
1,800	WU-P53×5	—	3	3	3	3	3	3	3	4	4
2,160	WU-P53×6	—	3	3	3	3	3	3	3	4	4

- *業務選択スイッチ=スピーカー回線数で算出しています。スイッチ数と回線数が異なる場合は、回線数に合わせてください。
- *入力マトリクスユニット、マルチリモコンの接続台数により、スピーカー回線をシフトして必要ユニット数を算出してください。
- *マルチリモコンは4台まで含まれています。5台以上接続する場合は、ACアダプターによりマルチリモコンに電源を供給します。
- *リモコンマイクは、最大6台を含んでいます。
- *拡張制御ユニットと非常制御出力ユニットを接続する場合は、拡張制御ユニット2台で20回線、非常制御出力ユニット1台で60回線相当で換算してください。
- *入出力制御ユニットに接続できる電力増幅ユニットの定格出力の合計は960 Wまでです。
- *スピーカー回線を増設するために増設用出力制御ユニットを増設する場合、WU-ER551（10回線）は960 Wまで、WU-ER552（20回線）は1 920 Wまでの電力増幅ユニットを接続することができます。

■停電放送を行う場合に必要なユニット台数

停電放送を行うには非常電源ユニット、蓄電池が必要です。

早見表2 非常電源ユニット、蓄電池の必要台数の算出

入力マトリクス マルチリモコン		なし	スピーカー回線										
			10	30	50	70	90	110					
合計台数		~4台		10	30	50	70	90	110				
		~8台			10	30	50	70	90	110			
		~12台				10	30	50	70	90	110		
		~16台					10	30	50	70	90	110	
電力増幅ユニット		ユニット品番	非常電源ユニット、蓄電池必要台数										
定格出力[W]	必要台数												
60	WU-P51×1	WP-570B	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
		NCB-350	1	1	1	0	0	0	2	2	0	0	
		NCB-600	0	0	0	1	1	1	0	0	2	2	
120	WU-P52×1	WP-570B	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
		NCB-350	1	0	0	0	2	2	0	0	0	0	
		NCB-600	0	1	1	1	0	0	2	2	2	2	
180	WU-P51×1 WU-P52×1	WP-570B	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
		NCB-350	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	
		NCB-600	1	1	1	0	2	2	2	2	2	2	
240	WU-P52×2	WP-570B	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
		NCB-350	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	
		NCB-600	1	0	0	2	2	2	2	2	2	2	
360	WU-P53×1	WP-570B	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	
		NCB-350	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		NCB-600	0	2	2	2	2	2	2	2	3	3	
480	WU-P52×1 WU-P53×1	WP-570B	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	
		NCB-600	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	
600	WU-P52×2 WU-P53×1	WP-570B	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	
		NCB-600	2	2	3	3	3	3	3	3	3	4	
720	WU-P53×2	WP-570B	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
		NCB-600	3	3	3	3	3	3	3	3	4	4	
840	WU-P52×1 WU-P53×2	WP-570B	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
		NCB-600	3	3	3	3	3	3	4	4	4	4	
960	WU-P52×2 WU-P53×2	WP-570B	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
		NCB-600	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
1,080	WU-P53×3	WP-570B	—	2	2	2	2	2	2	2	3	3	
		NCB-600	—	4	4	4	4	4	4	4	5	5	
1,200	WU-P52×1 WU-P53×3	WP-570B	—	2	2	2	2	2	3	3	3	3	
		NCB-600	—	4	4	4	4	4	5	5	5	5	
1,320	WU-P52×2 WU-P53×3	WP-570B	—	2	3	3	3	3	3	3	3	3	
		NCB-600	—	4	5	5	5	5	5	5	5	5	
1,440	WU-P53×4	WP-570B	—	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
		NCB-600	—	5	5	5	5	5	5	5	6	6	
1,800	WU-P53×5	WP-570B	—	3	3	3	3	3	3	3	4	4	
		NCB-600	—	6	6	6	6	6	6	6	7	7	
2,160	WU-P53×6	WP-570B	—	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
		NCB-600	—	7	7	7	7	7	7	7	8	8	

※非常電源ユニットWP-570B、蓄電池NCB-350/600は、停電放送を行う場合のみ必要となります。

※必要ユニットの算出条件は電源制御ユニット必要台数（早見表1）と同じです。

※停電放送を行うマルチリモコンは本体（入出力制御ユニット）から電源を供給してください（ACアダプターから電源供給しているマルチリモコンは停電時に電源が供給されないため動作しません）。

ユニット構成について (つづき)

はじめに

■スピーカー回線が110回線を超えて230回線以下のシステム

早見表1で算出したユニット台数に本表で算出したユニット台数の合計が必要台数です。

システムに必要なユニット台数=早見表1+本表(早見表3)

早見表3

スピーカー回線数合計		早見表1に追加する増設用出力制御ユニット台数 (合計スピーカー回線数)						
		1(~130回線)	2(~150回線)	3(~170回線)	4(~190回線)	5(~210回線)	6(~230回線)	
早見表1に追加する電力増幅ユニット 定格出力[W]	必要台数	ユニット品番	非常電源ユニット、蓄電池必要台数					
			60	WU-P51×1	WU-L62	1	1	1
		WP-570B	1	1	1	1	1	1
		NCB-350	1	1	1	0	0	0
		NCB-600	0	0	0	1	1	1
120	WU-P52×1	WU-L62	1	1	1	2	2	2
		WP-570B	1	1	1	1	1	1
		NCB-350	1	0	0	0	0	2
		NCB-600	0	1	1	1	1	0
180	WU-P51×1 WU-P52×1	WU-L62	1	1	1	2	2	2
		WP-570B	1	1	1	1	1	1
		NCB-350	0	0	0	0	2	2
		NCB-600	1	1	1	1	0	0
240	WU-P52×2	WU-L62	1	1	1	2	2	2
		WP-570B	1	1	1	1	1	1
		NCB-350	0	0	2	2	0	0
		NCB-600	1	1	0	0	2	2
360	WU-P53×1	WU-L62	1	1	1	2	2	2
		WP-570B	1	1	1	1	1	2
		NCB-350	2	2	0	0	0	0
		NCB-600	0	0	2	2	2	3
480	WU-P52×1 WU-P53×1	WU-L62	1	1	1	2	2	2
		WP-570B	1	1	1	1	4	4
		NCB-600	2	2	2	2	3	3
600	WU-P52×2 WU-P53×1	WU-L62	1	1	1	2	2	2
		WP-570B	1	1	2	2	2	2
		NCB-600	2	2	3	3	3	3
720	WU-P53×2	WU-L62	1	1	1	2	2	2
		WP-570B	2	2	2	2	2	2
		NCB-600	3	3	3	3	3	3
840	WU-P52×1 WU-P53×2	WU-L62	1	1	1	2	2	2
		WP-570B	2	2	2	2	2	2
		NCB-600	3	3	3	3	3	3
960	WU-P52×2 WU-P53×2	WU-L62	1	1	1	2	2	2
		WP-570B	2	2	2	2	2	2
		NCB-600	3	3	4	4	4	4
1,080	WU-P53×3	WU-L62	2	2	2	2	2	2
		WP-570B	2	2	2	2	2	2
		NCB-600	4	4	4	4	4	4
1,200	WU-P52×1 WU-P53×3	WU-L62	2	2	2	2	2	2
		WP-570B	2	2	2	2	2	3
		NCB-600	4	4	4	4	4	5
1,320	WU-P52×2 WU-P53×3	WU-L62	2	2	2	2	2	2
		WP-570B	2	2	3	3	3	3
		NCB-600	4	4	5	5	5	5
1,440	WU-P53×4	WU-L62	2	2	2	2	2	2
		WP-570B	3	3	3	3	3	3
		NCB-600	5	5	5	5	5	5
1,800	WU-P53×5	WU-L62	3	3	3	3	3	3
		WP-570B	3	3	3	3	3	3
		NCB-600	6	6	6	6	6	6
2,160	WU-P53×6	WU-L62	3	3	3	3	3	3
		WP-570B	4	4	4	4	4	4
		NCB-600	7	7	7	7	7	7

*スピーカー回線が110回線を超える場合は、外部電源により電源制御ユニットを追加する必要があります。

*本表で求めた台数以外に、基本システムで求めた台数の合計が必要台数です。

メモ

- スピーカー回線が230回線を超える場合は、早見表4を利用します。
- 本表は停電放送時に使用するユニットも含まれています。停電放送を行わない場合は非常電源ユニット、蓄電池は必要ありません(早見表2も使用しません)。
- 早見表1と本表(早見表3)で算出した電源制御ユニット同士は、PWR CONTケーブルを接続しません。

■スピーカー回線が230回線を超えて330回線以下のシステム

早見表1、早見表3で算出したユニット台数に本表で算出したユニット台数の合計が必要台数です。

システムに必要なユニット台数=早見表1+早見表3+本表（早見表4）

早見表4

スピーカー回線数合計		早見表1, 3に追加する増設用出力制御ユニット台数					
		7(~250回線)	8(~270回線)	9(~290回線)	10(~310回線)	11(~330回線)	
早見表1,3に追加する電力増幅ユニット		ユニット品番	電源制御ユニット(非常電源ユニット、蓄電池)必要台数				
定格出力[W]	必要台数						
60	WU-P51×1	WU-L62	1	1	1	2	2
		WP-570B	1	1	1	1	1
		NCB-350	1	1	1	0	0
		NCB-600	0	0	0	1	1
120	WU-P52×1	WU-L62	1	1	1	2	2
		WP-570B	1	1	1	1	1
		NCB-350	1	0	0	0	0
		NCB-600	0	1	1	1	1
180	WU-P51×1 WU-P52×1	WU-L62	1	1	1	2	2
		WP-570B	1	1	1	1	1
		NCB-350	0	0	0	0	2
		NCB-600	1	1	1	1	0
240	WU-P52×2	WU-L62	1	1	1	2	2
		WP-570B	1	1	1	1	1
		NCB-350	0	0	2	2	0
		NCB-600	1	1	0	0	2
360	WU-P53×1	WU-L62	1	1	1	2	2
		WP-570B	1	1	1	1	1
		NCB-350	2	2	0	0	0
		NCB-600	0	0	2	2	2
480	WU-P52×1 WU-P53×1	WU-L62	1	1	1	2	2
		WP-570B	1	1	1	1	4
		NCB-600	2	2	2	2	3
600	WU-P52×2 WU-P53×1	WU-L62	1	1	1	2	2
		WP-570B	1	1	2	2	2
		NCB-600	2	2	3	3	3
720	WU-P53×2	WU-L62	1	1	1	2	2
		WP-570B	2	2	2	2	2
		NCB-600	3	3	3	3	3
840	WU-P52×1 WU-P53×2	WU-L62	1	1	1	2	2
		WP-570B	2	2	2	2	2
		NCB-600	3	3	3	3	3
960	WU-P52×2 WU-P53×2	WU-L62	1	1	1	2	2
		WP-570B	2	2	2	2	2
		NCB-600	3	3	4	4	4
1,080	WU-P53×3	WU-L62	2	2	2	2	2
		WP-570B	2	2	2	2	2
		NCB-600	4	4	4	4	4
1,200	WU-P52×1 WU-P53×3	WU-L62	2	2	2	2	2
		WP-570B	2	2	2	2	2
		NCB-600	4	4	4	4	4
1,320	WU-P52×2 WU-P53×3	WU-L62	2	2	2	2	2
		WP-570B	2	2	3	3	3
		NCB-600	4	4	5	5	5
1,440	WU-P53×4	WU-L62	2	2	2	2	2
		WP-570B	3	3	3	3	3
		NCB-600	5	5	5	5	5
1,800	WU-P53×5	WU-L62	3	3	3	3	3
		WP-570B	3	3	3	3	3
		NCB-600	6	6	6	6	6
2,160	WU-P53×6	WU-L62	3	3	3	3	3
		WP-570B	4	4	4	4	4
		NCB-600	7	7	7	7	7

※スピーカー回線が230回線を超える場合は、外部電源システムを2系統にする必要があります。

※本表で求めた台数以外に、基本システム、外部電源1で求めた台数の合計が必要台数です。

メモ

- 本機で増設できるスピーカー回線は330回線です。
- 上記表は停電放送時に使用するユニットも含まれています。停電放送を行わない場合は非常電源ユニット、蓄電池は必要ありません（早見表2は使用しません）。
- 早見表1と早見表3および本表（早見表4）で算出した電源制御ユニット同士は、PWR CONTケーブルを接続しません。

ユニット構成について（つづき）

■電力増幅ユニットを増設する場合

スピーカー回線を増設せずに電力増幅ユニットのみを増設する場合は、本表によりユニット必要台数を算出してください。

早見表5

定格出力	早見表1、3、4に増設する電力増幅ユニット				電源制御 ユニット必要台数 WU-L62	停電放送時必要ユニット		
	60W	120W	360W	合計 台数		非常電源ユニット WP-570B	蓄電池	
	WU-P51	WU-P52	WU-P53				NCB-350	NCB-600
60W	1			1	1	1	1	
120W		1		1	1	1	1	
	2			2	1	1	1	
180W	3			3	1	1	1	
	1	1		2	1	1	1	
240W		2		2	1	1		1
	2	1		3	1	1		1
	4			4	1	1		1
300W	1	2		3	1	1		1
	3	1		4	1	1		1
360W		3		3	1	1	2	
	2	2		4	1	1	2	
			1	1	1	1		1
420W	1	3		4	1	1	2	
	1		1	2	1	1		2
480W		4		4	1	1		2
		1	1	2	1	1		2
	2		1	3	1	1		2
540W	1	1	1	3	1	1		2
600W		2	1	3	1	1		2
	2	1	1	4	1	1		2
720W			2	2	1	1		2
780W	1		2	3	1	2		3
840W		1	2	3	1	2		3
960W		2	2	4	1	2		3
1080W			3	3	2	2		3
1200W		1	3	4	2	2		4
1320W		2	3	5	2	2		4
1440W			4	4	2	2		4
1800W			5	5	2	3		5
2160W			6	6	2	3		6

メモ

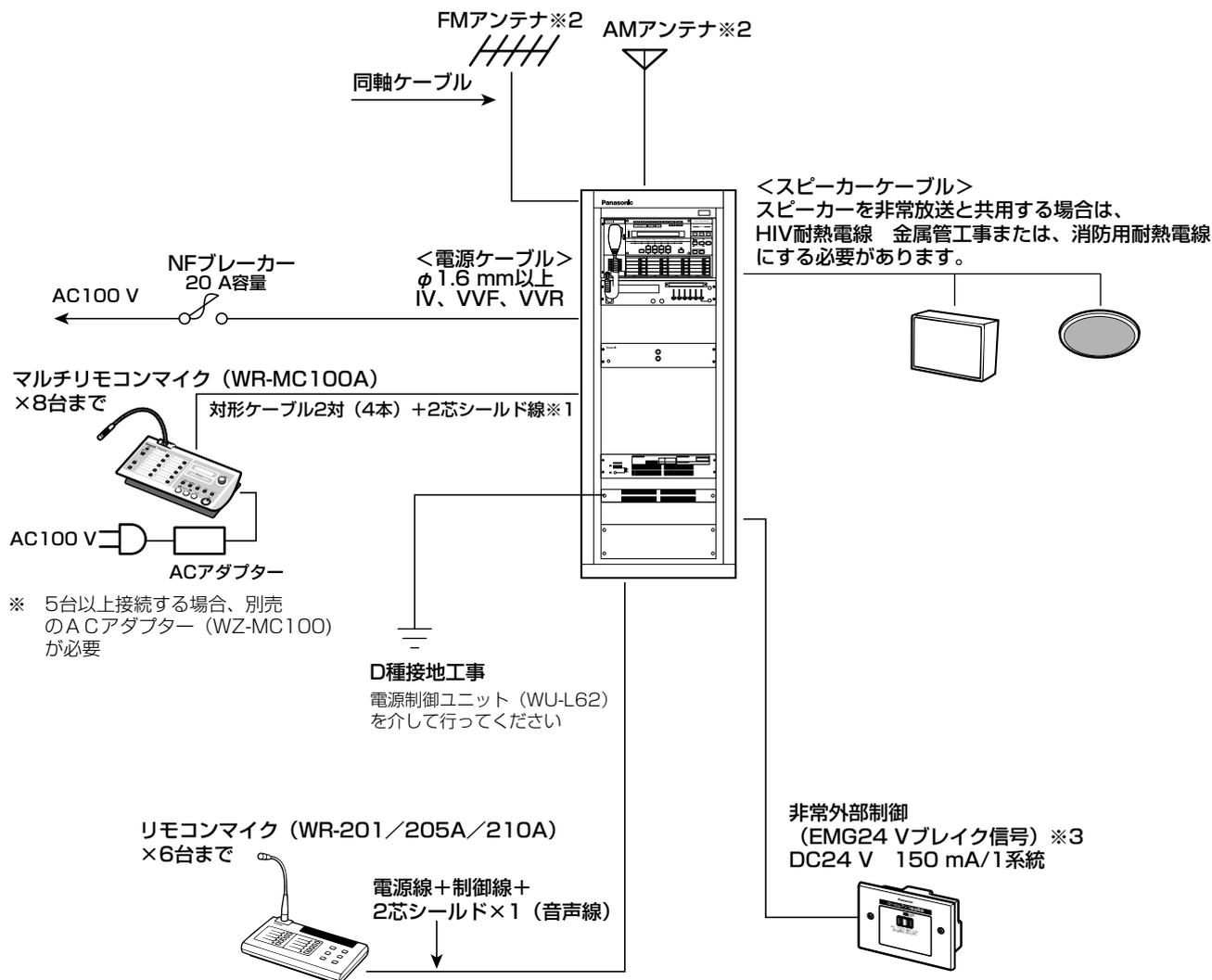
- 本表中に記載ない定格出力は、それぞれの定格出力の組み合わせにより算出してください。
- 電力増幅ユニットの増設は基本システム、それぞれの外部電源ごとに必要台数を算出してください。
- 入出力制御ユニット（WU-KR600）に接続できる電力増幅ユニットの定格出力は1台あたり960 Wまでです。
- 増設用出力制御ユニットに接続できる電力増幅ユニットの定格出力は1台あたりWU-ER551（10回線）が960 W、WU-ER552（20回線）が1 920 Wまでです。
- 非常電源ユニット、蓄電池は停電放送を行う場合のみ必要です。

設置工事の前に

接続線について

接続線は、下図を参考にしてください。

※配線工事（AC電源）には電気工事士の資格が必要です。



※1：電源線は延長距離に応じて線（ペア数）の追加が必要

※2：FMアンテナ、AMアンテナはFMチューナーの音声による時刻補正や、ミキサーユニット（WU-M60A）にラジオチューナーユニット（WU-T60A）を収納して使用する場合に必要です。

※3：緊急放送時にローカルアンプを遮断するために使用します。

設置工事の前に（つづき）

AC電源配線について

※AC100 V電源関係の配線工事には、電気工事士の資格が必要です。
工事中、配電盤スイッチ・ブレーカーは「切」にしてください。

- ・電線は、以下の電源容量が十分とれるものをご使用ください。
より線の場合：断面積2.0 mm²以上
単線の場合：直径1.6 mm以上
- ・使用できる電源（配電盤）は20 Aまたは30 Aです。
- ・内線規定により、30 Aを超える電源（配電盤）へは接続できません。
- ・電源（配電盤）からの配線を分けて電源制御ユニット（WU-L62）の系統ごと（A、B）に直接接続してください。

マルチリモコンマイク（WR-MC100A）の接続線

●音声線およびデータ線の距離と線径

		本機－マルチリモコンマイク間の距離		
		200 m以下	600 m以下	1 000 m以下
音声線	2芯シールド線	0.5 mm ² 以上	0.75 mm ² 以上	0.75 mm ² 以上
データ線	対形ケーブル	φ0.65 mm以上	φ0.9 mm以上	φ1.2 mm以上

●電源の距離と線径、ペア数

線径 (mm)	本機－マルチリモコンマイク間の距離								
	200 m	300 m	400 m	500 m	600 m	700 m	800 m	900 m	1 000 m
φ0.9	1ペア	2ペア	2ペア	3ペア	3ペア	×	×	×	×
φ1.2	1ペア	1ペア	2ペア	2ペア	2ペア	2ペア	3ペア	3ペア	3ペア

メモ

- ・本機から電源を供給できるマルチリモコンマイクの台数は、最大4台までです。
- ・5台以上接続する場合は、5台目以降のマルチリモコンマイクに、別売のACアダプター（WZ-MC100）を接続してください。

リモコンマイク（WR-201/205A/210A）の接続線

●距離と線径

		本機－リモコンマイク間の距離		
		200 m以下	600 m以下	1 000 m以下
音声線（2芯シールド線）		0.5 mm ² 以上	0.75 mm ² 以上	0.75 mm ² 以上
制御信号線		φ0.8 mm (AWG20) ~ φ1.2 mm (AWG16)	φ1.2 mm (AWG16)	φ1.2 mm (AWG16)
COM (0 V) 線				φ1.2 mm (AWG16) × 2
電源DC24 V線				φ1.2 mm (AWG16) × 2
電源0 V線				φ1.2 mm (AWG16) × 2

設置上のご注意

設置工事は電気設備技術基準等に従ってください。

警告

- 工事は必ず販売店に依頼してください。
工事を行う前に、接続する機器の電源スイッチを「切」にしてください。また、「安全上のご注意」をよく読んでその指示にしたがってください。接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。

本機はラックマウント専用です

本機を収納するラックは当社製のロングラック (WU-RL85) またはスタンダードラック (WU-RS80) を使用してください。必要に応じてファンユニット (WU-L45A) を使用し、ラック内の温度が45℃以上にならないようにしてください。内部部品に悪影響を与え、故障の原因になります。

本機は屋内専用です

屋外での使用はできません。

設置場所のラック周辺温度範囲は0℃～40℃です。

長時間日光のあたるところや、冷・暖房機の近くには設置しないでください。変形・変色または故障・誤動作の原因になります。また、水滴または水沫のかからない状態で使用してください。

以下のような場所での設置および使用はできません

- 直射日光の当たる場所や温風吹き出し口の近く
- 湿気やほこり、振動の多い場所
- 温度差の激しく結露しやすい場所
- ちゅう房など蒸気や油分の多い場所
- スピーカーやテレビ、磁石など、強い磁力を発生するものの近く

雑音源は避ける

- トランシーバー、トランス、調光器、CRTモニターなどからできるだけ離して使用してください。誘導ノイズを受ける可能性があります。
- 電灯線などの雑音源にケーブルを近づけると、ノイズが発生する場合があります。そのときは、雑音源からできるだけ離すように配線するか、本機の位置を変えてください。

設置場所の強度

本機を収納するラックは組み込むユニットによって、300kg近くの質量になることがあります。

設置の際は、ラックの取扱説明書にしたがって設置工事を行ってください。

静電気について

静電気による破損を防止するために、作業を始める前にパネルなどの金属部に手を触れ、人体に帯電している静電気を放電してください。

設置工事の前に（つづき）

本機の電源について

- 電源制御ユニットから各ユニットに電源を供給します。
- 電源ユニットは20 Aまたは30 Aの分電盤に接続してください。

電源スイッチについて

本機の電源を遮断する場合、本機の電源制御ユニット（WU-L62）のブレーカーを「切」にするか、分電盤のブレーカーを「切」にしてください。プログラムコントローラー機能を使用している場合は、常時電源を「入」にして運用することをおすすめします。

D種接地工事を行ってください。

必ず本機と接続している電源制御ユニット（WU-L62）のGND端子より接地工事を行ってください。

SIGNAL GND端子について

各ユニットにあるSIGNAL GNDは、ユニットの性能を十分に得るための機能アースです。当社製ロングラック（WU-RL85）やスタンダードラック（WU-RS80）に、本機付属ねじ（リブ付）によりラックへ取り付けられた際は、アース接続を行う必要はありません。

非常電源ユニット（WP-570B）への蓄電池品番の表示（停電放送を行う場合）

非常電源ユニットへ収納した蓄電池の容量が分かるように、非常電源ユニットに付属の蓄電池容量表示ラベルから蓄電池の容量および品番ラベルを、ユニット前面パネルの銘板に貼ってください。併せて蓄電池交換時期を知らせるために使用開始日を記入してください。

取付ねじはしっかりと締める

工事で使用する取付ねじは、指定の締付トルクに従い、しっかりと締めてください。
インパクトドライバーは、ねじを破損させる場合がありますので、使用しないでください。
点検時に、ねじがゆるんでいないことを確認してください。

メモ

- 電線やケーブルには耐用年数があります。機器を新設・リニューアルする際は、既設ケーブルの劣化状態を確認し、継続使用の可否をご検討ください。
 - 電線やケーブルの劣化要因はその絶縁体に対する熱的、電氣的、機械的ストレスにより大きく変化します。
 - 15年～20年使用した電線やケーブルは交換をおすすめします。正常な動作ができず、十分な性能が発揮できない恐れがあります。
-

設置工事の推奨手順

設置工事の標準的な推奨手順を示します。設置工事時の参考にしてください。

1. 納入システムの確認	→13ページ	はじめに 設置 接続 システムの応用 通電時の確認 書き込み 動作確認と調整 保守点検 必要なとき
<ul style="list-style-type: none">・ 設置工事前にシステム設計書、納入仕様書などを確認し、ユニットの必要台数、ラック収納位置を確認してください。・ 各ユニットの収納条件などを考慮してラックへの収納場所を決定します。・ 電力増幅ユニットの収納台数により、ラックにファンユニットを取り付ける必要があります。(電力増幅ユニットの定格出力が720 Wを超える場合)・ システム設定表を事前に作成すると、設置作業が効率的に進められます。・ システム構成によっては、別途接続ケーブルの手配が必要です。		
2. ラックへの取り付け	→39ページ	
<ul style="list-style-type: none">・ ラックに収納する前に、あらかじめ設定が必要なユニットがあります。・ ラックは転倒防止の対策を必ず実施してください。・ ラックの背面に回り込めない設定環境の場合は、ラックにユニットを収納する前に、外線を通線することをおすすめします。		
3. ユニット間の接続・外線の接続	→42ページ	
<ul style="list-style-type: none">・ 各ユニットに接続したケーブルは付属のケーブルラベルなどを使用して接続先を表示しておくことで設置確認やメンテナンスがしやすくなります。・ 外線のラック内への通線位置およびラック内の配線方法は、ケーブル接続端子に無理な力がかからないよう、付属の束線バンドでユニットに固定するなど配慮してください。		
4. 設置確認	→117ページ	
<ul style="list-style-type: none">・ 電源投入前に、電源制御ユニットのアース接地が確実に行われていることを確認してください。・ 各ユニットのロータリースイッチやディップスイッチの設定状況を確認してください。・ 電源投入時に時刻を確認し、必要に応じて設定を行ってください。		
5. 書き込み	→120ページ	
<ul style="list-style-type: none">・ システム制御を行うためのデータを入力します。・ 事前にシステム設定表を作成しておくことで効率的に設定作業を行うことができます。・ 書き込みは、本機前面パネルのボタン操作で行う方法と、PCから設定支援ソフト（無償提供）を使用する方法があります。・ 設定支援ソフトを使用する場合は、あらかじめPCへのインストールと、本機との接続用ケーブルまたはPCカードが必要になります。・ 内蔵のプログラムコントローラ機能によるプログラム設定の方法は「業務放送システム 取扱説明書」をお読みください。		
6. 動作確認	→197ページ	
<ul style="list-style-type: none">・ 本体マイクロホンや各部入力、内蔵音源の音量を調整します。・ システム設定表を元に、放送先などが設定どおりに放送されるかどうか確認します。・ システム設定データのバックアップ保存をおすすめします。PCカードかケーブル接続でPCに、あるいはPCカード内に保存できます。		

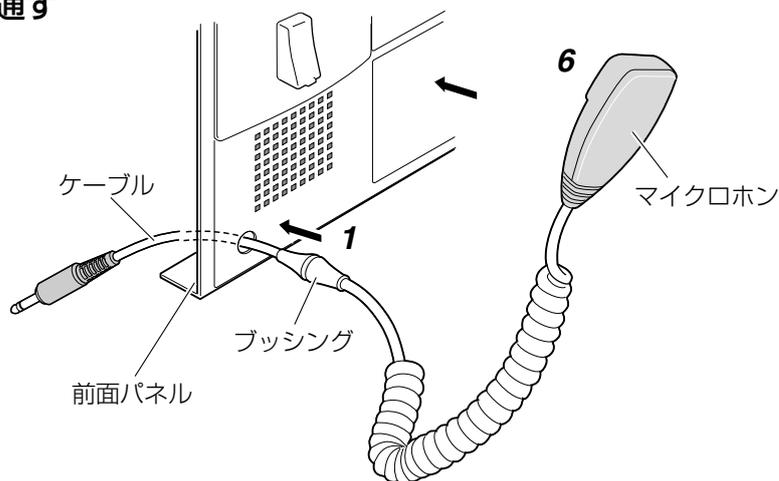
ラックに取り付ける前に

システムコントローラー

本体マイクロホンの接続

設置

1 プラグを孔から差し込んで後面へ通す



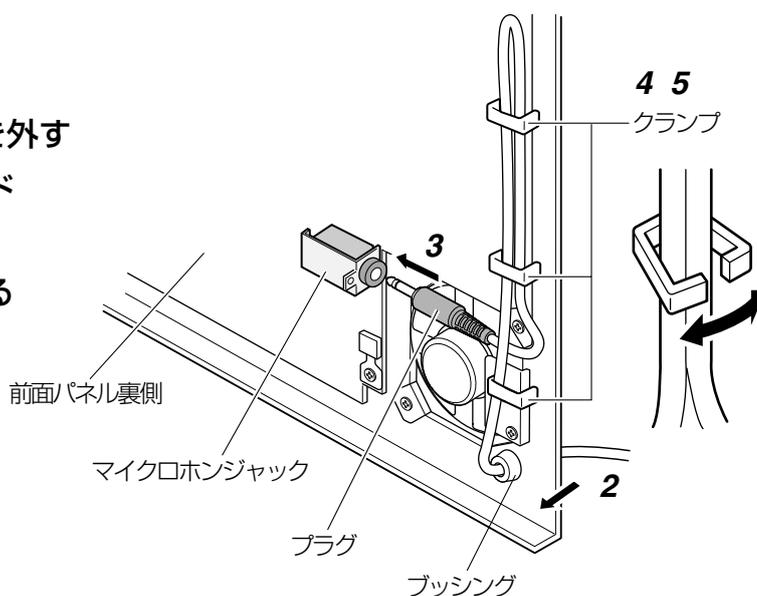
2 ブッシングをパネルにはめ込む

3 プラグをジャックに挿入する

4 コードクランプ (3か所) のロックを外す

5 ケーブルを図のように束線し、コードクランプ (3か所) をロックする

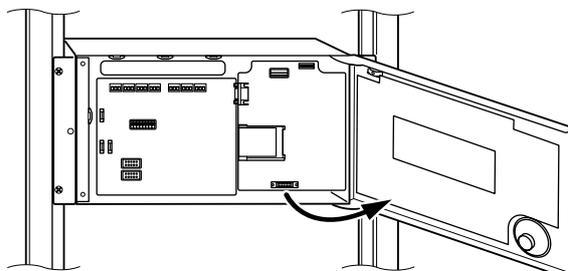
6 マイクロホンをマイクドアに固定する



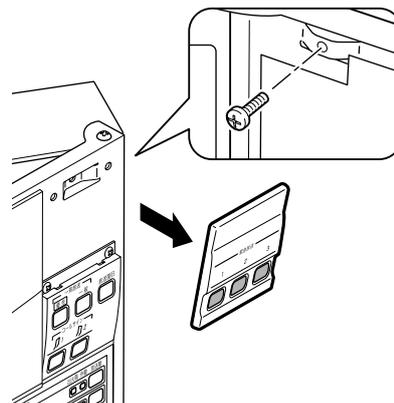
緊急放送スイッチの外しかた

緊急放送スイッチを使用しない場合は、付属の緊急スイッチカバーを取り付けて、緊急放送スイッチを隠すことができます。

- 1 システムコントローラー (WK-KC600) の前面2か所のねじを外し、前面パネルを開く

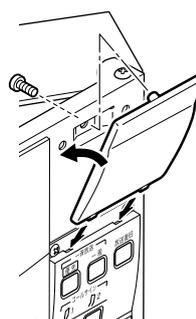


- 2 前面パネルの裏側からねじを外し、カバーを取り外す



- 3 付属の緊急スイッチカバーを図のように取り付ける

ねじの締付トルク
0.5 N・m～0.7 N・m {5 kgf・cm～7 kgf・cm}

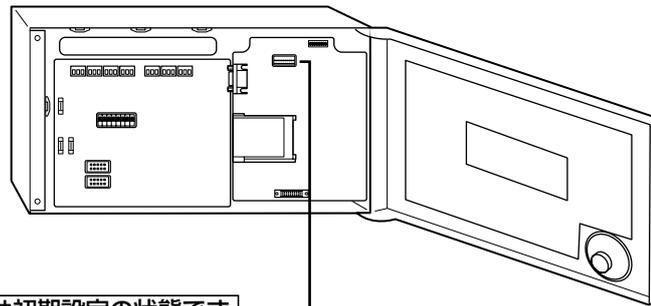


スイッチの設定

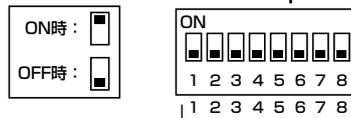
システムコントローラー

- ・前面パネル左側のねじ2本を外し、パネルを開きます。
- ・ディップスイッチを設定します。

ねじの締付トルク
 0.5 N・m～0.7 N・m {5 kgf・cm～7 kgf・cm}



図は初期設定の状態です



No	機能	ON	OFF(初期設定)
1	本体マイク、ライン1ミキシング機能	無効	有効
2	PCコネクター切換	PC2	PC1
3	コンピューター制御「切」時のライン1入力	有効	無効
4	使用しない	—	OFF固定
5	使用しない	—	OFF固定
6	使用しない	—	OFF固定
7	使用しない	—	OFF固定
8	使用しない	—	OFF固定

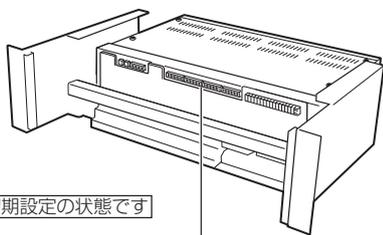
※No.4～8はOFFに固定して使用してください。

重要

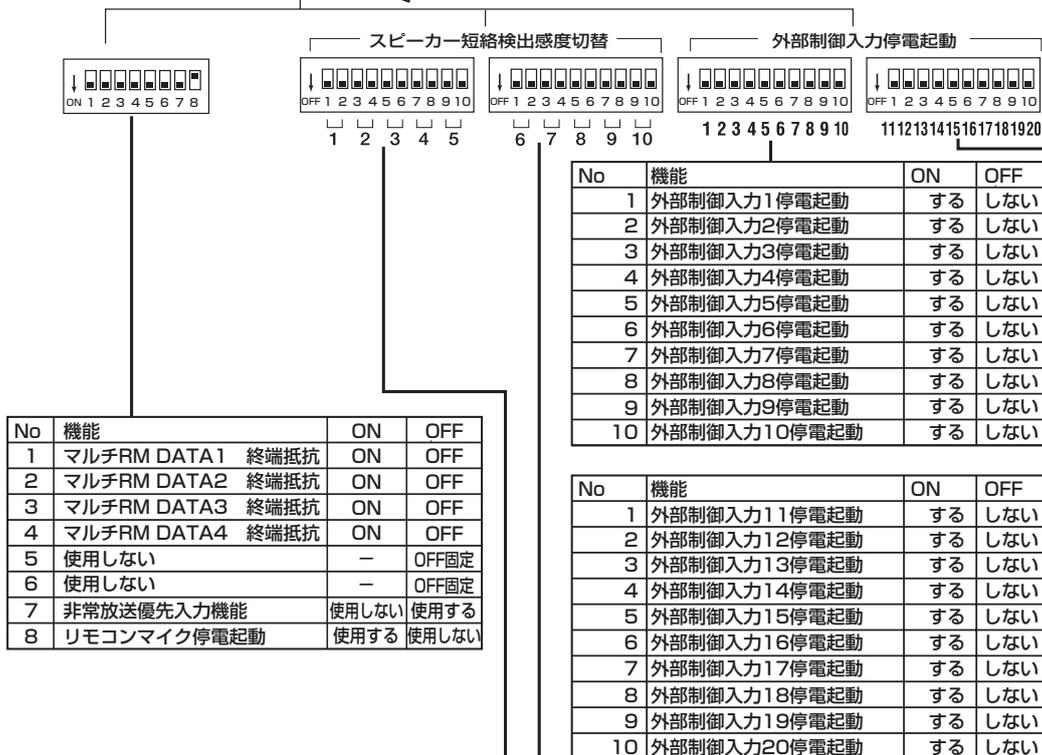
- ・ディップスイッチの設定は、システムの電源投入時に認識されます。変更後はシステムの電源を「切」→「入」してください。

入出力制御ユニット

- ・前面パネルの止めねじを外して、前面パネルを取り外します。
- ・ディップスイッチを操作して以下の設定を行います。



図は初期設定の状態です



スピーカー短絡検出感度切替の設定方法

新たな設定追加：WU-PD182/PD122を含む場合 従来の設定：WU-P51/P52/P53のみの場合

スイッチ設定	スピーカー1回線あたりの容量 (W)	スイッチ設定	スピーカー1回線あたりの容量 (W)
ON OFF	0 W ~ 90 W	ON OFF	0 W ~ 60 W
ON OFF	91 W ~ 180 W	ON OFF	61 W ~ 120 W
ON OFF	181 W ~ 200 W	ON OFF	121 W ~ 200 W

注意) 従来の設定と異なり、回線に接続されている電力増幅ユニットの機種により、ディップスイッチの設定が異なりますので、増設用出力制御ユニットおよび入出力制御ユニットの中の系統分けと電力増幅ユニットの機種は必ずご確認ください。

機能	No	1回線当たりの容量		
		60W以下	61W~120W	120W~200W
1 SP1短絡検出感度	1	OFF	ON	ON
	2	OFF	OFF	ON
	3	OFF	ON	ON
2 SP2短絡検出感度	4	OFF	OFF	ON
	5	OFF	ON	ON
3 SP3短絡検出感度	6	OFF	OFF	ON
	7	OFF	ON	ON
4 SP4短絡検出感度	8	OFF	OFF	ON
	9	OFF	ON	ON
5 SP5短絡検出感度	10	OFF	OFF	ON

機能	No	1回線当たりの容量		
		60W以下	61W~120W	120W~200W
6 SP6短絡検出感度	1	OFF	ON	ON
	2	OFF	OFF	ON
	3	OFF	ON	ON
7 SP7短絡検出感度	4	OFF	OFF	ON
	5	OFF	ON	ON
8 SP8短絡検出感度	6	OFF	OFF	ON
	7	OFF	ON	ON
9 SP9短絡検出感度	8	OFF	OFF	ON
	9	OFF	ON	ON
10 SP10短絡検出感度	10	OFF	OFF	ON

- ・表中の「SP」はスピーカーの略です。
- ・スピーカー回線1回線当たりの容量 (ワット数) に応じて、短絡検出の感度を切り換えます。(左表を参照)

メモ

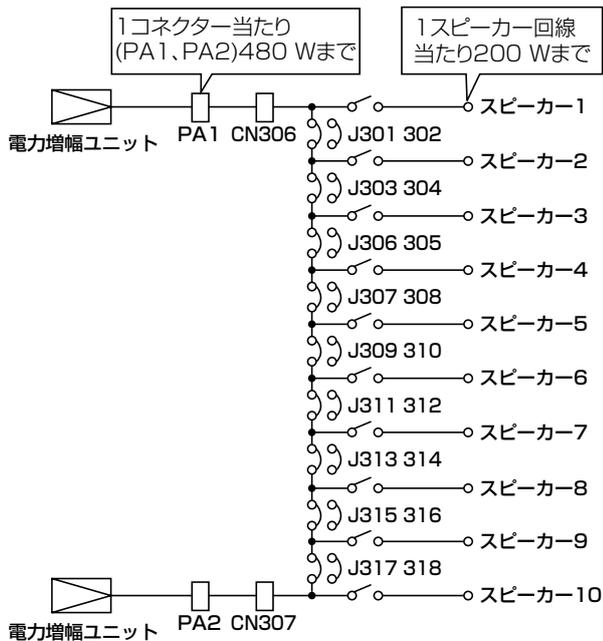
- ・スピーカー短絡検出感度は、スピーカー回線の1回線あたりの容量 (ワット数) に必ず合わせてください。誤りがある場合、短絡検出が行われません。

ラックに取り付ける前に（つづき）

入出力制御ユニットPAコネクター（PA1、PA2）の系統分け

入出力制御ユニット背面のPA入力コネクターPA1、PA2は初期設定では内部で並列に接続されていますので、接続した電力増幅ユニットは並列接続になります。

入出力制御ユニット内部配線図



※ 図中のJは、ジャンパーを表します。

電力増幅ユニットの並列接続台数が規定台数を超える場合や、多元放送を行う場合は、内部ジャンパー線を切断してください。（→38ページ）

重要

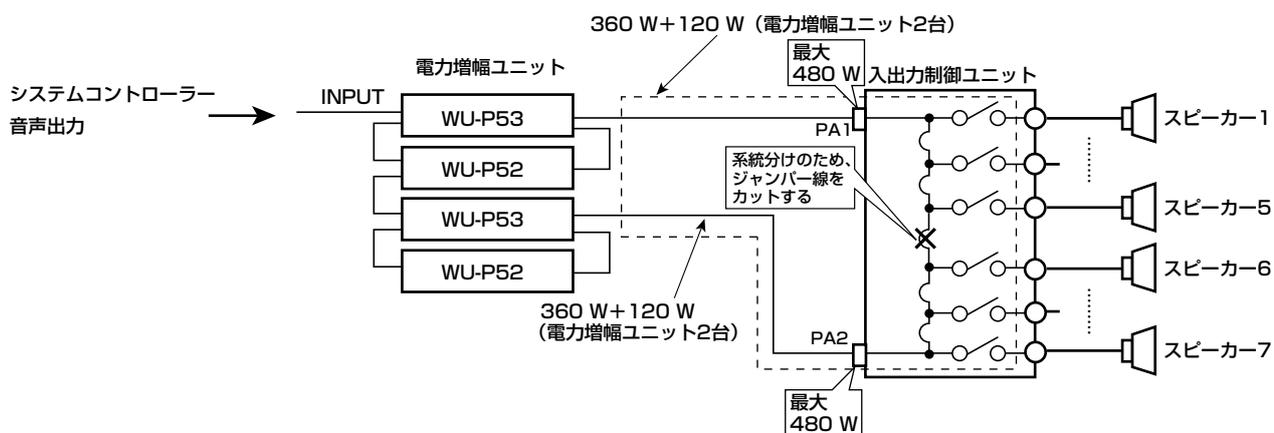
- 1つのPA入力コネクターには、480 Wを超える電力増幅ユニットは接続できません。

①本機に接続する電力増幅ユニットが、並列可能台数およびワット (W) 数を超える場合

本機内部での並列接続が並列可能台数およびワット (W) 数になるように入出力制御ユニット内部のジャンパーをカットします。図の例では、電力増幅ユニット4台 (WU-P53×2台、WU-P52×2台)、合計出力ワット (W) 数960 Wのシステムを480 W2系統に分けて接続する場合です。

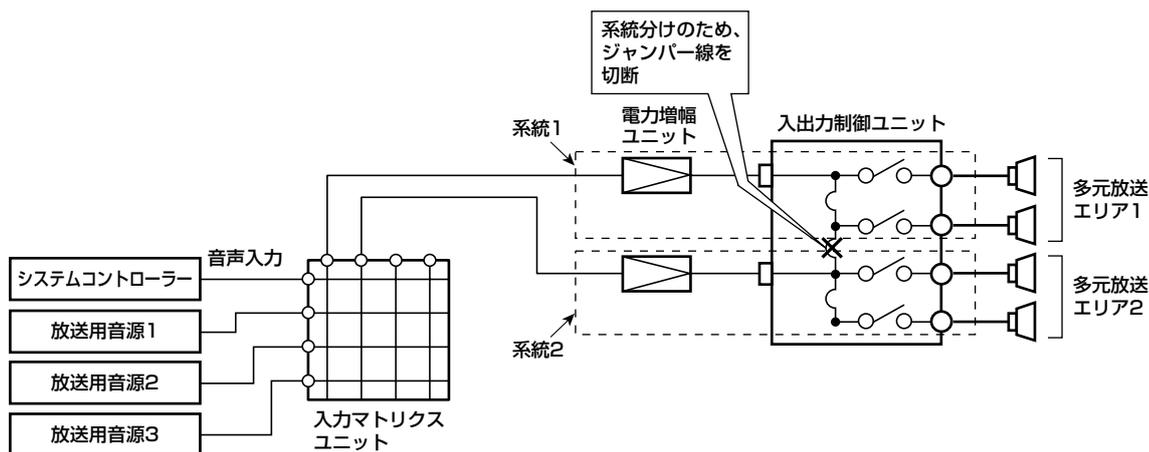
電力増幅ユニットの並列可能台数およびワット (W) 数

電力増幅ユニット	可能な台数	最大合計出力ワット (W) 数
WU-P51とWU-P52の組み合わせ	4	480 W
WU-P53を含む組み合わせ	3	1 080 W



②入力マトリクスを使用して多元放送を行う場合

入力マトリクスを使用して多元放送を行う場合は、電力増幅ユニットの出力系統ごとに入出力制御ユニット内部のジャンパーをカットし、系統分けします。図の例では、入力マトリクスユニットからの2つの出力系統ごとにジャンパーをカットしています。



重要

- 多元放送時に電力増幅ユニットのPA入力を系統分けした場合は、必ず増設用出力制御ユニットのジャンパー線を切断してください。電力増幅ユニット破損の原因になります。

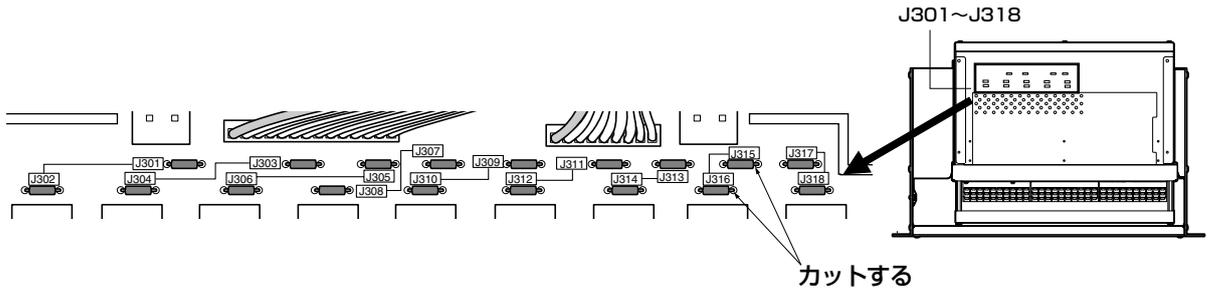
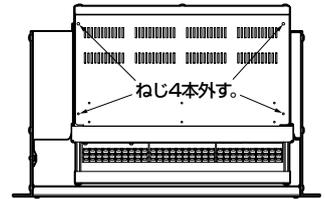
メモ

- 多元放送を行う場合は、入出力制御ユニットで系統分けできるPA入力は2系統までです。3系統以上必要な場合は増設用出力制御ユニット (WU-ER551/552) を増設してください。

ラックに取り付ける前に（つづき）

ジャンパー線の切りかた

- 1 上カバーのねじを外し、上カバーを取り外す
- 2 系統分けをスピーカー回線に該当するメイン基板（下側）のジャンパーのリード線をニッパーなどで切断する



- 3 上カバーを元どおりに取り付ける

ねじの締付トルク
0.8 N · m ~ 1.0 N · m {8 kgf · cm ~ 10 kgf · cm}

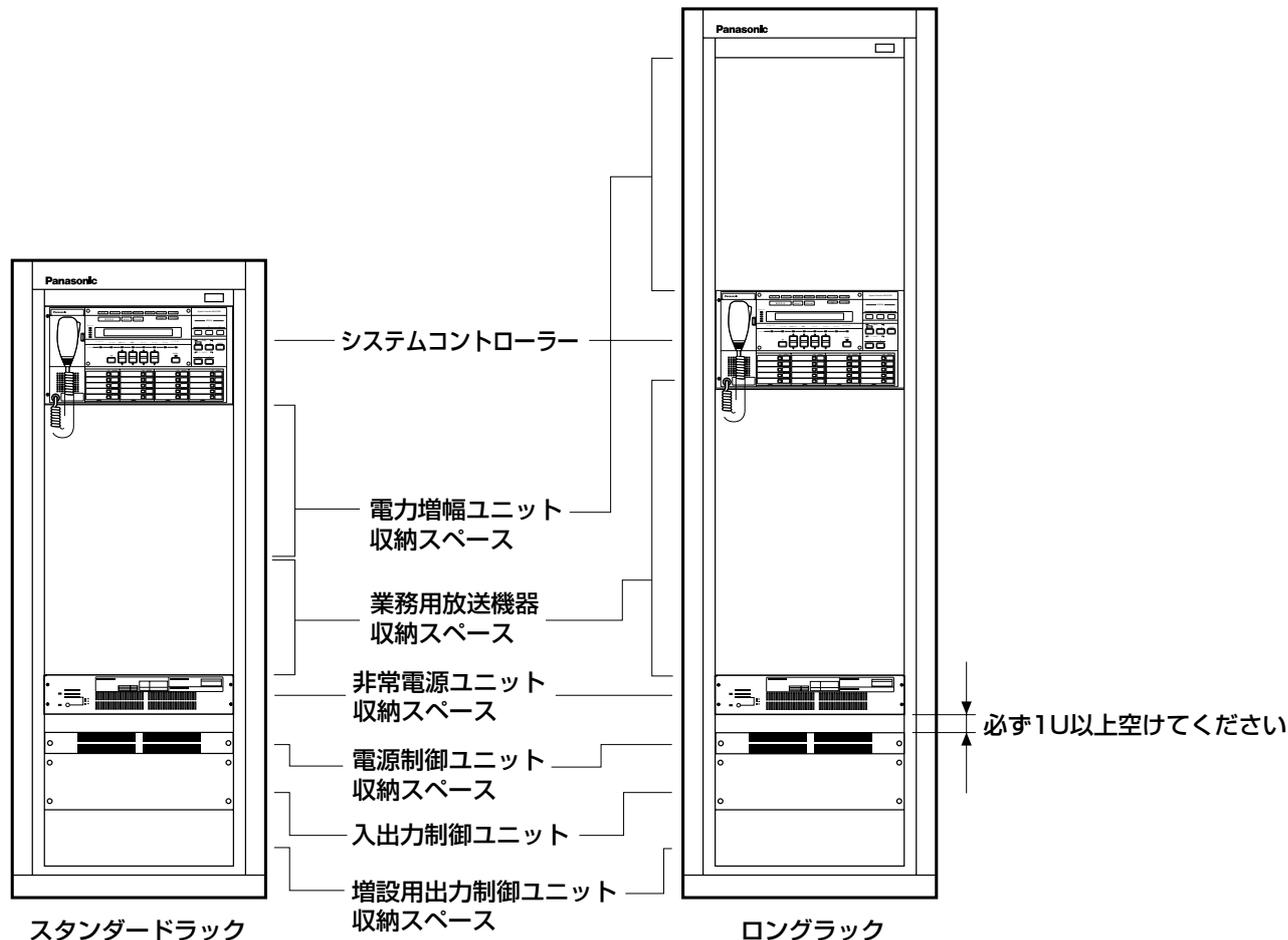
メモ

- 入出力制御ユニット内部で系統分けできるスピーカー回線は2系統です（PAコネクターが2つのため）。
- ジャンパー線はJ309 J310というようにペアで切断してください（J309、J310を切断すると、SP1~5、SP6~10の2系統になります）。（→36ページ）

ラックへの取り付け

ユニットの収納位置について

下図に各ユニットのラック内収納位置の概略を示します。



システムコントローラー (WK-KC600)

日常操作しやすい高さに収納します。(目安: 0.8 m~1.5 m)

局数を増設するために増設用操作ユニットを設置する場合は、システムコントローラーより下に収納してください。

入出力制御ユニット (WU-KR600)

増設用出力制御ユニット (WU-ER551/ER552 別売品)

スピーカー線などの外線を接続するため、ラック内の低い位置に収納します。入出力制御ユニットより下に収納してください。

電源制御ユニット (WU-L62 別売品)

放熱効果を上げるため、上1Uを必ずあけて設置します。

非常電源ユニット (WP-570B 別売品)

ラックのできるだけ下部に取り付けます。電力増幅ユニット(発熱するもの)より下に収納してください。電力増幅ユニットの直上には絶対に取り付けないでください。

電源制御ユニットとは1Uあけて設置します。

ラックへの取り付け（つづき）

電力増幅ユニット（WU-P51/P52/P53 別売品）

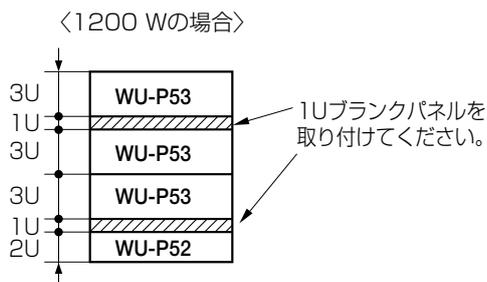
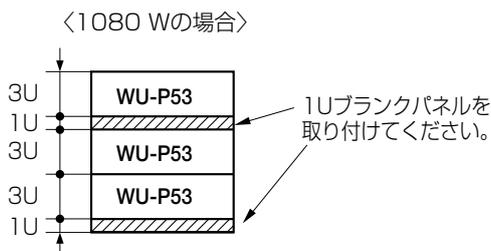
放熱効果を上げるため、ラック上部に収納します。

WU-P53を3台以上収納するときは、2台おきに1Uブランクパネルを取り付けて放熱効果を上げてください。

WU-P51/P52を5台以上収納するときは、4台おきに1Uブランクパネルを取り付けて放熱効果を上げてください。

メモ

- WU-P53を3台ラックに収納する場合、放熱効果を上げるため、下図のようにしてください。



入力マトリクスユニット（WU-MX544 別売品）

電力増幅ユニットおよび電源制御ユニットとの間を、1U以上あけてください。

ミキサーユニット（WU-M60A 別売品）

性能確保のために電力増幅ユニットおよび電源制御ユニットとの間を、2U以上あけてください。

ユニットの設置について

本システムを取り付けるラックは、次のいずれかを使用してください。

- スタンダードラック：WU-RS80（当社製） 収納ユニット数29U
※従来品のWU-RS71 もお使いいただけます。
- ロングラック：WU-RL85（当社製） 収納ユニット数41U
※従来品のWU-RL76 もお使いいただけます。

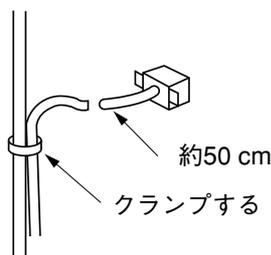
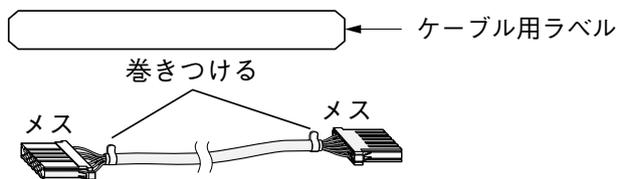
本機をラックに取り付けるときは、付属のラック取付ねじ（M5×12 mm、リブ付き）を4本使用します。

ねじの締付トルク

2 N・m～2.4 N・m {20.5 kgf・cm～24.5 kgf・cm}

ケーブル用ラベル貼り付け

サービス点検を便利にするため、ラベルが貼られていないケーブルには付属のケーブル用ラベル（印刷あり）から選び、巻きつけてください。白紙（印刷なし）のラベルはその他のケーブル用および予備用です。正しいコネクター名を書き入ってから巻きつけてください。また、ケーブルはユニットを引き出すために約50 cmたるませて、ラック後面のガイド棒にクランプしてください。



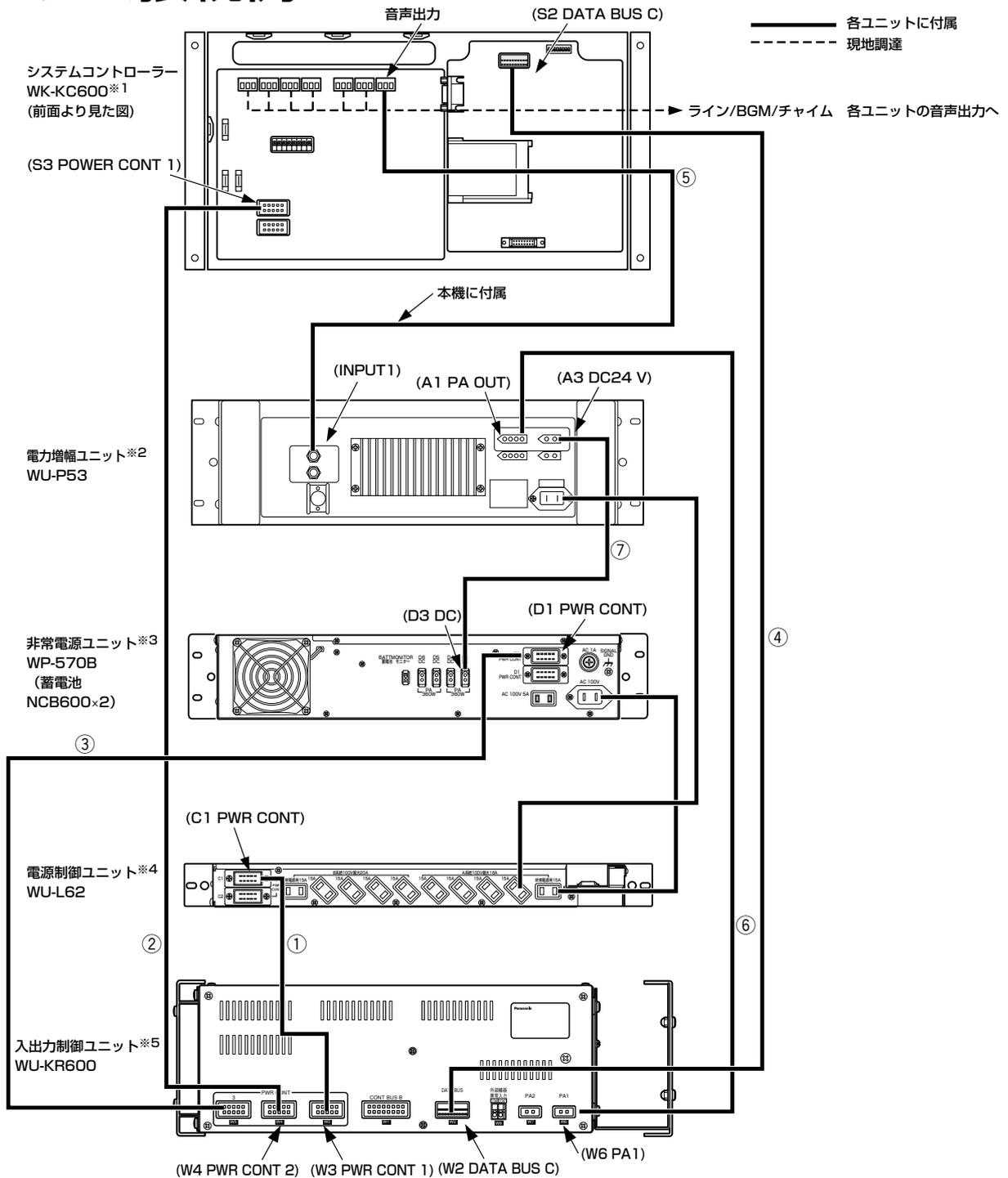
ユニットの接続

警告 工事は、必ず電源を遮断してから行う
感電の原因になります。

電源制御ユニット (WU-L62) のブレーカーを「切」、非常電源ユニット (WP-570B) の蓄電池スイッチを「切」にしてください。あわせて電源線を接続した分電盤のブレーカーも「切」にしてください。

システム接続例

接続



番号	ケーブル名称	付属しているユニット	接続先
①	PWR CONTケーブル	電源制御ユニット (WU-L62)	電源制御ユニット→入出力制御ユニット
②		本機 (WL-K600)	入出力制御ユニット→システムコントローラー
③	PWR CONTケーブル	非常電源ユニット (WP-570B)	非常電源ユニット→入出力制御ユニット
④	DATA BUS Cケーブル	本機 (WL-K600)	入出力制御ユニット→システムコントローラー
⑤	2芯シールドケーブル	本機 (WL-K600)	システムコントローラー→電力増幅ユニット
⑥	PAケーブル	電力増幅ユニット (WU-P51/52/53)	電力増幅ユニット→入出力制御ユニット
⑦	DCケーブル	電力増幅ユニット (WU-P51/52/53)	非常電源ユニット→電力増幅ユニット

メモ

- システムコントローラー (WK-KC600) について (※1)
コネクタは前面にあります。前面パネルを開け、後面で立ち上げたケーブルを通線孔経由でコネクタに接続します。(→44ページ)
- 電力増幅ユニット (WU-P51/P52/P53) について (※2)
電力増幅ユニットの電源コードは、必ず電源制御ユニット (WU-L62) に接続してください。
- 非常電源ユニット (WP-570B) について (※3)
非常電源ユニットの電源コードと、非常電源ユニットからDC24 Vを供給される電力増幅ユニットの電源コードは、同じ系統のWU-L62 (A系統またはB系統) に接続してください。
- 電源制御ユニット (WU-L62) について (※4)
非常電源ユニットと、非常電源ユニットからDC24 Vを供給される電力増幅ユニットは、同じ系統のWU-L62 (A系統またはB系統) に接続してください。
- 入出力制御ユニット (WU-KR600) について (※5)
 - ・ 入出力制御ユニットで扱えるスピーカー回線容量は、1入力当たり480 W以下です。480 Wを超える場合は、系統分けが必要となります。(→36ページ)
 - ・ PA1、2に入力される信号は、ユニット内部で並列にジャンパー接続されています。(→36ページ)
- ラック内のケーブル処理について
付属のケーブル用ラベルに接続先を記入して、ケーブルの両端に貼り付けてください。
収納したユニットのケーブルは、ユニットを引き出すために約50 cmたるませてラックの後面両端にあるガイド棒を利用してクランプします。

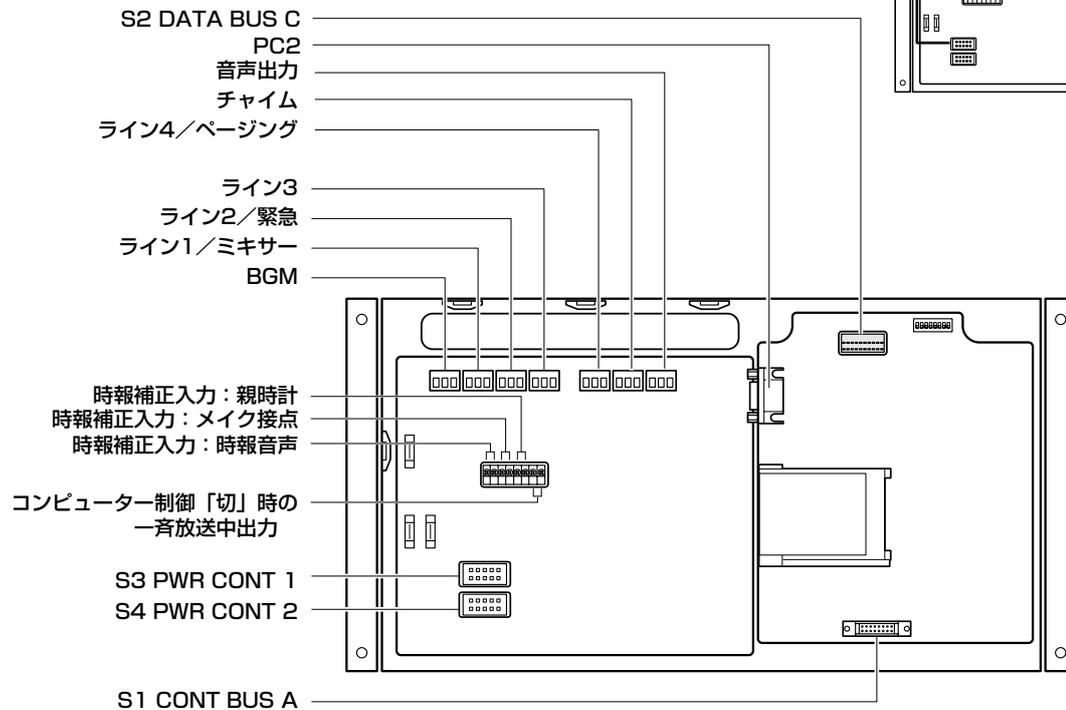
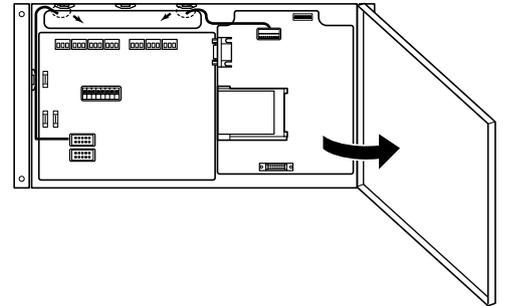
ユニットの接続 (つづき)

システムコントローラーの接続

■内部コネクタ

前面パネルを開けると内部に接続用のコネクタがあります。

システムコントローラー



接続

■接続先とケーブル

コネクタとその接続先、使用ケーブルの概略を下表に示します。

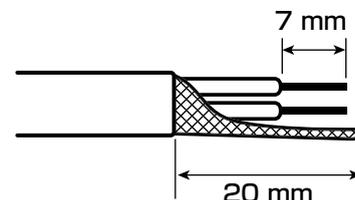
システムコントローラーWK-KC600		接続先			使用ケーブル	
記号	端子名	ユニット品番	記号	端子名	線種	備考
S1	CONT BUS A	増設用操作ユニット (WK-EX510/520)	F1	CONT BUS A IN	CONT BUS A ケーブル	増設用操作ユニットに付属
		入力マトリクスユニット	X1	CONT BUS A IN		入力マトリクスユニットに付属
S2	DATA BUS C	入出力制御ユニット WU-KR600	W2	DATA BUS C	DATA BUS C ケーブル	本機 (WL-K600) に付属
S3	PWR CONT 1	入出力制御ユニット WU-KR600	W4	PWR CONT	PWR CONT ケーブル	電源制御ユニットに付属
S4	PWR CONT 2	増設用	-	-	-	-
-	PC2	パソコン	-	RS-232C	D-subコネクタ9ピンメス	設定支援/運用支援ソフト用
-	BGM	WB-655Aなど	-	音声出力など	2芯シールド	-
-	ライン1/ミキサー	外部音源/WU-M60A	-	音声出力など	2芯シールド	
-	ライン2/緊急	外部音源、緊急メッセージ用音源	-	音声出力など	2芯シールド	
-	ライン3	外部音源	-	音声出力など	2芯シールド	
-	ライン4/ページング	外部音源、電話ページング	-	音声出力など	2芯シールド	
-	チャイム	外部音源	-	音声出力など	2芯シールド	
-	音声出力	電力増幅ユニット	-	INPUT 1	2芯シールド	本機 (WL-K600) に付属
		入力マトリクスユニット WU-MX544		音声入力	2芯シールド	

■音声入出力の接続

●音声入出力コネクタへの配線

1 シールド線の被覆を右図のように加工する

音声出力線は、2芯シールド線で接続します。



2 ヘッダーをコネクタから取り外す

3 ヘッダーのねじ3本をゆるめて、ケーブル挿し込み口を閉じている金具を広げる

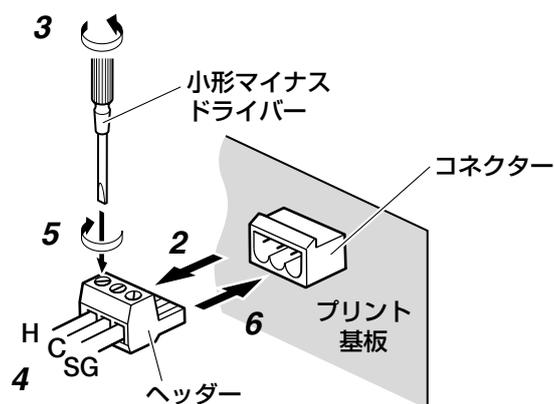
4 ヘッダーに先端を加工した線材を挿入する

5 ねじを締め、線材が抜けを確認する

ねじの締めトルク：0.5 N・m～0.6 N・m
{5 kgf・cm～6 kgf・cm}

ドライバーは刃先端が3 mmのマイナスドライバーを使用します。

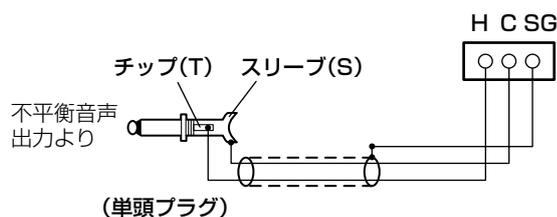
6 線材を接続したヘッダーをコネクタに取り付ける



●不平衡出力機器の接続

システムコントローラーの音声入力は平衡入力です。

不平衡出力の機器と接続するときは、図のように配線してください。



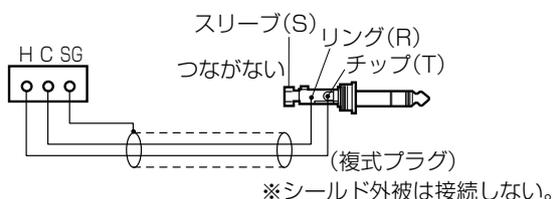
※シールド外被は単頭プラグに接続しない



※ピンプラグからのシールド線とSGを接続し、C (コールド) とSG (シグナルグランド) を接続します。

●電力増幅ユニットの接続

システムコントローラーの音声出力を電力増幅ユニットへ接続するときは、図のようにシールド外被は接続しないように配線してください (本機付属の2芯シールドケーブルは対応しています)。



※シールド外被は接続しない。

ユニットの接続 (つづき)

■ケーブルの通線と束線

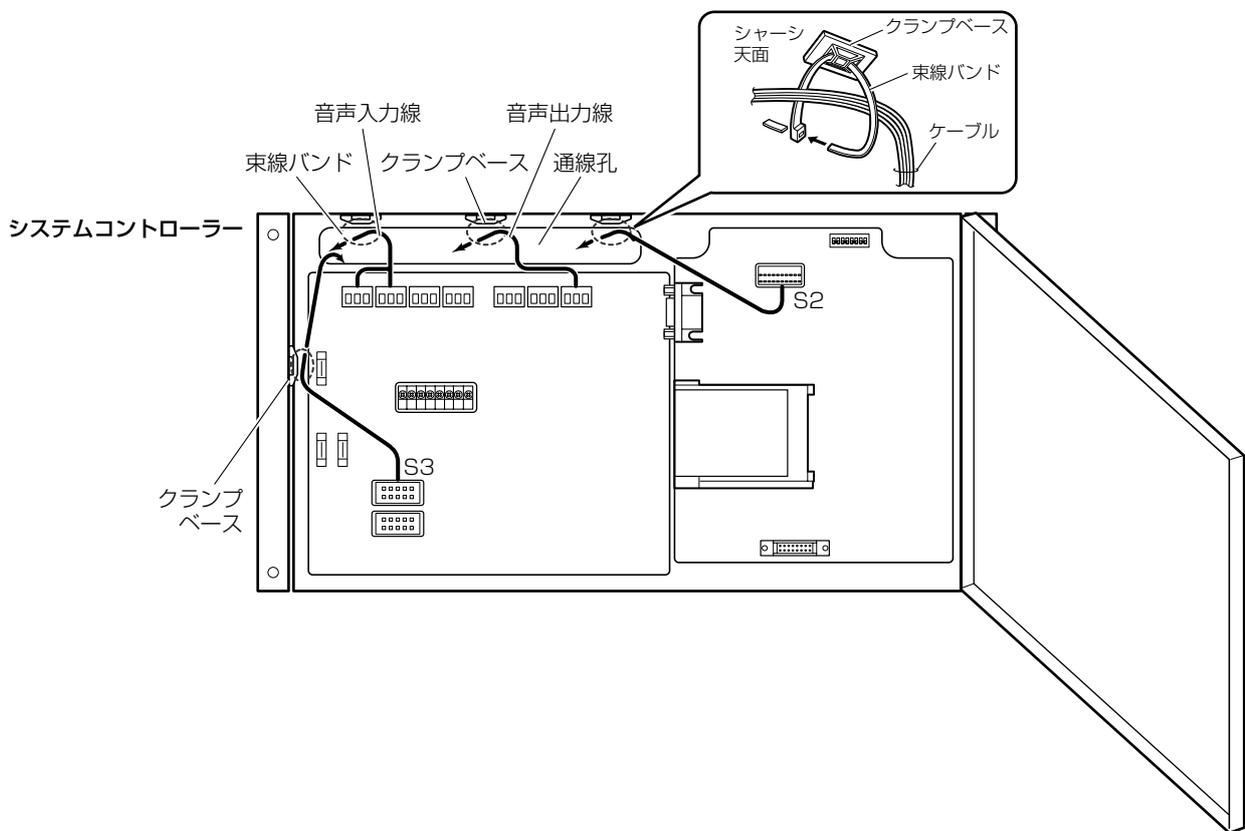
●通線

ケーブル類はラック内部の後面で立ち上げ（または、下げ）します。システムコントローラーに接続するケーブルは、ユニット上部にある通線孔からユニット内部に引き入れ、それぞれのコネクタに接続します。

●束線

通線孔上部のシャーシ天面にクランプベースが3個あります。

動作点検が終了したあと、付属の束線バンドを使ってケーブル類をクランプベースに固定します。



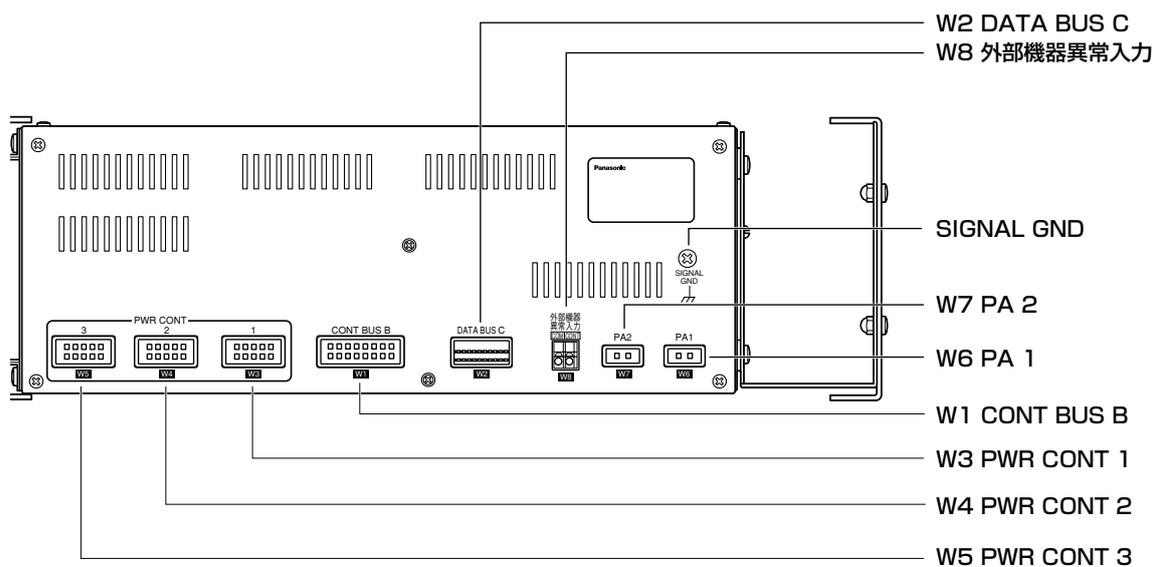
接続

入出力制御ユニットの接続

ここでは後面の接続を説明します。前面の接続については、「外部機器との接続」(→54ページ)をお読みください。

接続のしかた

ユニット後面のコネクタと接続先を示します。



接続

入出力制御ユニット WU-KR600		接続先			使用ケーブル	
記号	端子名	ユニット品番	記号	端子名	線種	備考
W1	CONT BUS B	増設用出力制御ユニット (WU-ER551/ER552)、 または拡張制御ユニット (WU-EX590)、 非常制御出力ユニット (WU-EM552)	Z1	CONT BUS B IN	CONT BUS B ケーブル	増設用出力制御ユニット、 拡張制御ユニット、非常制 御出力ユニットに付属
W2	DATA BUS C	システムコントローラー WK-KC600	S2	DATA BUS C	DATA BUS C ケーブル	本機 (WL-K600) に付属
W3	PWR CONT 1	電源制御ユニット WU-L62A	C1	PWR CONT	PWR CONTケーブル	電源制御ユニットに付属
W4	PWR CONT 2	システムコントローラー WK-KC600	S3	PWR CONT1	PWR CONT ケーブル	本機 (WL-K600) に付属
W5	PWR CONT3	非常電源ユニット	D1	PWR CONT2	PWR CONT ケーブル	非常電源ユニットに付属
		電源制御ユニット	C1	PWR CONT3		電源制御ユニットに付属
W6	PA1	電力増幅ユニット	A1	PA OUT	PA出力ケーブル	電力増幅ユニットに付属
W7	PA2	電力増幅ユニット	A1	PA OUT	PA出力ケーブル	電力増幅ユニットに付属
W8	外部機器異常入力	—	—	—	—	—

メモ

- 停電時に緊急放送または業務放送を行う場合には、緊急・業務放送用に非常電源ユニット (WP-570B) および蓄電池が必要です。(→81ページ)

ユニットの接続（つづき）

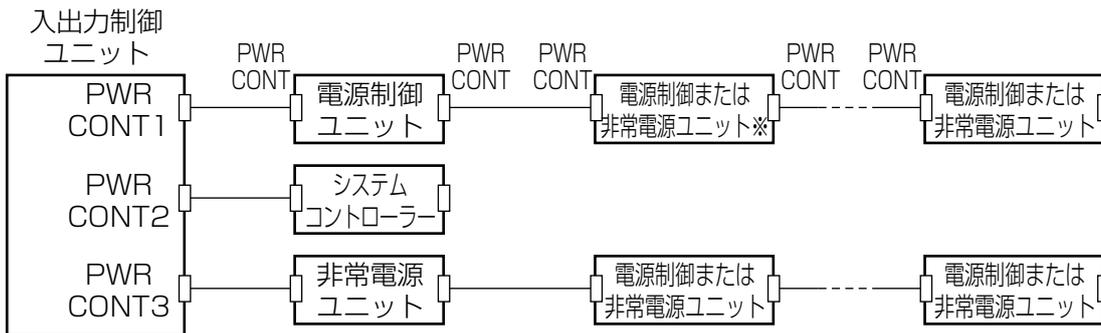
入出力制御ユニットへの電源制御ユニット・非常電源ユニットの接続について

システム電源早見表（→20ページ）により電源制御ユニット、非常電源ユニットを複数台接続する場合は、入出力制御ユニットのPWR CONT 1、3コネクタに送り配線で接続します。

重要

- PWR CONT1、3コネクタに接続する電源制御ユニット、非常電源ユニットの接続台数が均等になるように接続してください。

接続



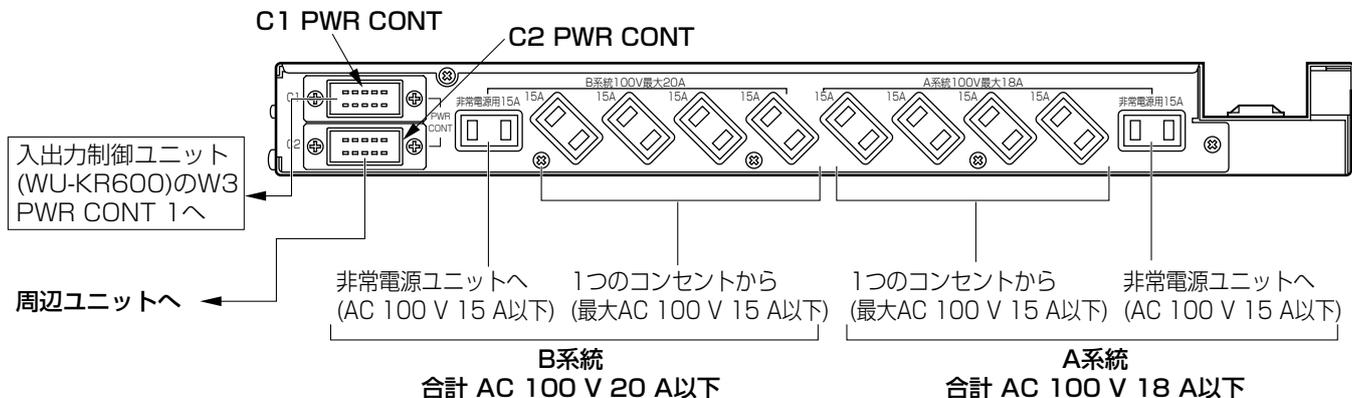
※非常電源ユニットは停電放送を行う場合に必要

メモ

- システムの規模が110局、110回線を超える場合には、入出力制御ユニットに接続する本体電源のほかに、外部電源が必要になります。
- 外部電源は、増設用出力制御ユニット、拡張制御ユニット（WU-EX590）、非常制御出力ユニット（WU-EM552）から供給することができます。

電源制御ユニット WU-L62

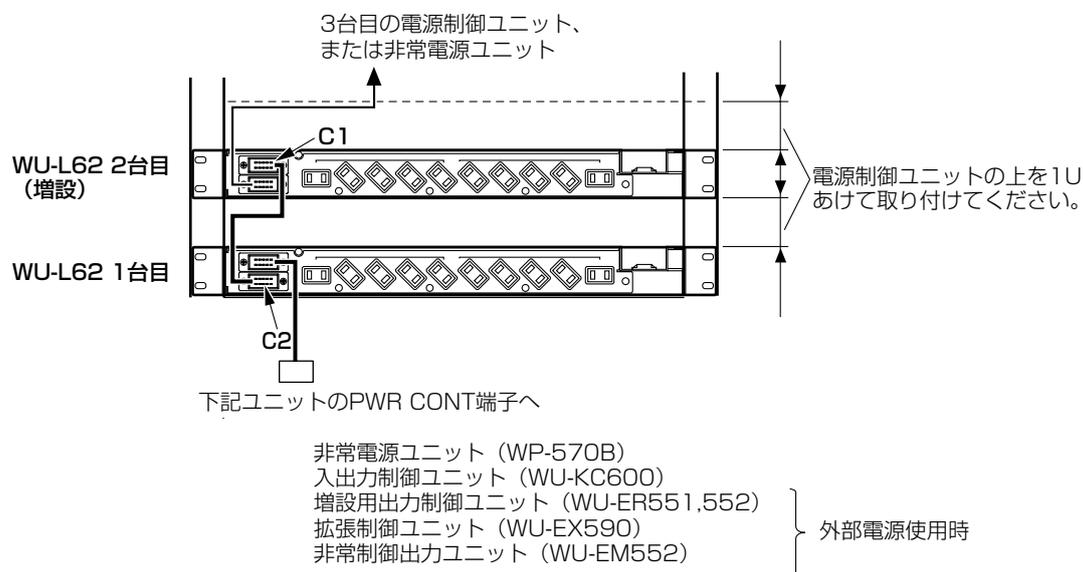
接続のしかた



接続

WU-L62を増設する場合

- ・すでに設置してある電源制御ユニットのC2 PWR CONTを、増設した電源制御ユニットのC1 PWR CONTへというように、PWR CONT端子を順番に接続していきます。増設したユニットの付属ケーブルを使用します。
- ・接続に際して、非常電源ユニット (WP-570B) を電源制御ユニットの前後に接続するなどの混在が可能です。
- ・システムに必要な電源制御ユニットの台数は、システム規模が110局、110回線までの場合には、システム電源早見表 (→22ページ) を参考に求めます。



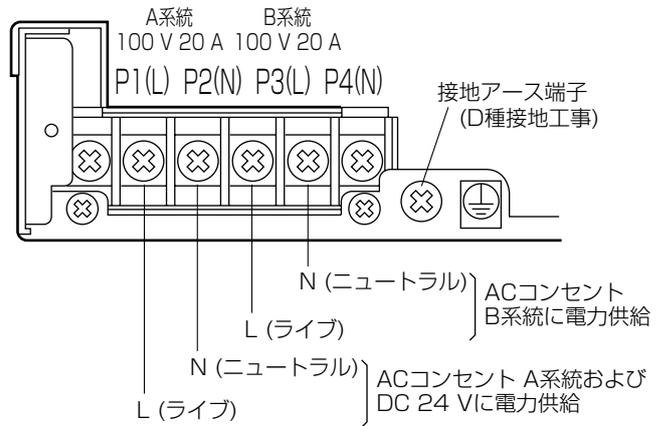
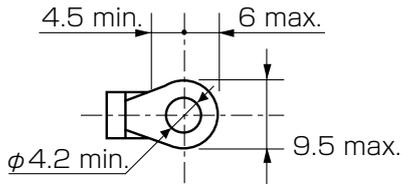
メモ

- ・110局、110回線を超えるシステムの場合には、外部電源が必要になり、接続の方法に条件があります。外部電源の考えかた、必要条件についてはシステム電源早見表 (→20ページ) を参考にしてください。

ユニットの接続 (つづき)

使用できる電線と端子

- 配線するときは、付属の丸端子または、下図の寸法に適合するJIS C 2805 銅線用絶縁被覆 (直管形) 付圧着端子RAV2-4、RAP2-4 (適用電線断面積 2.0 mm^2 、 $\phi 1.6 \text{ mm}$) RAV5.5-4 5.5-5、RAP5.5-4 5.5-5 (適用電線断面積 5.5 mm^2 、 $\phi 3.0 \text{ mm}$) をご使用ください。



接続

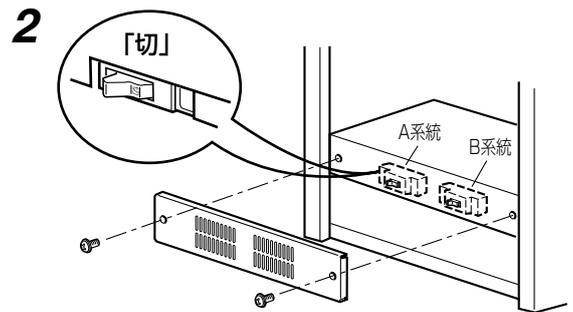
電源線の接続

重要

- 使用できる電源 (分電盤) は、20 Aまたは30 Aです。
- 系統ごと (A、B) に主電源 (分電盤) からの配線を分けて、直接接続してください。
- 内線規程により、30 Aを超える電源 (分電盤) へは、接続できません。
- 電線の抜け防止、接触不良による不安定を防止するため、必ず付属の丸端子を使用してください。

1 接続する分電盤のブレーカーを「切」にする

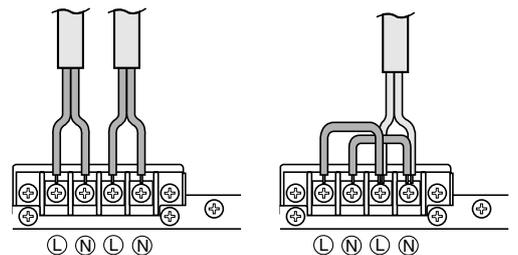
2 2本のねじをゆるめ、WU-L62の前面パネルを外し、前面のブレーカーが「切」になっていることを確認する



3 電源線を端子台に接続する

締付トルク
 $1.2 \text{ N} \cdot \text{m} \sim 1.4 \text{ N} \cdot \text{m}$ { $12.2 \text{ kgf} \cdot \text{cm} \sim 14.3 \text{ kgf} \cdot \text{cm}$ }

3 20 A ブレーカーへ 20 Aまたは30 A ブレーカーへ



分電盤からの配線を20 Aで分ける

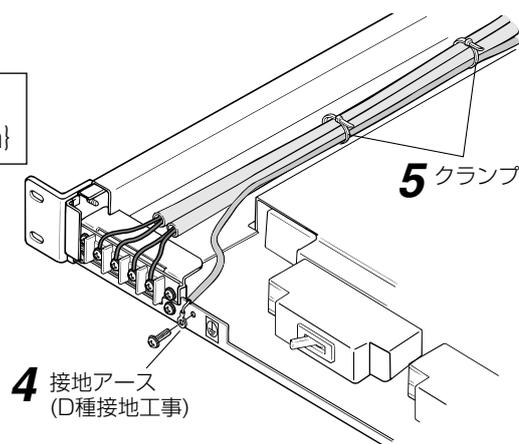
配線を共用しているため合計で30 Aを超える配線は不可

4 右端にある接地アースをD種接地工事する

締付トルク
1.2 N・m～1.4 N・m {12.2 kgf・cm～14.3 kgf・cm}

5 取り付けたケーブルを、付属の束線バンドで止める

(ケーブル接続部に直接力が加わるのを防ぐため)



6 接続完了後、配線に間違いがないか確認する。 確認後、分電盤のブレーカー・WU-L62のブレーカーを「入」にする

7 前面パネルを元通りにねじ止めする

前面パネルねじ締付トルク
0.5 N・m～0.7 N・m {5 kgf・cm～7 kgf・cm}

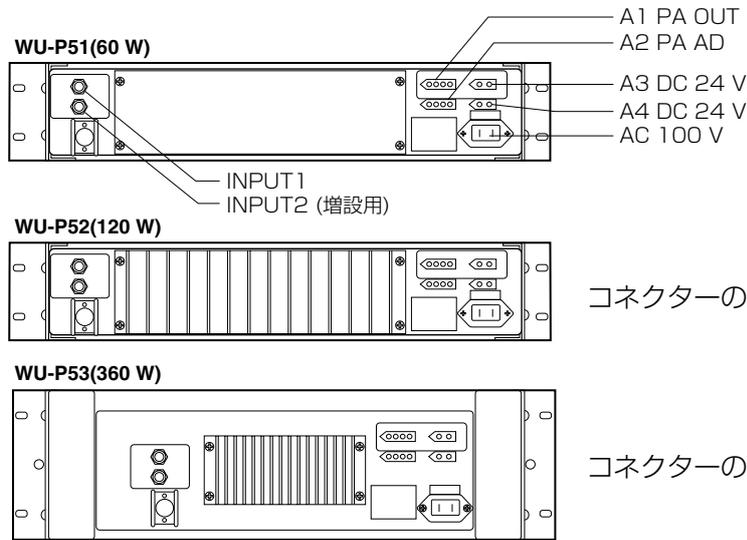
重要

- ケーブル接続端子部のねじは点検時に規定の締付トルクで増し締めを行ってください。

ユニットの接続 (つづき)

電力増幅ユニット WU-P51/P52/P53

接続のしかた



コネクタの配置はWU-P51と同じです。

コネクタの配置はWU-P51と同じです。

接続

電力増幅ユニット WU-P51/P52/P53		接続先			使用ケーブル	
記号	端子名	ユニット品番	記号	端子名	種類	備考
—	AC100 V	WU-L62	—	AC100 Vコンセント	ACケーブル	電力増幅ユニットに付属
A1	PA OUT	入出力制御ユニット WU-KR600, 増設出力制御ユニット WU-ER551/552	W6、W7 Z5~Z8	PA1、PA2 PA1~PA4	PA出力ケーブル	電力増幅ユニットに付属
A2	PA AD	増設用電力増幅ユニット	A1	PA OUT	PA出力ケーブル	電力増幅ユニットに付属
A3 A4	DC24 V	非常電源ユニット WP-570B	D3~ D6	DC	DCケーブル	電力増幅ユニットに付属
—	INPUT1	システムコントローラー WK-KC600	—	音声出力	2芯シールド	本機 (WL-K600) に付属
—	INPUT2	増設用電力増幅ユニット	—	INPUT1	2芯シールド	電力増幅ユニットに付属

電力増幅ユニットの総合出力と並列接続の組み合わせ

WU-P51 (60 W)、WU-P52 (120 W)、WU-P53 (360 W) を組み合わせて、システムに必要なワット (W) 数を得ます。

1 080 Wを超える場合は、増設用出力制御ユニットのPA入力の系統分けをします。

W数	上手な組み合わせ (合計W数)	W数	上手な組み合わせ (合計W数)	W数	上手な組み合わせ (合計W数)
60	WU-P51 (60W)	360	WU-P53 (360 W)	720	WU-P53×2 (720 W)
120	WU-P52 (120 W)	420	WU-P51、P53 (420 W)	780	WU-P51、P53×2 (780 W)
180	WU-P51、P52 (180 W)	480	WU-P52、P53 (480 W)	840	WU-P52、P53×2 (840 W)
240	WU-P52×2 (240 W)	540	WU-P51、P52、P53、(540 W)	1080	WU-P53×3 (1080 W)
300	WU-P51、P52×2 (300 W)	600	WU-P52×2、P53 (600 W)		

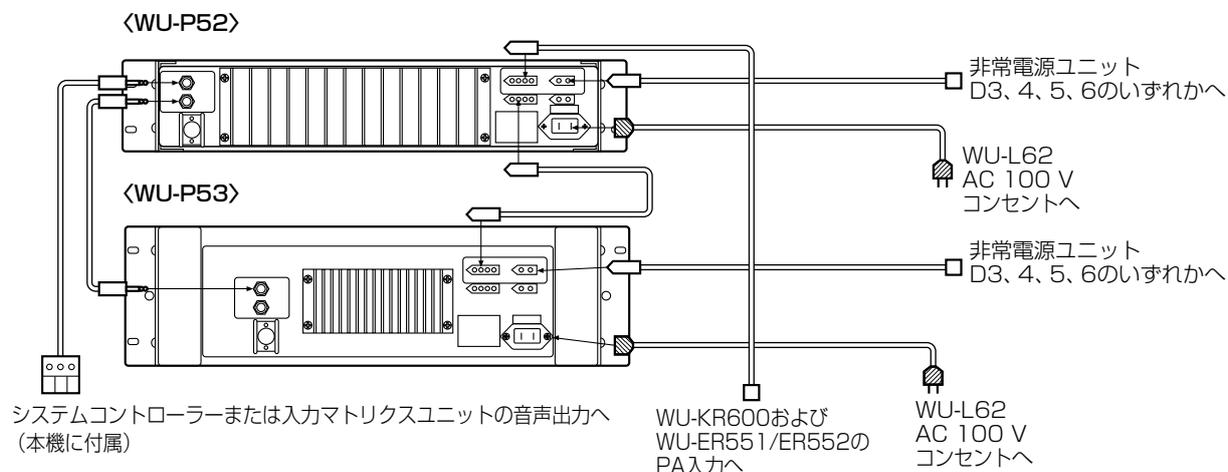
- ・ 数字と数字の間のワット数 (750 Wなど) は、その上のワット数 (780 W) の組み合わせにします。
- ・ 上記表以外の組み合わせは、下表の並列接続台数と最大合計出力ワット (W) 数に注意して組み合わせます。

並列接続可能な台数

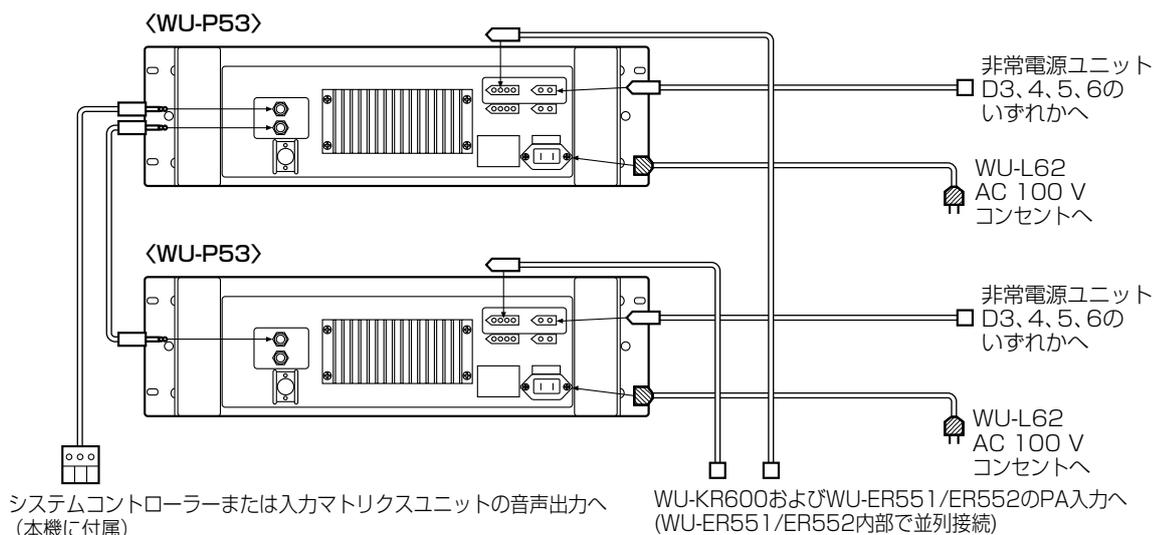
電力増幅ユニット	接続可能台数	最大合計出力ワット(W) 数
WU-P51とWU-P52の組み合わせ	4	480 W
WU-P53を含む組み合わせ	3	1080 W

電力増幅ユニットを2台以上組み合わせる場合の接続例

WU-P52とWU-P53を並列接続する場合



WU-P53を2台並列接続する場合



重要

- 増設用出力制御ユニットのPA入力コネクタに接続可能な電力増幅ユニットのワット (W) 数は1コネクタ当たり480 Wまでです。
- 並列接続により、PA入力コネクタに接続可能なワット (W) 数を超える場合には、各電力増幅ユニットの出力をそれぞれPA入力コネクタに接続し、増設用出力制御ユニット内部で並列接続するようにします。
- 入出力制御ユニットおよび増設用出力制御ユニット内部で並列接続する場合、ユニット内部での並列接続が、電力増幅ユニットの並列接続可能な台数およびワット (W) 数以内になるようにする必要があります。これを超える場合、ユニット内部のジャンパーカットが必要です。(→37、92ページ)

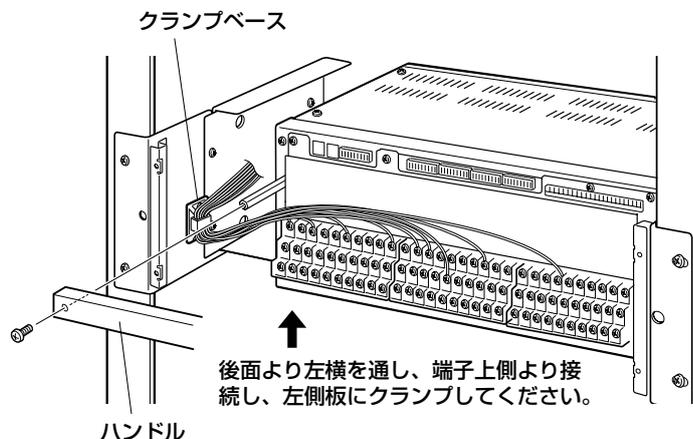
メモ

- 突入電流の影響を軽減するため、大きなワット (W) 数の電力増幅ユニットを複数接続する場合は、電源制御ユニット (WU-L62) のコンセントをA系統、B系統に分けて接続してください。
WU-P53をA系統、B系統に各2台まで接続できます。
- 非常電源ユニットの電源コードと、非常電源ユニットからDC24 Vを供給される電力増幅ユニットの電源コードは、同じ系統のWU-L62 (A系統またはB系統) に接続してください。

外部機器との接続

入出力制御ユニットの通線のしかた

- ・外部と接続する線材は、ラック後面の左側で立ち上げ、ユニット左の通線スペース経由で前面へ引き込むか、または前面の左側スペースから立ち上げて端子に接続します。
- ・付属の束線バンドで線材をユニット側面のクランプベースに固定します。
- ・前面端子部を引き出せるように、線材は5 cm程度の余裕をもたせてクランプします。
- ・束線径が太く、曲がりにくい場合は、クランプより奥でシープをはがしてください。
- ・ハンドルが邪魔になる場合は取り外して接続し、接続が済んでからハンドルを取り付けます。
- ・ユニットを取り外すときは、接続したケーブルをすべて外してから取り外します。



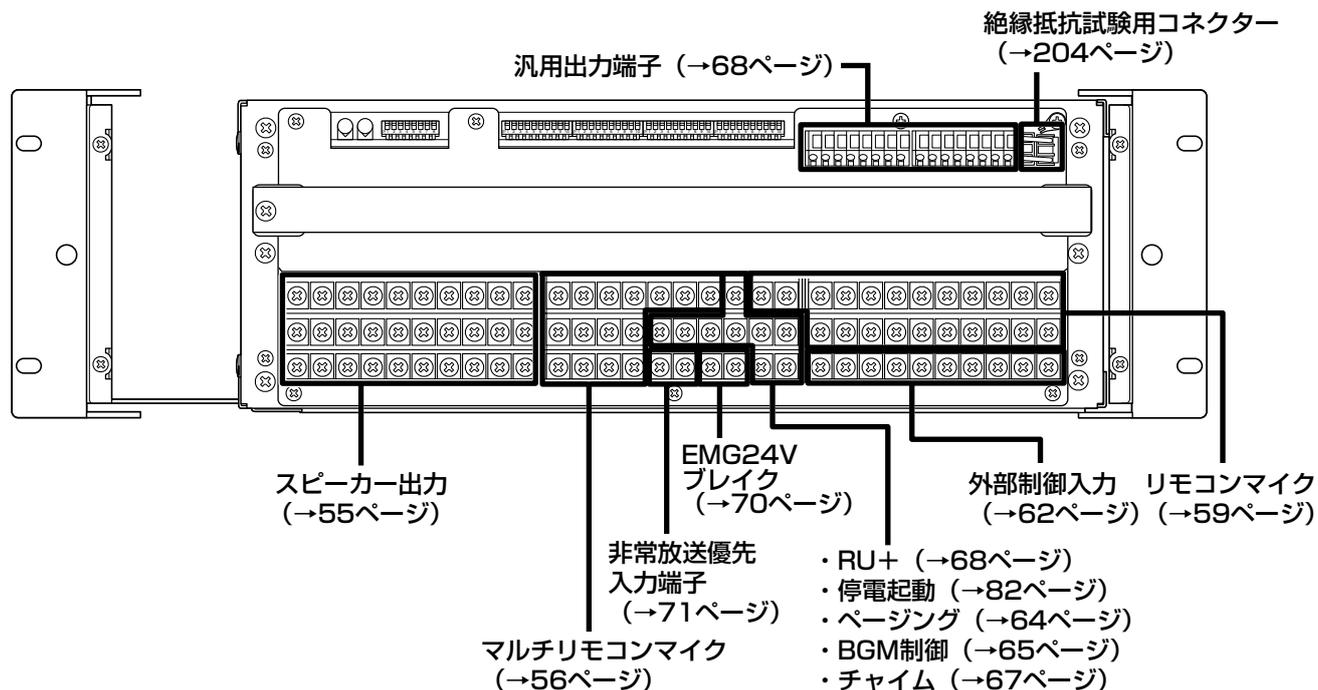
端子ねじ・ハンドル部締付トルク：
1.0 N・m～1.2 N・m {10 kgf・cm～12 kgf・cm}

重要

- スピーカー回線のケーブルと他のケーブルと一緒にクランプしないでください。

端子台の接続

ねじ端子の配列と接続の概略を示します。詳しい情報はそれぞれのページをお読みください。



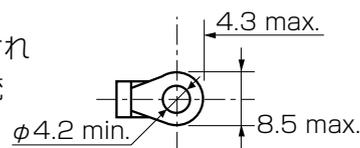
スピーカー出力端子の接続

重要

- スピーカー出力端子1回線当たりの最大ワット (W) 数は200 Wまでです。200 Wにおさまるようにスピーカー回線を分けてください。
- スピーカー出力に接続されるスピーカーのワット (W) 数に応じて、前面のスピーカー短絡検出感度切替の設定が必要です。(→35ページ)

メモ

- 初期設定では、電力増幅ユニットを接続するPA1、PA2はすべて並列に接続されています。接続するスピーカー回線の系統に応じて、PA入力コネクタの系統分けおよびスピーカー回線をブロック分けして使用することができます。



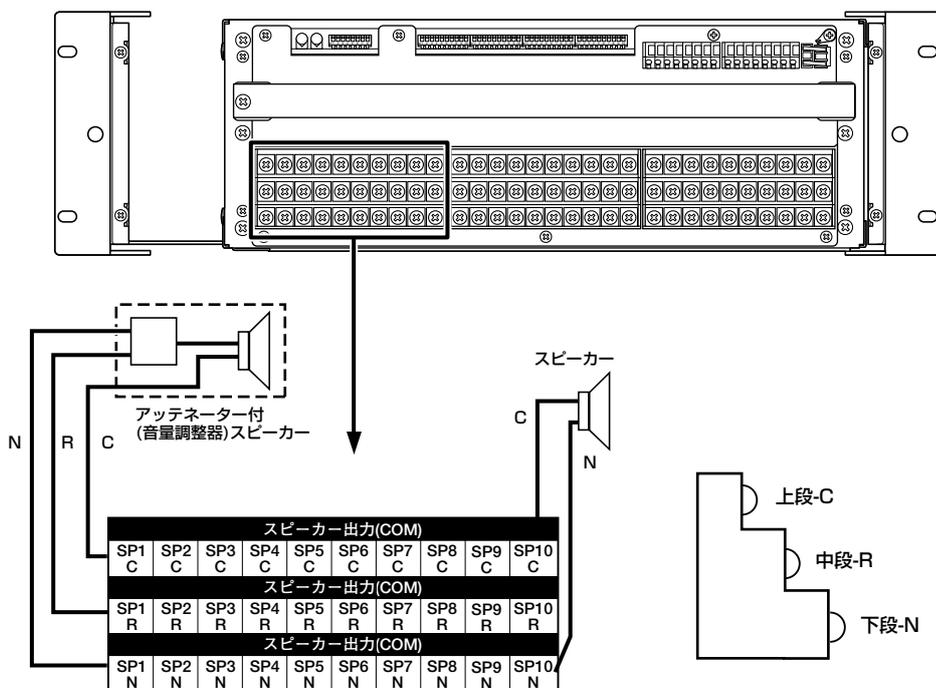
警告

- スピーカー出力端子の接続は必ず電源を切ってから行ってください。
- 音声出力時にスピーカー出力端子に触れると感電する恐れがあります。

電源制御ユニット (WU-L62) のブレーカーを「切」、非常電源ユニット (WP-570B) の蓄電池スイッチを「切」にしてください。

次のように接続します。

1 スピーカーを接続する



2 スピーカー短絡検出感度を設定する

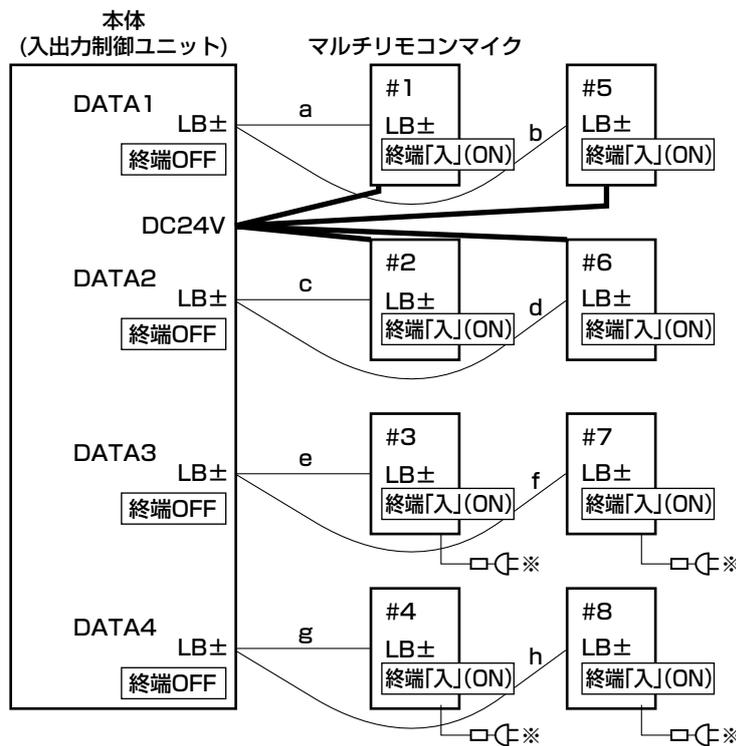
ユニット前面のスピーカー短絡検出感度切替スイッチを各スピーカー出力端子に接続されるスピーカーの合計ワット (W) 数に合わせて設定します。(→35ページ)

マルチリモコンマイク WR-MC100A

接続の考えかた

- ・本機に接続可能なマルチリモコンマイクの台数は8台までです。
- ・本体から電源を供給できるマルチリモコンマイクの台数は最大4台までです。5台以上接続する場合には、5台目以降のマルチリモコンマイクに別売りのACアダプター（WZ-MC100）を接続してください。
- ・入出力制御ユニット（WU-KR600）のDATA1～4端子には1端子につき2台まで接続できます。1端子に3台以上の接続はできません。
- ・データ線には、1端子あたりに接続されるケーブルの総延長距離が1 000 mまでという制約があります。

接続



データ線の総延長距離：a+b≤1000 m、c+d≤1000 m、e+f≤1000 m、g+h≤1000 m

—— データ線 ——— 電源線

※ “#” はマルチリモコンマイクのユニットアドレス番号を示しています。

※ 5台目以降に別売りのACアダプター（WZ-MC100）が必要です。

メモ

- ・接続形態によって入出力制御ユニット（WU-KR600）およびマルチリモコンマイクの通信終端の設定が必要です。（→35ページ）
- ・各DATA端子に接続されるマルチリモコンマイクのユニットアドレスの付与方法には、特に制約はありません。

ユニットアドレスの設定

- ・マルチリモコンマイクのユニットアドレスは、マルチリモコンマイクの液晶画面で設定します。
- ・マルチリモコンマイクのユニットアドレスは、初期設定は1に設定されています。1～8の間で重複がないように、設定してください。
- ・設定方法、設置方法の詳細は、マルチリモコンマイク（WR-MC100A）の取扱説明書（ユニットアドレスについて）をお読みください。
- ・ユニットアドレス設定後は、システムコントローラーの書き込み設定でユニット構成情報の更新または設定を行ってください（→160ページ）。

メモ

- マルチリモコンマイクのユニットアドレス設定を行うためには、マルチリモコンマイクを通電状態にする必要があります。ACアダプターにより電源を供給しているマルチリモコンマイクも同時に通電状態にしてください。

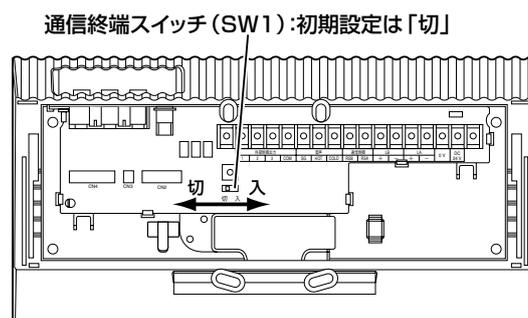
通信終端の設定

マルチリモコンマイク接続時には、マルチリモコンの通信終端スイッチを「入」にしてください。また接続方法に応じて、本体側の入出力制御ユニット（WU-KR600）の通信終端のディップスイッチ設定が必要です。

■終端設定のしかた

マルチリモコンマイクの通信終端

WR-MC100Aの台座部の通信終端スイッチ（SW1）を「入」にしてください（初期設定は「切」になっています）。

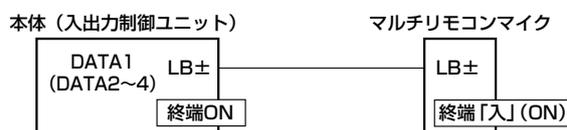


入出力制御ユニット（WU-KR600）の通信終端

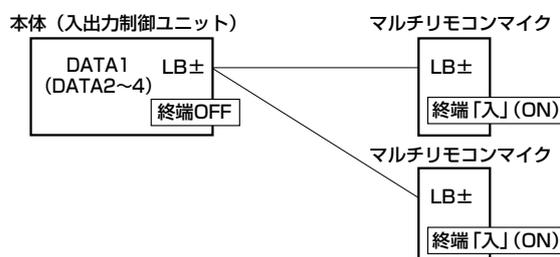
入出力制御ユニットのマルチリモコンマイクDATA端子に2台接続する場合には、入出力制御ユニットの該当するDATA端子の通信終端をOFFにする必要があります。（→35ページ）

■接続形態と通信終端の設定条件

- (1) 1対1で接続する場合、入出力制御ユニットの通信終端をON、マルチリモコンの通信終端を「入」(ON) にします。



- (2) 1対2で接続する場合、入出力制御ユニットの通信終端をOFF、マルチリモコンの通信終端は2台とも「入」(ON) にします。



外部機器との接続（つづき）

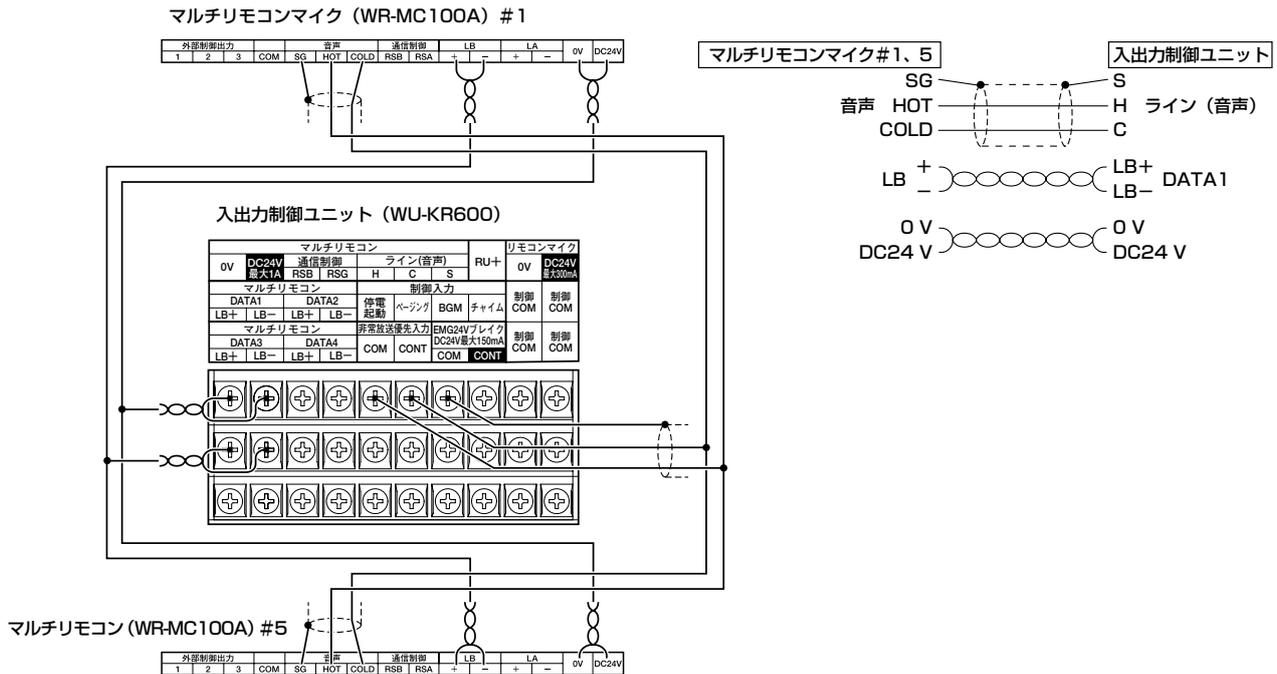
■接続のしかた

下図に本体のDATA1にマルチリモコンマイクを2台接続した場合の接続例を示します。

入出力制御ユニットの端子に以下のように接続します。

- ・ DATA1 (LB+, LB-) 端子に2台までのマルチリモコンマイクを接続します。
- ・ ライン (音声) 端子には、すべてのマルチリモコンマイクの音声出力を並列に接続します。
- ・ DC24V端子には、マルチリモコンマイクのDC24 Vを並列に接続します。

接続



重要

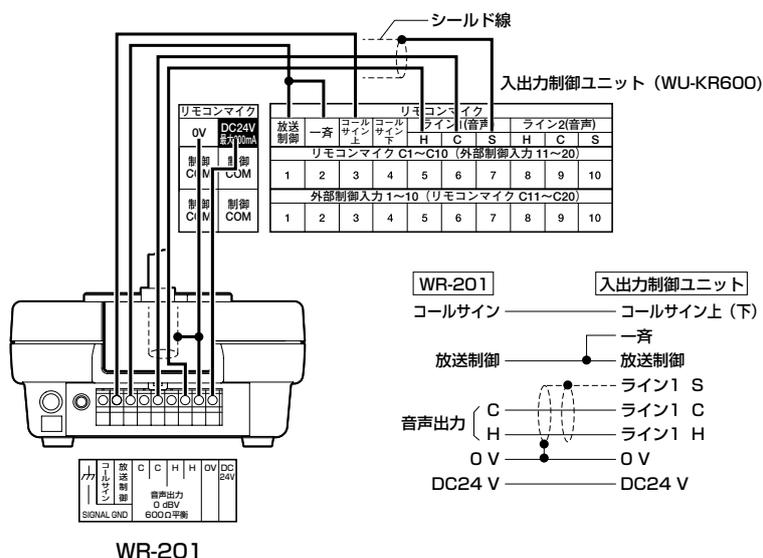
- DC24 V端子の接続の際には極性を間違えないように接続してください。
- ACアダプター (WZ-MC100) を使用する場合には、マルチリモコンマイクのDC24 V端子は接続しないでください。ただし、GND端子はマルチリモコンの性能を確保するために必ず接続してください。
- DATA信号には極性があります。+、-を合わせるように接続してください。

リモコンマイクの接続

- ・単局リモコンマイク (WR-201)、5局リモコンマイク (WR-205A)、10局リモコンマイク (WR-210A) を接続します。
- ・本機から供給できる電源は、DC24 V 最大300 mAです。
- ・接続可能台数は、6台までです。ただしライン1、ライン2音声端子の接続台数はそれぞれ3台までです。
- ・15局、20局の接続例 (外部制御入力1-10 (リモコンマイクC11~C20) をリモコンマイク用途に設定し使用する) では、書き込み設定が必要です。(→159ページ)

■単局リモコンマイクの接続

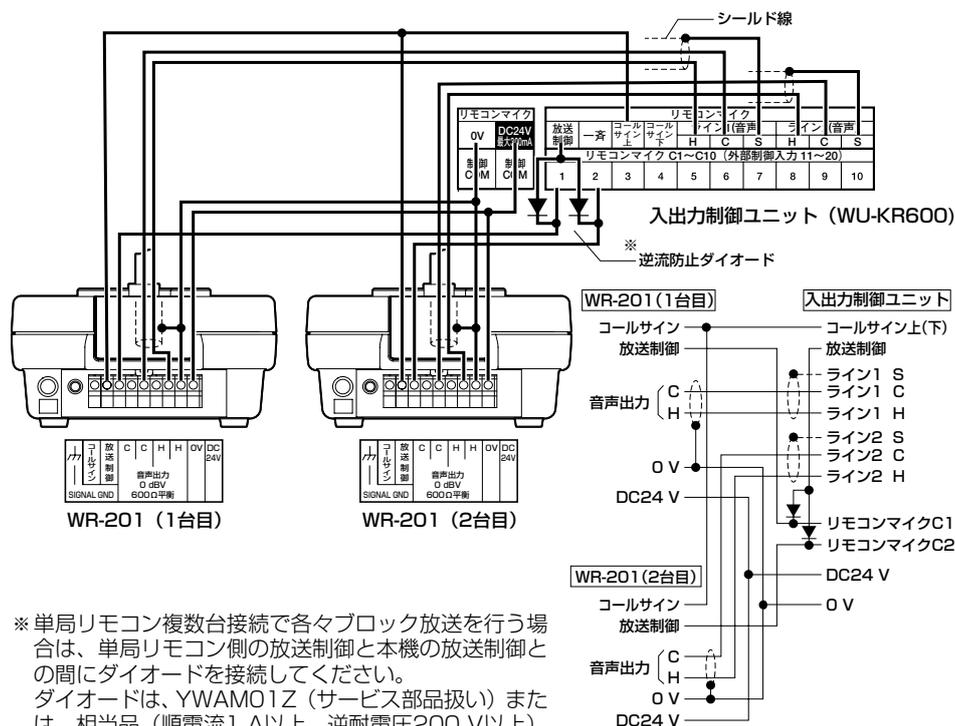
一斉放送する場合



WR-201

ブロック放送する場合

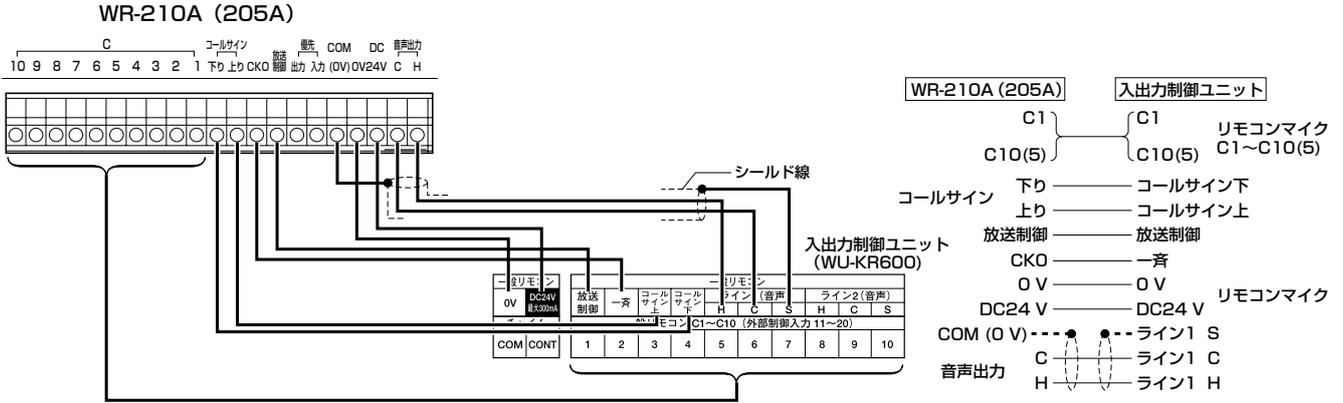
ブロックごとに単局リモコンを用意し、リモコンからの放送制御信号以外を並列に接続します。各リモコンからの放送制御信号は、本機のリモコンマイクC1~C10端子にそれぞれ接続します。この例では、1台目をC1に、2台目をC2に割り当ててブロック放送を行っています。



※ 単局リモコン複数台接続で各々ブロック放送を行う場合は、単局リモコン側の放送制御と本機の放送制御との間にダイオードを接続してください。
ダイオードは、YWAM01Z (サービス部品扱い) または、相当品 (順電流1 A以上、逆耐電圧200 V以上)

外部機器との接続（つづき）

■5、10局リモコンマイクの接続

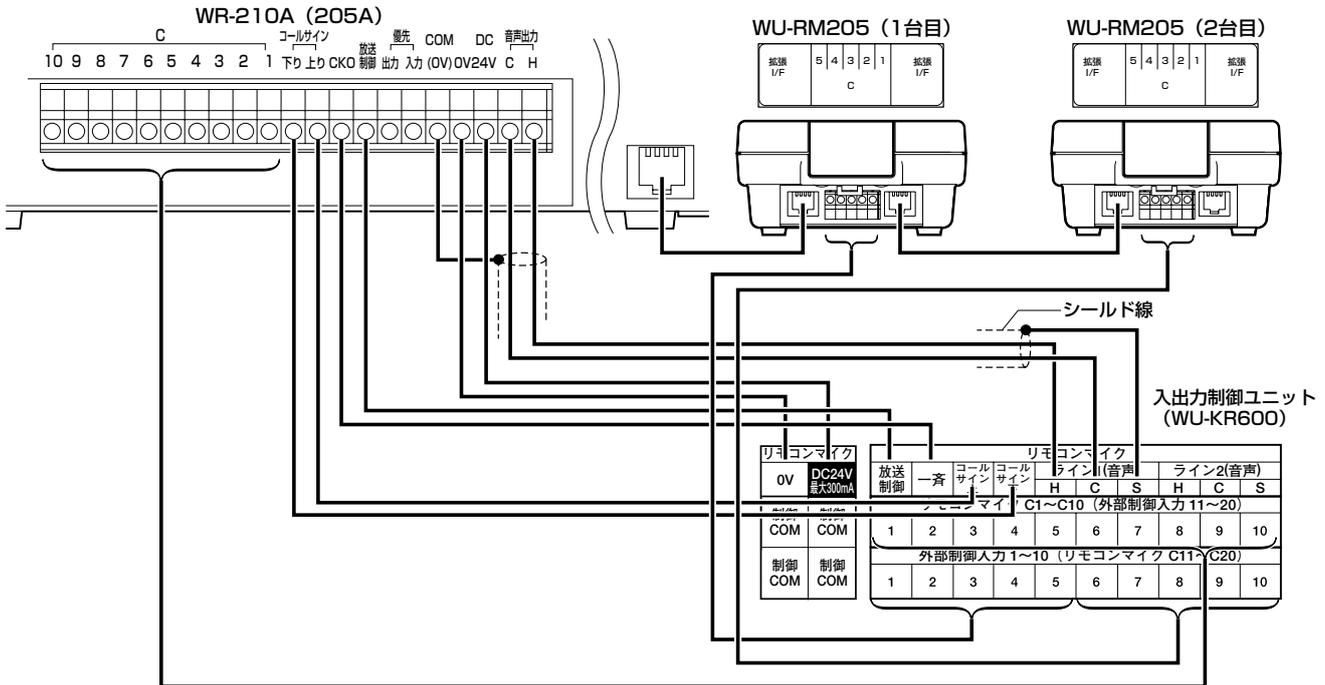


接続

■15、20局リモコンマイクの接続

10局を超えてリモコンマイクを増設する場合、入出力制御ユニットの外部制御入力1~10をリモコンマイク制御入力用にリモコンマイクC11~C20へ機能変更して接続できます。

5局、10局リモコンマイクに増設ユニット（WU-RM205）を増設して、ブロック数を15~20に増やす場合は以下のようにします。増設方法はそれぞれの取扱説明書を参考に行ってください。



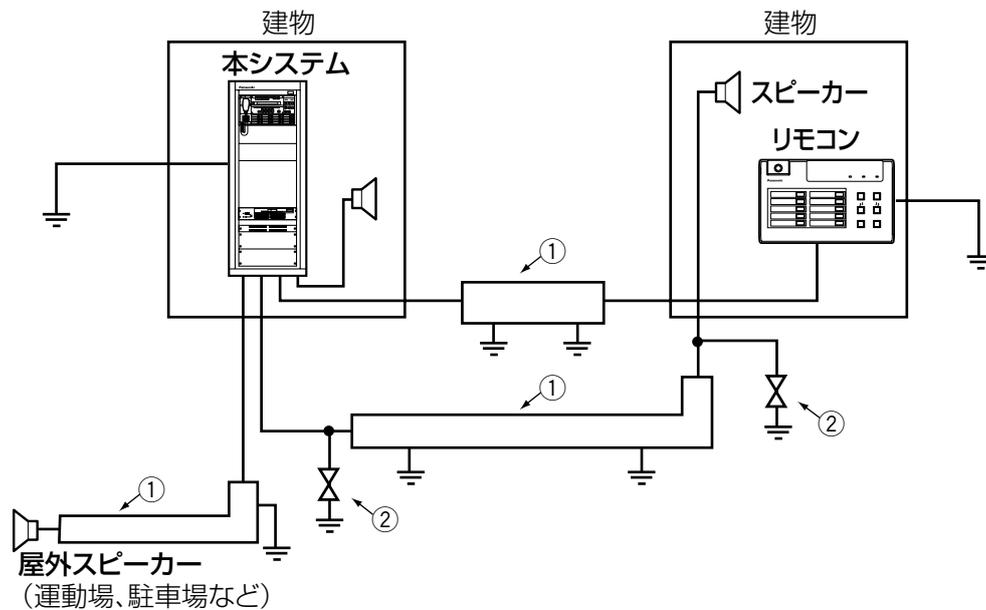
書き込み設定により本機の外部制御入力1~10をリモコンマイクC11~C20へ機能変更します（→159ページ）。外部制御入力およびリモコンマイク端子は、5系統単位で最大20までいずれかの機能に振り分けることができます。（→159ページ）

メモ

- リモコンマイクの通電表示灯は放送可能状態のときに点灯します。
- 通電表示灯は、本機のリモコンマイクC1~C10（C11~C20）のいずれかが入力され、かつ放送制御が入力された場合と、放送制御および一斉放送信号が入力された場合です。
- 放送の優先順位が設定されたシステムでは、ほかの優先順位の高い放送が行われると放送可能とならず、通電表示灯が点灯しない場合もあります。

外来サージ対策

雷の多い地域でご使用になる場合や、リモコン・スピーカーが他の建物に接続される場合は、下図に示すように①金属配管、②保安器などの対策を行ってください。



接続

①金属配管について

建物間に渡る配線などで配線が露出しないように金属配管をしてください。
外来ノイズに対して信号線（データ線）は、ペア線を使用してください。
（平行線は、ノイズの影響によって信号（データ）が乱れることがあります）

②保安器について

本機はスピーカー出力、データラインなどにサージアブソーバを設けていますが、特に雷の多い場所では現地で金属配管を行うときに、保安器を設けてください。

外部制御入力接続

外部機器から本端子へメイク信号を入力して次のことができます。いずれの場合も外部制御入力に対して、放送する音声入力、放送先などの書き込み設定が必要です。

- ・ 指定の音声入力をあらかじめ登録したスピーカー回線へ放送する（→175ページ）
 - ・ 本機の内蔵音源をあらかじめ登録したスピーカー回線へ放送する（→175ページ）
 - ・ 外部制御入力端子を緊急起動設定することによりライン2または内蔵音源をあらかじめ登録したスピーカー回線に緊急放送する（→166ページ）
 - ・ 端子への入力信号に連動して汎用出力端子を駆動する（→181ページ）
- ※本端子は無電圧メイク入力に対応し、開放電圧24 V、短絡電流3 mAです（トランジスターのオープンコレクター出力を接続する場合、COM側が信号グラウンドになるよう極性に注意してください）。

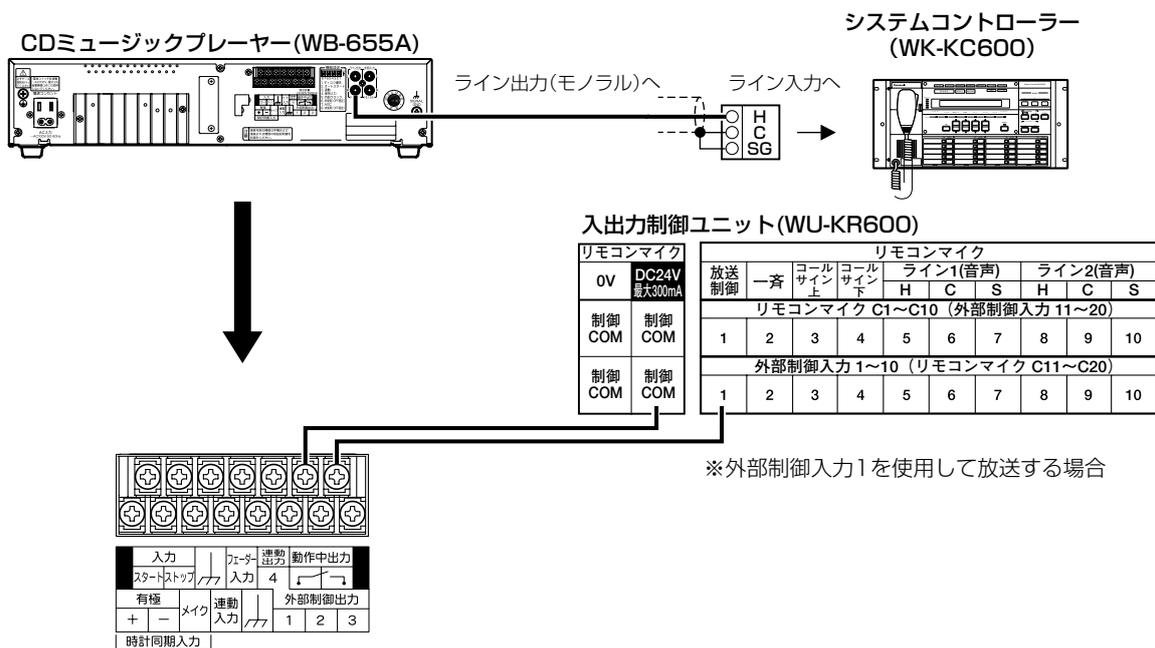
接続

■外部音源機器が作動中にその音声を指定場所に放送する場合

次のように接続します。

- 1 音源機器（例：CDミュージックプレーヤー）の音声出力を本機のライン入力へ接続する
- 2 音源機器の「動作中出力」を本機の外部制御入力に接続する

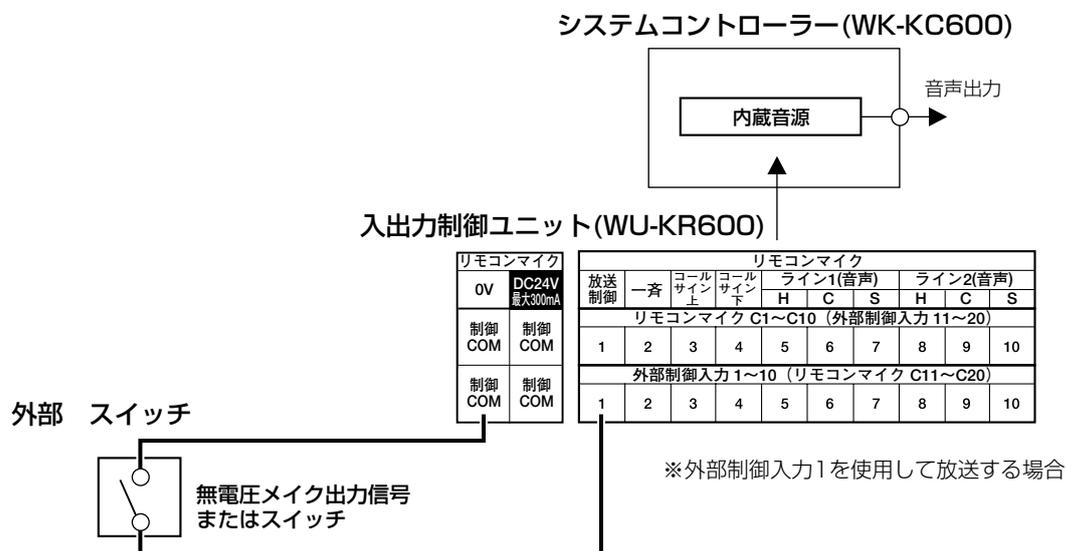
音源機器が動作すると再生音が指定のスピーカーに放送されます。



■内蔵音源を指定場所に放送する場合

1 外部に用意したマイク接点スイッチ等を本機の外部制御入力に接続する

・外部スイッチがメイクされると、本機の内蔵音源が再生され指定のスピーカーに放送されます。



メモ

- 本体の放送が行われていない状態から外部制御信号が入力されると、電力増幅ユニットの起動に約1.5秒かかるため、放送の頭切れが発生する場合があります。起動後の外部音源機器の放送を、1.5秒以上遅らせるように外部音源機器側であらかじめ調整をしてください（内蔵音源の場合は調整不要です）。
- 内蔵音源の再生は、メイク信号入力による指定回数再生またはメイク信号入力期間中の繰り返し再生を設定できます。

ページング制御端子の接続

外部機器から本端子へメイク信号を入力して次のことができます。

- ・ライン4の音声を指定のスピーカー回線に放送する
- ・設定により、放送の前後にコールサインを自動で鳴らす機能があります。

電話装置などからのメイク信号を入力すると、ライン4に接続された電話装置（PBXなど）からの音声をあらかじめ設定したスピーカー回線に放送することができます。

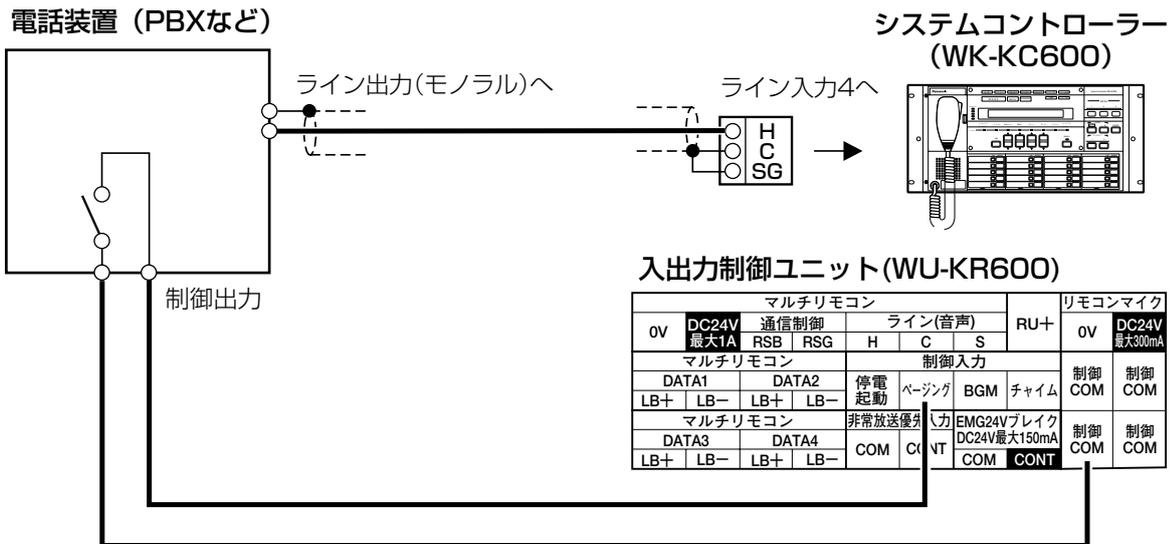
メモ

- ・あらかじめページング放送に対する放送先などの書き込み設定が必要です。（→176ページ）

1 電話装置（PBXなど）の音声出力を本機のライン入力4へ接続する

2 電話装置の無電圧メイク出力信号を本機のページング端子に接続する

※本端子は、無電圧メイク入力に対応し、開放電圧5 V、短絡電流2 mAです（トランジスターのオープンコレクター出力を接続する場合、COM側が信号グランドになるように極性に注意してください）。

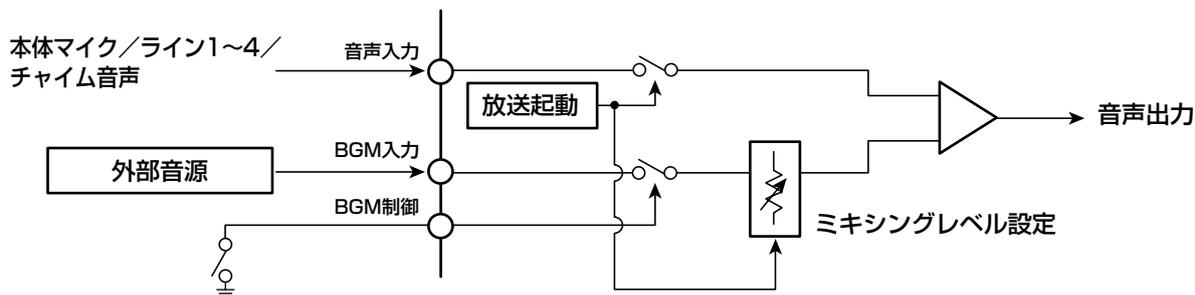


メモ

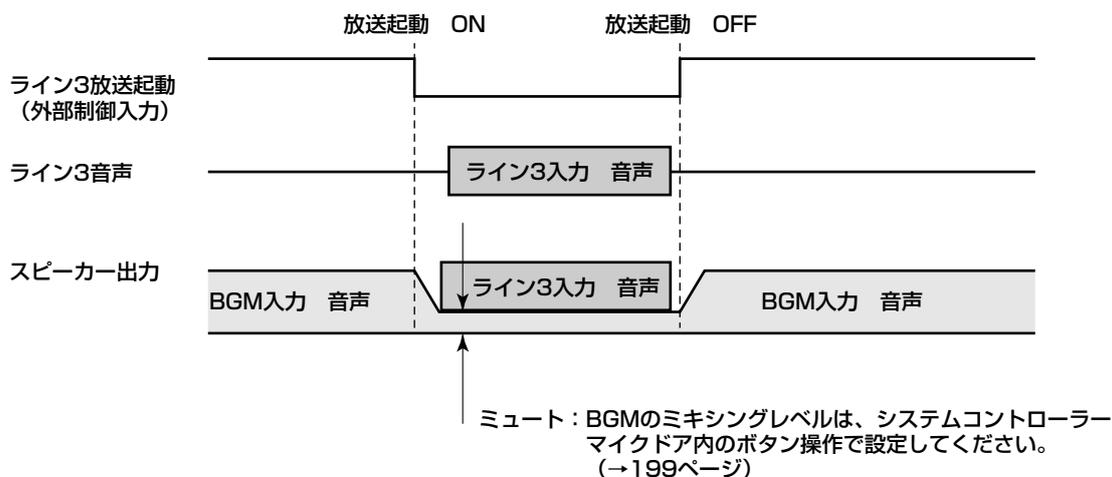
- ・この機能は、ライン4の音声に対してのみ働きます。ほかの音声入力に対しては機能しません。
- ・電話装置と本機の音声および制御の受け渡し条件を確認したうえで接続してください。

BGM制御端子の接続

- ・システムコントローラー（WK-KC600）にあるBGM音声入力は、入出力制御ユニット（WU-KR600）のBGM制御端子がメイクされると放送されます。
- ・BGM音声にはミキシング機能があり、ほかの放送（本体マイク、ライン1～4、チャイム）が起動されるとBGM入力の音声のみがミキシング制御されて放送されます。BGMのミキシングレベルは、システムコントローラーマイクドア内のボタン操作で設定してください。（→199ページ）



BGMミキシング動作の例



メモ

- ライン3以外に本体マイク、ライン1/2/4、チャイムでも同じ動作をします。

外部機器との接続（つづき）

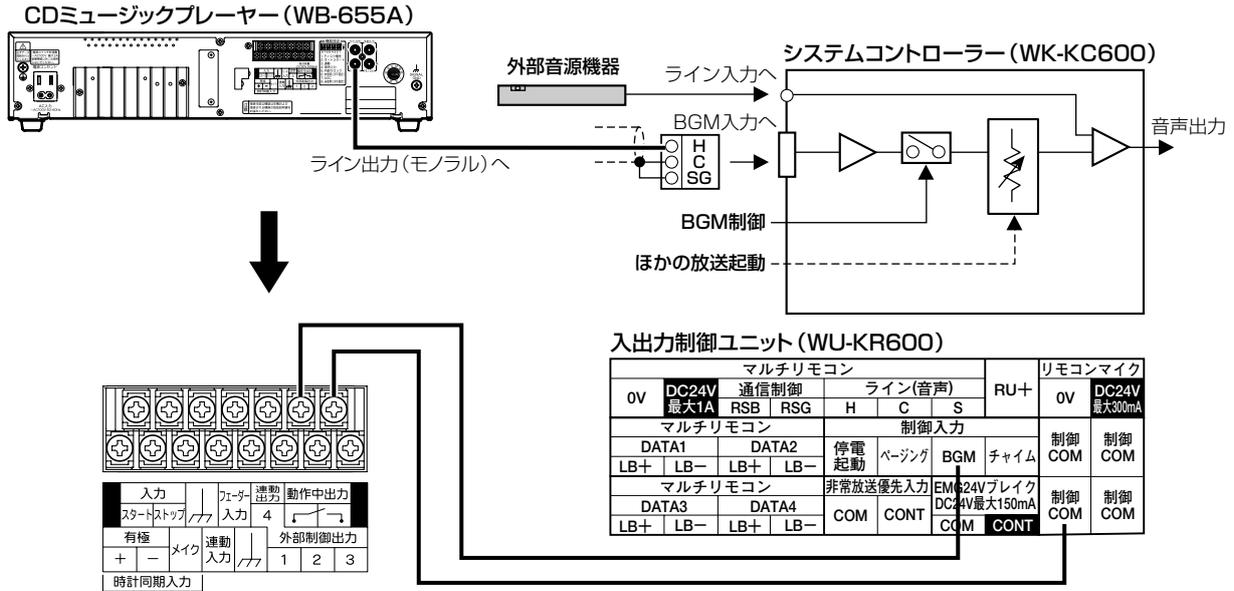
接続のしかた

1 BGM用音源機器の音声出力を本機のBGM入力へ接続する

2 BGM用音源機器の動作中出力信号などを本機のBGM制御端子に接続する

※本端子は、無電圧マイク入力に対応し、開放電圧5 V、短絡電流2 mAです（トランジスターのオープンコレクター出力を接続する場合、COM側が信号グランドになるように極性に注意してください）。

接続



- ・ BGM端子がメイクされている間、システムコントローラーのBGM入力の音声が発送されます。
- ・ BGM放送中にほかの放送が起動された場合、BGM音声はあらかじめ設定した音量で、ほかの音声とミキシングされて放送されます。

メモ

- BGM音声のミキシングレベルはマイクドア内のボタン操作により調整できます。（→199ページ）
- BGM放送中にほかの放送が起動された場合、BGM音声を止める設定も可能です。

チャイム制御端子の接続

チャイム入力音声を指定のスピーカー回線に放送します。

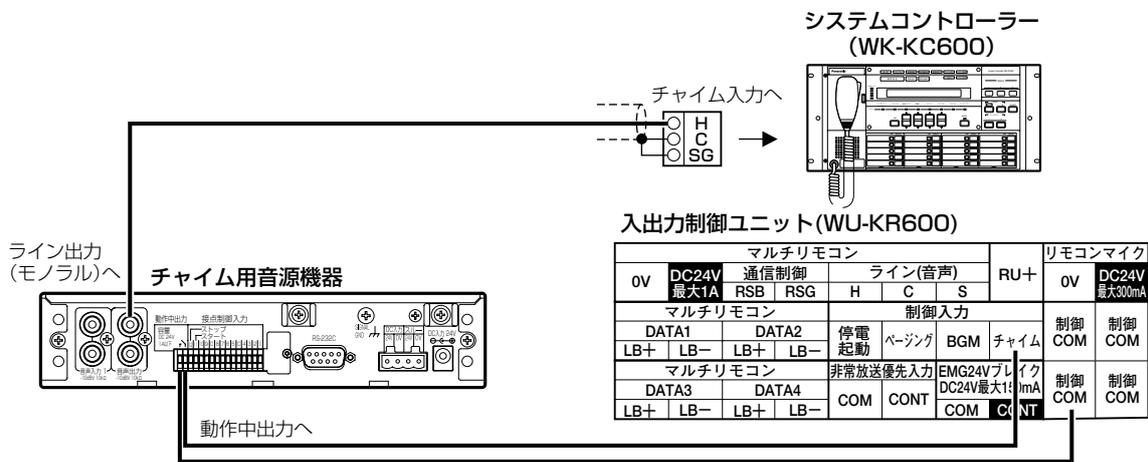
メモ

- あらかじめチャイム放送に対する放送先などの書き込み設定が必要です。(→176ページ)

1 チャイム用音源機器の音声出力を本機のチャイム入力へ接続する

2 チャイム音源機器の動作中出力信号をチャイム制御端子に接続する

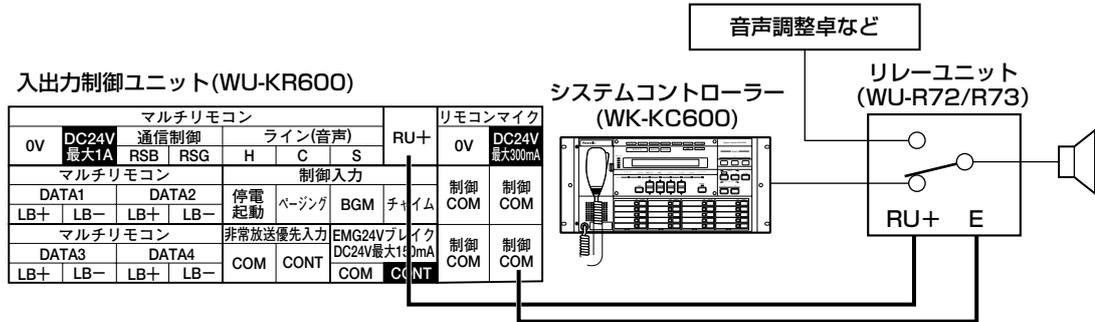
※本端子は、無電圧マイク入力に対応し、開放電圧5 V、短絡電流2 mAです（トランジスターのオープンコレクター出力を接続する場合、COM側が信号グランドになるように極性に注意してください）。



チャイム端子がメイクされている間、システムコントローラーのチャイム入力の音声放送されます。

RU+端子の接続

- ・RU+端子は、リレーユニット（WU-R72/R73）を接続するための専用端子です。
- ・RU+端子は、本機が放送中であることを示す信号で、放送中にDC24 Vを供給します。
- ・音声調整卓など他の放送システムとスピーカー回線を共用しているシステムなどで、リレーユニットを利用してスピーカー回線を一括して本機側に切り換えるなどの制御を行います。



※ 本機からの放送時に、本機側に放送を切り換えるように動作するシステムの場合を示しています。

汎用出力端子の接続

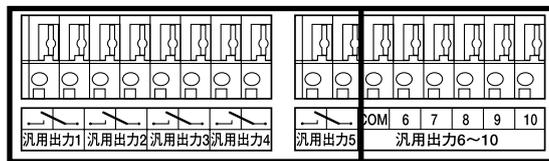
汎用出力端子は、次のことができます。

- ・放送の起動要因（業務選択スイッチ／外部制御入力／緊急放送スイッチなど）に対して、任意の汎用出力端子をメイク出力します。
- ・増設用操作ユニットの汎用出力スイッチ機能（→104ページ）を使用して、任意の汎用出力端子をメイク出力します。
- ・状態出力機能（→69ページ）を使用して、本機の放送状態（業務放送中／緊急放送中など）をメイク出力します。

本端子に外部機器を接続して本機の状態に応じて外部機器を制御できます。

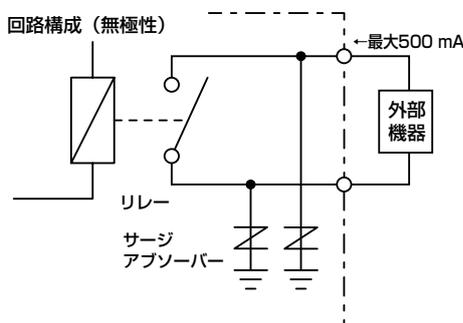
メモ

- ・本機能を使用するためには、汎用出力を行う起動要因の設定（→181ページ）、汎用出力を状態出力端子として使用する場合の設定（→182ページ）と出力する状態の選択（→182ページ）の設定が必要です。



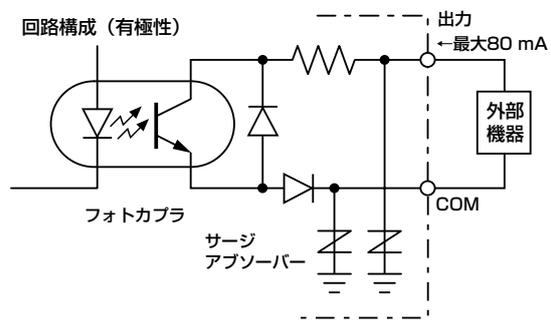
汎用出力1-5（独立回路）

- ・出力形式：リレー接点（メイク出力）
- ・電気的仕様：制御電圧 DC35 V 制御電流 500 mA



汎用出力6-10（COM共通）

- ・出力形式：オープンコレクター（メイク出力）
- ・電気的仕様：制御電圧 DC35 V 制御電流 80 mA



状態出力機能

- ・ 入出力制御ユニット（WU-KR600）の汎用出力端子を状態出力の機能に設定することで、本機の動作状態をメイク信号で出力できます。汎用出力端子は5系統単位で状態出力に設定できます。
- ・ 状態出力は、16状態を出力することができます。複数の状態を設定することもできます。
- ・ 汎用出力端子は、リレー接点5端子、オープンコレクター出力5端子の合わせて10端子が用意されています。

状態出力種類	出力条件
本体マイク放送中	システムコントローラーの本体マイク放送中に出力
緊急放送中	緊急放送中に出力
緊急メッセージ再生待ち	緊急放送のメッセージ再生待ち状態で出力
緊急復旧放送中	緊急復旧放送中に出力
業務放送中	業務放送中に出力
リモコンマイク放送中	リモコンマイクからの放送中に出力
マルチリモコン放送中	マルチリモコンからの放送中に出力（各マルチリモコンごとに出力可能）
メッセージ再生中	システムコントローラーの内蔵音源のメッセージ放送中に出力
システム設定中	システム設定実行中に出力
点検モード中	点検機能実行中に出力
蓄電池異常	蓄電池異常を検出したときに出力
EMG24Vブレイク異常	EMG24Vブレイク電源異常を検出したときに出力
スピーカー回線短絡	スピーカー回線短絡を検出したときに出力
外部機器異常	外部機器異常端子がメイクされたときに出力
通信異常	CONT BUS A、CONT BUS Bの接続ケーブルが外れているか、接続先のユニットが異常のときに出力
リモコン電源異常	マルチリモコン、リモコンマイクの電源異常を検出したときに出力

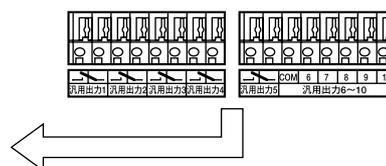
機能を使用するための設定

状態出力機能を使用するためには、書き込みメニューで下記の設定が必要です。

- ・ 汎用出力端子の状態出力機能設定（→182ページ）
システム構成登録：入出力制御ユニット-出力接点数選択（汎用状態）
- ・ 状態出力の選択（→182ページ）
状態選択（16状態）
- ・ 端子の設定
システム構成登録で出力接点数を設定することにより、入出力制御ユニットの汎用出力端子を以下のように割り当てることができます。

設定：出力接点数選択		端子：汎用出力	
状態出力	汎用出力	1～5	6～10
10	0	状態出力	
5	5	状態出力	汎用出力
0	10	汎用出力	

入出力制御ユニット（WU-KR600）



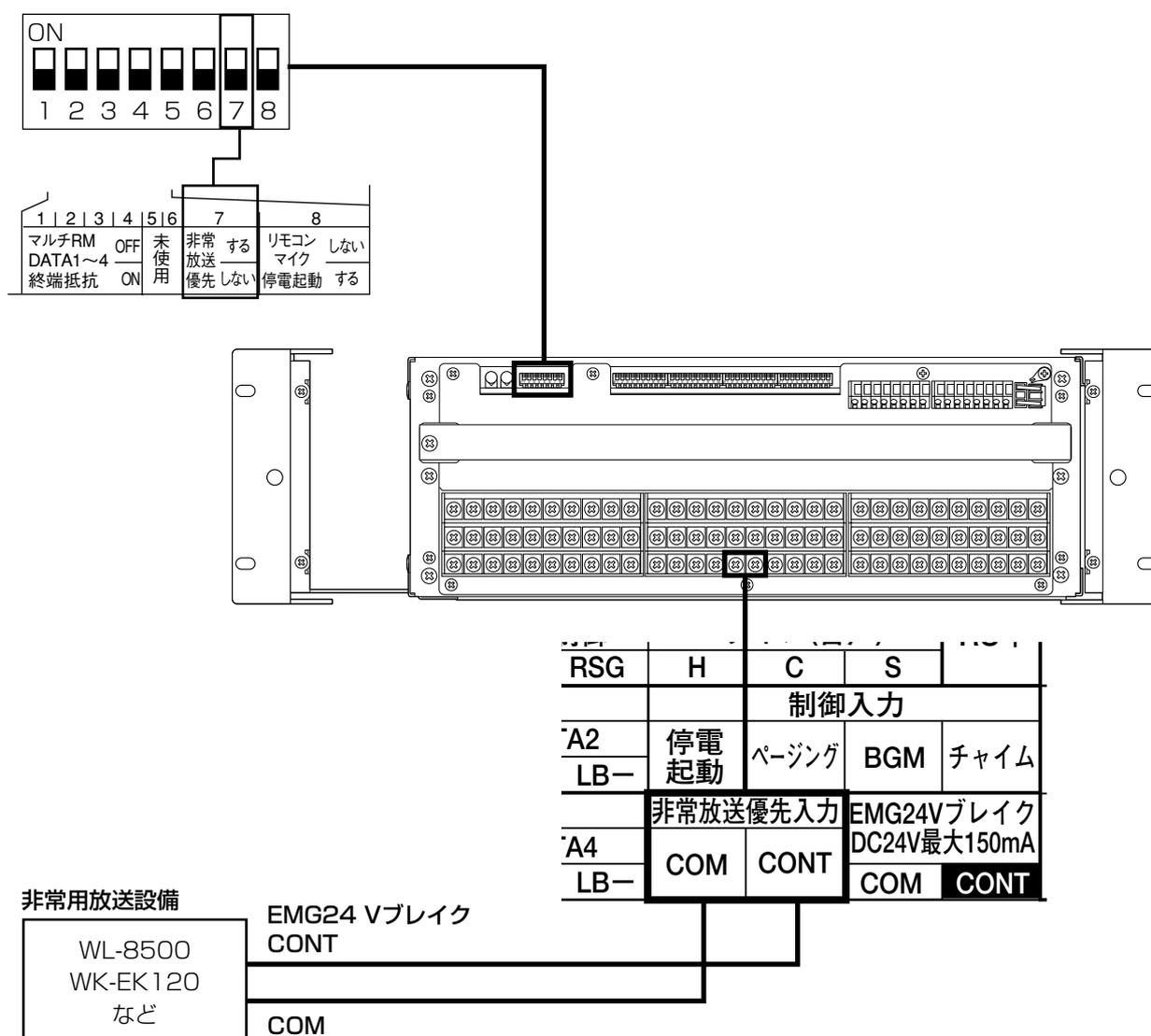
非常放送優先入力端子の接続

非常放送設備（防災アンプシステム）を接続することにより、「非常放送優先制御」を行うことができます。非常放送優先制御とは、火災発生時に非常放送設備が出す信号を受けて本機の放送を停止させ、非常放送設備からの放送を優先して放送することです。また、そのときはシステムコントローラーの前面パネルの「非常放送優先」表示灯が点灯します。

接続のしかた

- ・非常放送設備のEMG24Vブレイク端子と入出力制御ユニットの非常放送優先制御入力端子を接続します。
- ・下図のとおり、入出力制御ユニットのディップスイッチNo.7が非常放送優先制御切り換え用です。「使用する」に設定してください。

接続



メモ

- ・非常放送優先入力端子に信号が入力されると、本機のEMG24V信号も動作し、本システムに接続されているローカル機器の放送も停止します。
- ・コンピューター制御「切」の場合も非常放送優先機能は動作します。

時刻補正端子の接続

内部時計を補正するための「基準となる信号」を次の3通りから選択します（→193ページ）。本機に内蔵されている時計の精度は月差13秒以内です。時刻補正を行わない場合は、誤差が累積します。時計精度を必要とするシステムに本機を使用する場合は、必ず外部からの時刻補正を行ってください。

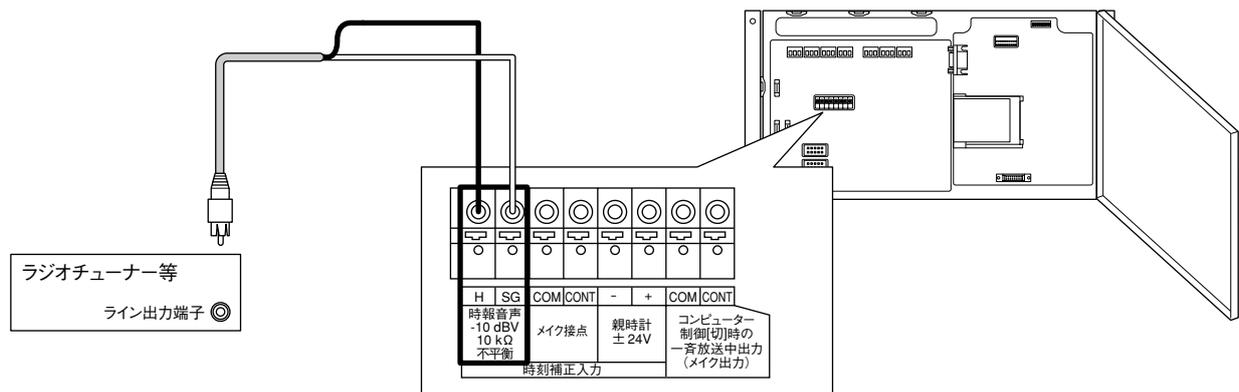
時刻補正入力	接続機器	補正時刻	補正範囲
時報音声入力	FMチューナー	12:00:00（正午）のみ	±14秒
マイク接点入力	電波時計	00:00:00 04:00:00 08:00:00 12:00:00 16:00:00 20:00:00	±15秒
親時計入力	親時計	00:42:00 04:42:00 08:42:00 12:42:00 16:42:00 20:42:00	±15秒

メモ

- 時報音声入力による時刻補正は、外部FMチューナーからの時報（ピ・ピ・ピ・ポーン）の440 Hzと880 Hz音で行います。NHK-FMで放送される正午の時報音声を入力します。
- マイク接点入力には、正時に接点出力される機器が必要です。電波時計などを使用する場合は、電波時計自体が正しく補正されていることも合わせて確認してください。
- 親時計により補正を行う場合は、「30秒式親時計」を使用してください。
- 時刻補正の端子台に接続可能な電線。ケーブルは以下のとおりです。
 - ・ 単線：φ0.4 mm～0.12 mm（AWG26～AWG16）
 - ・ より線：0.2 mm²～1.25 mm²（AWG24～AWG18）、素線径φ0.18 mm以上

■ 時報音声を使用する場合

FMチューナーの音声出力端子を接続します。



重要

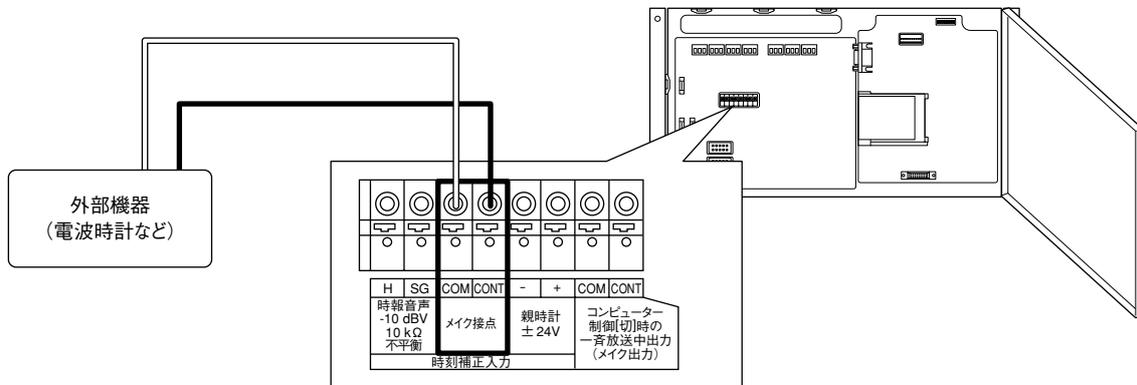
- 時報音声入力を使用する場合、外部FMチューナーがNHK-FMを正常に受信していることを確認し、システムコントローラーでレベル設定を行ってください。（→193ページ）

メモ

- FMチューナーのライン（音声）出力がステレオの場合は、Lchに接続してください。
- システムコントローラーの時報音声端子は不平衡入力です。FMチューナーと本端子を接続するケーブルは現地で手配してください。

■メイク接点を使用する場合

正時にメイク接点信号が出力される機器（電波時計など）をシステムコントローラーに接続します。



重要

- 外部機器は正時に接点が0.5秒以上出力される機器を接続してください。

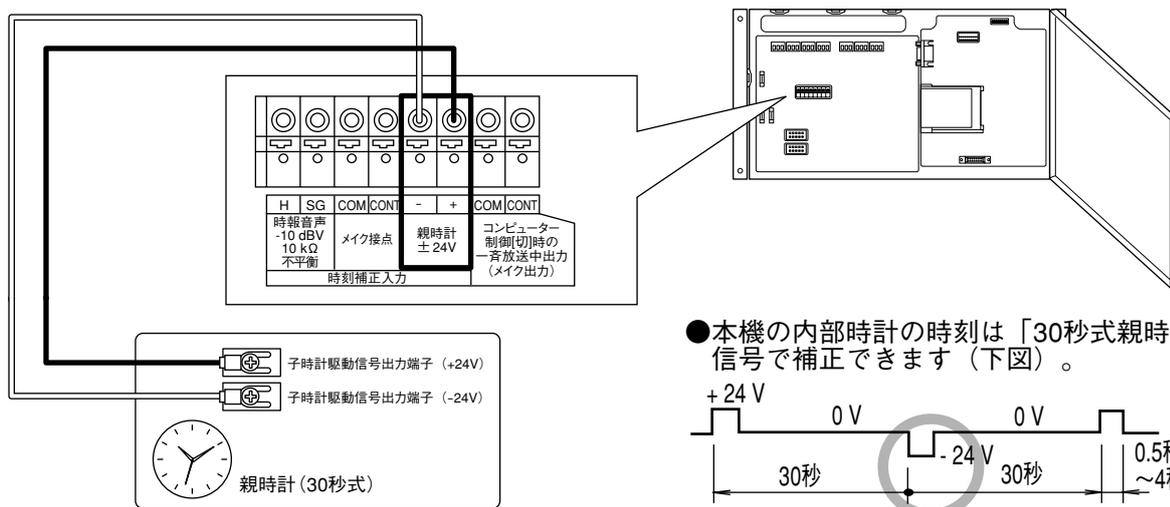
メモ

- 本端子は無電圧メイク入力に対応し、開放電圧DC5 V、短絡電流3 mAです（トランジスターのオープンコレクター出力を接続する場合はCOM側が信号グランドになるよう極性に注意してください）。
- 外部機器に電波時計を使用する場合は電波時計の受信状況も合わせて確認してください。

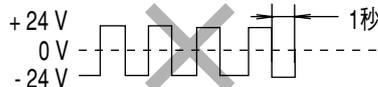
■親時計を使用する場合

30秒式親時計の出力をシステムコントローラーに接続します。

あらかじめ親時計の極性（プラス/マイナス）を確認し、正しく接続してください。



- 「1秒式親時計」からの信号では、正しく時計を補正できません。



重要

- 親時計の子時計駆動信号は正しい極性で接続してください。極性を間違えると正しく補正が行われません。
- 1秒式の親時計では本システムの時刻を正しく補正することはできません。30秒式親時計を使用してください。

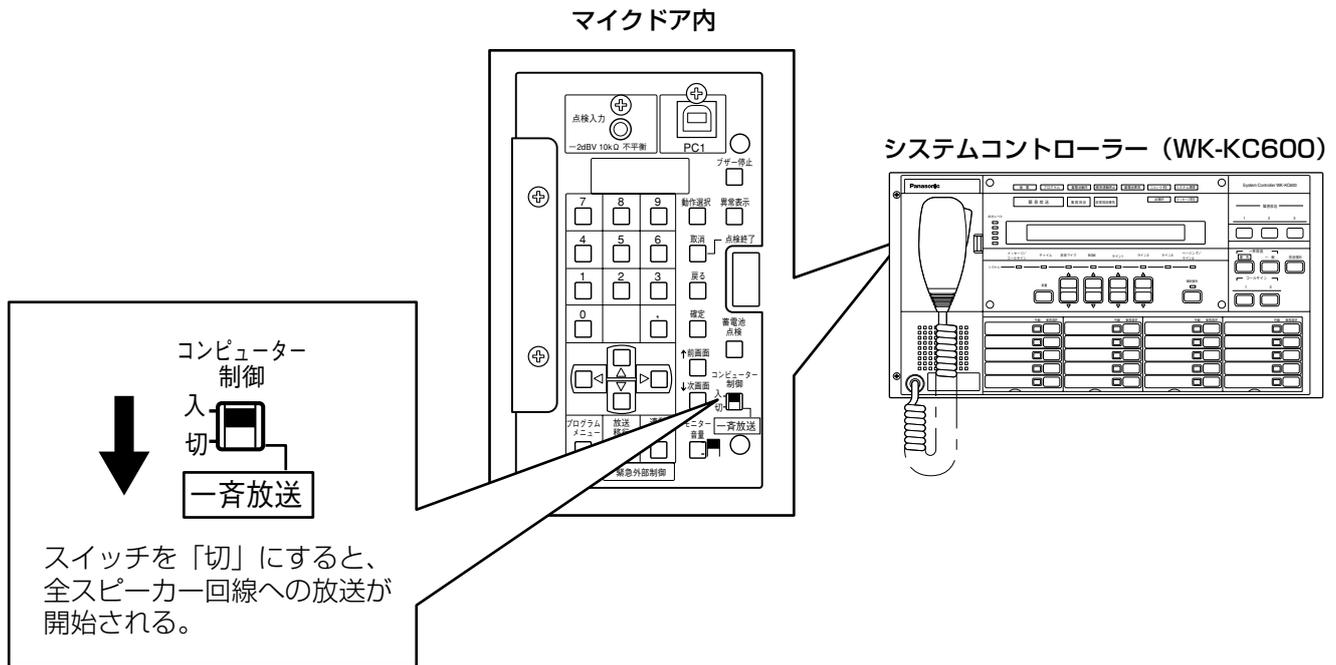
バックアップ放送について

バックアップ放送とは

万一システムが停止した時でも、システムコントローラーの本体マイク・ライン1・リモコンマイクから行う一斉放送（全スピーカー回線への放送）です。

- ・システムコントローラーのマイクドア内の「コンピュータ制御」スイッチを「切」にします。
- ・バックアップ放送時には放送先のボリュームコントローラー（音量調整器）がOFFの場合でも放送を行うことができます。
- ・停電時でもバックアップ放送を行うことができます（非常電源ユニット・蓄電池が別途必要です）。

接続



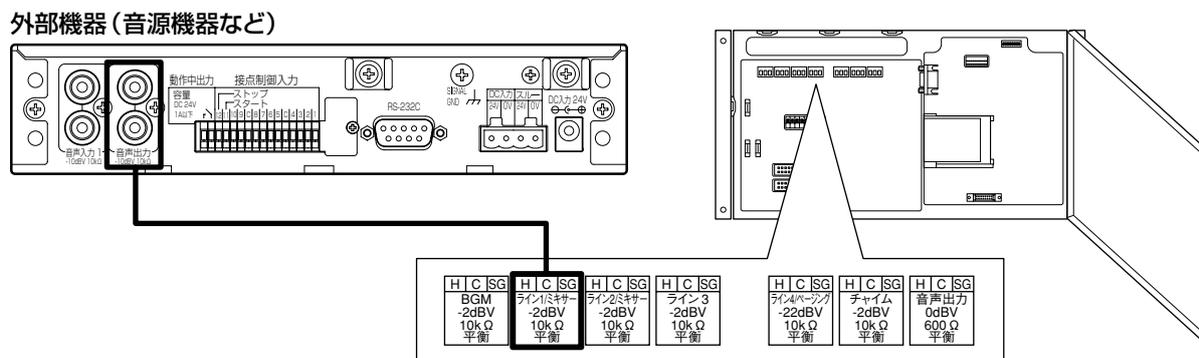
メモ

- バックアップ放送は、システムコントローラーの本体マイク・ライン1・リモコンマイクからの放送以外ではできません（本体内蔵音源のメッセージの再生も行うことができません）。
- バックアップ放送中は、システムコントローラーおよび増設用操作ユニット（増設時のみ）の作動表示灯が全点灯します。
- バックアップ放送中の一斉放送は全スピーカー回線がONとなるので、システムコントローラーで設定していないスピーカー回線もONになります。

接続のしかた

■システムコントローラーへの音声入力

バックアップ放送時に外部機器から放送を行う場合は、システムコントローラーの音声入力ライン1に外部機器の音声出力を接続します。



メモ

- システムコントローラーの本体マイクからのみバックアップ放送を行う場合は、音声入力の接続の必要はありません。
- バックアップ放送時に音声入力ライン1を使用するにはディップスイッチの設定が必要です。(→34ページ)

■リモコンマイクの接続

バックアップ放送のために、リモコンマイクと入出力制御ユニットの接続を変更する必要はありません。

メモ

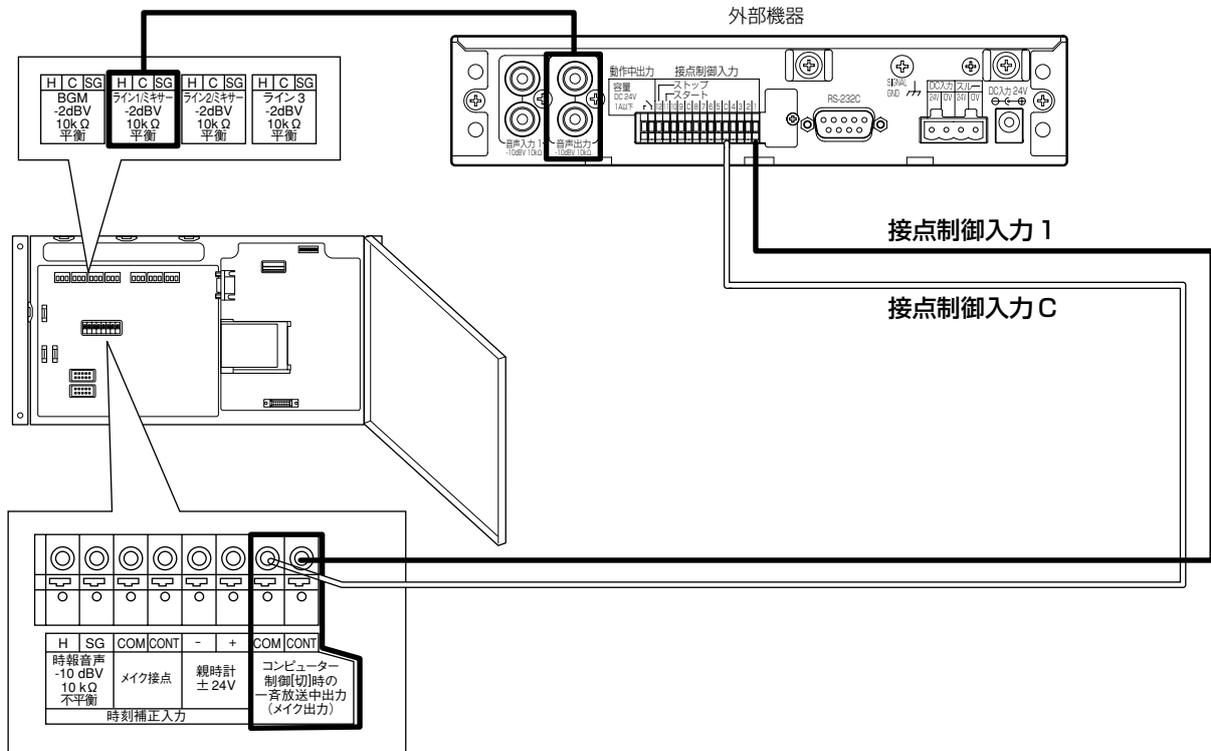
- 複数のリモコンマイクからバックアップ放送を行う場合は、それぞれのリモコンマイクの音声のみがミキシングされます。
- 多元放送のシステムで、入力マトリクスユニットの「音声入力2」以降に接続されているリモコンマイクからバックアップ放送を行うことはできません。

外部機器との接続（つづき）

■バックアップ放送中の状態出力

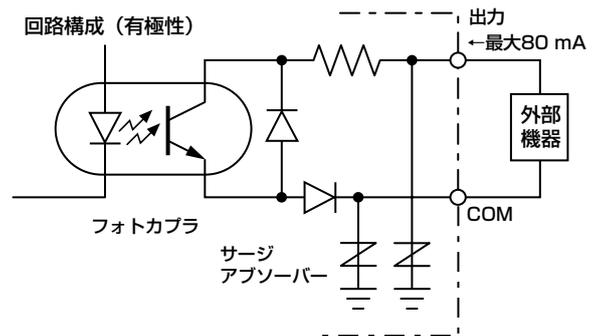
- ・バックアップ放送時に、システムコントローラーの「コンピューター制御「切」一斉放送中出力」端子にメイク信号を出力します。
- ・バックアップ放送時に起動する外部制御機器を接続して使用します。

接続



メモ

- ・「コンピューター制御「切」一斉放送中出力」端子の内部回路は、右図のようになっています。（制御電圧35V、制御電流80mA）
接続する外部機器の仕様を必ず確認してから正しく接続してください。



PCとの接続

PC接続の概要

機器の設置と接続が済んだら次に書き込み設定を行います。書き込み設定の操作方法には以下の2通りがあります。

- ・本体のスイッチやテンキーを使った直接操作。(→120ページ)
- ・データをパーソナルコンピュータ(以下、PC)と送受信して行うPCからの設定。

設定支援ソフト(無償提供)はPCにインストールしてから使用します。また、PCを使用し、データの保存や書き込みを行うときは、さらに2通りの方法に分かれます。

- ・ケーブル接続してPCから設定する方法
- ・ケーブル接続はせず、PCカード経由で設定を行う方法(→210ページ)

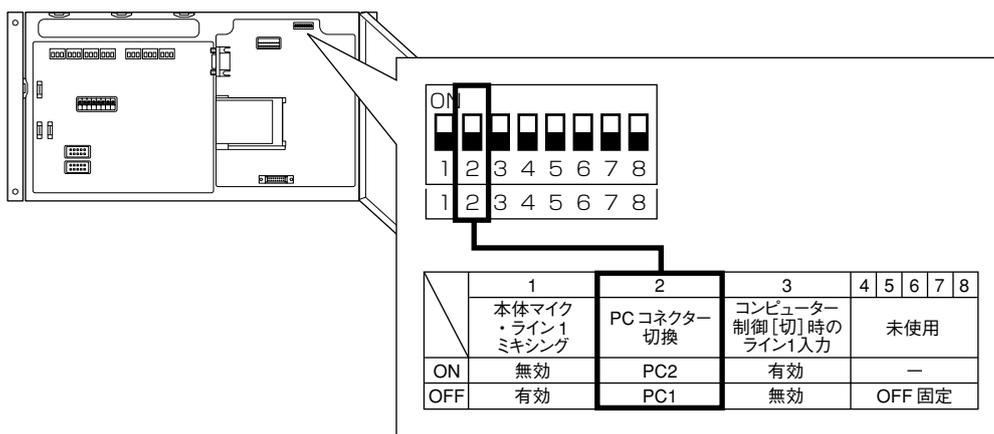
ここでは、PCとケーブルで接続する方法を説明します。

本機には、システムコントローラーにPC接続用のコネクタが2つあります。

コネクタ名称	位置	ケーブル種類	接続最大長
PC1	マイクドア内	USB(2.0規格、A-Bタイプ)	5 m
PC2	前面パネル内部	RS-232C(D-sub9ピンメス-D-sub9ピンメス、クロス)	15 m

メモ

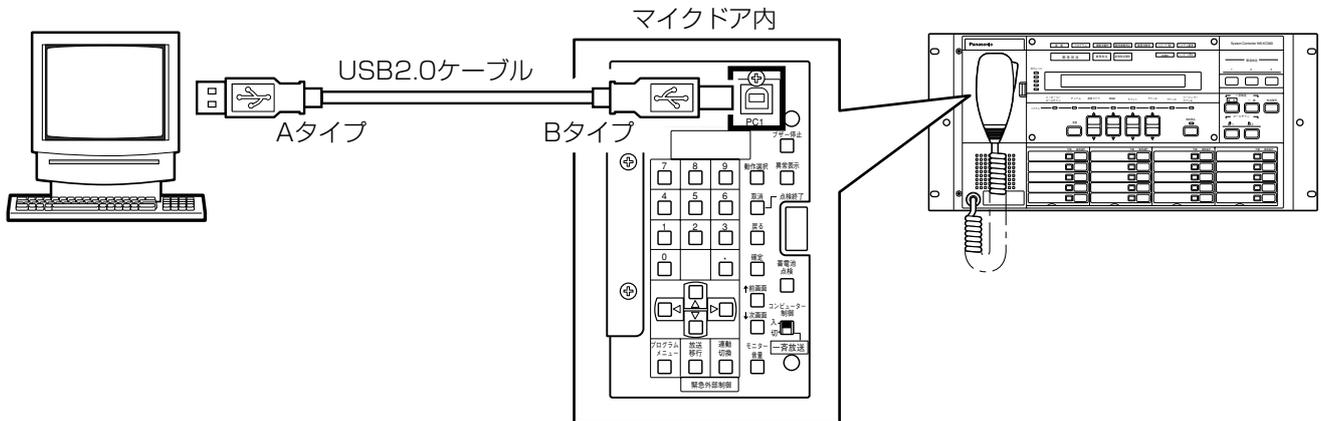
- ・ケーブル接続の場合とPCカードでアクセスする方法とでは、扱うデータの種類が異なります。(→206ページ)
- ・PC1コネクタとPC2コネクタは同時に使用できません。
- ・ディップスイッチの設定により、PC1コネクタかPC2コネクタのどちらを有効にするかが決まります。正しく設定できていることを確認してからPC接続を行ってください。ディップスイッチ設定を変更したときはシステムの電源またはコンピューター制御スイッチを「切」→「入」する必要があります。
※下図のとおり、前面パネル内部のディップスイッチNo.2がPCコネクタ切り換え用です。



PC1コネクター（USB）での接続

USBケーブル（市販品、A-Bタイプ）のBタイプをシステムコントローラーマイクドア内にある [PC1] コネクターに、AタイプをPCのUSBポートに接続します。

・設定支援ソフトを使用する時など、一時的にPCと本体とを接続する場合には、PC1コネクターを利用します。



重要

- PC1コネクターを使用する場合は、PCごとに初回接続時に、専用ドライバーをPCにインストールする必要があります。（→運用支援ソフト 取扱説明書）
- USBケーブルは、市販のUSB2.0規格（HI-SPEED）対応品を使用してください。
- PC1コネクターにケーブルを接続する場合、本システムは通電状態にしてください。

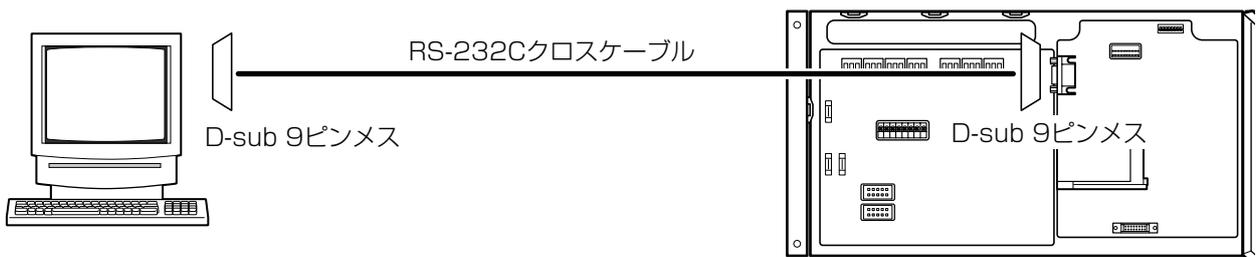
メモ

- PC1コネクターで接続する場合は、マイクドアが開いたままの状態になりますので、本体マイクを使って放送するときには十分ご注意ください。
- USBコネクターは固定式構造ではありませんので、長時間運用する場合は推奨しません。
- 専用ドライバーは設定支援ソフトも同じものを使用します。

PC2コネクター（RS-232C）での接続

RS-232Cケーブルで、システムコントローラーの前面パネル内部の[PC2]コネクターと、PCのRS-232C端子を接続します。

・運用支援ソフトを使用するときなど、常時PCと本体とを接続する場合には、PC2コネクターへの接続を推奨します。



メモ

- ご使用のPCにRS-232C端子がない場合は、USB/RS-232C変換器または同変換器付きケーブルを準備してください。

緊急放送について

機能概要

- ・地震、停電、ガス漏れ、防犯などの用途の放送に使用し、優先順位が最も高い緊急放送を行う機能です。
 - ・システムコントローラー（WK-KC600）にある3つの緊急放送スイッチの操作や、外部制御入力（センサーやスイッチ等を接続）を緊急外部制御入力として設定することで緊急放送ができます。
 - ・緊急放送スイッチ、緊急外部制御入力により、内蔵音源を緊急放送用メッセージとして放送できます。
 - ・緊急・業務放送用に非常電源ユニット（WP-570B）を組み込むことにより、停電時でも緊急放送ができます。
- ※この場合の非常電源ユニット（WP-570B）は、業務放送と兼用となります。

緊急放送を行うための設定

本機の緊急放送機能を使用するにあたり、書き込みモードから下記の設定が必要です。詳細については、「緊急放送設定」（→162ページ）をお読みください。

- ・緊急放送スイッチの設定
放送先設定／音声設定（ライン2、内蔵音源）／再生回数設定
- ・緊急外部制御入力の設定
外部制御入力接点設定／放送先設定／音声設定（ライン2、内蔵音源、再生回数設定）／優先順位設定
- ・緊急放送時の機能有効／無効設定
EMG24Vブレーカー斉制御／汎用出力／ライン2設定（緊急専用、緊急業務兼用設定）

■緊急放送スイッチを使用した緊急放送

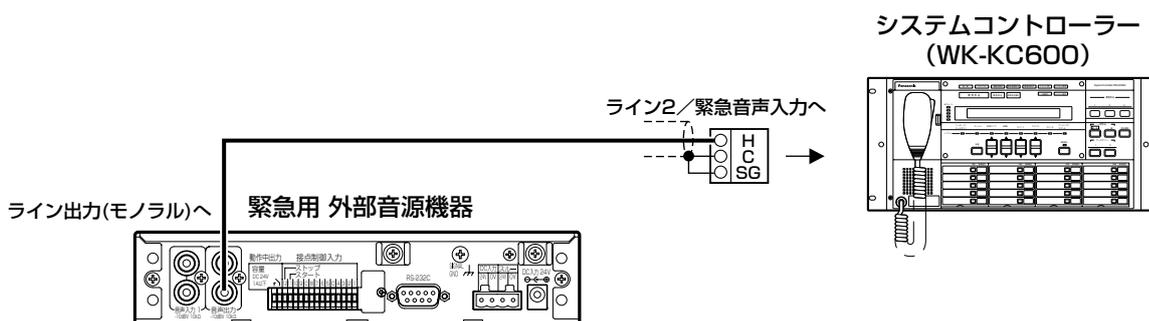
- ・システムコントローラーの緊急放送スイッチを押すと、ワンタッチであらかじめ設定した放送先へ緊急放送を行うことができます。（→162ページ）
- ・緊急放送スイッチに対して放送先を設定しておきます。
- ・緊急放送に合わせて放送する音声を、内蔵音源またはライン2／緊急から選択できます。

●メッセージ音源を緊急放送で使用する場合

緊急放送スイッチを押すと、指定された内蔵音源があらかじめ設定した放送先へ放送されます。緊急放送スイッチ1～3による内蔵音源再生は後押し優先で動作します。本体マイクからの放送は可能です。

●ライン2／緊急音声入力を緊急放送で使用する場合

システムコントローラーのライン2／緊急音声入りに緊急用外部音源機器を接続します。緊急放送スイッチを押すと、ライン2／緊急に入力された音声が、あらかじめ設定した放送先へ放送されます。



緊急放送について (つづき)

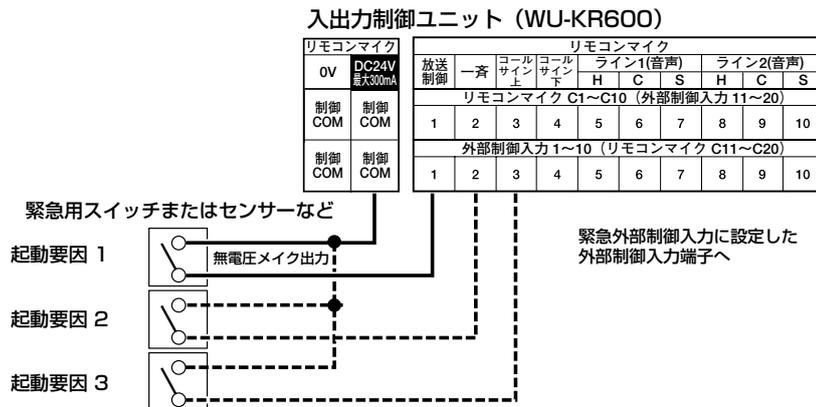
■外部制御入力を使用した緊急放送

- ・外部制御入力を緊急外部制御入力として設定することにより、外部からの起動で緊急放送ができます。(→162ページ)
- ・緊急外部制御入力に対して放送先を設定しておきます。
- ・緊急放送に合わせて放送する音声を、内蔵音源またはライン2／緊急から選択できます。

■外部制御入力の接続

外部に設けられた緊急用スイッチやセンサー等(地震や停電の検出)を、緊急外部制御入力に設定した外部制御入力端子に接続します。

外部制御入力端子がメイクされている間、業務放送を中断し、本体マイクなどで緊急放送できる状態となります。



※図の点線のように、複数の要因で起動を行うことができます。

緊急外部制御入力間で優先順位を設定することができます。初期値は同順位に設定されており、この場合は後優先で動作します。

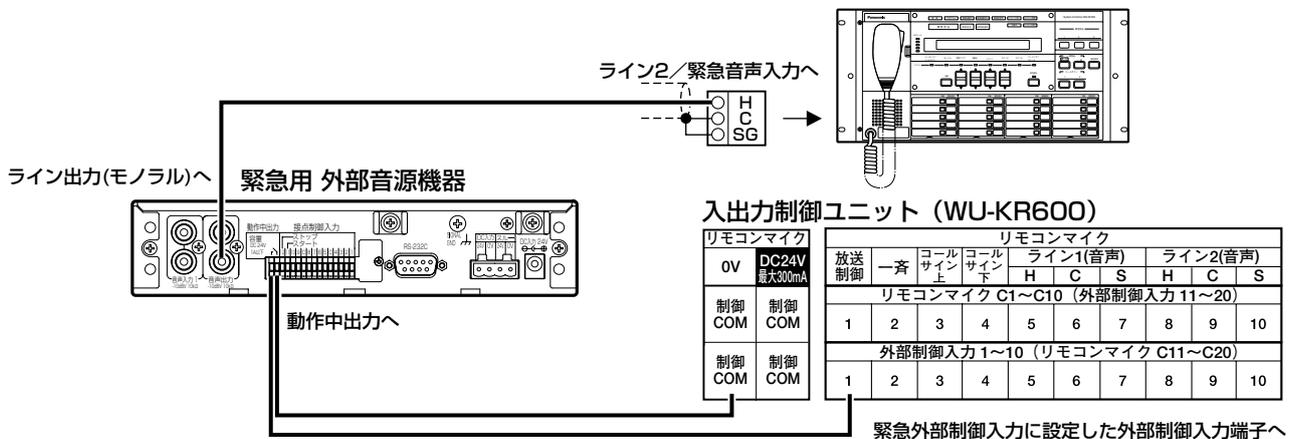
●内蔵音源を緊急放送で使用する場合

緊急外部制御入力に設定した外部制御入力端子に、緊急用スイッチやセンサー等を接続します。

外部制御入力がメイクされている間、指定されたメッセージがあらかじめ設定した放送先へ放送されます。

●ライン2音声入力を緊急放送で使用する場合

システムコントローラーのライン2／緊急音声入力に緊急用外部音源機器を接続します。外部音源機器の動作中出力などを緊急外部制御入力に設定した外部制御入力に接続します。外部制御入力がメイクされている間、ライン2／緊急に入力された音声があらかじめ設定された放送先へ放送されます。



※外部音源機器の動作中出力を利用して緊急放送を行う場合の例を示しています。

メモ

- 本体の放送が行われていない状態から外部制御信号が入力されると、電力増幅ユニットの起動に約1.5秒かかるため、放送の頭切れが発生する場合があります。起動後の外部音源機器の放送を1.5秒以上に遅らせるように外部音源機器側であらかじめ調整をしてください(内蔵音源の場合は調整不要です)。

停電放送について

停電時に緊急放送・業務放送を行うには

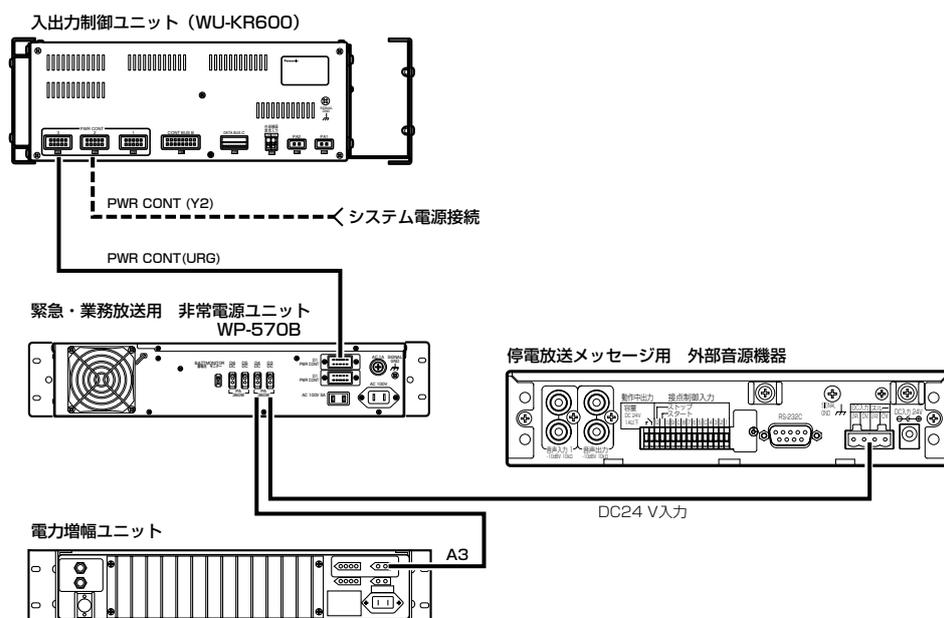
- ・ 停電時に緊急放送および業務放送を行うには、緊急・業務放送用に非常電源ユニット（WP-570B）および蓄電池（NCB-600またはNCB-350）が必要です。
 - ・ 停電時に緊急・業務放送を行う場合、下記の方法があります。
 - ① 本体操作部の緊急放送スイッチを押す
 - ② 入出力制御ユニットの停電起動端子を使用する（※1）
 - ③ 入出力制御ユニットの外部制御入力端子を使用する（※2）
 - ④ 入出力制御ユニットのリモコン端子に接続したリモコンマイクから行う（リモコンマイク停電起動ディップスイッチの設定が必要です）。
 - ⑤ 拡張制御ユニット（WU-EX590）、非常制御出力ユニット（WU-EM552）の外部制御入力端子を緊急設定する（※2）
- ※1 停電起動端子を使用して停電放送を行うには、停電起動端子メイク後に放送エリアを選択する必要があります。
- ※2 外部制御入力端子を使用して停電放送を行うには、入出力制御ユニット、拡張制御ユニット、非常制御出力ユニットのディップスイッチを停電起動できるように設定する必要があります。（→35、98ページ）

メモ

- 緊急放送と業務放送を行う非常電源ユニットは共用しています。
- 非常電源ユニット、蓄電池の必要台数はシステム電源早見表より算出します。

■非常電源ユニットの接続のしかた

- ・ 緊急・業務放送用の非常電源ユニットのPWR CONTコネクタを、入出力制御ユニットのPWR CONTコネクタに接続します。
- ・ 電力増幅ユニット、外部音源機器などには、非常電源ユニットから直接DC24 Vの電源を接続します。



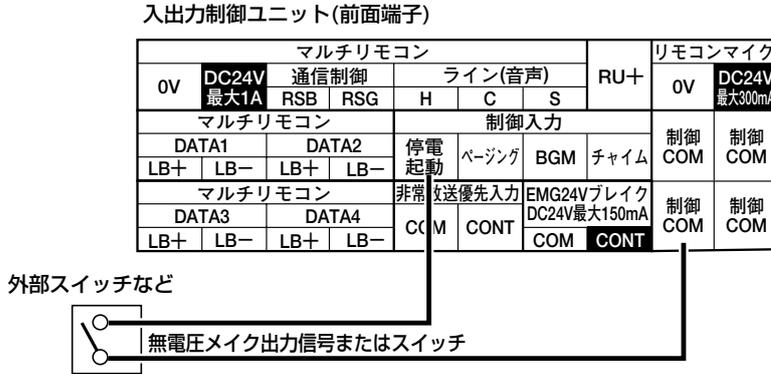
重要

- 緊急放送、業務放送用非常電源ユニットの必要台数は、システム電源早見表により求めます。
- 非常電源ユニットによる停電放送可能時間は10分間が目安ですが、運用状況（放送内容）により異なります。

停電放送について (つづき)

■停電起動端子による停電放送起動

- ・ 停電時の起動用に外部に設けたスイッチ、または無電圧メイク信号を出力する停電検出センサーなどを接続します。
- ・ 停電起動端子がメイクされる間は緊急・業務放送用の非常電源ユニットが起動し、業務放送または、停電を知らせるなどの緊急放送ができます。

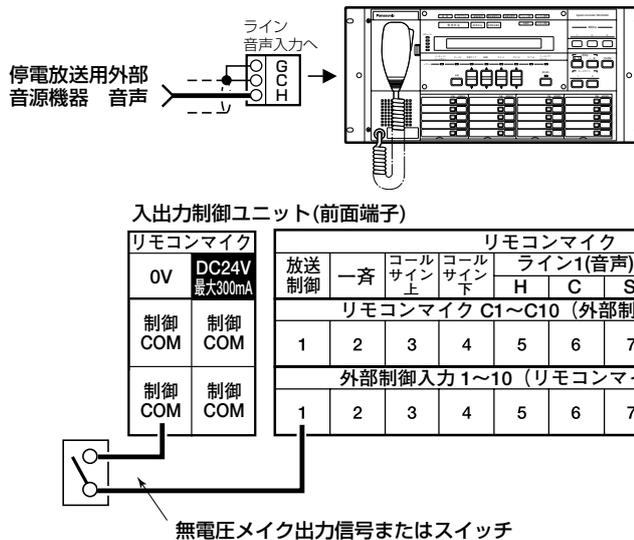


メモ

- 本端子は、無電圧メイク入力に対応し、開放電圧24 V、短絡電流3 mAです（トランジスターのオープンコレクター出力を接続する場合、COM側が信号グランドになるように極性に注意してください）。
- 外部スイッチを常時メイクにすると停電時に放送を中断することなく停電放送が可能です。

■外部制御入力端子による停電放送起動

- ・ 外部制御入力端子を使用して、停電時に業務放送ができます。
- ・ 外部制御入力を緊急外部制御入力に設定することにより、停電時に緊急放送ができます。
- ・ 入出力制御ユニットおよび拡張制御ユニット、非常制御出力ユニットの外部制御入力端子が使用できます。
- ・ 各ユニットの外部制御入力端子で停電起動を行うためには、各ユニットの停電起動設定を行うディップスイッチの設定を行ってください。（→83ページ）



メモ

- 本端子は、無電圧メイク入力に対応し、開放電圧24 V、短絡電流3 mAです（トランジスターのオープンコレクター出力を接続する場合、COM側が信号グランドになるように極性に注意してください）。

外部制御入力の停電起動設定

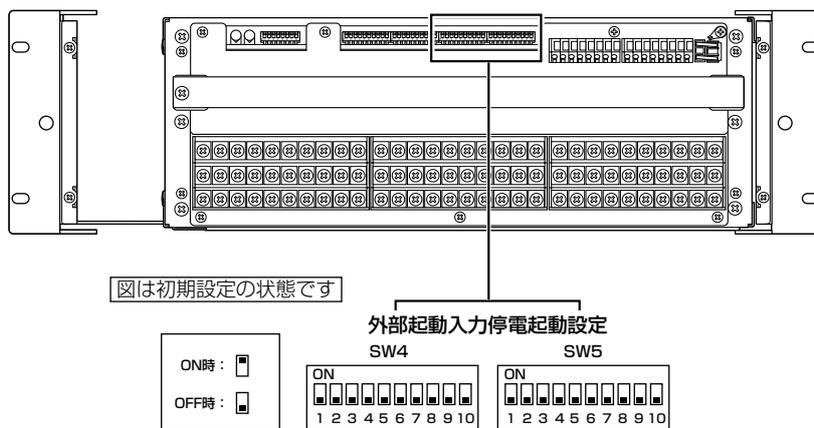
入出力制御ユニットの外部制御入力端子を使用して、停電時に緊急・業務放送を行うためには、入出力制御ユニットのディップスイッチの設定が必要です。

以下の方法でディップスイッチを設定します。

1 前面パネルの止めねじ4本を外して、前面パネルを取り外します。

2 ディップスイッチを設定します。

停電放送を行う外部制御入力No.のディップスイッチをONにします。



SW2

No	機能	ON	OFF
1	外部制御入力1停電起動	有効	無効
2	外部制御入力2停電起動	有効	無効
3	外部制御入力3停電起動	有効	無効
4	外部制御入力4停電起動	有効	無効
5	外部制御入力5停電起動	有効	無効
6	外部制御入力6停電起動	有効	無効
7	外部制御入力7停電起動	有効	無効
8	外部制御入力8停電起動	有効	無効
9	外部制御入力9停電起動	有効	無効
10	外部制御入力10停電起動	有効	無効

SW3

No	機能	ON	OFF
1	外部制御入力11停電起動	有効	無効
2	外部制御入力12停電起動	有効	無効
3	外部制御入力13停電起動	有効	無効
4	外部制御入力14停電起動	有効	無効
5	外部制御入力15停電起動	有効	無効
6	外部制御入力16停電起動	有効	無効
7	外部制御入力17停電起動	有効	無効
8	外部制御入力18停電起動	有効	無効
9	外部制御入力19停電起動	有効	無効
10	外部制御入力20停電起動	有効	無効

有効 … 停電起動をする場合
無効 … 停電起動をしない場合

3 前面パネルを元に戻し、ねじ止めをします。

ねじの締付トルク
0.5 N・m~0.7 N・m {5 kgf・cm~7 kgf・cm}

メモ

- 拡張制御ユニット・非常制御ユニットもディップスイッチの設定が必要です。設定方法はそれぞれの取扱説明書をお読みください。

リモコンマイクによる停電放送

- ・リモコンマイクを使用して、停電時に業務放送ができます。
- ・リモコンマイクの局数を増やすときは、拡張制御ユニット、非常制御出力ユニットの拡張リモコンマイク端子が使用できます。

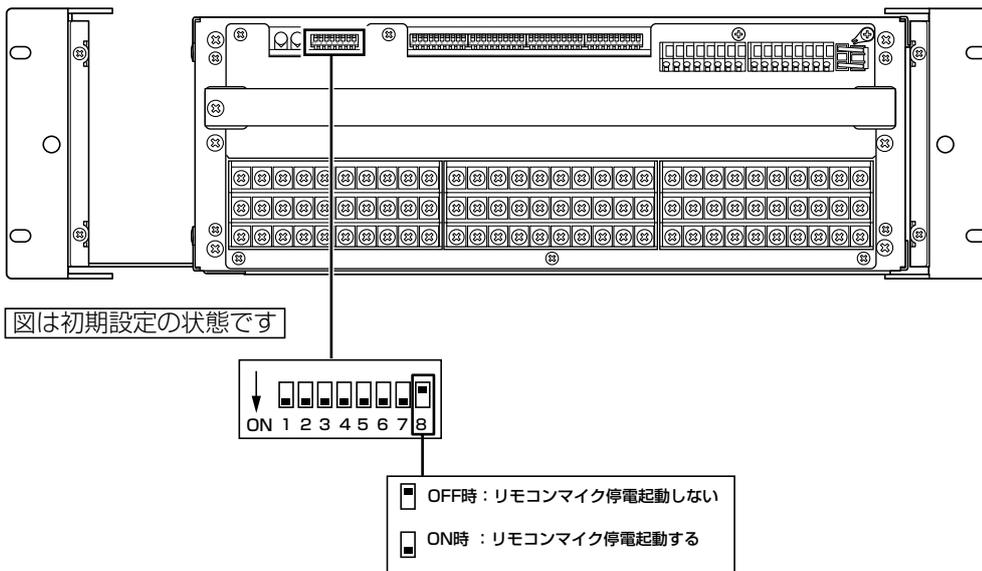
メモ

- 停電放送を行うために、入出力制御ユニット・リモコンマイクの接続を変更する必要はありません。
- リモコンマイクから緊急放送を行うことはできません。

リモコンマイクの停電起動設定

入出力制御ユニットのリモコンマイク端子を使用して停電時に業務放送を行うためには、入出力制御ユニットのディップスイッチの設定が必要です。

- 1 前面パネルの止めねじ4本を外して、前面パネルを取り外します。
- 2 ディップスイッチを設定します。



- 3 前面パネルを元にもどし、ねじ止めをします。

ねじの締付トルク
0.5 N・m～0.7 N・m {5 kgf・cm～7 kgf・cm}

メモ

- 拡張制御ユニット・非常制御出力ユニットはディップスイッチの設定は必要ありません。

非常電源ユニットの設定

- 1 取り付けねじ4本を外し、前面パネルを外す
- 2 蓄電池スイッチ（右下図参照）が「切」になっていることを確認する

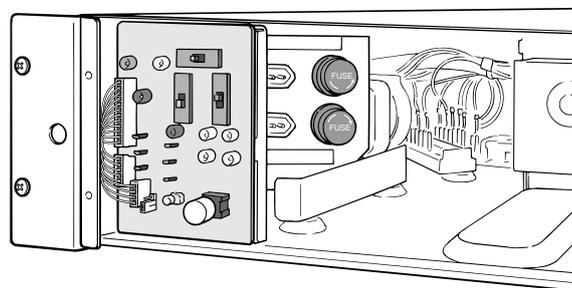
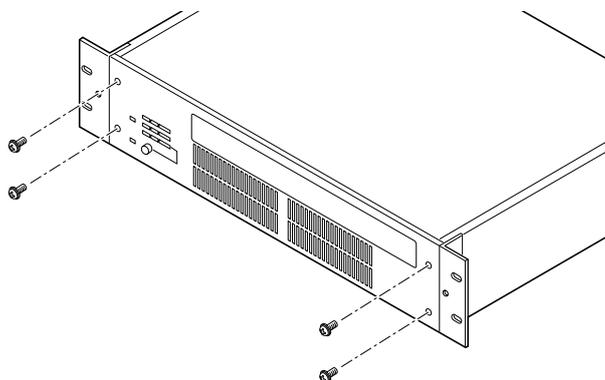
※初期設定は「切」に設定されています。

3 蓄電池の種類と個数を設定する

蓄電池の種類と個数に合わせて、SW202、SW203（右下図）を下表のように設定します。

初期設定は、NCB-600：2個の設定になっています。

蓄電池の種類 (SW202)	蓄電池の個数 (SW203)
NCB-350	1
	2
NCB-600	1
	2



システムの応用

メモ

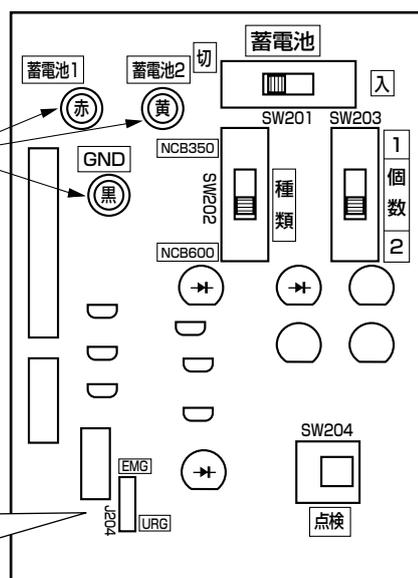
- 電池電圧の測定のしかた
点検スイッチSW204（右下図参照）を押しながら、蓄電池1（端子：赤とGND：黒 間）蓄電池2（端子：黄とGND：黒 間）の電圧を測定します。
※21 V以下は、蓄電池が消耗しています。ユニット内の蓄電池全数を交換してください

4 内部コネクター（J204）を設定する

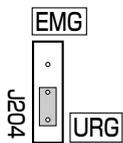
初期設定は非常用電源（EMG側）に設定してあります。

内部コネクター（J204）をURG側に設定します。

蓄電池電圧測定端子



〈緊急用電源〉



URG側にします
(URG信号で起動します)

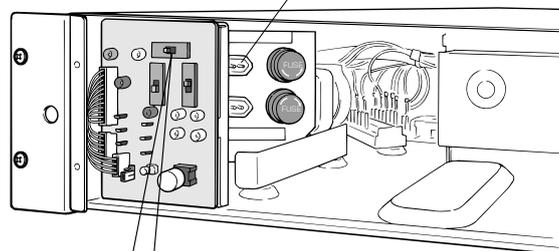
停電放送について（つづき）

5 蓄電池を接続する



本機内に種類の異なる蓄電池（NCB-350、NCB600）を混在して使用しない
 ・火災や破裂の原因となります。

蓄電池が1個の場合は必ず「蓄電池1」（上側）に接続してください。



6 蓄電池スイッチ（SW201）を「入」にする

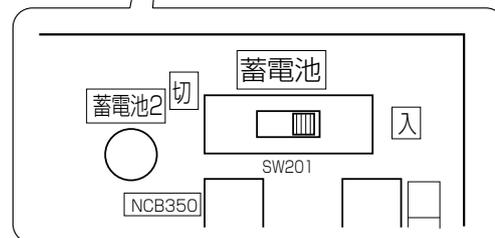
※初期設定は「切」に設定されています。

重要

●蓄電池を接続する前や設置・工事中および点検・修理時には、蓄電池スイッチを「切」にしてください。

メモ

- 交換した蓄電池が満充電状態になるのは、約24時間後です。
- 完全放電した蓄電池が満充電状態になるのは、約48時間です。
- AC100 V通電中で、蓄電池が接続されている場合、蓄電池スイッチを「切」にしても充電されず（充電中表示灯が点灯します）。



7 前面パネルを取り付ける

ねじの締付トルク

0.5 N・m～0.7 N・m {5 kgf・cm～7 kgf・cm}

メモ

●長時間使用しない場合は、蓄電池を外してください。

8 蓄電池容量と蓄電池品番を表示する

下表を参照して、蓄電池容量表示ラベル（付属品）を選び、銘板に貼り付けます。蓄電池品番ラベルは、銘板の下に貼り付けます。（右図参照）

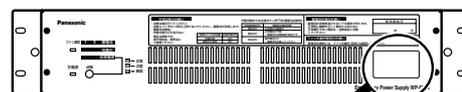
蓄電池品番	個数	電力増幅ユニット	蓄電池容量
NCB-350	1	120 Wまで	3.5 Ah×1
NCB-350	2	240 Wまで	3.5 Ah×2
NCB-600	1	360 Wまで	6 Ah×1
NCB-600	2	720 Wまで	6 Ah×2

※停電動作約10分間の容量です。

制御系の消費電流は含まれていません。

メモ

●ラベル（付属品）を使用しない場合は、銘板に記載してある容量のうち、該当するものを残し、黒色マジックなどで塗りつぶしてください。



組込み蓄電池明細

容量 DC 24V

3.5AhX1本 3.5AhX2本

6AhX1本 6AhX2本

銘板

蓄電池品番をこの面に貼ってください

銘板上の蓄電池容量表示について

収納した蓄電池の容量と品番を本ラベルから選び、蓄電池容量は銘板上に記載された容量表示がかくられるように貼ってください。

3.5AhX1

3.5AhX2

6AhX1

6AhX2

蓄電池品番は品番貼付面に貼ってください。

蓄電池品番 NCB-350

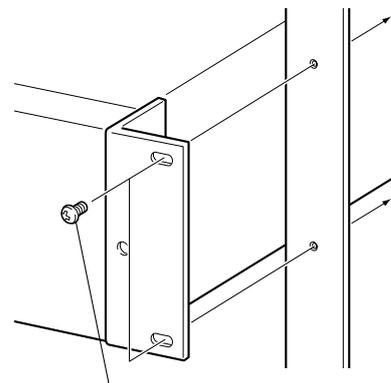
蓄電池品番 NCB-600

蓄電池容量表示ラベル（付属品）

非常電源ユニットの収納と接続

- ・非常電源ユニットをラックへ収納します。
ラックに取り付けるときは、必ず非常電源ユニットに付属のリブ付きねじ（M5×12）を使用してください。

ねじの締付トルク
2 N・m～2.4 N・m {20.5 kgf・cm～24.5 kgf・cm}



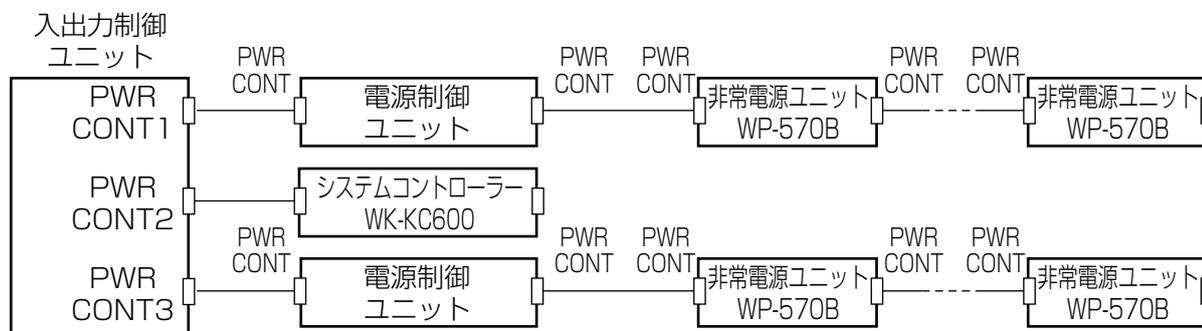
リブ付きねじ（M5×12）
※非常電源ユニットに付属

重要

- 非常電源ユニットをラックに収納・接続するときは、必ず電源を遮断してから作業を行ってください。
- 電源制御ユニットのブレーカーと、非常電源ユニットの蓄電池スイッチを「切」にしてください。

■非常電源ユニットの接続について

システム電源早見表（→20ページ）により算出した非常電源ユニット、入出力制御ユニットまたは電源制御ユニットのPWR CONT1、3コネクタに接続します。



重要

- 非常電源ユニットは、入出力制御ユニットのPWR CONT1、3コネクタのどちらにも接続できますが、接続する電源制御ユニット、非常電源ユニットの接続台数が均等になるように接続してください。

メモ

- システムの規模が110局、110回線を超える場合には、入出力制御ユニットに接続するほかに、外部電源が必要になります。
- 外部電源は、増設用出力制御ユニット、拡張制御ユニット（WU-EX590）、非常制御出力ユニット（WU-EM552）に接続できます。

ユニットの増設

各種ユニットを増設することにより、システム規模や機能を拡張することができます。

●増設が可能な機能

機能	増設が必要なユニット					
	増設可能数	増設単位	増設用操作ユニット WX-EX510(10局) WX-EX520(20局)	増設用出力制御ユニット WU-ER551(10回線) WU-ER552(20回線)	拡張制御ユニット WU-EX590	非常制御出力ユニット WU-EM552
業務選択スイッチを増設するとき	340局	10局または20局	○			
スピーカー回線を増設するとき	330回線	10回線または20回線		○		
外部制御入力/リモコン制御入力を増設するとき	※140	20			○	○
汎用出力を増設するとき	※合計で140	20			○	
EMG24Vブレイク端子を増設するとき(個別にEMG24Vブレイク端子を使用するとき)		20				○

※入出力制御ユニットの制御数は含まれていません。

増設用操作ユニットの増設

- ・システムコントローラーに標準装備されている20個の業務選択スイッチが足りない場合は、増設用操作ユニットを増設します。
- ・増設用操作ユニットは、10局/20局単位で合計16台、システムコントローラーの20局と合わせて340局まで増設できます。

局数	30	40	50	60	70	80	90	100
増設用操作ユニット品番								
WK-EX510(10局)	1	0	1	0	1	0	1	0
WK-EX520(20局)	0	1	1	2	2	3	3	4

局数	110	120	130	140	150	160	170	180
WK-EX510(10局)	1	0	1	0	1	0	1	0
WK-EX520(20局)	4	5	5	6	6	7	7	8

局数	190	200	210	220	230	240	250	260
WK-EX510(10局)	1	0	1	0	1	0	1	0
WK-EX520(20局)	8	9	9	10	10	11	11	12

局数	270	280	290	300	310	320	330	340
WK-EX510(10局)	1	0	1	0	1	0	1	0
WK-EX520(20局)	12	13	13	14	14	15	15	16

メモ

- システムコントローラーの20個の業務選択スイッチは初期値はメッセージスイッチ10個、スピーカー選択スイッチ10個に設定されています。システム設定(書き込み)によりスイッチの機能を変更できます。
- 増設用操作ユニットもシステムコントローラーの業務選択スイッチと同様に、スピーカー選択スイッチ、放送ブロックスイッチ、メッセージスイッチに割り付けることができます。(→103ページ)
- 増設用操作ユニットは、汎用出力スイッチを設定することができます。(20局増設用操作ユニット1台のみ設定可能)

増設用操作ユニットの収納

- ・増設用操作ユニットはラックに収納してください。
- ・ラックへの固定は必ず増設用操作ユニットに付属のリブ付きねじ（M5×12）を使用し、ねじは2 N・m～2.4 N・m {20.5 kgf・cm～24.5 kgf・cm} のトルクで締め付けてください。

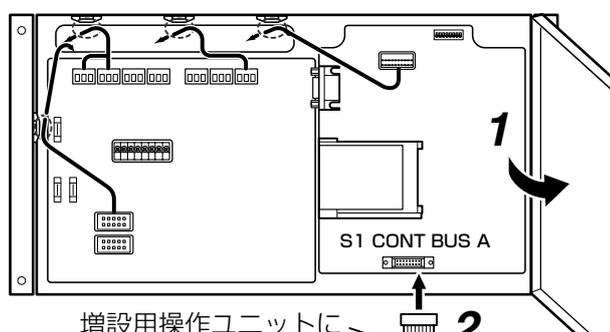
接続のしかた

- 1 システムコントローラーの前面パネルと増設用操作ユニットの前面パネルを開ける
- 2 増設用操作ユニットに付属のケーブルをシステムコントローラーのコネクタープラグ（S1 CONT BUS A）に挿し込む
- 3 接続したケーブルを通線口から増設用操作ユニットのコネクタープラグ（F1 CONT BUS A（IN））に挿し込む

コネクタープラグのロックレバーが「カチッ」と音がして閉じるまで、ケーブルのソケットを挿し込みます。

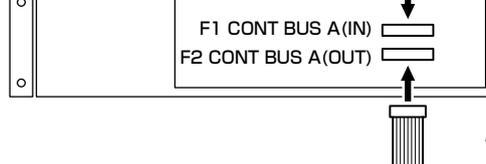
接続する増設用操作ユニットが複数台ある場合、同様にユニットに付属のケーブルで増設用操作ユニットのコネクタープラグ間（F2 CONT BUS A（OUT）→F1 CONT BUS A（IN））を接続します。

システムコントローラー

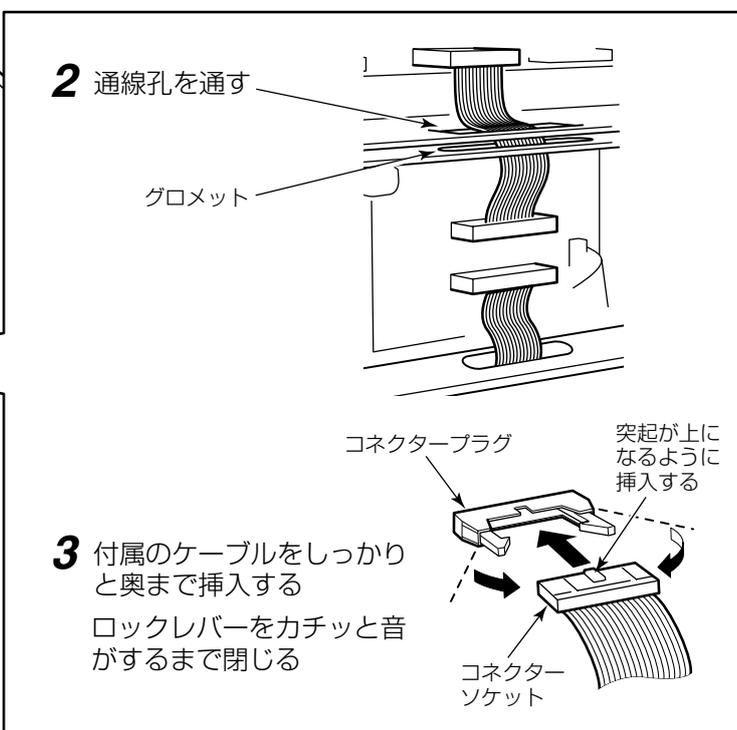
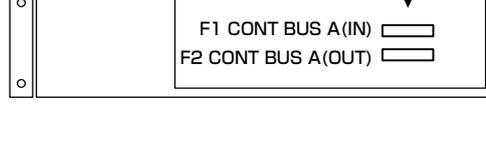


増設用操作ユニットに
付属のケーブル

増設用操作ユニット



増設用操作ユニット



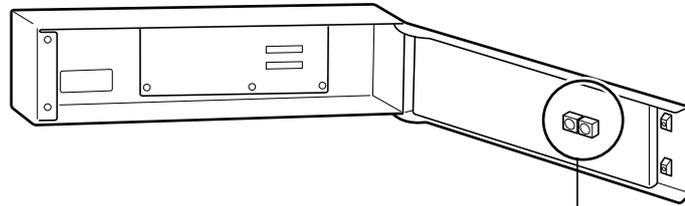
重要

- ・コネクターソケットの突起が上になるように接続してください。

ユニットの増設 (つづき)

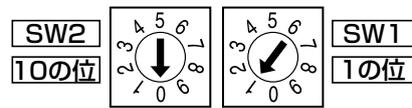
ユニットアドレスの設定

ロータリースイッチを操作してユニットアドレスの設定 (SW1、2) を行います。抜けや重複がないように01から順に連続して設定してください。



図は初期設定の状態です

アドレス設定



ユニットアドレス設定

アドレス	SW2 (10の位)	SW1 (1の位)
01	0	1
02	0	2
03	0	3
04	0	4
05	0	5
06	0	6
07	0	7
08	0	8
09	0	9
10	1	0
11	1	1
12	1	2
13	1	3
14	1	4
15	1	5
16	1	6

ねじの締付トルク

0.5 N · m ~ 0.7 N · m { 5 kgf · cm ~ 7 kgf · cm }

重要

- ユニットアドレスの設定は、システムの電源投入時に認識されます。変更後はシステムの電源を「切」→「入」してください。

増設用出力制御ユニットの増設

- ・スピーカー設置個数、スピーカー系統により必要なスピーカー回線数を決めます。
- ・入出力制御ユニットに標準装備しているスピーカー10回線が足りない場合は、増設用出力制御ユニット（WU-ER551、WU-ER552）を増設してください。
- ・10回線/20回線単位で16台、最大330回線（入出力制御ユニットの10回線を含む）まで増設可能です。

増設用出力 制御ユニット品番	局数	スピーカー回線数（入出力制御ユニット 10回線を含む）							
		20	30	40	50	60	70	80	90
WU-ER551 (10回線)		1	0	1	0	1	0	1	0
WU-ER552 (20回線)		0	1	1	2	2	3	3	4
		100	110	120	130	140	150	160	170
WU-ER551 (10回線)		1	0	1	0	1	0	1	0
WU-ER552 (20回線)		4	5	5	6	6	7	7	8
		180	190	200	210	220	230	240	250
WU-ER551 (10回線)		1	0	1	0	1	0	1	0
WU-ER552 (20回線)		8	9	9	10	10	11	11	12
		260	270	280	290	300	310	320	330
WU-ER551 (10回線)		1	0	1	0	1	0	1	0
WU-ER552 (20回線)		12	13	13	14	14	15	15	16

重要

- ・スピーカー回線1端子（1回線）に接続するスピーカー回線の容量が200 Wを超える場合は回線を分離してください。
- ・PAコネクタ1入力あたり480 Wを超える場合は電力増幅ユニットからの入力系統を分離してください。
- ・本システムに増設用出力制御ユニットを接続した場合、階別信号入力端子（EL）、火災確認信号入力端子（EF）、EB端子は動作しません。これらの端子には配線を行わないでください。

メモ

- ・優先放送（スピーカー回線アッテネーター飛ばし放送）は、1回線単位で設定可能です。
- ・多元放送を行う場合は、PAコネクタごとの系統分けが必要です。（→37ページ）

ユニットの増設（つづき）

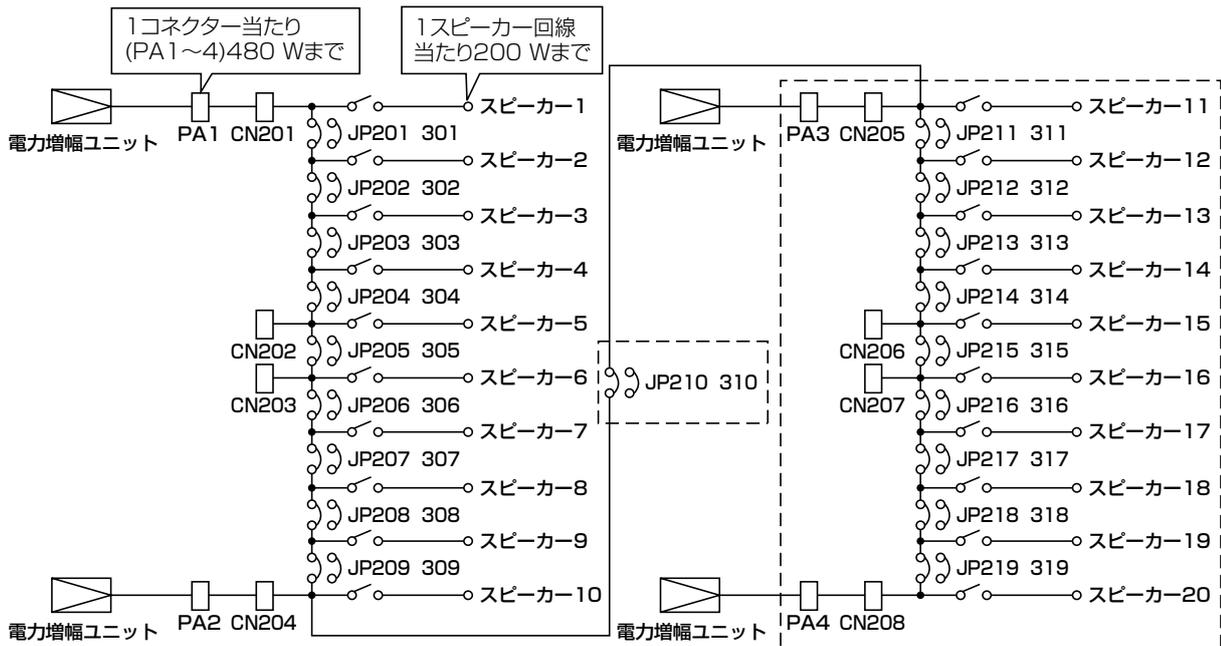
増設用出力制御ユニットのPA系統分け

ユニット内部のジャンパーカット（電力増幅ユニットの系統分け）

スピーカー回線を増設するために増設用出力制御ユニットを使用する場合、接続する電力増幅ユニットの機種や台数によってPAコネクターの系統分けを行う必要があります。

PAコネクターは、下図のように増設用出力制御ユニット内部で並列に接続されています。

スピーカー系統内部配線図



※ 図は、WU-ER552です。WU-ER551には点線部はありません。
 ※ 図中のJPIは、ジャンパー線を表します。

PA入力コネクターは、出荷時にCN201、204、205、208（WU-ER551はCN201、204）に接続しています。CN202、203、206、207（WU-ER551はCN202、203）につなぎ替え、組み合わせて効率のよい系統に分けてください。

内部ジャンパーは、以下の場合、カットが必要です。

①本機に接続する電力増幅ユニットが、並列可能台数およびワット（W）数を超える場合

電力増幅ユニットの並列可能台数およびワット（W）数

電力増幅ユニット	可能な台数	最大合計出力ワット (W) 数
WU-P51とWU-P52の組み合わせ	4	480 W
WU-P53を含む組み合わせ	3	1 080 W

電力増幅ユニットを、PA入力コネクターを分けて接続し、並列接続可能な条件となるようにユニット内部のジャンパーをカットします。

②入力マトリクスを使用して多元放送を行う場合

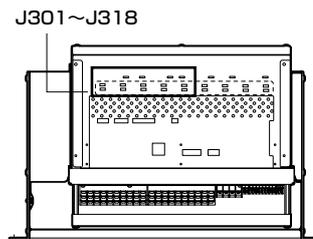
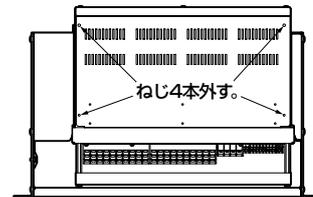
別の放送エリアに同時に放送が行われると電力増幅ユニットの出力がぶつかるため、ユニット内部のジャンパーをカットします。

重要

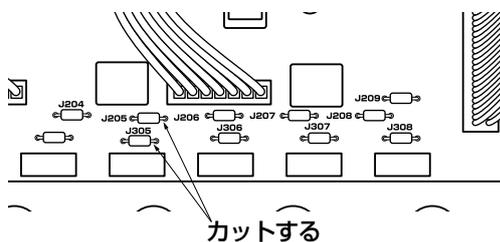
- 1つのPA入力コネクターには、480 Wを超える電力増幅ユニットを接続しないでください。

内部ジャンパー線の切りかた

- 1 上カバーのねじを外し、上カバーを取り外す
- 2 ジャンパーのリード線をニッパーなどで切断する
- 3 必要に応じて、PA1~4のコネクターから内部に配線されているケーブルをCN202、203、206、207へつなぎなおす
- 4 上カバーを元どおりに取り付ける



ねじの締付トルク
 $0.8 \text{ N} \cdot \text{m} \sim 1.0 \text{ N} \cdot \text{m}$ { $8 \text{ kgf} \cdot \text{cm} \sim 10 \text{ kgf} \cdot \text{cm}$ }

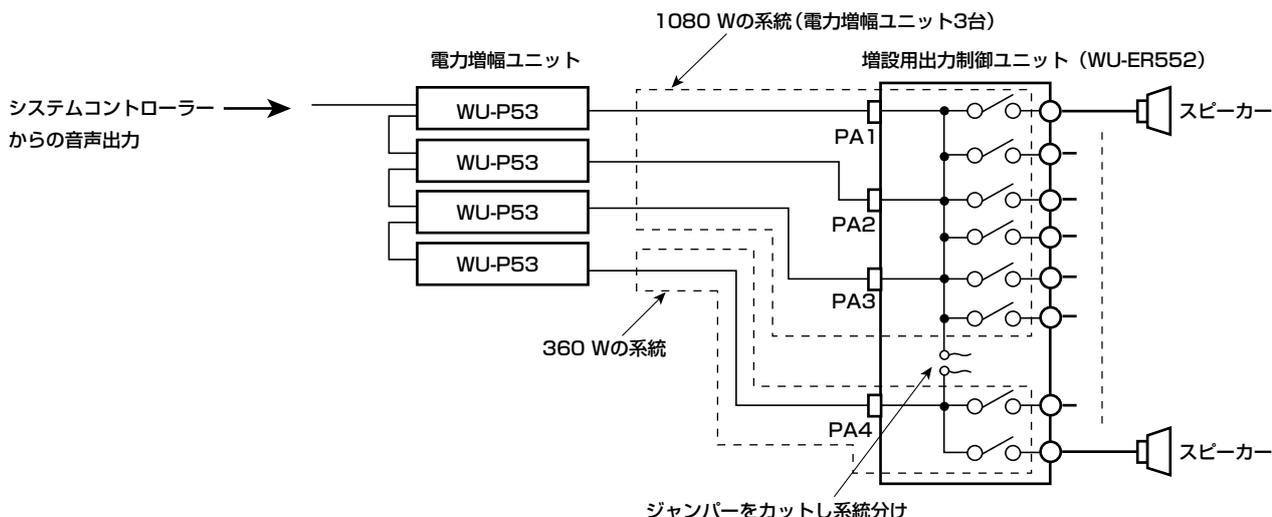


メモ

- ジャンパー線切断時は、92ページの増設用出力制御ユニット内部配線図を参照のうえ、JP201と301、JP202と302というようにペアで必要なジャンパー線をカットしてください。

本機に接続する電力増幅ユニットが、並列可能台数およびワット (W) 数を超える場合

本機内部での並列接続が並列可能台数およびワット (W) 数になるようにユニット内部のジャンパーをカットします。図の例では、電力増幅ユニット3台、合計出力ワット (W) 数1 080 Wの系統と、電力増幅ユニット1台、360 Wの系統に分けています。



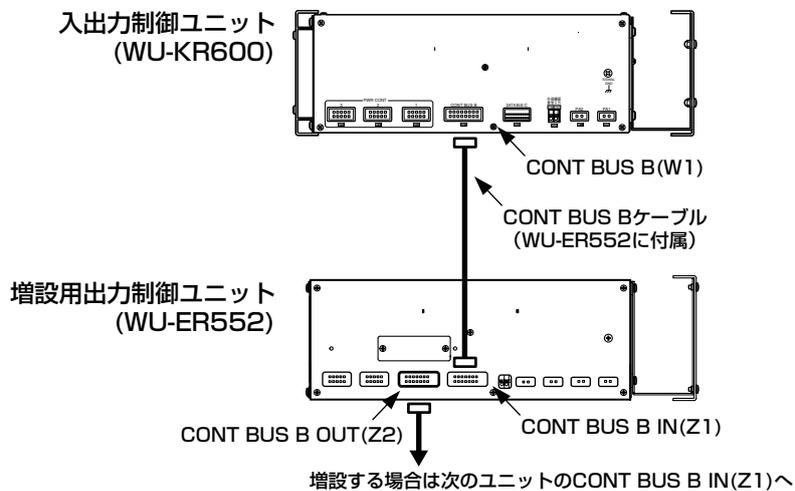
ユニットの増設 (つづき)

増設用出力制御ユニットの収納

- ・ 増設用出力制御ユニットはラックに収納してください。
- ・ ラックへの固定は、必ず増設用出力制御ユニットに付属のリブ付きねじ (M5×12) を使用し、ねじは2 N・m~2.4 N・m {20.5 kgf・cm~24.5 kgf・cm} のトルクで締め付けてください。

接続のしかた

- ・ 入出力制御ユニットのCONT BUS B (W1) と増設用出力制御ユニットのCONT BUS B IN (Z1) を接続します。
- ・ 増設用出力制御ユニットを複数台接続する場合は、増設用出力制御ユニットのCONT BUS B OUT-CONT BUS B IN間を接続します。



重要

- システム構成により外部電源を接続する必要があります。(→20ページ)

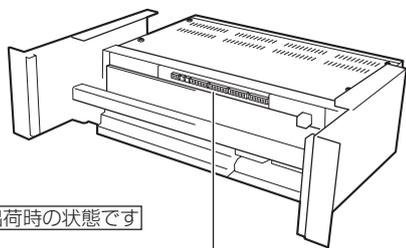
メモ

- 増設用出力制御ユニットの前後には、拡張制御ユニット (WU-EX590)、非常制御出力ユニット (WU-EM552) の接続もできます。

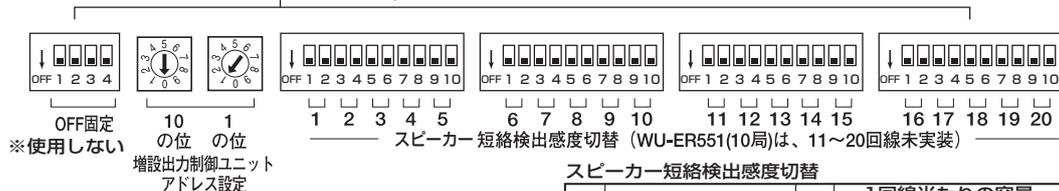
ユニットアドレスおよびスピーカー短絡検出感度の設定

増設用出力制御ユニットは、設置時にユニットアドレス、スピーカー短絡検出感度を設定する必要があります。

- ・前面パネルの止めねじを外して、前面パネルを取り外します。
- ・ロータリースイッチ、ディップスイッチを操作して設定を行います。



図は出荷時の状態です



ユニットアドレス設定

	10の位	1の位	
1台目	0	1	→ 使用できません
2台目	0	2	
3台目	0	3	
4台目	0	4	
5台目	0	5	
6台目	0	6	
7台目	0	7	
8台目	0	8	
9台目	0	9	
10台目	1	0	
11台目	1	1	
12台目	1	2	
13台目	1	3	
14台目	1	4	
15台目	1	5	
16台目	1	6	
17台目	1	7	

スピーカー短絡検出感度切替

機能	No	1回線当たりの容量		
		60W以下	61W~120W	120W~200W
1 SP1短絡検出感度	1	OFF	ON	ON
	2	OFF	OFF	ON
2 SP2短絡検出感度	3	OFF	ON	ON
	4	OFF	OFF	ON
3 SP3短絡検出感度	5	OFF	ON	ON
	6	OFF	OFF	ON
4 SP4短絡検出感度	7	OFF	ON	ON
	8	OFF	OFF	ON
5 SP5短絡検出感度	9	OFF	ON	ON
	10	OFF	OFF	ON

機能	No	1回線当たりの容量		
		60W以下	61W~120W	120W~200W
6 SP6短絡検出感度	1	OFF	ON	ON
	2	OFF	OFF	ON
7 SP7短絡検出感度	3	OFF	ON	ON
	4	OFF	OFF	ON
8 SP8短絡検出感度	5	OFF	ON	ON
	6	OFF	OFF	ON
9 SP9短絡検出感度	7	OFF	ON	ON
	8	OFF	OFF	ON
10 SP10短絡検出感度	9	OFF	ON	ON
	10	OFF	OFF	ON

機能	No	1回線当たりの容量		
		60W以下	61W~120W	120W~200W
11 SP11短絡検出感度	1	OFF	ON	ON
	2	OFF	OFF	ON
12 SP12短絡検出感度	3	OFF	ON	ON
	4	OFF	OFF	ON
13 SP13短絡検出感度	5	OFF	ON	ON
	6	OFF	OFF	ON
14 SP14短絡検出感度	7	OFF	ON	ON
	8	OFF	OFF	ON
15 SP15短絡検出感度	9	OFF	ON	ON
	10	OFF	OFF	ON

機能	No	1回線当たりの容量		
		60W以下	61W~120W	120W~200W
16 SP16短絡検出感度	1	OFF	ON	ON
	2	OFF	OFF	ON
17 SP17短絡検出感度	3	OFF	ON	ON
	4	OFF	OFF	ON
18 SP18短絡検出感度	5	OFF	ON	ON
	6	OFF	OFF	ON
19 SP19短絡検出感度	7	OFF	ON	ON
	8	OFF	OFF	ON
20 SP20短絡検出感度	9	OFF	ON	ON
	10	OFF	OFF	ON

スピーカー短絡検出感度切替の設定方法

新たな設定追加：WU-PD182 / PD122を含む場合 従来の設定：WU-P51 / P52 / P53のみの場合

スイッチ設定	スピーカー1回線あたりの容量 (W)	スイッチ設定	スピーカー1回線あたりの容量 (W)
ON OFF	0 W ~ 90 W	ON OFF	0 W ~ 60 W
ON OFF	91 W ~ 180 W	ON OFF	61 W ~ 120 W
ON OFF	181 W ~ 200 W	ON OFF	121 W ~ 200 W

注意 従来の設定と異なり、回線に接続されている電力増幅ユニットの機種により、ディップスイッチの設定が異なりますので、増設用出力制御ユニットおよび入出力制御ユニットの中の系統分けと電力増幅ユニットの機種は必ずご確認ください。

- ・表中の「SP」はスピーカーの略です。
- ・スピーカー回線1回線当たりの容量（ワット数）に応じて、短絡検出の感度を切り替えます。
- ・WU-ER551には11~20はありません。

メモ

- 増設用出力制御ユニットのユニットアドレスは02~17まで付与できます（業務放送システムで使用する場合はユニットアドレス01は使用できません）。
- ユニットアドレスは抜けや重複がなく、必ず連続するように設定してください。
- ユニットアドレスの設定は、システムの電源投入時に認識されます。変更後はシステムの電源を「切」→「入」してください。
- スピーカー短絡検出感度は、スピーカー回線の1回線あたりの容量（ワット数）に必ず合わせてください。誤りがある場合、短絡検出が行われません。

拡張制御ユニット／非常制御出力ユニットの増設

- ・ 拡張制御ユニットと非常制御出力ユニットはシステムで7台まで接続できます（拡張制御ユニットと非常制御出力ユニットの合計が7台までです）。
- ・ 拡張制御ユニット、非常制御出力ユニットの拡張外部制御入力はディップスイッチの設定により、リモコンマイク制御入力として使用できます。

■拡張制御ユニット

- ・ 拡張制御ユニット（WU-EX590）を使用することにより、外部制御入力および汎用出力を拡張できます。
- ・ 1ユニット当たり、20個の拡張外部制御入力、汎用出力（メイクもしくはブレイク）を拡張できます。

■非常制御出力ユニット

- ・ 非常制御出力ユニット（WU-EM552）を使用することにより、個別EMG24Vブレイクおよび外部制御入力を拡張できます。
- ・ 1ユニット当たり、20個の個別EMG24Vブレイク接点、20個の拡張外部制御入力を拡張できます。
- ・ 非常制御出力ユニットの個別EMG24Vブレイクは、EMG24V個別制御として書き込み設定し、動作させます。（→189ページ）

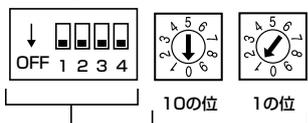
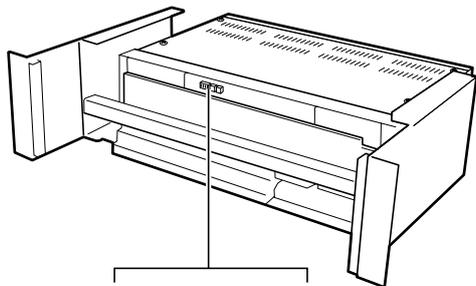
ユニットの収納と接続のしかた

- ・ 拡張制御ユニット、非常制御出力ユニットはラックに収納してください。ラックへの固定は、必ずそれぞれのユニットに付属のリブ付きねじ（M5×12）を使用し、ねじは2 N・m～2.4 N・m {20.5 kgf・cm～24.5 kgf・cm} のトルクで締め付けてください。
- ・ 拡張制御ユニット、非常制御出力ユニットは増設用制御ユニットと同様にCONT BUS B系統に接続します。
- ・ CONT BUS B 系統には拡張制御ユニット、非常制御出力ユニット、増設用出力制御ユニットを混在させて接続することができます。

拡張制御ユニット・非常制御出力ユニットの設定のしかた

拡張制御ユニット、非常制御出力ユニットは設置時にユニットアドレス、制御入力切換の設定が必要です。

- ・前面パネルの止めねじを外し、前面パネルを取り外します。
- ・ロータリースイッチ設定により、ユニットアドレスを設定します。
- ・ディップスイッチ設定により、拡張外部制御入力、リモコンマイクの制御入力種別を切り替えます。



No	機能	ON	OFF
1	使用しない	—	OFF固定
2	制御入力切替	リモコンマイク	拡張外部制御入力
3	使用しない	—	OFF固定
4	使用しない	—	OFF固定

ユニットアドレス設定(1~7)

ユニットアドレス	10位	1位
01 (初期設定)	0	1
02	0	2
03	0	3
04	0	4
05	0	5
06	0	6
07	0	7

メモ

- スイッチの設定は、システムの電源投入時に認識されます。設定変更後はシステムの電源を「切」→「入」にしてください。
- 設置工事時、必ずユニットアドレスを設定してください。そのあと、システムコントローラーでシステム構成登録を行ってください。
- ユニットアドレス設定は非常制御出力ユニット（WU-EM552）と通し番号で、抜けや重複のないように設定してください（増設用出力制御ユニットとは、通し番号にはしないでください）。

ユニットの増設（つづき）

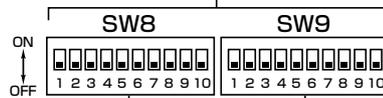
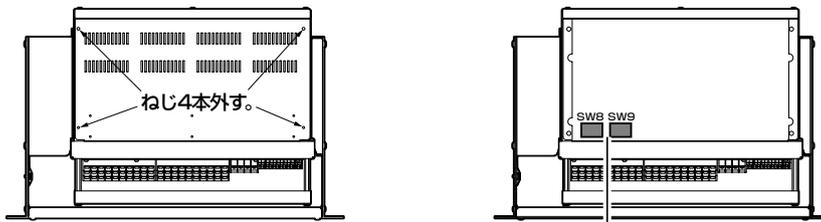
拡張外部制御入力で停電起動を行う場合

- ・ 拡張外部制御入力より停電時に緊急放送または業務放送を行うことができます。
- ・ 停電放送を行う拡張外部制御入力には拡張制御ユニット、または非常制御出力ユニット内部のディップスイッチを設定する必要があります。

ディップスイッチの設定のしかた

- 1 上カバーのねじを外し、上カバーを取り外します。
- 2 以下のように停電起動を行う拡張外部制御入力No.を設定します。
- 3 上カバーを元通りに取り付けます。

ねじの締付トルク
 0.8 N・m～1.0 N・m {8 kgf・cm～10 kgf・cm}



SW8			
No	機能	ON	OFF
1	拡張外部制御入力1停電起動	有効	無効
2	拡張外部制御入力2停電起動	有効	無効
3	拡張外部制御入力3停電起動	有効	無効
4	拡張外部制御入力4停電起動	有効	無効
5	拡張外部制御入力5停電起動	有効	無効
6	拡張外部制御入力6停電起動	有効	無効
7	拡張外部制御入力7停電起動	有効	無効
8	拡張外部制御入力8停電起動	有効	無効
9	拡張外部制御入力9停電起動	有効	無効
10	拡張外部制御入力10停電起動	有効	無効

SW9			
No	機能	ON	OFF
1	拡張外部制御入力11停電起動	有効	無効
2	拡張外部制御入力12停電起動	有効	無効
3	拡張外部制御入力13停電起動	有効	無効
4	拡張外部制御入力14停電起動	有効	無効
5	拡張外部制御入力15停電起動	有効	無効
6	拡張外部制御入力16停電起動	有効	無効
7	拡張外部制御入力17停電起動	有効	無効
8	拡張外部制御入力18停電起動	有効	無効
9	拡張外部制御入力19停電起動	有効	無効
10	拡張外部制御入力20停電起動	有効	無効

- ・ 拡張外部制御入力停電起動
 有効 … 停電起動をする場合
 無効 … 停電起動をしない場合

メモ

- ・ 非常制御出力ユニット（WU-EM552）の設定も同様に行います。

拡張制御ユニット端子台の接続のしかた

拡張外部制御入力（リモコンマイク入力）

- ・ 拡張制御ユニット前面のディップスイッチ2の制御入力切替を設定し、拡張外部制御入力またはリモコンマイクのどちらで動作させるか設定します。
- ・ 即結端子台の拡張外部制御入力（1～20）／リモコンマイクC1～C20と、上部にあるCOM端子間をメイクするように接続します。

メモ

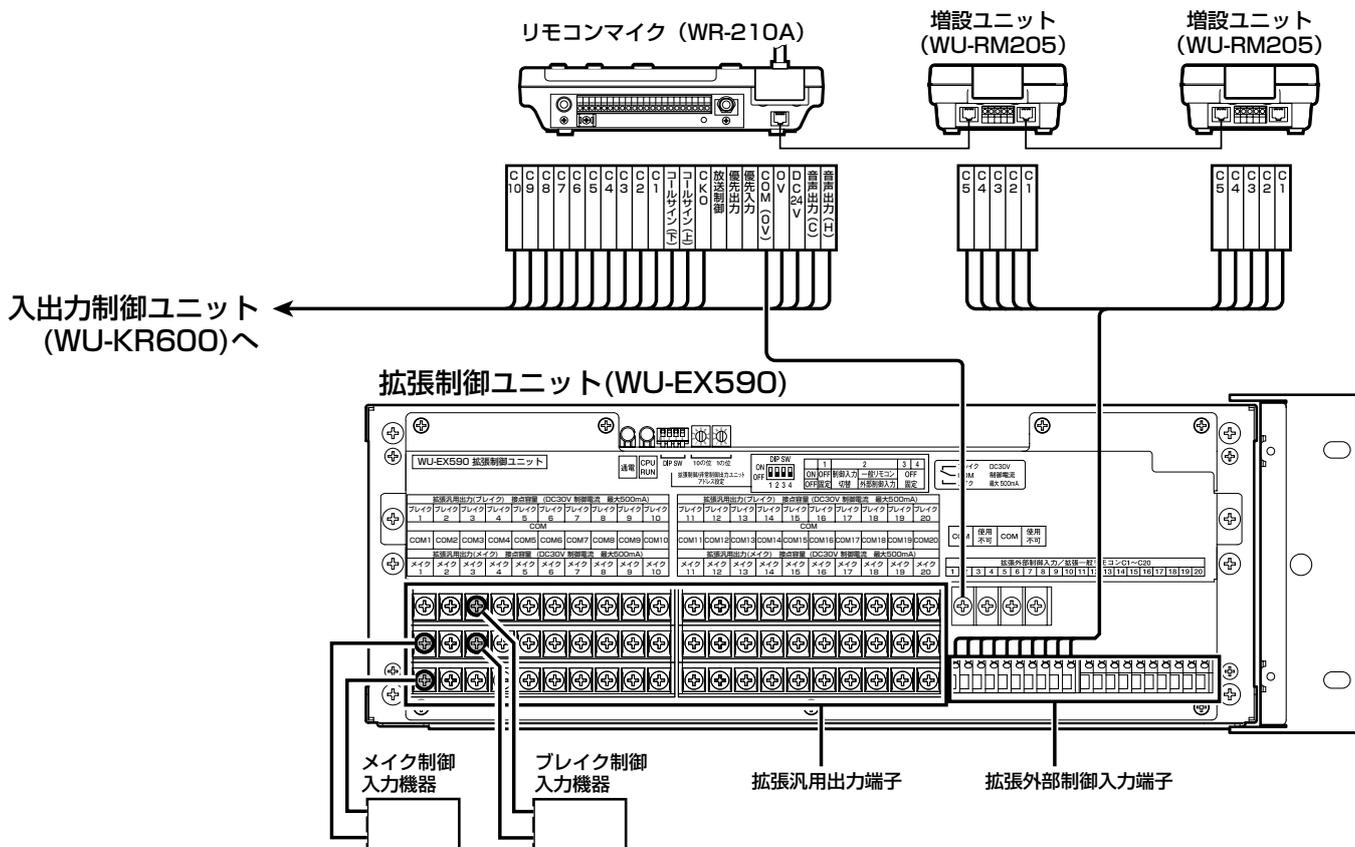
- 本端子は無電圧メイク入力に対応し、開放電圧30 V、短絡電源3 mAです。
- 本端子で停電時に、緊急放送または業務放送を行うことができます。（→98ページ）

拡張汎用出力

- ・ 接続する機器がメイク制御の場合は、メイク（1～20）端子とCOM（1～20）端子を接続してください。
- ・ 接続する機器がブレイク制御の場合は、ブレイク（1～20）端子とCOM（1～20）端子を接続してください。

メモ

- 本端子はリレー接点出力、制御電圧DC30 V、制御電流各最大500 mAに対応しています。



ユニットの増設 (つづき)

非常制御出力ユニット端子台の接続のしかた

・EMG24Vブレイク

- ・EMG24VブレイクのCONT端子 (1~20) とCOM端子 (1~20) 間に制御する機器を接続します。
- ・下図に、スピーカー制御ボックス (WU-R45)、電源制御ボックス (WU-R40B) の接続例を示します。
※本端子は、リレー接点出力で、出力電圧DC24 V (非常時ブレイク) 1系統当たり最大100 mAまで制御できます。各系統は独立しています。

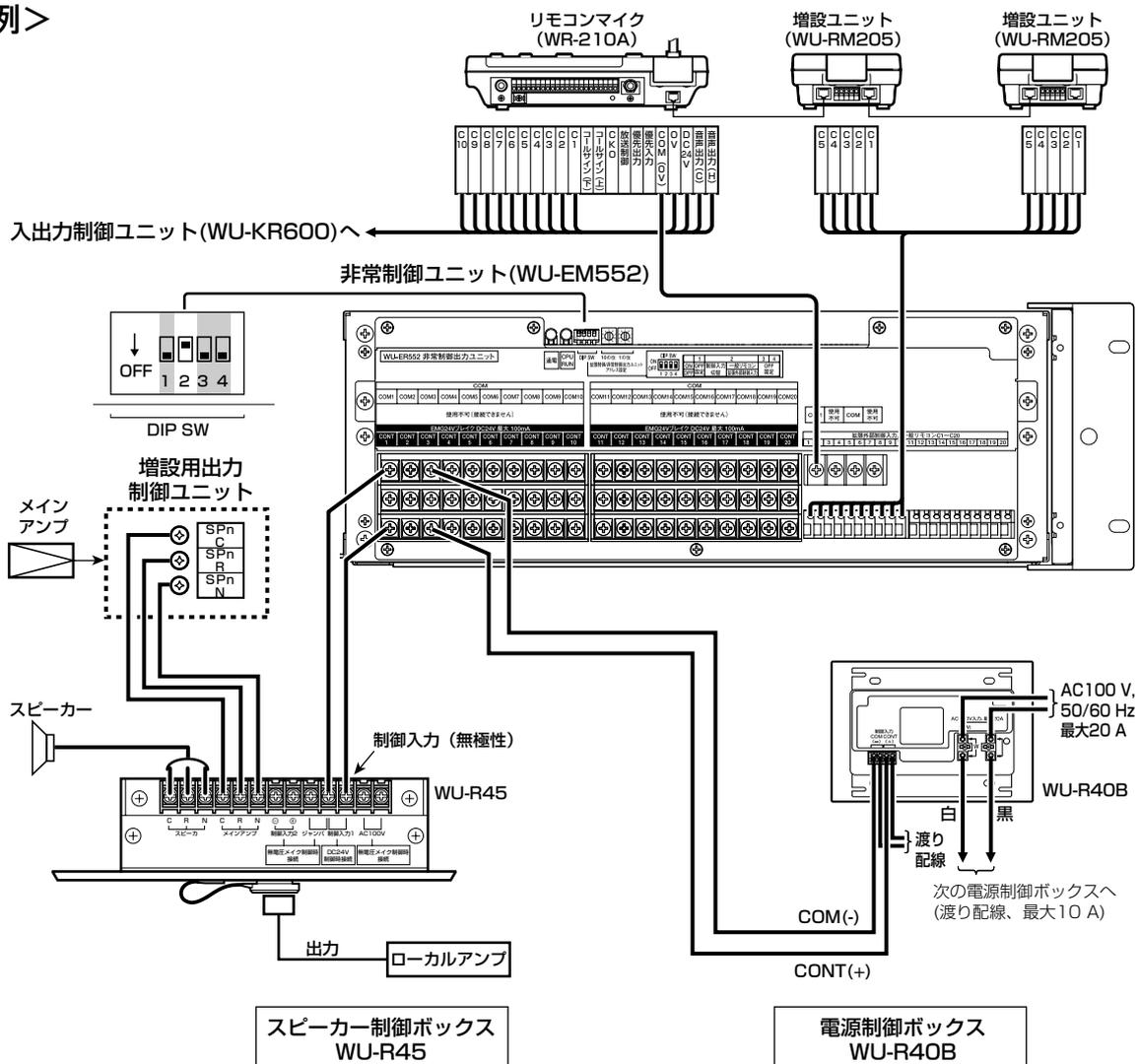
・拡張外部制御入力 (リモコンマイク入力)

- ・本機前面DIP SWの2番を切り換えて、拡張外部制御入力またはリモコンマイクの設定をします。
- ・拡張外部制御入力/リモコンマイクC1~C20端子と、上部にあるCOM端子間をメイクするように接続します。
- ・下図はDIP SW2をリモコンマイクに設定し、リモコンマイク (WR-210A) を入出力制御ユニット (WU-ER550) に、増設ユニット (WU-RM205) を本機に接続した場合の例です。
※本端子は無電圧メイク入力に対応し、開放電圧30 V 短絡電流3 mAです。

メモ

- ・非常制御出力ユニットの拡張外部制御入力 (リモコンマイク入力) は、拡張制御ユニットと同様の動作をします。

<接続例>



重要

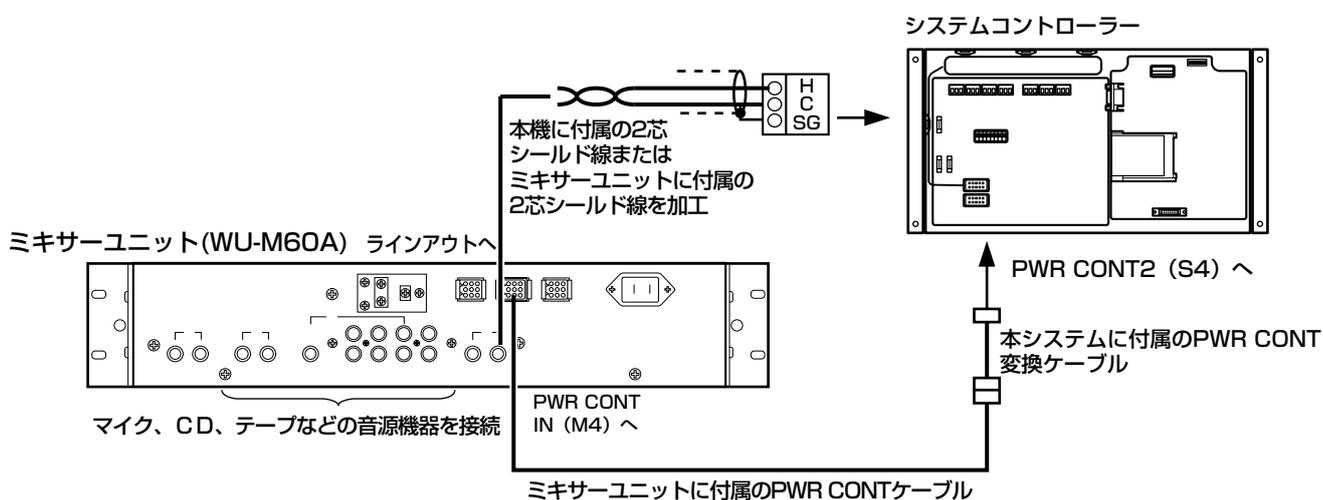
- ・空き端子 (使用不可) には、何も接続しないでください。

ミキサーユニットについて

ミキサーユニットを本システムに組み込むことで、音声入力機能の拡張ができます。またラジオチューナー（WU-T60A）をミキサーユニットに組み込んで、音源として利用できます。チューナーユニットの組み込みかたやミキサーユニットへのケーブル接続などの詳細は、それぞれの取扱説明書をお読みください。

接続のしかた

- ・ミキサーからの音声出力（ラインアウト）は、システムコントローラーのライン1へ入力してください。
- ・電源（PWR CONT）は、本機に付属のPWR CONT変換ケーブルとミキサーユニットに付属のPWR CONTケーブルを使用し、システムコントローラーのPWR CONT2（S4）とミキサーユニットのPWR CONT IN（M4）へ接続します。
- ・モニターユニット（WU-M30）を接続する場合は、モニターユニットに付属のPWR CONTケーブルを使用してミキサーユニットのPWR CONT OUTから電源をとります。



重要

- ミキサーユニットのCONT（M1）端子には接続しないでください。

メモ

- ミキサーユニットに組み込んだラジオチューナー（WU-T60A）を内蔵時計の時刻補正用のFMチューナーとして使用することはできません。

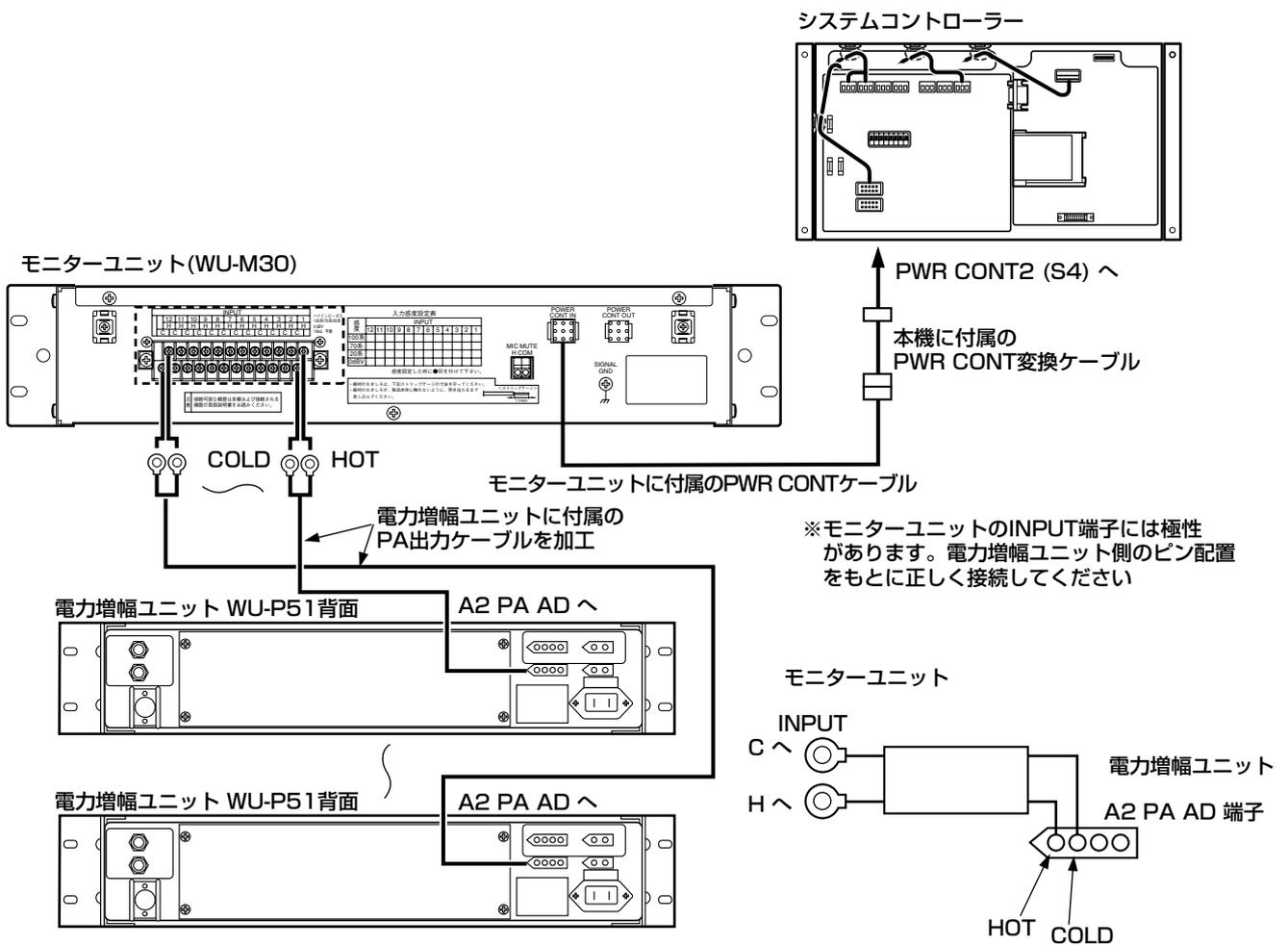
モニターユニットについて

モニターユニットを本機に組み込むことで、本機から放送されている音声をモニターすることができます。モニターユニット (WU-M30) を使用すると、電力増幅ユニットの出力、またはラインレベルの信号のモニターができます。

接続のしかた

電力増幅ユニットの出力をモニターする場合の接続例を示します。詳細は、モニターユニットの取扱説明書をお読みください。

- ・モニターしたい電力増幅ユニットのA2 PA ADをモニターユニットのINPUTへ接続します。
- ・電源 (PWR CONT) は、モニターユニットに付属のケーブルと、本機に付属のPWR CONT変換ケーブルを使用し、システムコントローラーのPWR CONT2 (S4) とモニターユニットのPOWER CONT INを接続します。



増設用操作ユニットの機能について

増設用操作ユニット WK-EX510 (10局) / WK-EX520 (20局)

増設用操作ユニットもシステムコントローラーの業務選択スイッチと同様に、スピーカー選択スイッチ・放送ブロックスイッチの機能を選択設定できます。ただしユニットの局数の違いにより選択できる機能が異なりますのでご注意ください。

メモ

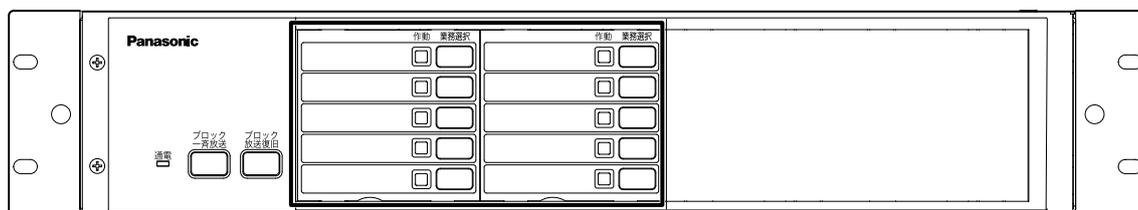
- 増設用操作ユニットに付属されている「表示カード (業務放送用)」に交換して使用してください。

スピーカー選択スイッチ・放送ブロックスイッチ

増設用操作ユニット WK-EX510 (10局) /WK-EX520 (20局)

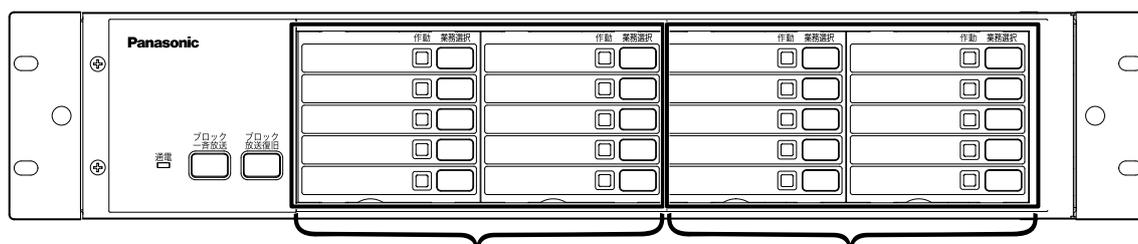
増設用操作ユニットもシステムコントローラーの業務選択スイッチと同様にスピーカー選択スイッチ・放送ブロックスイッチの機能に設定を変更できます。

WK-EX510 (10局) の場合



	業務選択スイッチ	1~10	-
パターン1	スピーカー選択スイッチ	1~10	-
パターン2	放送ブロックスイッチ	1~10	-

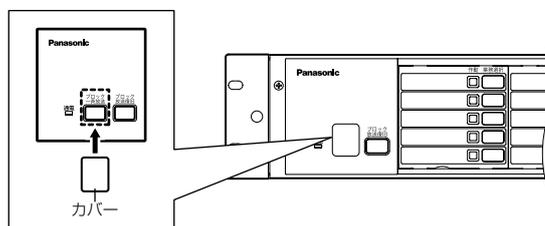
WK-EX520 (20局) の場合



	業務選択スイッチ	1~10	業務選択スイッチ	11~20
パターン1	スピーカー選択スイッチ	1~10	スピーカー選択スイッチ	11~20
パターン2	放送ブロックスイッチ	1~10	放送ブロックスイッチ	11~20

メモ

- スピーカー選択スイッチ・放送ブロックスイッチの機能はシステムコントローラーと同じです。
- 10局増設用操作ユニットは業務選択スイッチ1~10までスピーカー選択スイッチまたは放送ブロックスイッチに設定可能です。
- 放送ブロックスイッチに設定した場合は、ブロック一斉放送スイッチは作動しません。スイッチボタンを外し、増設用操作ユニットに付属のスイッチカバーでボタン孔を隠してください。作業手順は、増設用操作ユニットの工事説明書をお読みください。



汎用出力スイッチ・メッセージスイッチ

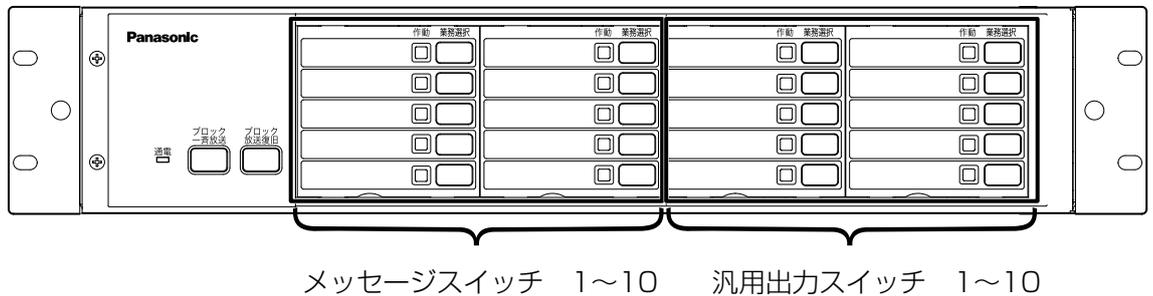
増設用操作ユニット WK-EX520（20局）

■汎用出力スイッチ

- ・汎用出力を手動でON/OFFできる、汎用出力スイッチの機能を割り当てることができます。
汎用出力スイッチを使用して、外部機器（メイク接点制御が可能なもの）を制御することができます。
- ・設定対象は業務選択スイッチは11～20のみで、スイッチを増設することはできません。

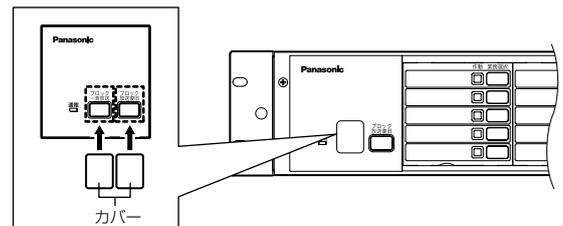
■メッセージスイッチ

- ・内蔵音源を手動でON/OFFできる、メッセージスイッチを割り当てることができます。
- ・設定可能な業務選択スイッチは1～10のみで、スイッチの増設はできません。



メモ

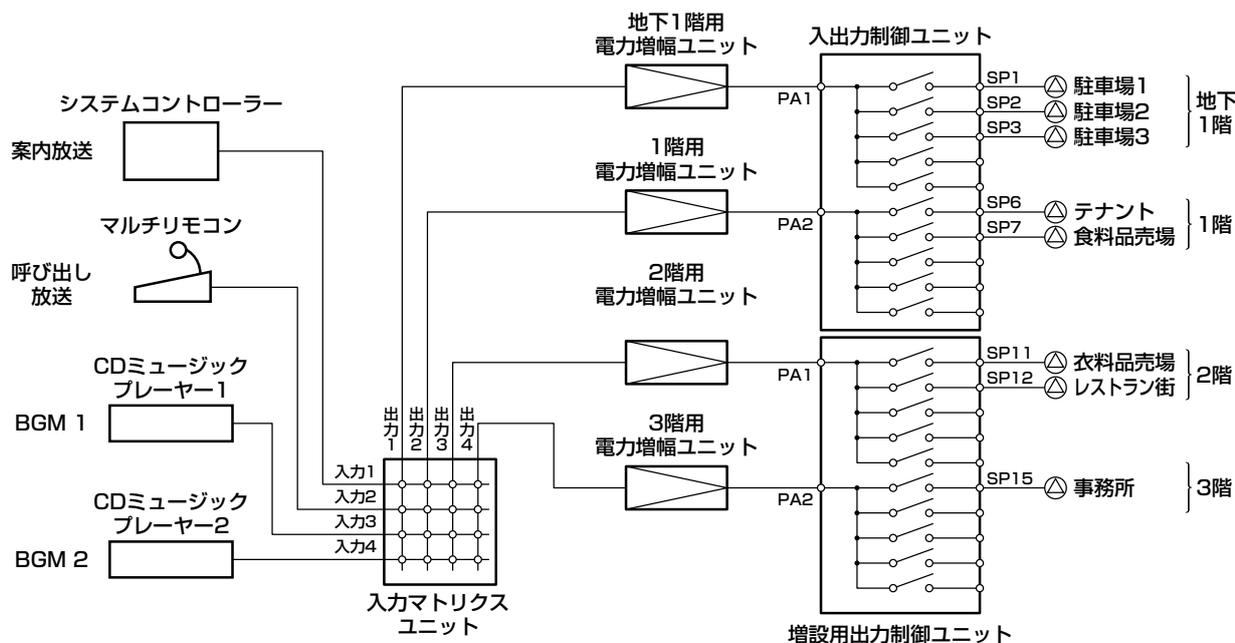
- 汎用出力スイッチ、メッセージスイッチを設定できるのは20局増設用操作ユニット1台のみです。
- 汎用出力スイッチに設定する場合、残りの業務選択スイッチ1～10はメッセージスイッチとなり、変更できません。
- 10局増設用操作ユニット（WK-EX510）は対象外です。
- 本機能に設定したユニットのブロッカー斉スイッチ・ブロッカー復旧スイッチは作動しませんので、スイッチボタンを外し、付属のスイッチカバーでボタン孔を隠してください。作業手順は、増設用操作ユニットの工事説明書をお読みください。



多元放送について

多元放送とは

- ・多元放送では、複合ビル、商業施設などで個々のブロックに別々の放送（複数のBGM、呼び出し放送）を同時に流すことができます。
- ・多元放送を行うには、システム内に入力マトリクスユニット（WU-MX544）が必要です。
- ・システム構成に応じて電力増幅ユニット、CDミュージックプレーヤーなどが必要です。



システムの応用

メモ

- 入出力制御ユニットのスピーカー系統は2系統までです。スピーカー系統が3系統以上必要なときは、増設用出力制御ユニットを追加してください。
- 多元放送を行うときは、各グループ（電力増幅ユニット出力）系統ごとに入出力制御ユニットの内部ジャンパー線をカットして、スピーカー回線を分けてください。（→37ページ）
- グループ系統が3系統以上になる場合、増設用出力制御ユニットを追加してください。
- リモコンマイク（WR-205A/210A）を入力マトリクスユニットの音声入力2以降に接続する場合、リモコンマイクのコールサインスイッチを押してもコールサイン音は放送できません。

入力マトリクス構成の考えかたについて

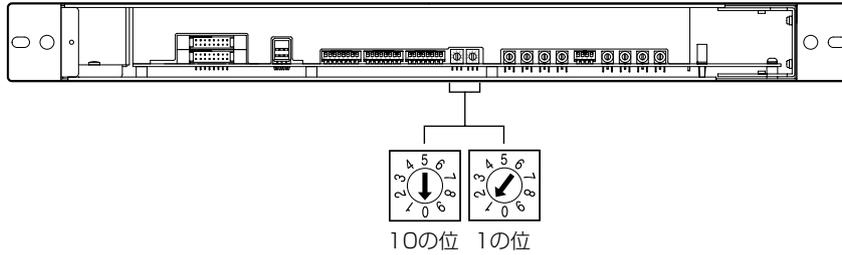
- ・入力マトリクスユニットは、最大16台まで接続できます。
- ・ユニットの論理的な配置は、すべての音声入力と音声出力の交点（クロスポイント）が存在するように、必ず四角形にします。例えば、音声入力8、音声出力8のマトリクス構成に必要なユニット台数は、下記表の太枠線のように四角で囲んだ右下の数値、4台となります。
- ・マトリクス構成に必要な台数は、下記表の音声入力数と音声出力数から求めてください。

入力マトリクスの必要台数

音声 入力数	音声出力数							
	4	8	12	16	20	24	28	32
4	1	2	3	4	5	6	7	8
8	2	4	6	8	10	12	14	16
12	3	6	9	12	15			
16	4	8	12	16				
20	5	10	15					
24	6	12						
28	7	14						
32	8	16						

接続不可

入力マトリクスユニット スイッチ設定



ユニットアドレスの設定

ユニットアドレスは、マトリクス構成の論理的な配置位置で決まっています。下表から必要な音声入力数、音声出力数を四角に囲んだ枠内に存在する位置に合ったアドレスを設定してください。例えば、音声入力8、音声出力8のマトリクス構成の場合、音声入力1～4および音声出力1～4のユニットに「01」、音声入力5～8のユニットに「02」、音声出力5～8のユニットに「09」、残りのユニットに「10」のアドレスを設定します。

		音声出力								
		1	4	8	12	16	20	24	28	32
システムコントローラー の音声出力 接続先	1	01	09	17	25	33	41	49	57	
	4	02	10	18	26	34	42	50	58	
	8	03	11	19	27	35				
	12	04	12	20	28					
	16	05	13	21						
	20	06	14							
	24	07	15							
	28	08	16							
32										

※枠内の数字はユニットアドレスを示します。

ユニットアドレス

アドレス設定

10の位 1の位

10の位	1の位
0	0
1	1
2	2
3	3
4	4
5	5
—	6
—	7
—	8
—	9

重要

- ユニットアドレスの設定は、システム電源投入時に認識されます。変更したときは、システムの電源を「切」→「入」し、そのあとシステム構成登録を行ってください。
- アドレスを01に設定したユニットの音声入力1には、必ずシステムコントローラーの音声出力を接続してください。

フェード設定

フェード動作（→115ページ）を行う場合には、入力チャンネルごとに設定を行います。

- ON : 入（クロスポイント生成時、接続された入力の音量をフェードインします。）
- OFF : 切（フェードインせずに切り換えをします。）



No.	機能	ON	OFF
1	制御選択	手動制御（X9外部制御コネクター）	自動制御（システムコントローラー）
2	—	—	OFF固定
3	—	—	OFF固定
4	—	—	OFF固定
5	フェード設定音声入力1	ON	OFF
6	フェード設定音声入力2	ON	OFF
7	フェード設定音声入力3	ON	OFF
8	フェード設定音声入力4	ON	OFF

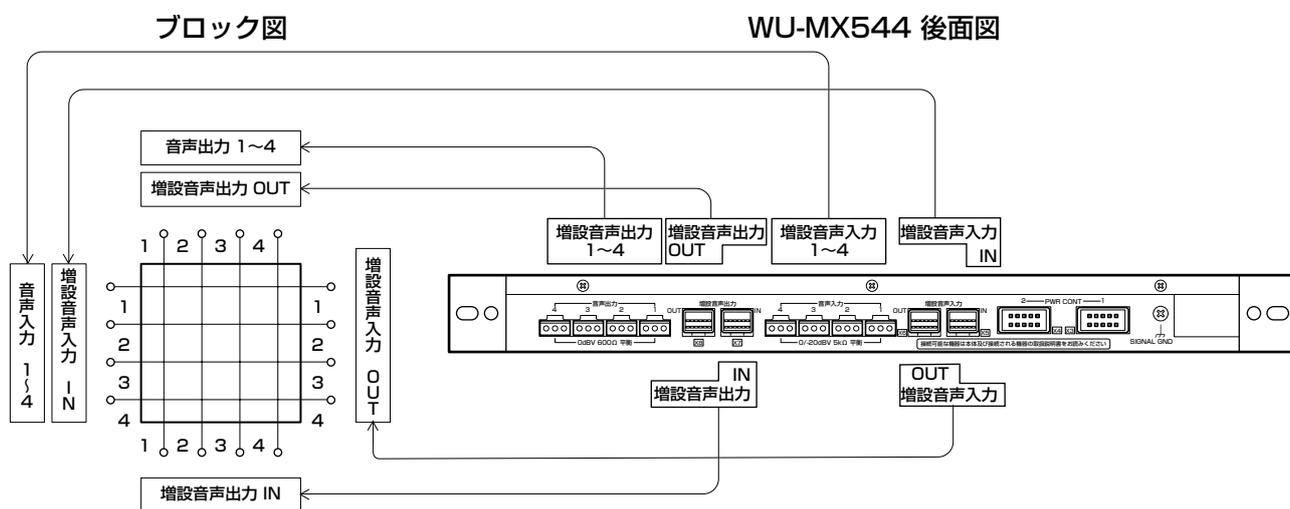
重要

- フェード設定は、BGM用音源機器を接続した音声入力以外には設定しないでください。BGM用音源以外（チャイム音源やアナウンス放送）の場合、放送開始時に頭切れして聞こえる場合があります。

入力マトリクスユニットの接続のしかた

音声信号の接続

●後面コネクターとブロック図との関係



後面の各コネクターとマトリクスブロック図での対応を説明します。

- ・ブロック図の行（横）方向は入力系を、列（縦）方向は出力系を表します。
- ・音声入力1~4と増設音声入力INは、ユニット内でそれぞれ並列に接続されています。
- ・音声出力1~4と増設音声出力OUTは、ユニット内でそれぞれ並列に接続されています。
- ・マトリクスを横に拡張（出力を増やす）するとき、増設音声入力OUT→増設音声入力INを接続します。
- ・マトリクスを縦に拡張（入力を増やす）するとき、増設音声出力OUT→増設音声出力INを接続します。

重要

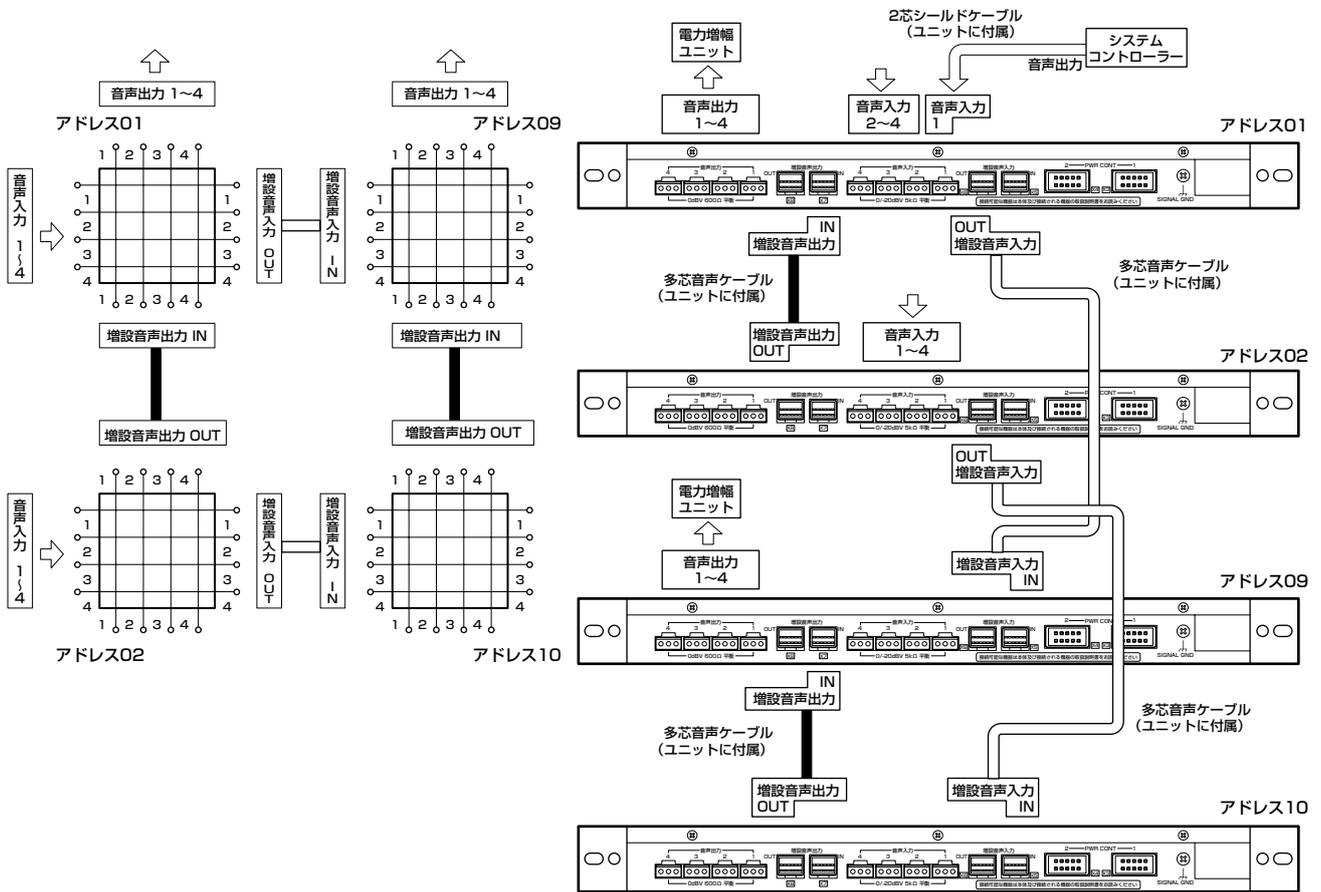
- アドレス（→106ページ）を01に設定したユニットの音声入力1には、入力マトリクスユニットに付属の2芯シールドケーブルを使用して、必ずシステムコントローラーの音声出力を接続してください。

多元放送について（つづき）

● 8入力×8出力の例

8入力-8出力のマトリクス構成の例を示します。

この例ではマトリクスの構成は、アドレス1と2のユニットから音声を入力して、アドレス1と9のユニットから音声を出力する仕様です。



システムの応用

● 多芯音声ケーブルの追加手配について

入力マトリクスの構成によっては、入力マトリクスユニットに付属の多芯音声ケーブルに加え、多芯音声ケーブル（工事部品扱い→16ページ）の追加が必要になります。下表をもとに必要な数の多芯音声ケーブルを追加手配してください。

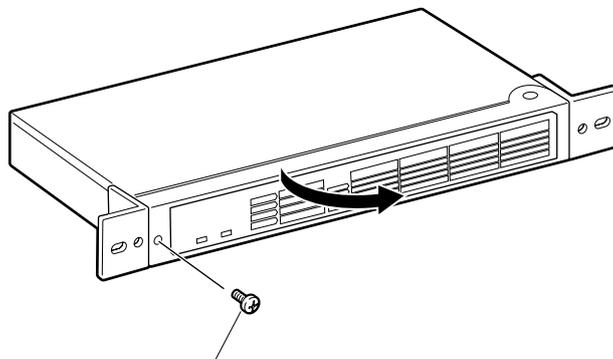
追加手配が必要な組み合わせと追加ケーブル数

音声入力数	12	16	20	24	28	32	8	12	16	20	8	12	16	8	12	8	8	8
音声出力数	8						12				16			20		24	28	32
追加手配する多芯音声ケーブル数	1	2	3	4	5	6	1	3	5	7	2	5	8	3	7	4	5	6

制御信号の接続

● CONT BUS A [X1 IN]、[X2 OUT] コネクターの接続

- ・前面パネルを止めているねじ（M3×6）を外して、前面パネルを開きます。

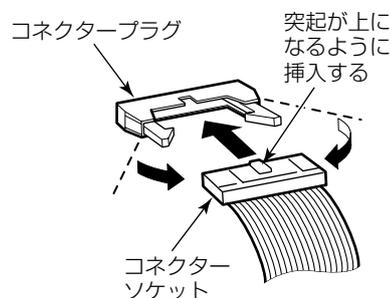
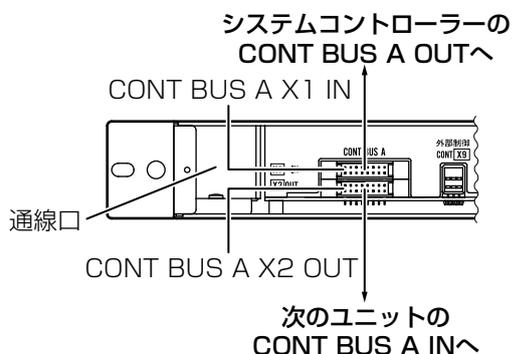


ねじを1本外す

- ・入力マトリクスに付属のCONT BUS A（16ピン）ケーブルを通線口から前面側にケーブルを引き出し、CONT BUS Aコネクターに挿し込みます。

CONT BUS A [X1 IN] コネクター : アドレス「1」のユニットは、システムコントローラーのCONT BUS A [S1] コネクター、増設用操作ユニットが接続されているときは、増設用操作ユニットのCONT BUS A (OUT) [F2] コネクターと接続します。

CONT BUS A [X2 OUT] コネクター : 次のユニットのCONT BUS A [X1 IN] コネクターと接続します。



重要

- ケーブルのコネクターソケットは、コネクタープラグのロックレバーが「カチッ」と音がして閉じるまで挿し込みます。
- コネクターソケットの突起が上になるように接続してください。

- ・前面パネルを元通りに閉じてねじ止めします。

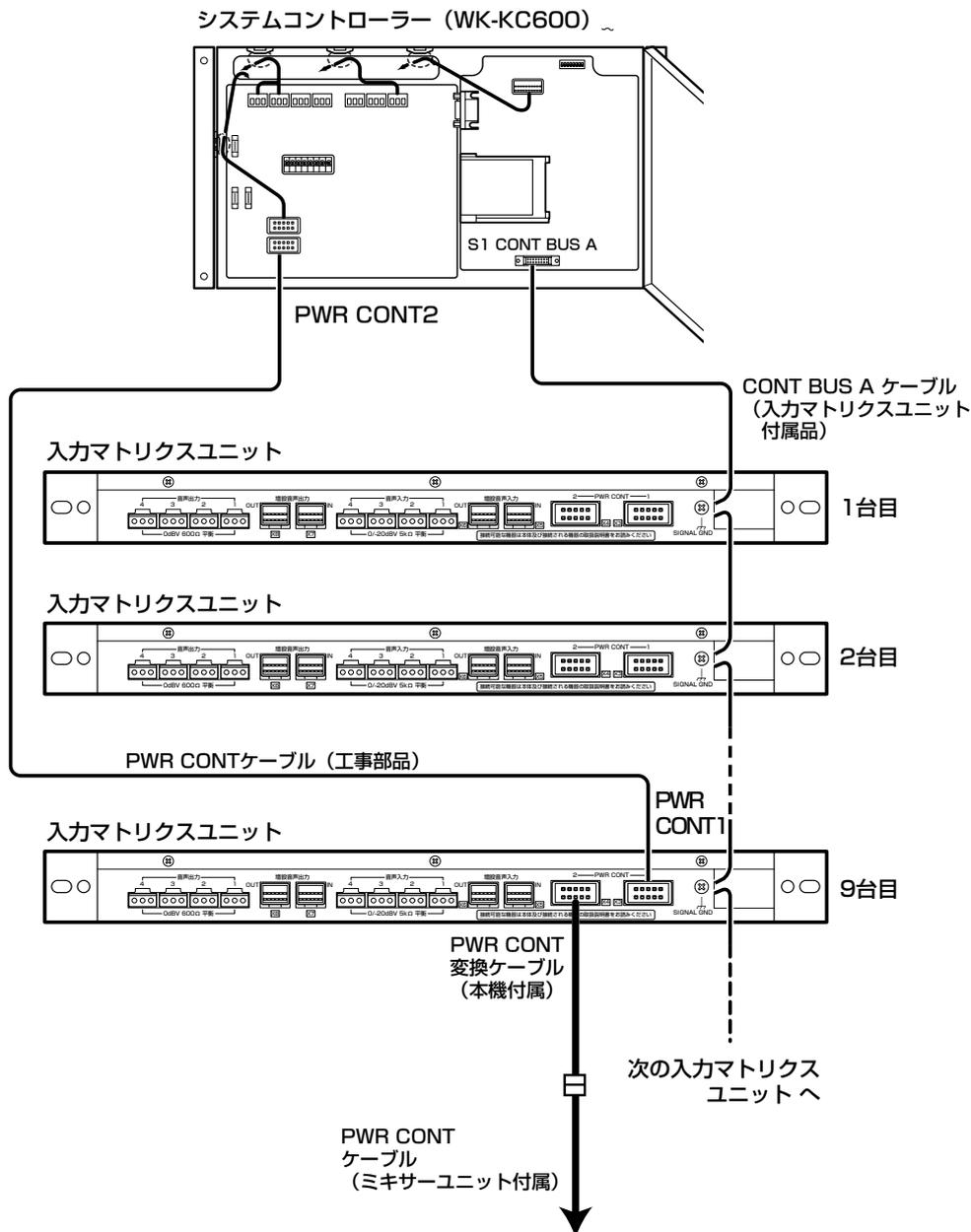
ねじの締付トルク

0.5 N・m～0.7 N・m {5 kgf・cm～7 kgf・cm}

多元放送について（つづき）

入力マトリクスユニットを9台以上接続する場合

- ・入力マトリクスユニットを9台以上増設する場合は、電源をCONT BUS Aケーブルとは別に、システムコントローラー（WK-KC600）からPWR CONTケーブルで供給する必要があります。
- ・PWR CONTケーブルの接続は、システムコントローラーのPWR CONT2からCONT BUS Aで接続された9台目のユニットのPWR CONT1へ接続します。
- ・9台目以降のユニットには9台目からのCONT BUS Aケーブルにより、電源が供給されます。
- ・PWR CONTケーブルを接続する入力マトリクスユニット（9台目）は内部ジャンパー線の設定を変更する必要があります。

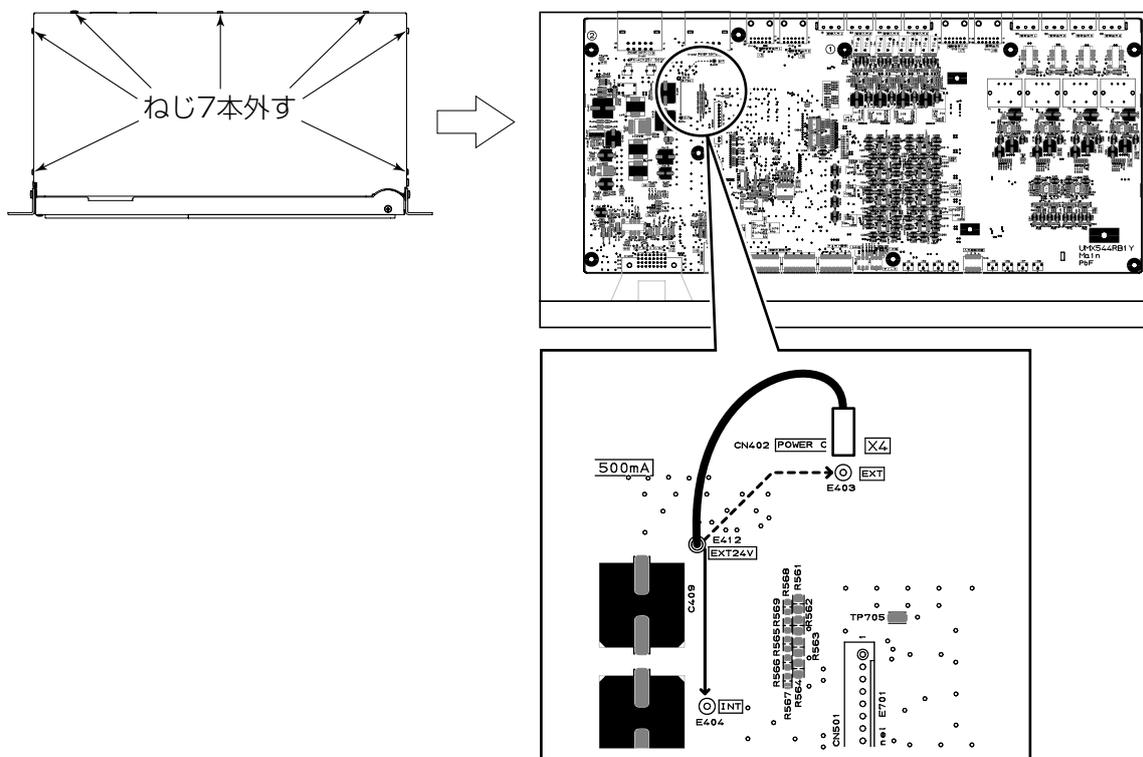


メモ

- システムにミキサーユニットを接続する場合は、9台目の入力マトリクスユニットのPWR CONT2コネクターとミキサーユニットのPWR CONTを、本機に付属のPWR CONT変換ケーブルとミキサーユニットに付属のPWR CONTケーブルを使用して接続します。
- 9台目の入力マトリクスユニットは内部ジャンパーの設定が必要です。（→111ページ）

●入力マトリクスユニット（9台目）の内部ジャンパー線の設定

- ・ねじ7本、天板を外し、メイン基板上のジャンパー線をINT側（E404）からEXT側（E403）に差し替えます。
- ・上カバーを外します。



重要

- PWR CONTケーブルを接続している入力マトリクスユニット（9台目）は内部ジャンパー線の設定変更が必要です。
- PWR CONTケーブルを接続する入力マトリクスユニットはアドレス9ではなくシステムコントローラーからCONT BUS Aケーブルで接続された9台目のユニットです。

- ・上カバーを元に戻し、ねじ止めをします。

ねじの締付トルク

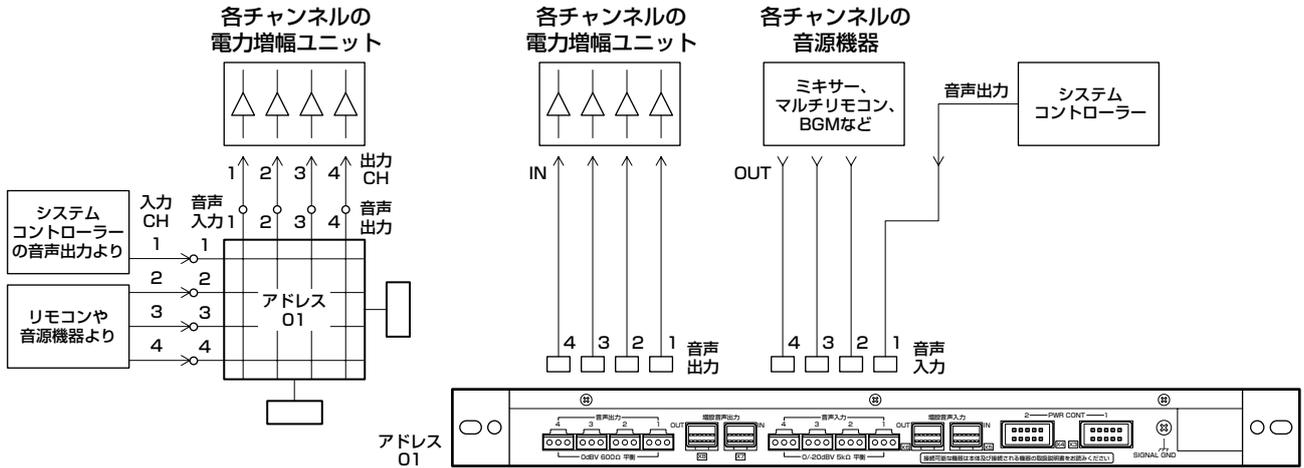
0.8 N・m～1.0 N・m {8 kgf・cm～10 kgf・cm}

多元放送について（つづき）

音声信号の接続例

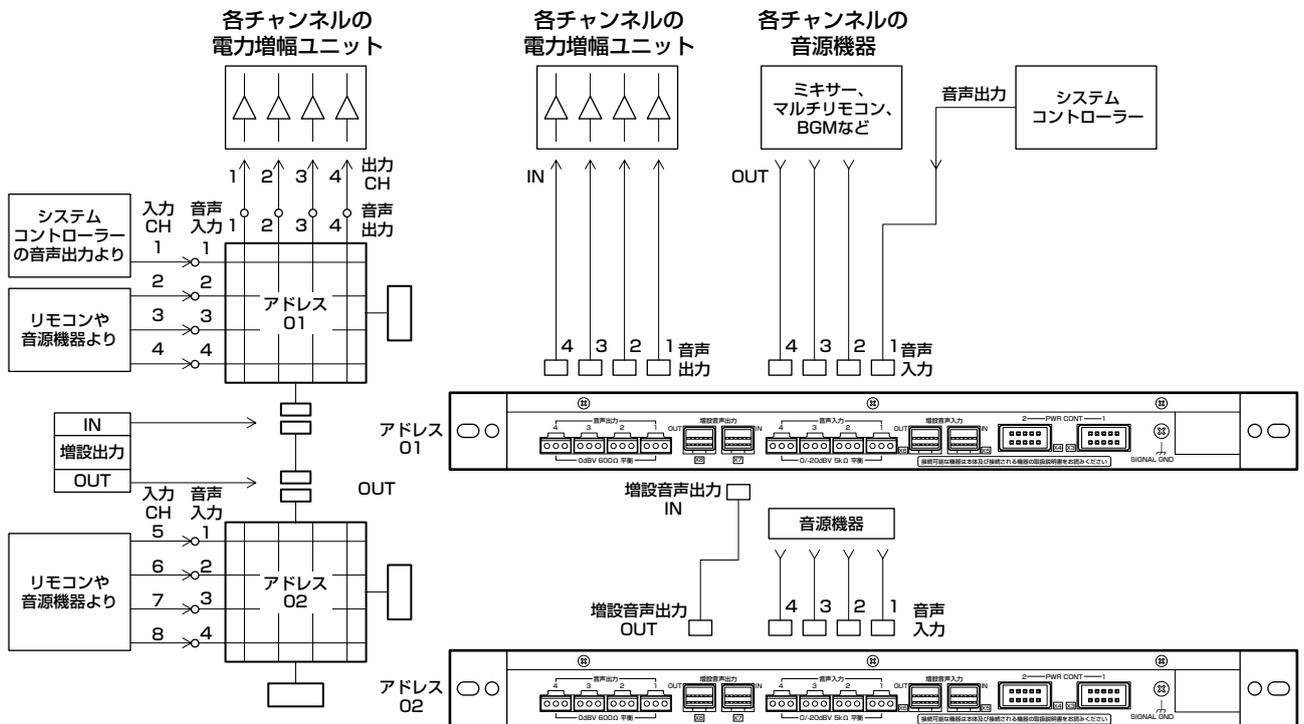
入力マトリクスを使用するには、書き込み設定が必要です。書き込み設定では図中の入力CHおよび出力CHの番号を指定して放送を行うシステムを設定します。

●基本接続：4入力4出力の場合

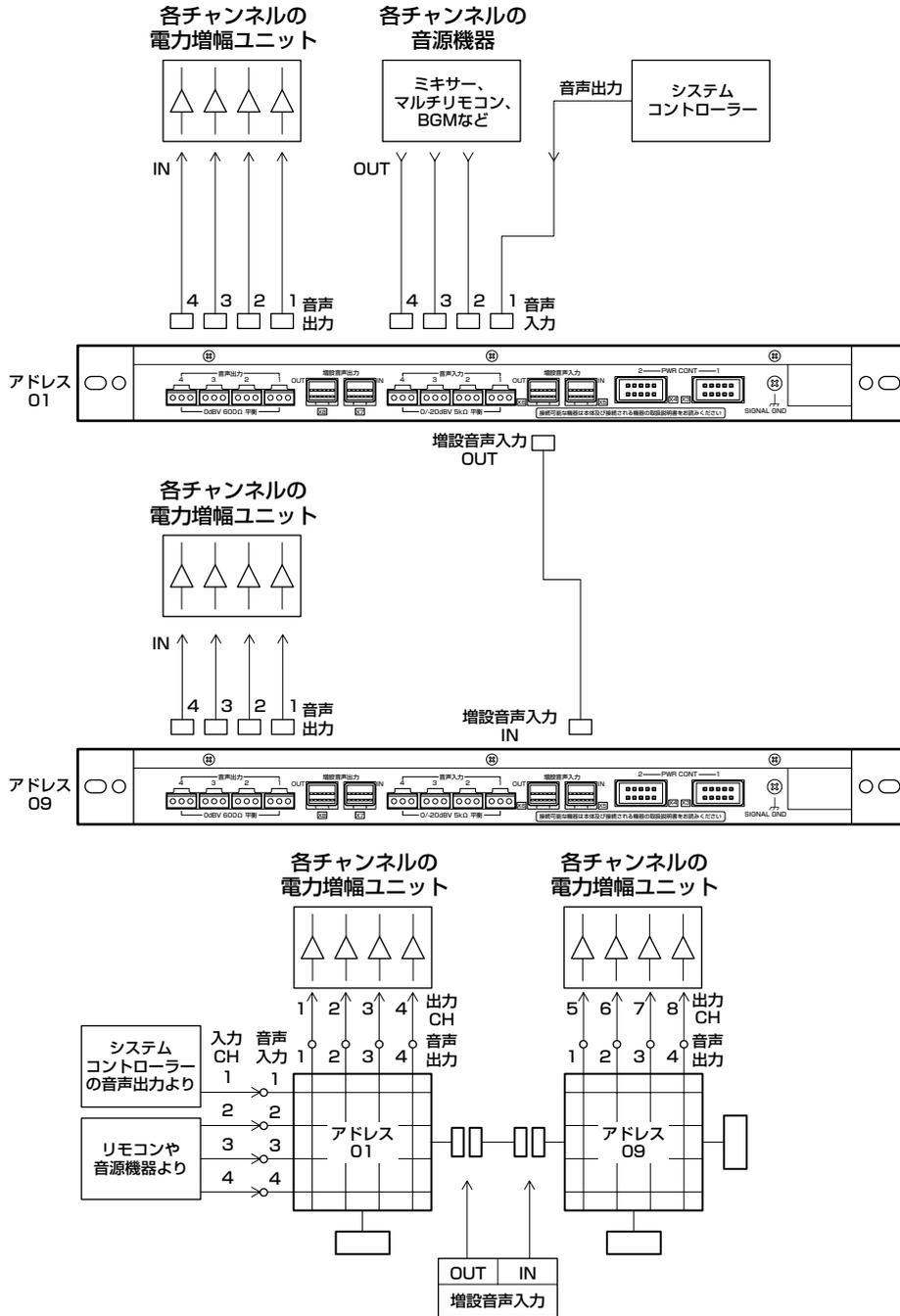


システムの応用

●入力の増設：8入力4出力の場合



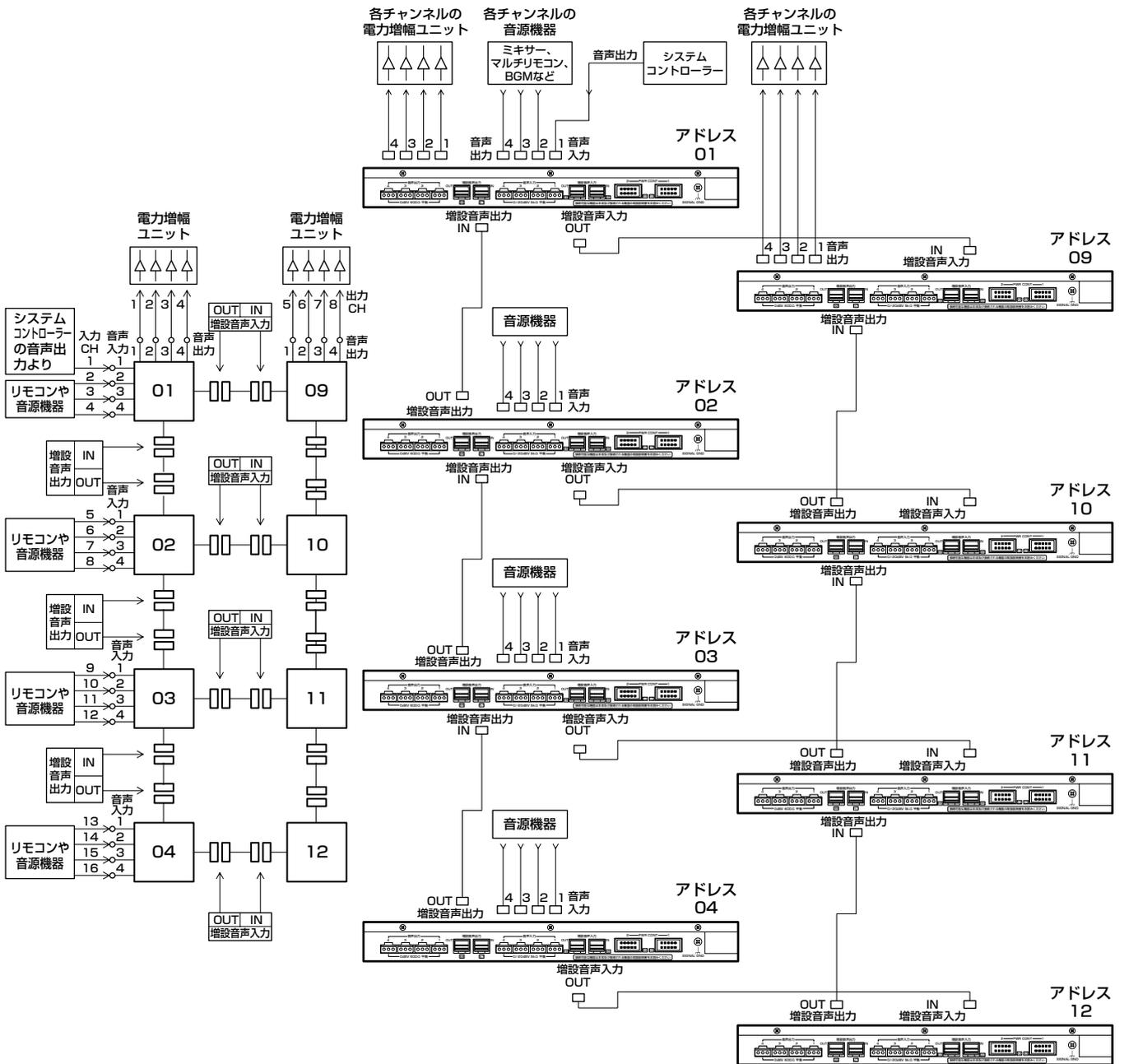
●出力の増設：4入力8出力の場合



多元放送について (つづき)

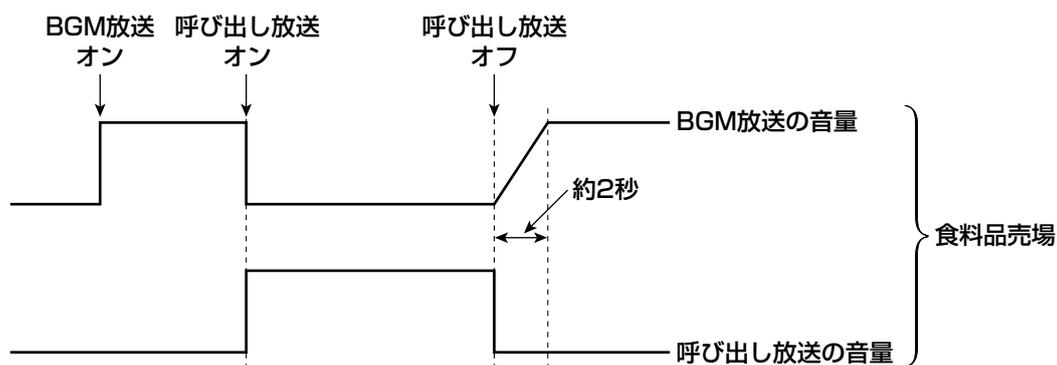
●入出力の増設：16入力8出力の場合

システムの応用



フェード動作について

- ・入力マトリクスユニット前面のスイッチ設定を行うことにより、フェードイン動作を行います。
- ・例えば、食料品売場にBGM放送しているときにマルチリモコンからの呼び出し放送が入ってきた場合、BGM放送は下図のように放送されます。

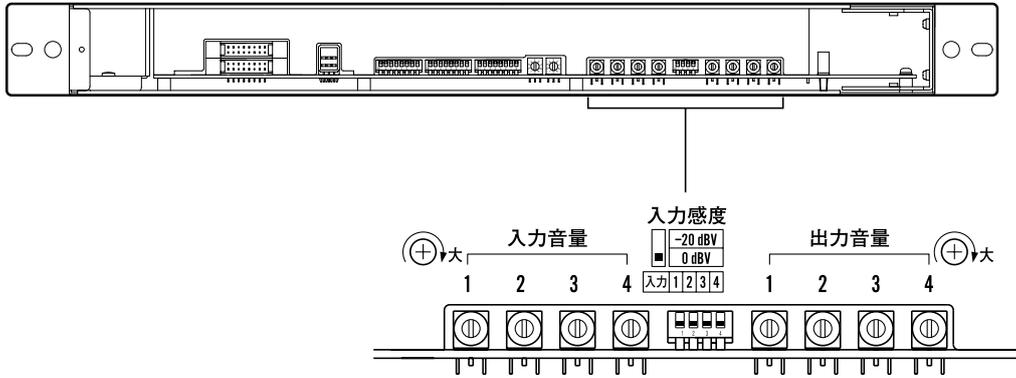


メモ

- フェード設定は音声入力ごとにON/OFF設定をします。入力マトリクスの初期値では、フェード設定はOFFになっています。(→106ページ)
- 複数台の入力マトリクスを接続してシステムを構築している場合、フェード動作を行う音声入力が接続されているすべての入力マトリクスの設定をONにする必要があります。
- フェードアウト（放送終了時に音がだんだん小さくなる）動作はできません。

入力音量／出力音量の調整

入力マトリクスの前面パネルを外します。



■入力感度設定

- ・音声入力に接続される機器の出力レベルに合わせて設定します。
- ・マルチリモコン、リモコンマイクやCD-ミュージックプレーヤーは0 dBVにしてください。（初期設定）

※初期設定は0 dBVに設定されています。

<input type="checkbox"/>	-20 dBV			
<input type="checkbox"/>	0 dBV			
入力	1	2	3	4

重要

- システムコントローラーの音声出力を接続するアドレス [01] の入力マトリクスの音声入力1は、入力感度を0 dBVに設定してください。

■入力音量 [入力音量調整ボリューム]

- ・入力1～4の各音量を調整します。
- ・反時計方向（左回り）に回すと音量が下がります。初期設定は最大に設定されています。

■出力音量 [出力音量調整ボリューム]

- ・出力1～4の各音量を調整します。
- ・反時計方向（左回り）に回すと音量が下がります。初期設定は最大に設定されています。

設置完了確認チェックポイント

接続点検

すべての接続が終わったら、電源制御ユニット（WU-L62）のブレーカーを「入」にする前に、各ユニット間のケーブル接続および外部配線の接続ミスや配線忘れがないか再度、配線、接続・ディップスイッチの設定を点検します。

●アース線接続の確認

- ・電源制御ユニット（WU-L62）のアース線接続（D種設置工事が必要 →51ページ）
- ・ラックのアース線接続（→30ページ）

●アドレス設定の確認

増設用操作ユニット（WK-EX510／EX520）、増設用出力制御ユニット

（WU-ER551／ER552）はロータリースイッチによるユニットアドレス設定が必要（→95ページ）

- ・周辺外部機器の入力マトリクスユニット（WU-MX544）、マルチリモコンマイク（WR-MC100A）、拡張制御ユニット（WK-EX590）、非常制御出力ユニット（WU-EM552）の接続にもユニットアドレスの設定が必要

●通信終端設定の確認

マルチリモコンマイク（WR-MC100A）を接続する場合、接続の形態に応じて入出力制御ユニット（WU-KR600）およびマルチリモコンマイクの通信終端の設定が必要（→35、57ページ）

●停電時に緊急および業務放送を行う場合の設定

- ・入出力制御ユニットの外部制御入力およびリモコンマイクを使用して停電時の緊急・業務放送を行う場合には、ディップスイッチの設定が必要（→83、84ページ）
- ・非常電源ユニット内のジャンパーをURG側に設定します。

●スピーカー短絡検出感度切替の設定

- ・入出力制御ユニットのスピーカー出力端子に接続されるスピーカーのワット（W）数に応じて、入出力制御ユニットのスピーカー短絡検出感度切替スイッチの設定が必要（→35ページ）

●電力増幅ユニットを接続する系統の確認

- ・入出力制御ユニットのPA入力コネクタに接続可能な電力増幅ユニットは、1端子当たり480 Wまでの制約がある。
- ・入出力制御ユニットのスピーカー出力には1回線当たり200 Wまでの制約がある。
以上の制約をまもるため、場合によっては系統分けが必要

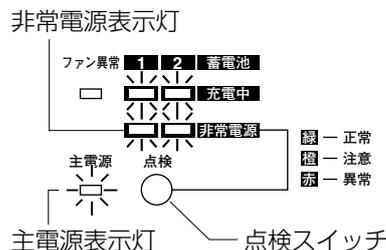
電源投入時の確認

- 1 電源制御ユニット (WU-L62) のブレーカーを「入」にして、電源制御ユニットのヒューズが切れたりしないか確認する
- 2 システムコントローラー (WK-KC600) の「通電」表示灯が点灯しているか確認する
AC100 Vが供給されていれば、通電表示灯が点灯（緑色）します。
※消灯の場合は、「故障かな!？」（→225ページ）をお読みください。
- 3 各機器の「通電」表示灯が点灯しているかを確認する
DC24 Vで動作する機器は、システムコントローラーまたは電源制御ユニットから電源を供給しています。

停電放送を行うために非常電源ユニットを使用している場合は以下の確認も行ってください。

- 4 非常電源ユニット (WP-570B) の前面パネルを外し、内部の蓄電池スイッチを「入」にする（→85ページ）
- 5 非常電源ユニット (WP-570B) の主電源表示灯、充電中表示灯、ファン異常表示灯を確認する

正常状態…主電源表示灯、充電中表示灯は点灯、ファン異常表示灯は消灯



メモ

- 接続された蓄電池が1個だけのとき、もう一方の充電中表示灯は点灯しません。

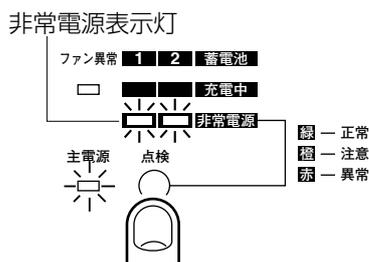
- 6 点検スイッチを押しながら非常電源表示灯を確認する

点検スイッチを押している間は、充電中表示灯は消灯します。

緑：正常電圧の範囲内

橙：正常電圧の下限（蓄電池の交換時期が間近です。）

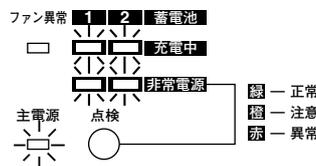
赤：動作電圧以下（蓄電池を交換してください。）



重要

- 押している時間が短いと正しい点検ができません。5秒以上押ししてください。
- 点検時は蓄電池を消耗します。点検スイッチを10秒を超えて押さないでください。

- 7 点検スイッチを放し、充電中表示灯が点灯するか確認する



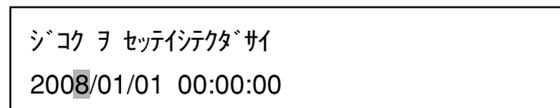
時刻設定のしかた

初期設定から一度も時刻設定を行っていないときや本機を長時間電源「切」状態とし、内蔵時計のバックアップ時間が過ぎてしまったときにシステムコントローラーの電源投入時に、液晶画面に時刻設定画面が表示されます。*1
プログラムコントローラーを正しく使用するために、必ず正しい時刻を設定してください。

1 システムコントローラーの電源を投入します。

→バージョンが表示されてから約10秒後に、初回起動時の時刻設定画面が表示されます。

初回起動時の時刻設定画面

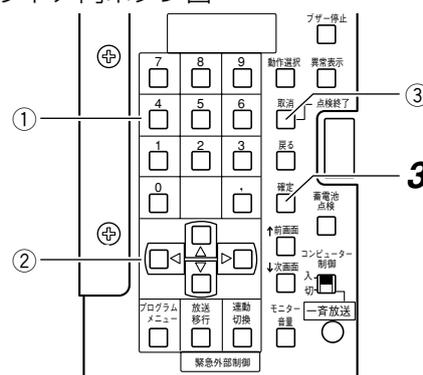


2 マイクドア内のボタンとテンキーを使用して、現在の日付と時刻を入力します。

日付は20yy/mm/ddで、時刻は24時間制で秒単位まで設定できます。

入力は、「西暦の下2桁」、「月」、「日」、「時」、「分」、「秒」ごとに設定します。

マイクドア内ボタン図



①テンキー

カーソル位置の項目に数値を入力できます。

②十字ボタン 上/下

カーソル位置の項目の数値を増減できます。
長押しすると、連続して数値を変更でき、画面中の数値は連続して変化します。

十字ボタン 左/右

カーソル位置を左右の項目に移動します。

③取消

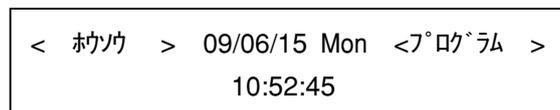
カーソル位置の数値をクリアできます。

取消を押すと、各項目の上位の桁が下位の桁に繰り下がります。(例：12 → 取消 → 01)

間違った数値を入力してしまった場合は十字ボタンの左/右を押してカーソルを修正したい項目に合わせ、取消でクリアしてから正しい数値を入れてください。

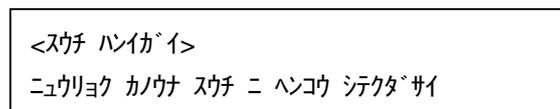
3 年月日・時分秒をすべて正しく入力したら、確定を押します。

通常画面



入力した数値が設定範囲外*2だった場合は、右の画面が表示されます。戻るを押して手順1からやり直してください（無操作のまま8秒経過しても自動的に手順1の画面に戻ります）。

注意喚起画面（数値範囲外）



4 「ヘンコウシマスカ？」と表示されるので、[1.ハイ] を選択し、時報などのタイミングに合わせて確定を押します。

→「ヘンコウシマシタ」が表示されます。

*1 初期電源投入時以外に、長期間電源が供給されなかった場合も時刻設定が必要になります。

*2 許容範囲外数値の例：24時間を超える、60分や60秒を超える数値

書き込みの概要

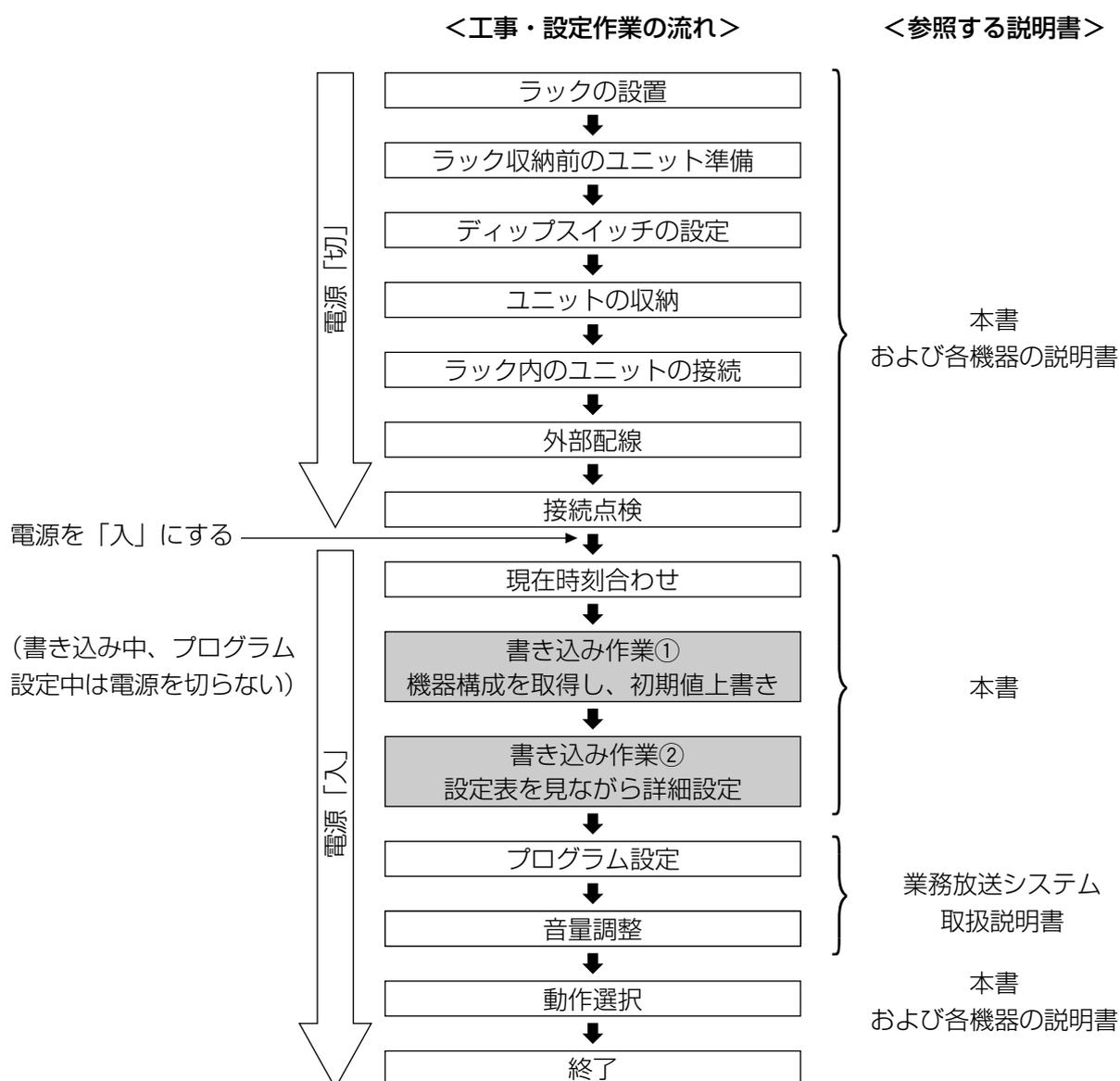
書き込みとは

建物の規模や放送の目的に合わせて、多様な放送機能を設定することを「書き込み」と呼びます。また、書き込みにより作成されたデータを「設定データ」と呼びます。

書き込み作業は本体の前面パネル上から行う以外に、専用の設定支援ソフトを使ってPCからも行うことができます。PCで作成された設定データは、PCを本体とケーブル接続するか、PCカードを使って本体に書き込みます。

設置工事における書き込み作業・設定作業の流れと参照する説明書は、以下のとおりです。

■書き込み・設定作業の流れ

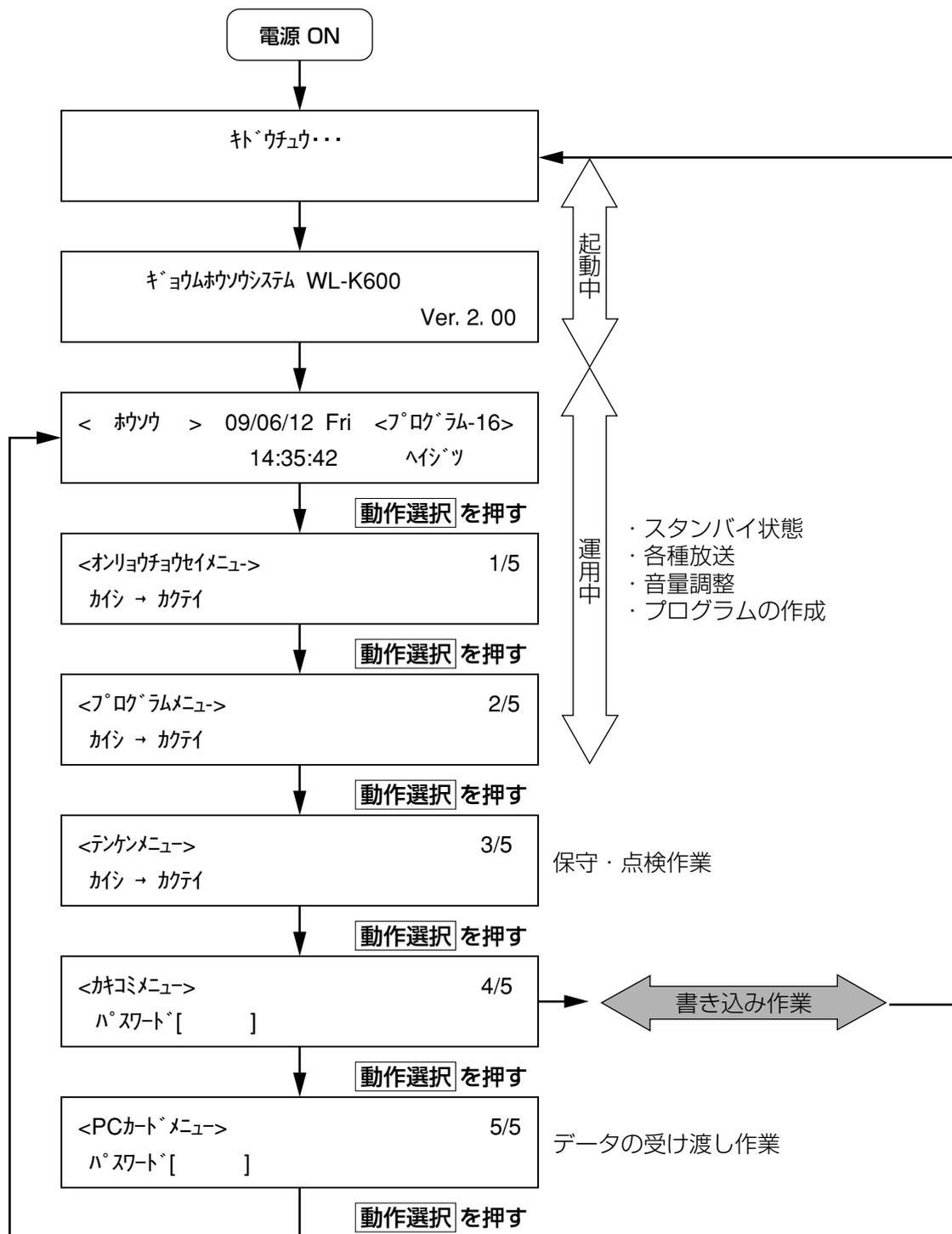


■運用と書き込みの関係

書き込みは、本体がスタンバイ状態（放送なし）・業務放送中のときに、「書き込みメニュー」を開くことにより実行でき、緊急放送中は、書き込みメニューを開くことはできません。

書き込み作業を行い、本体の設定データを更新すると本体が再起動します。

書き込み作業中に、緊急放送を開始すると、書き込みメニューはただちに中止され、これまでの変更内容も破棄されて放送が行われます。



設定項目一覧

書き込みで設定する項目は、以下のとおりです。液晶画面に表示される順に記載しています。本体だけでしかできない内容がありますので、下記内容をご確認のうえ、作業してください（下記の「設定支援ソフト」欄が「×」の項目は、本体で設定してください）。

1. 機器構成設定 <キキコウセイ>

項目 <画面タイトル>	内容	参照 ページ	設定支援 ソフト
1 構成取得 <シュトク>	一部の機器構成を変更した場合には行います。	158	×
2 構成取得+初期値上書き <シュトク+ ショキチウワガキ>	システムを新規に構築した場合、必ず最初に行います。接続機器の情報を取得し、設定を初期化します。	156	×
3 構成確認/設定 <カクニン/セツテイ>	上記1または2で取得した機器構成の確認および設定を行います。	159	○

2. 緊急放送設定 <キンキュウ>

項目 <画面名称>	内容	参照 ページ	設定支援 ソフト
1 緊急スイッチ <キンキュウSW>	本体の緊急放送スイッチによる放送内容と放送先スピーカー回線を設定します。	166	○
2 外部制御入力 <ガイブセイギョ>	外部制御入力による緊急放送内容と優先順位、放送先スピーカー回線を設定します。	166	○
3 拡張外部制御入力* <カクチョウガイブセイギョ>	拡張外部制御入力による緊急放送内容と優先順位、放送先スピーカー回線を設定します。	166	○
4 一斉EMG24Vブレイク <イッセイEMG 24Vブレイク>	緊急放送時の一斉EMG24Vブレイク端子の使用を設定します。	169	○
5 汎用出力 <ハンヨウシュツリョク>	緊急放送時の汎用出力の使用を設定します。	170	○
6 ライン2 <ライン2>	本体ライン2入力を緊急放送専用か業務放送との兼用かに設定します。	170	○

※ 拡張制御ユニット（WU-EX590）（別売り）が必要です。

3. 業務放送設定 <ギョウム>

項目 <画面名称>	内容	参照 ページ	設定支援 ソフト
1 本体 <ホンタイ>	システムコントローラーと増設用操作ユニットのスピー カー選択スイッチによる放送先スピーカー回線・優先放送 と放送ブロックスイッチによる放送内容と放送先スピー カー回線・優先放送、本体の優先順位を設定します。	174 177 178	○
2 マルチリモコン <マルチリモコン>	マルチリモコンによる放送内容、ブロックスイッチの放送 先スピーカー回線・優先放送、優先順位、一斉スイッチの 優先放送を設定します。	174 177 178	○
3 リモコンマイク <リモコンマイク>	リモコンマイクによる放送内容、ブロックスイッチの放送 先スピーカー回線・優先放送、優先順位、一斉スイッチの 優先放送を設定します。	174 177 178	○
4 外部制御入力 <ガイクセイギョ>	外部制御入力の放送内容、放送先スピーカー回線・優先放 送、優先順位を接点ごとに設定します。	175 177 178	○
5 拡張外部制御入力* <カクチョウガイクセイギョ>	拡張外部制御入力の放送内容、放送先スピーカー回線・優 先放送、優先順位を接点ごとに設定します。	175 177 178	○
6 チャイム <チャイム>	チャイム起動の優先順位、放送先スピーカー回線、優先放 送を設定します。	177 178	○
7 ページング <ページング>	ページング起動の優先順位、放送先スピーカー回線、優先 放送を設定します。	177 178	○
8 BGM <BGM>	BGM起動の放送先スピーカー回線を設定します。	177	○
9 プログラム起動 <PGMキドウ>	プログラム起動の放送内容、放送先スピーカー回線・優先 放送、優先順位を起動No.1~20ごとに設定します。	176	○
10 同順位設定 <ドウジュンイセツテイ>	同じ優先順位の業務放送が複数起動したときに、先に起動 した放送／あとに起動した放送のいずれを優先するかを優先 順位（1位~16位）ごとに設定します。	178	○

4. 緊急放送と業務放送の共通設定

項目 <画面名称>	内容	参照 ページ	設定支援 ソフト
1 汎用出力設定 <ハンヨウシュツリョク>	汎用出力の起動元を接点ごとに設定します。	181	○
2 拡張汎用出力設定* <カクチョウハンヨウ シュツリョク>	拡張汎用出力の起動元を接点ごとに設定します。	181	○
3 状態出力設定 <ジョウタイシュツリョク>	状態出力の出力条件を接点ごとに設定します。	182	○
4 スピーカー回線登録 <SPカイセントウロク>	入力マトリクスユニット（WU-MX544）の音声出力に 接続するスピーカー回線を登録します。	183	○

※ 拡張制御ユニット（WU-EX590）（別売り）が必要です。

書き込みの概要（つづき）

5. 高度な設定 <コウドナセッテイ>

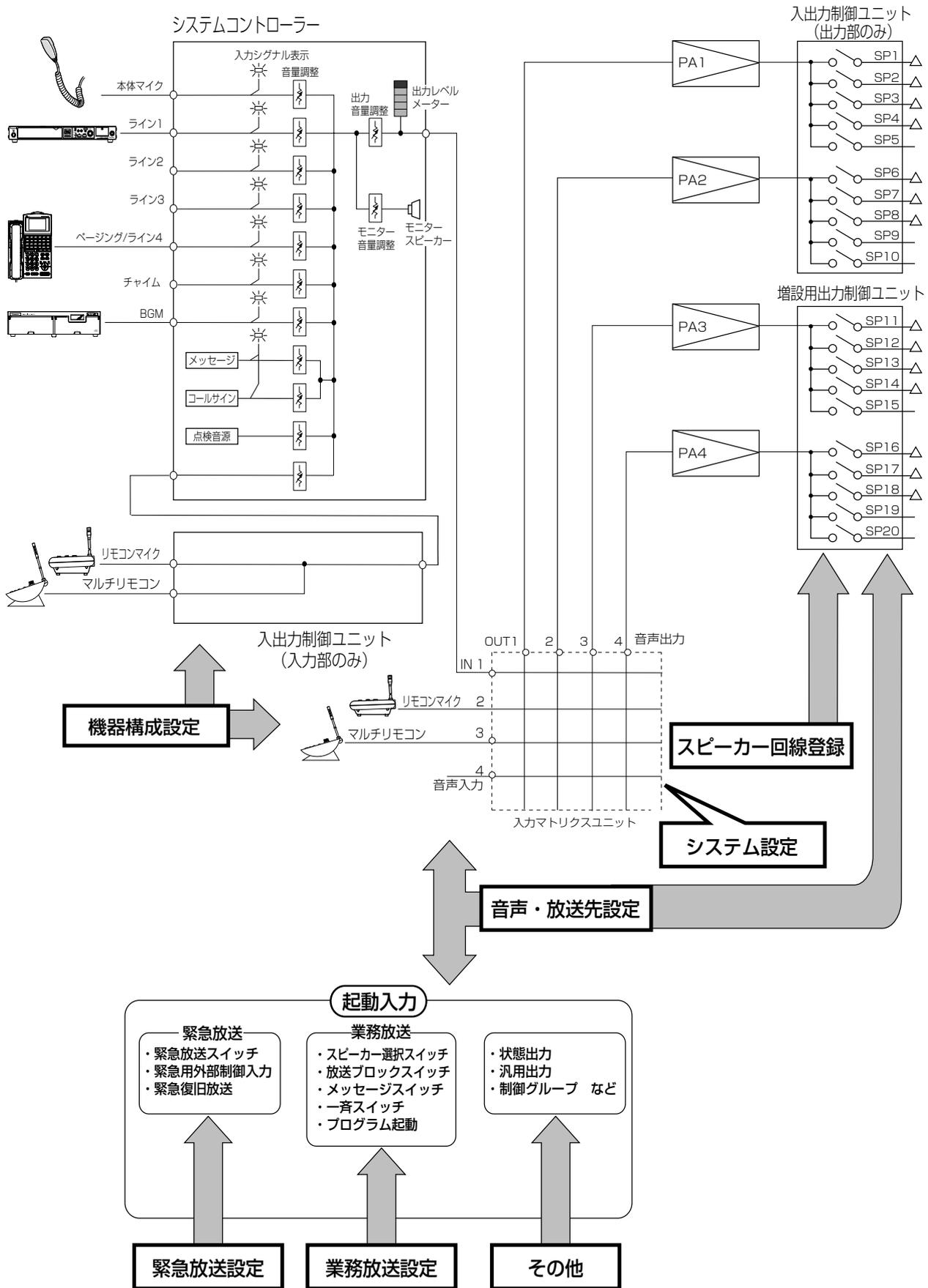
項目 <画面名称>	内容	参照 ページ	設定支援 ソフト
1 個別EMG24Vブレイク設定* <コベツEMG24Vブレイク>	個別EMG24Vブレイク接点ごとに、制御条件とするスピーカー回線を設定し、緊急放送時使用するかどうかを設定します。	187	○
2 コールサイン設定 <コールサイン>	システムコントローラー、マルチリモコン、リモコンマイクのコールサインスイッチに対応するコールサイン音を設定します。また、ページング起動の開始時・終了時のコールサイン音を設定します。	188	○
3 一斉スイッチ設定 <イッセイSW>	マルチリモコン、リモコンマイクの一斉放送スイッチの放送先をシステムコントローラーの一般一斉放送スイッチ・優先一斉放送スイッチ（本体一斉）／各リモコンの全ブロックスイッチ（実装一斉）から選択します。	189	○
4 制御グループ設定 <グループ>	外部制御入力・拡張外部制御入力をグルーピングすることにより、放送先の加算制御を行えるようにします。現地製作の接点リモコンを使用するときには有効です。プログラム起動をグルーピングすることにより、放送先を時間に合わせて追加・削除する運用を行うことができます。	190	○
5 メッセージスイッチ設定 <メッセージSW>	システムコントローラーと増設用操作ユニットに設定したメッセージスイッチに内蔵音源のメッセージ再生回数を設定します。	192	○
6 プログラムコントローラー設定 <プログラムコントローラー>	時刻補正方法、日付変更時刻（プログラムを切り換える時刻）、オートスタートを設定します。	193	○

※非常制御出力ユニット（WU-EM552）（別売り）が必要です。

6. その他の設定 <ソノタ>

項目 <画面名称>	内容	参照 ページ	設定支援 ソフト
1 パスワード変更 <パスワード>	本体のパスワードを設定します。数字6桁限定です。	195	×
2 蓄電池点検時刻設定 <チクデンチデンケンジコク>	1日に1度行う蓄電池点検の実行時刻（時：分）を設定します。	196	×
3 動作履歴クリア <ドウサリレキクリア>	本体に保存している動作履歴をクリアします。	196	×

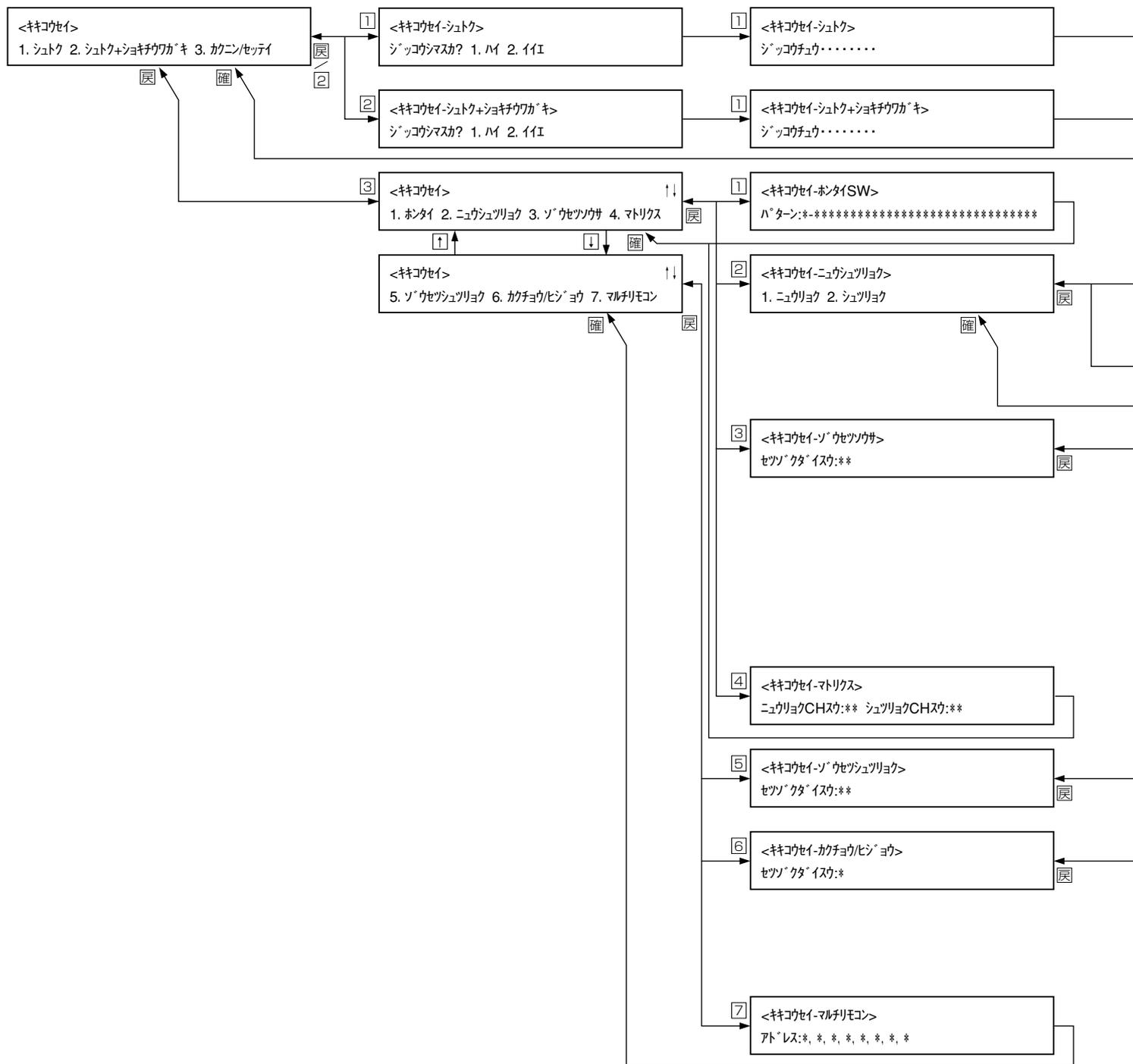
参考：書き込みと音声系統図の関係（多元システムの場合）



書き込み

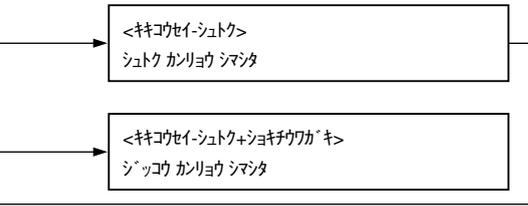
画面の流れ

1. 機器構成設定画面の流れ <キキコウセイ>



書き込み

メニュー下



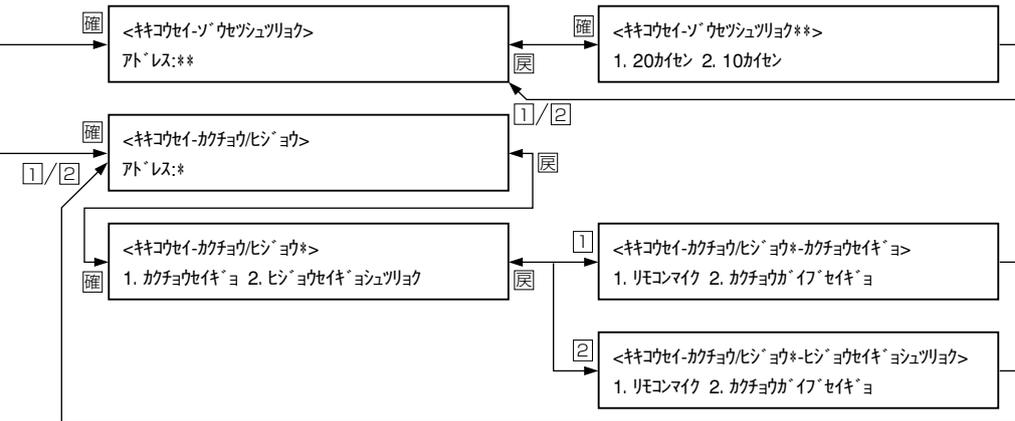
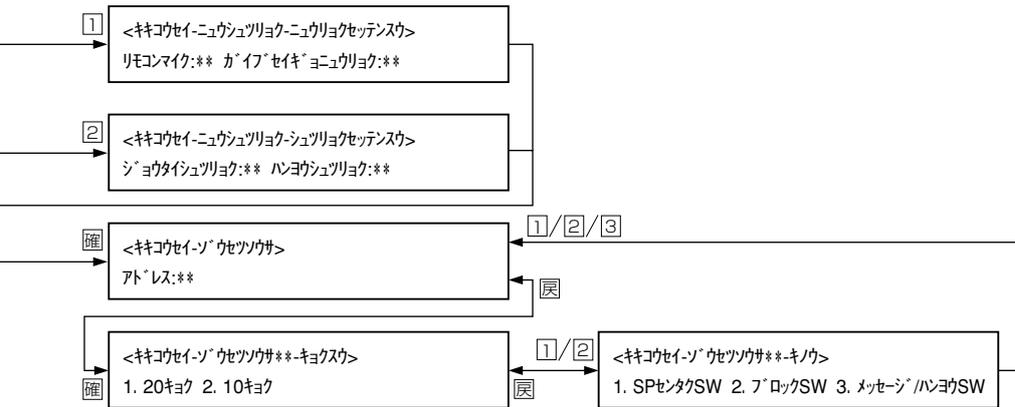
凡 例

0 1 2 . . . 9 テンキーの後に **確定**

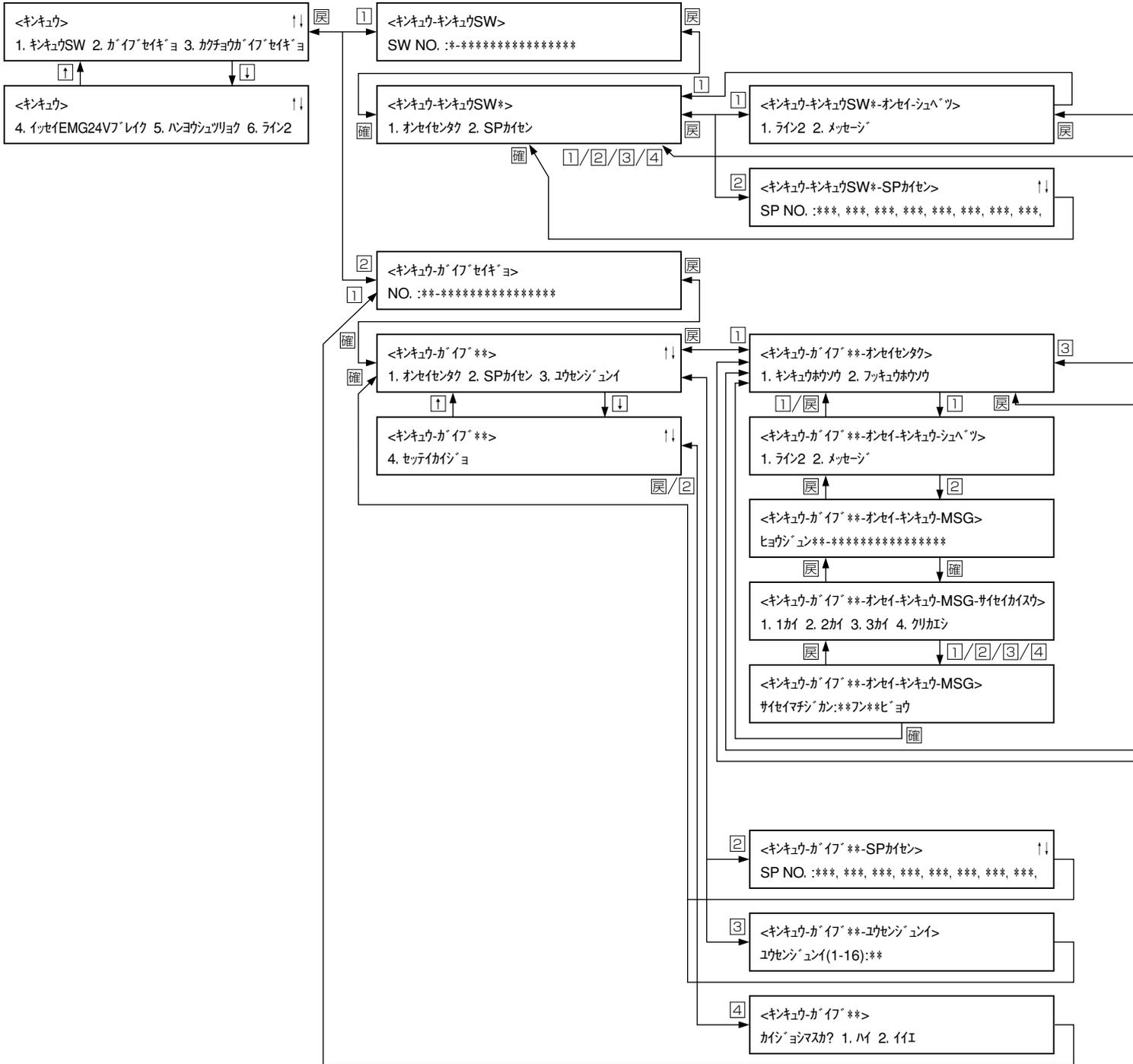
確 **確定**

戻 **戻る**

↑ ↓ **↑前画面 / ↓次画面**

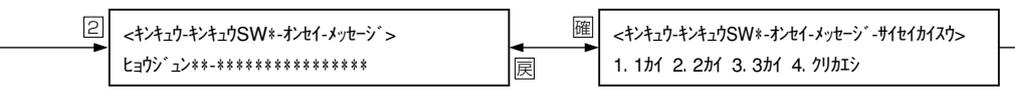


2. 緊急放送設定画面の流れ <キンキュウ>



書き込み

メニュー下 1/2



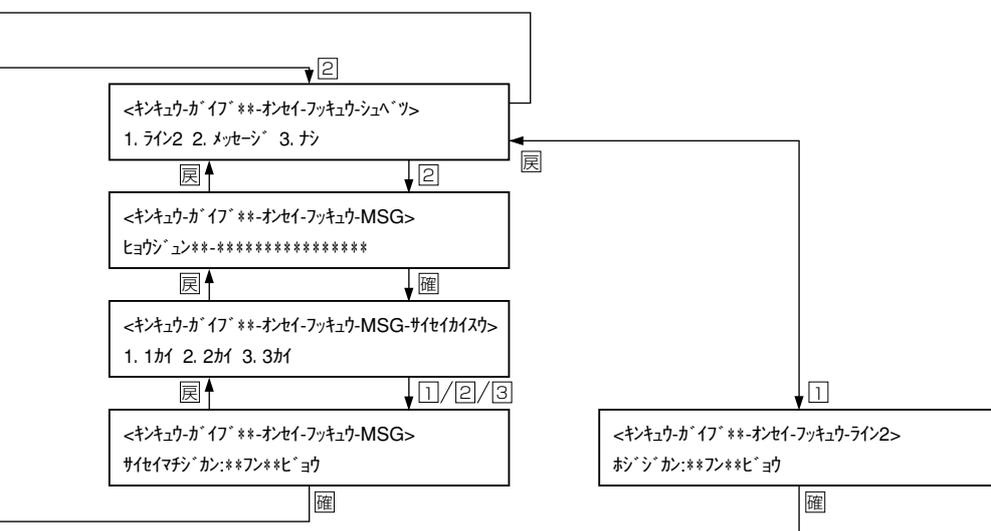
凡 例

0 1 2 . . . 9 テンキーの後に 確定

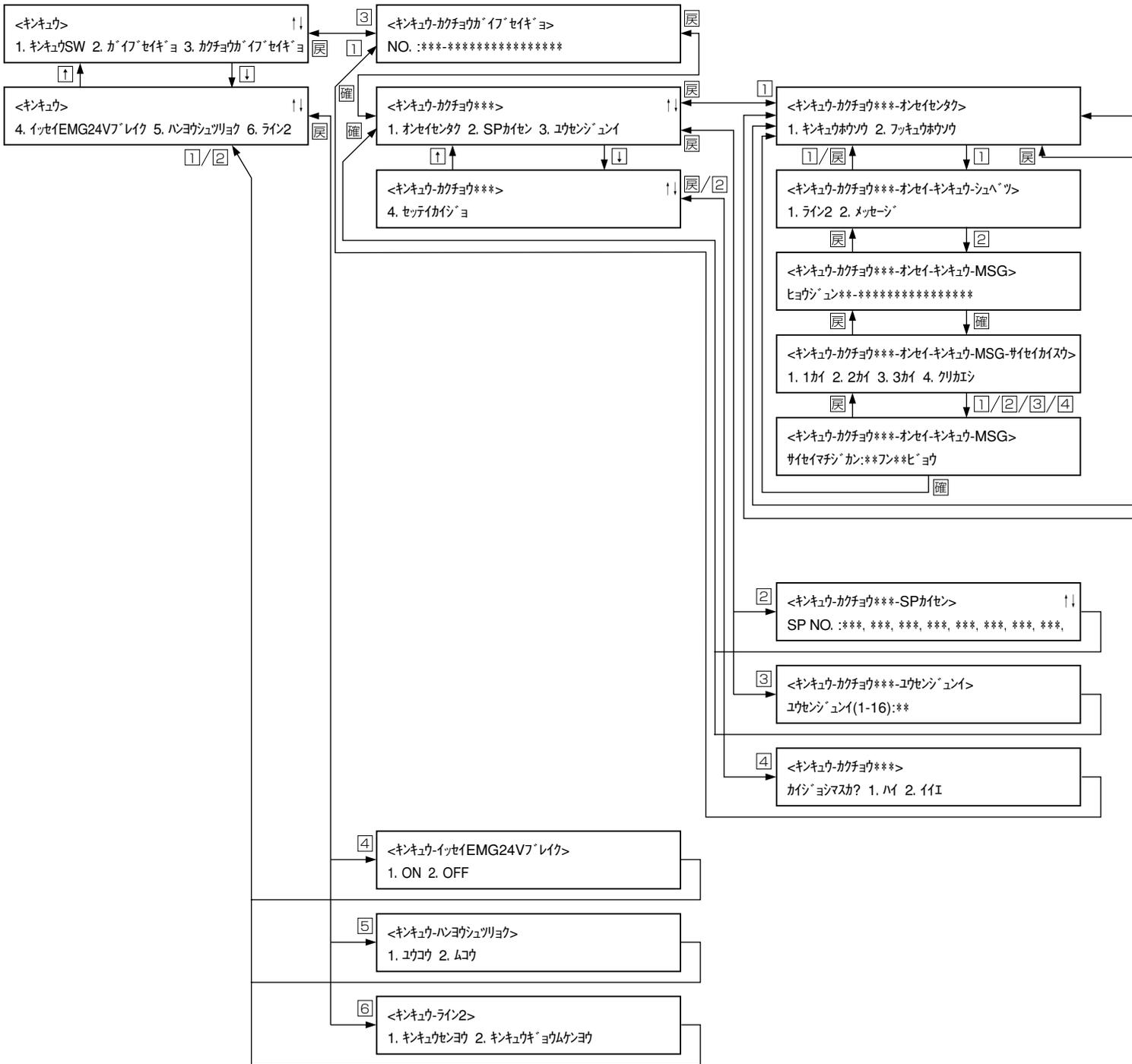
確 確定

戻 戻る

↑ ↓ ↑前画面 / ↓次画面



緊急放送設定画面の流れ <キンキュウ>



書き込み

メニュー下 2/2

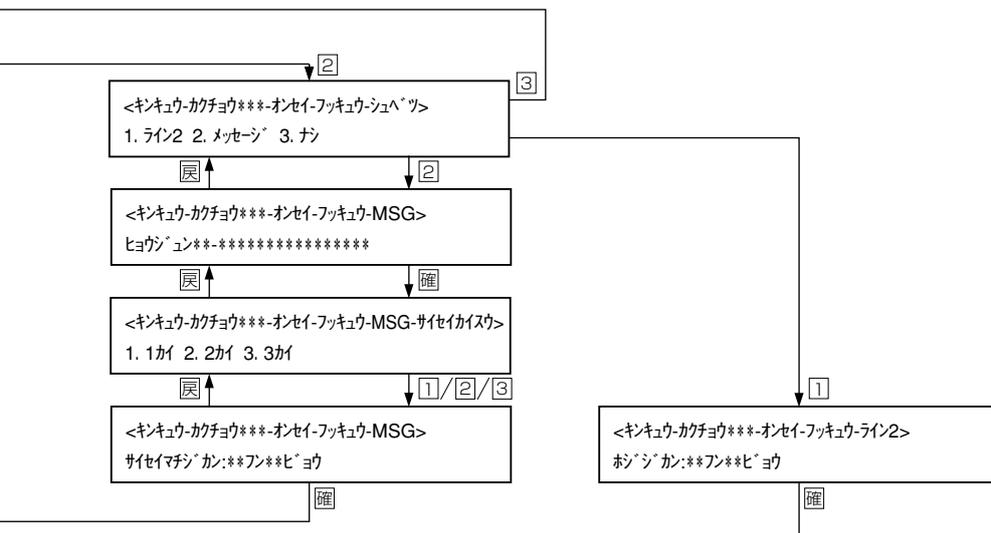
凡 例

0 1 2 . . . 9 テンキーの後に 確定

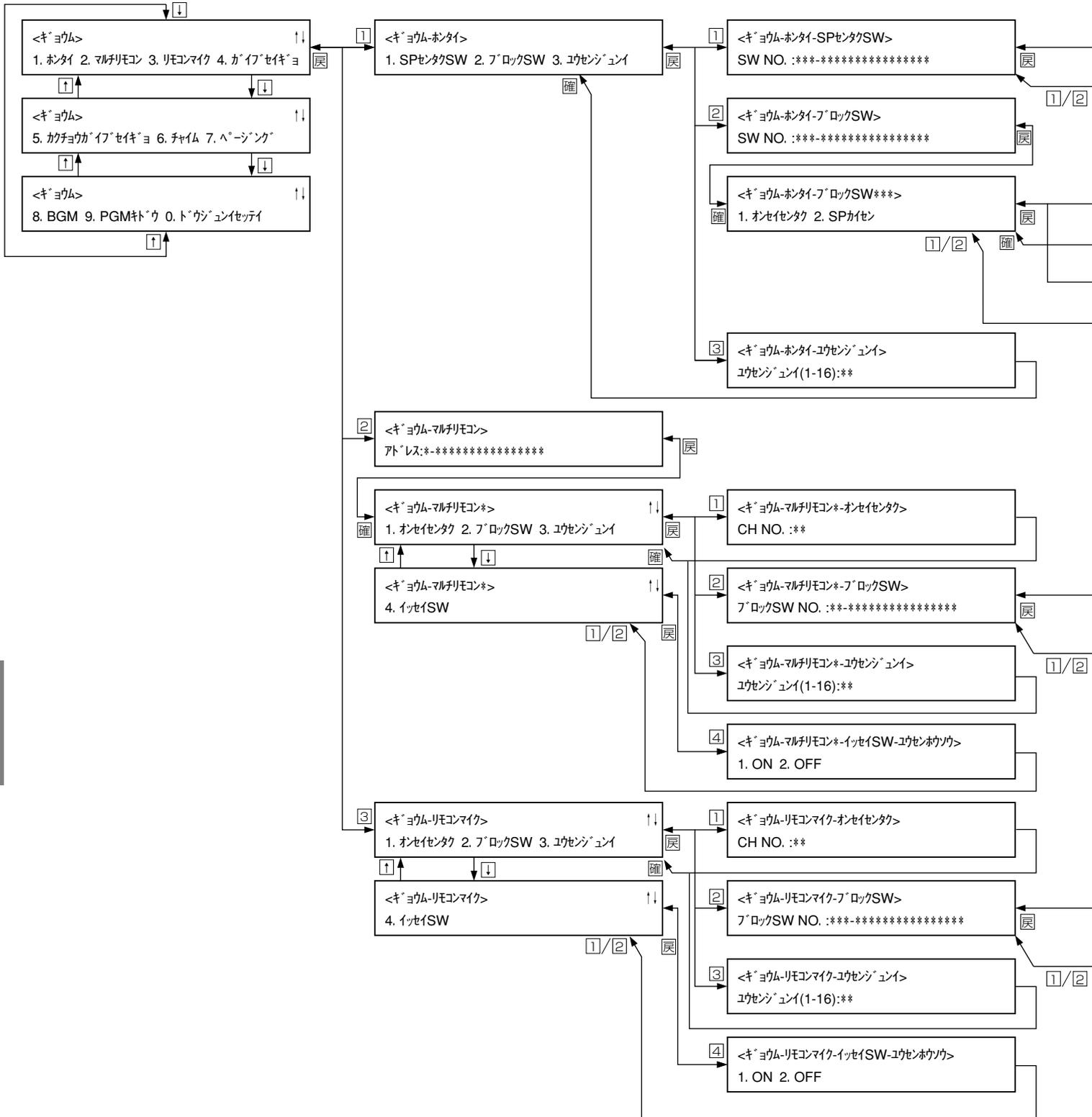
確 確定

戻 戻る

↑ ↓ ↑前画面 / ↓次画面

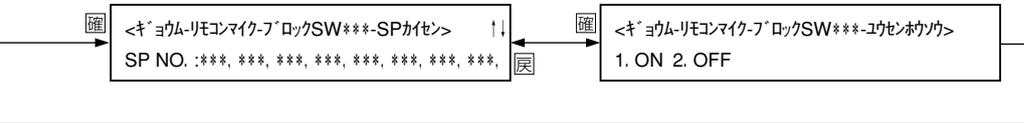
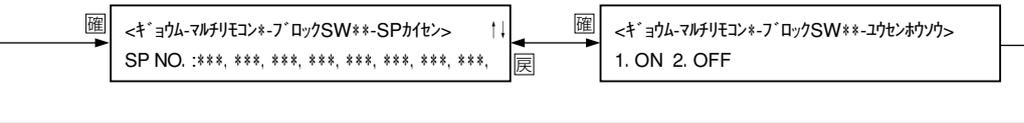
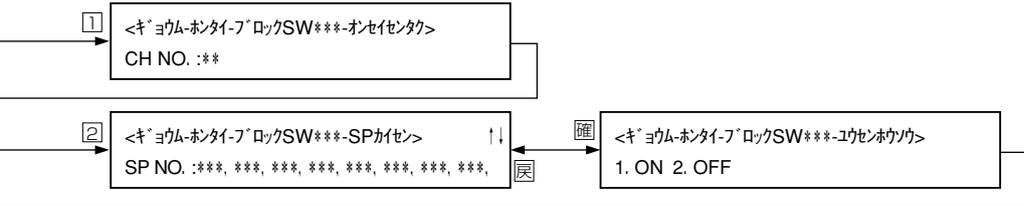
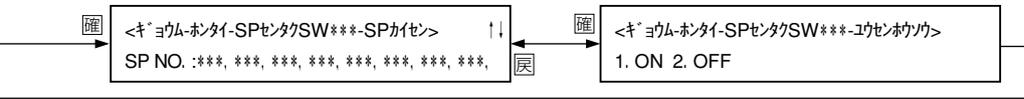


3. 業務放送設定画面の流れ <ギョウム>



書き込み

メニュー下 1/3



凡 例

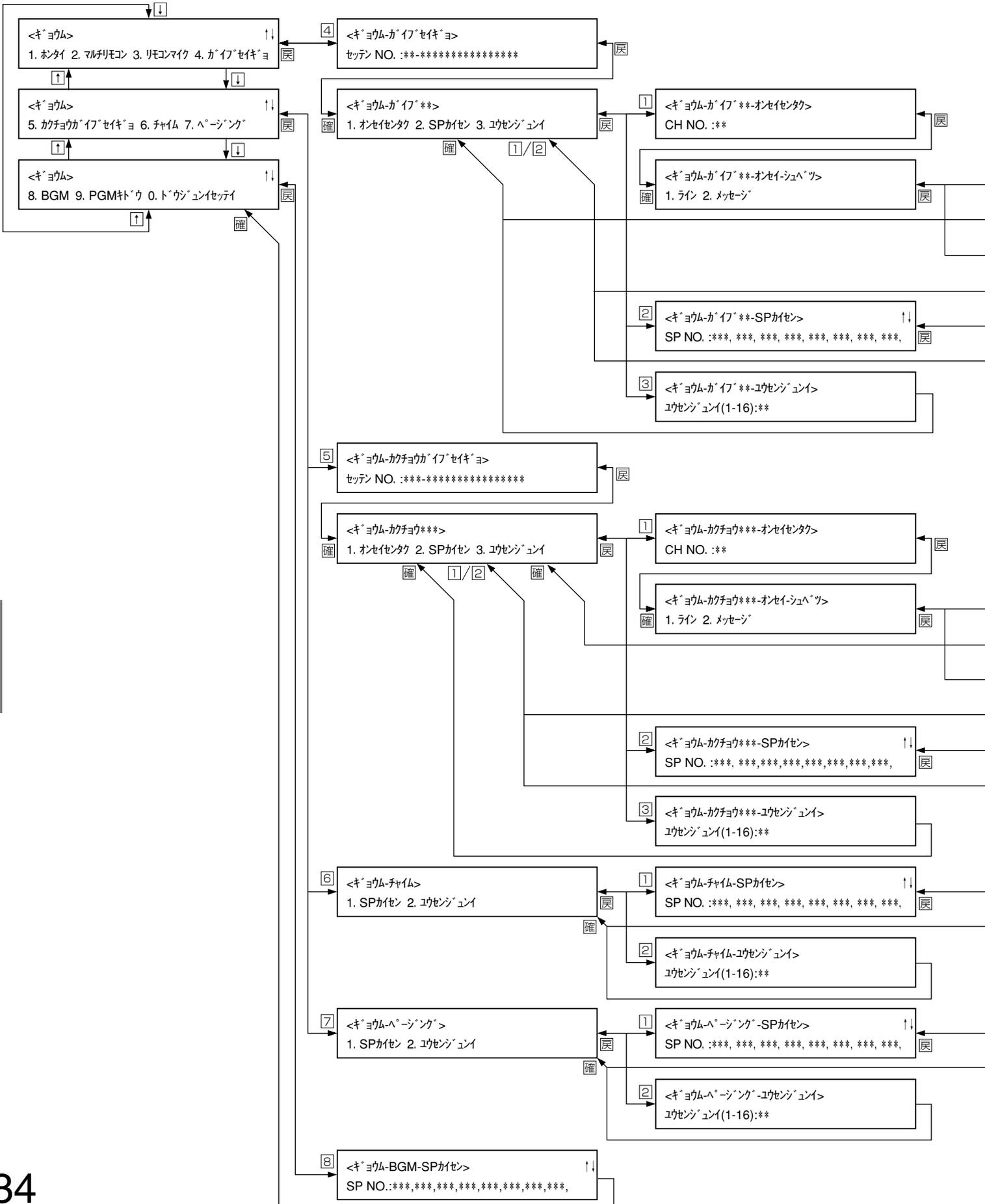
0 1 2 . . . 9 テンキーの後に 確定

確 確定

戻 戻る

↑ ↓ ↑前画面 / ↓次画面

業務放送設定画面の流れ <ギョウム>

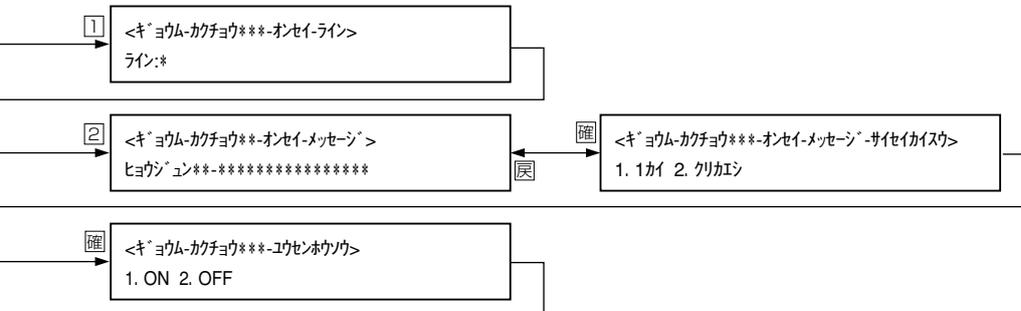
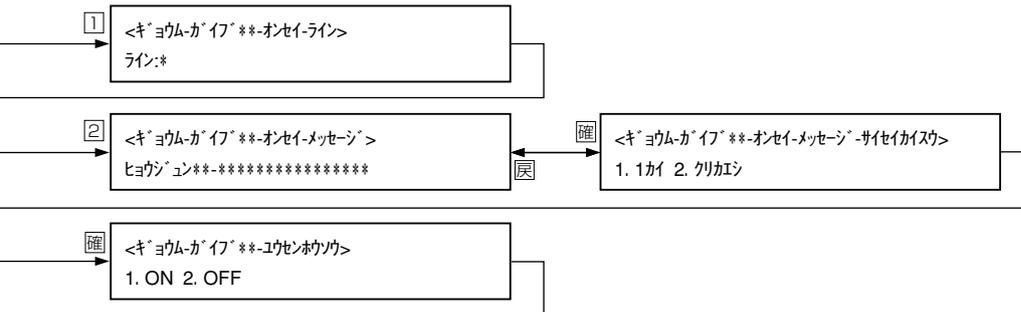


書き込み

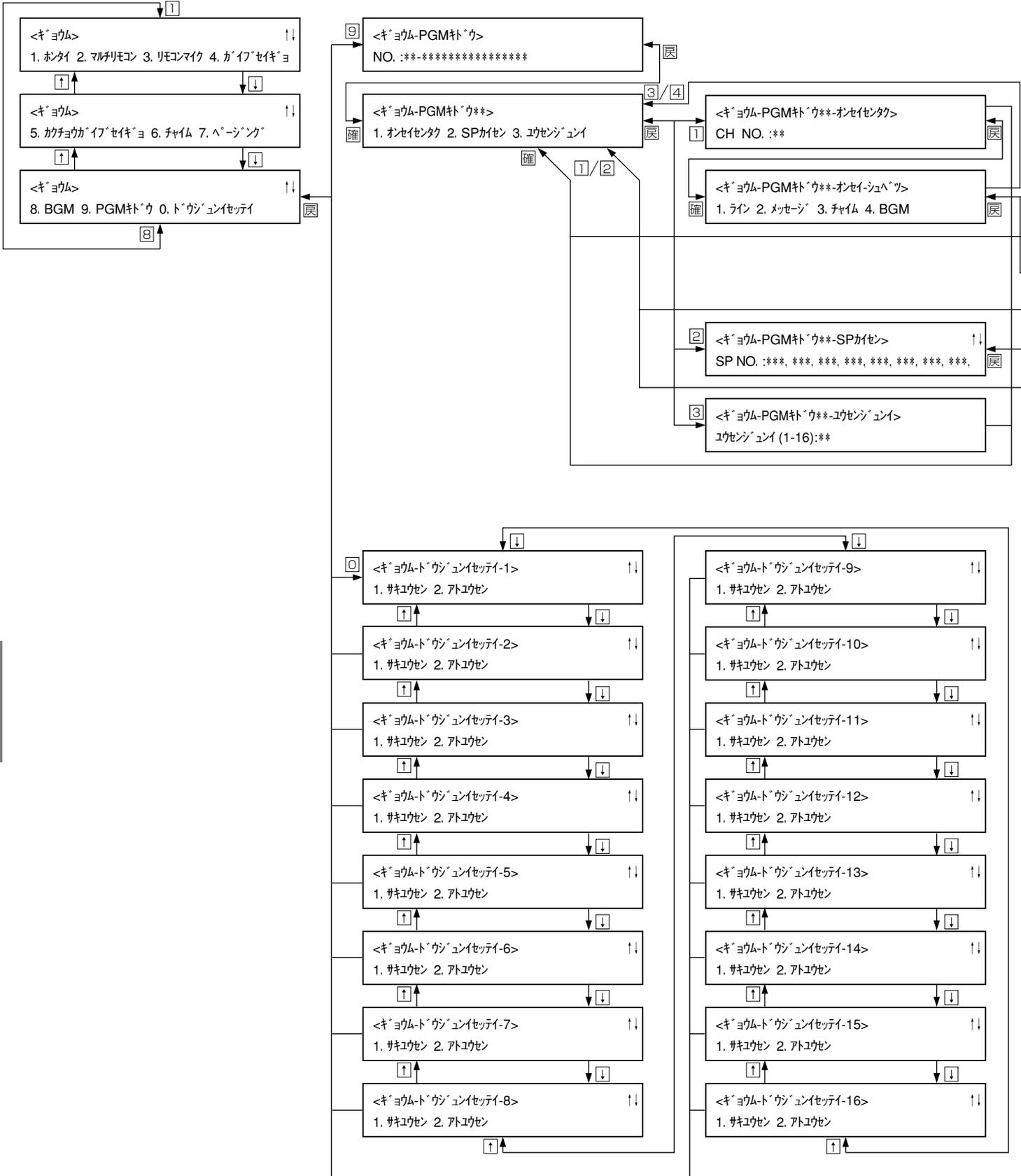
メニュー下 2/3

凡 例

0 1 2 . . . 9 テンキーの後に 確定
確 確定
戻 戻る
↑ ↓ ↑前画面 / ↓次画面



業務放送設定画面の流れ <ギョウム>

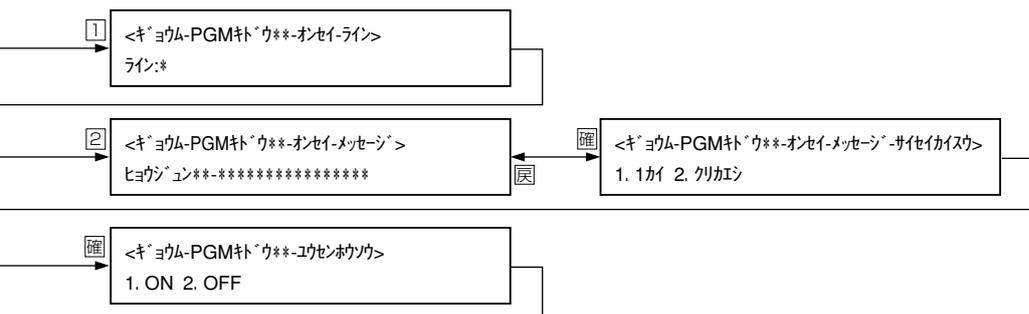


書き込み

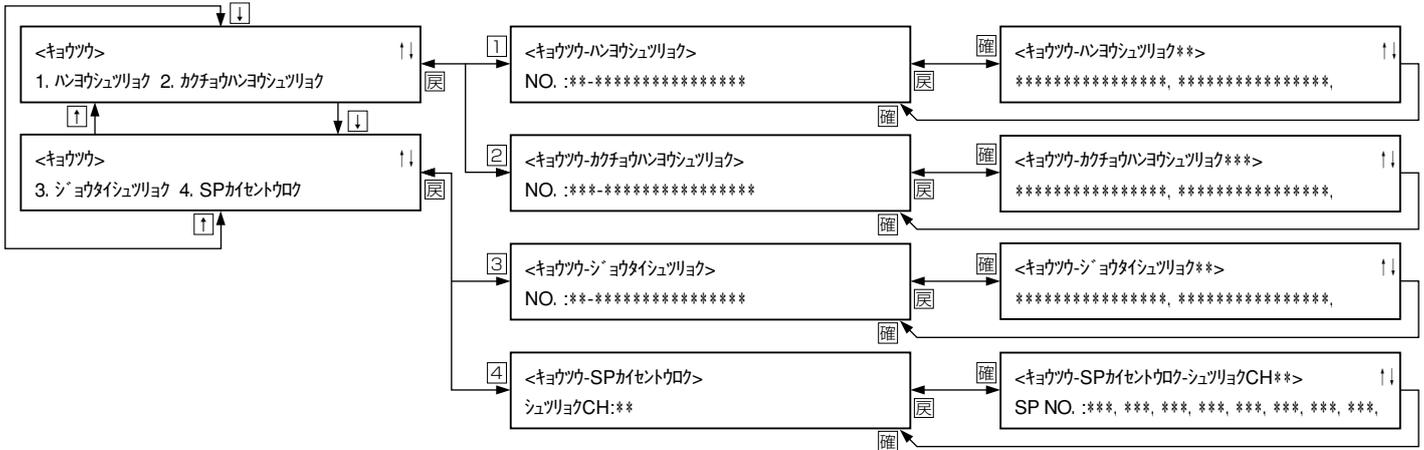
メニュー下 3/3

凡 例

0	1	2	...	9	テンキーの後に	確定
確						確定
戻						戻る
↑	↓					↑前画面 / ↓次画面



4. 緊急放送と業務放送の共通設定画面の流れ



凡 例

0 1 2 . . . 9 テンキーの後に 確定

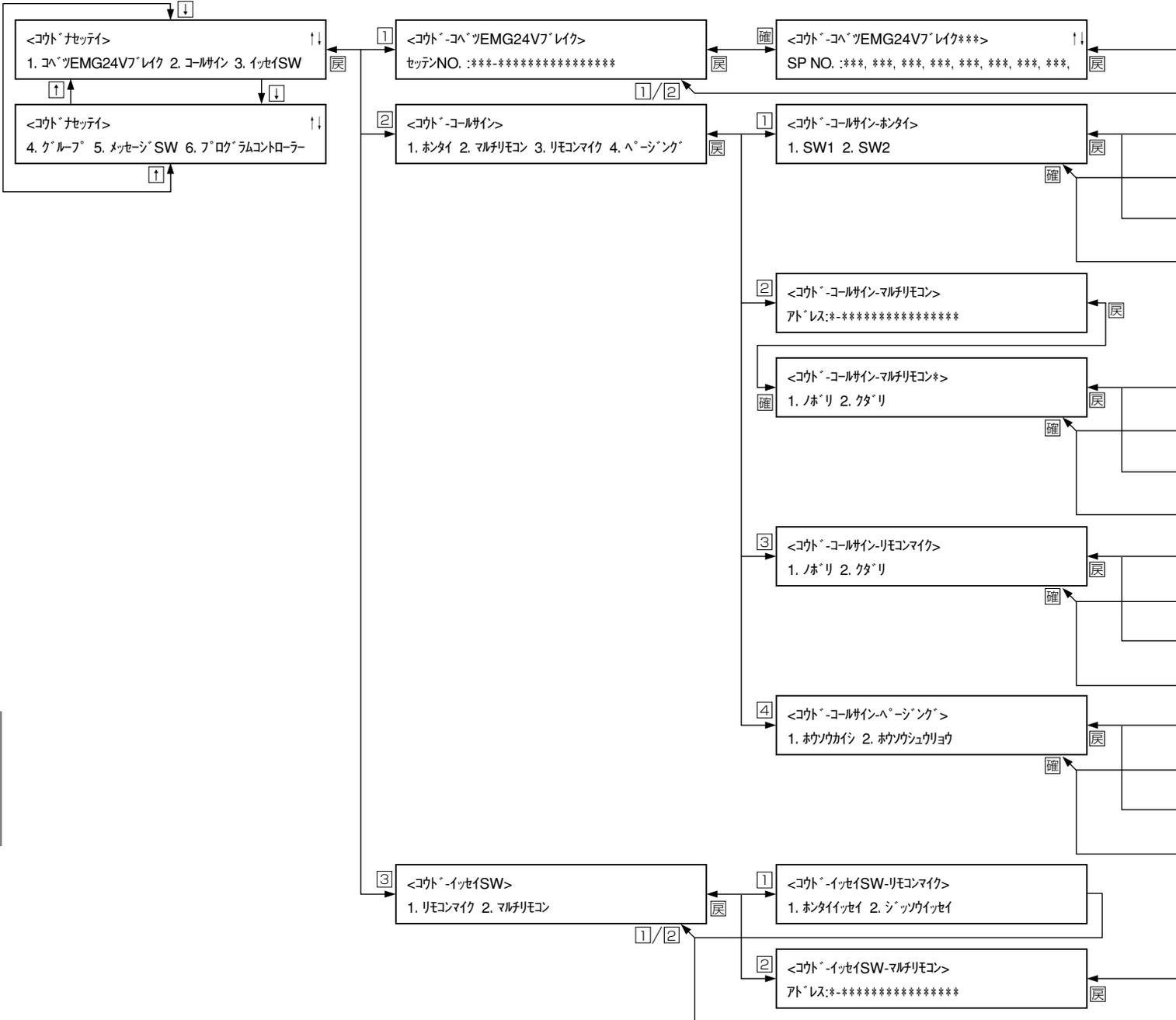
確 確定

戻 戻る

↑ ↓ ↑前画面 / ↓次画面

<キョウツウ>メニュー下

5. 高度な設定画面の流れ <コウドナセッテイ>



書き込み

メニュー下 1/2

<コウト-コハツEMG24Vﾌﾟﾚｲｸ***>
 キンキョウホウソウｼﾞﾝ 1. コウコウ 2. ﾑｺウ

<コウト-ｺｰﾙｻｲﾝ-ﾎﾝﾀｲ-SW1>
 ﾋョウｼﾞﾝ ﾕﾝ*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*

<コウト-ｺｰﾙｻｲﾝ-ﾎﾝﾀｲ-SW2>
 ﾋョウｼﾞﾝ ﾕﾝ*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*

<コウト-ｺｰﾙｻｲﾝ-ﾏﾙﾁﾘﾓｺﾝ*-ﾉﾎﾞﾘ>
 ﾋョウｼﾞﾝ ﾕﾝ*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*

<コウト-ｺｰﾙｻｲﾝ-ﾏﾙﾁﾘﾓｺﾝ*-ｸﾀﾞﾘ>
 ﾋョウｼﾞﾝ ﾕﾝ*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*

<コウト-ｺｰﾙｻｲﾝ-ﾘﾓｺﾝﾏｲｸ-ﾉﾎﾞﾘ>
 ﾋョウｼﾞﾝ ﾕﾝ*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*

<コウト-ｺｰﾙｻｲﾝ-ﾘﾓｺﾝﾏｲｸ-ｸﾀﾞﾘ>
 ﾋョウｼﾞﾝ ﾕﾝ*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*

<コウト-ｺｰﾙｻｲﾝ-ﾊﾟｰｼﾞﾝｸﾞ-ﾎﾝソウｶｲｼ>
 ﾋョウｼﾞﾝ ﾕﾝ*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*

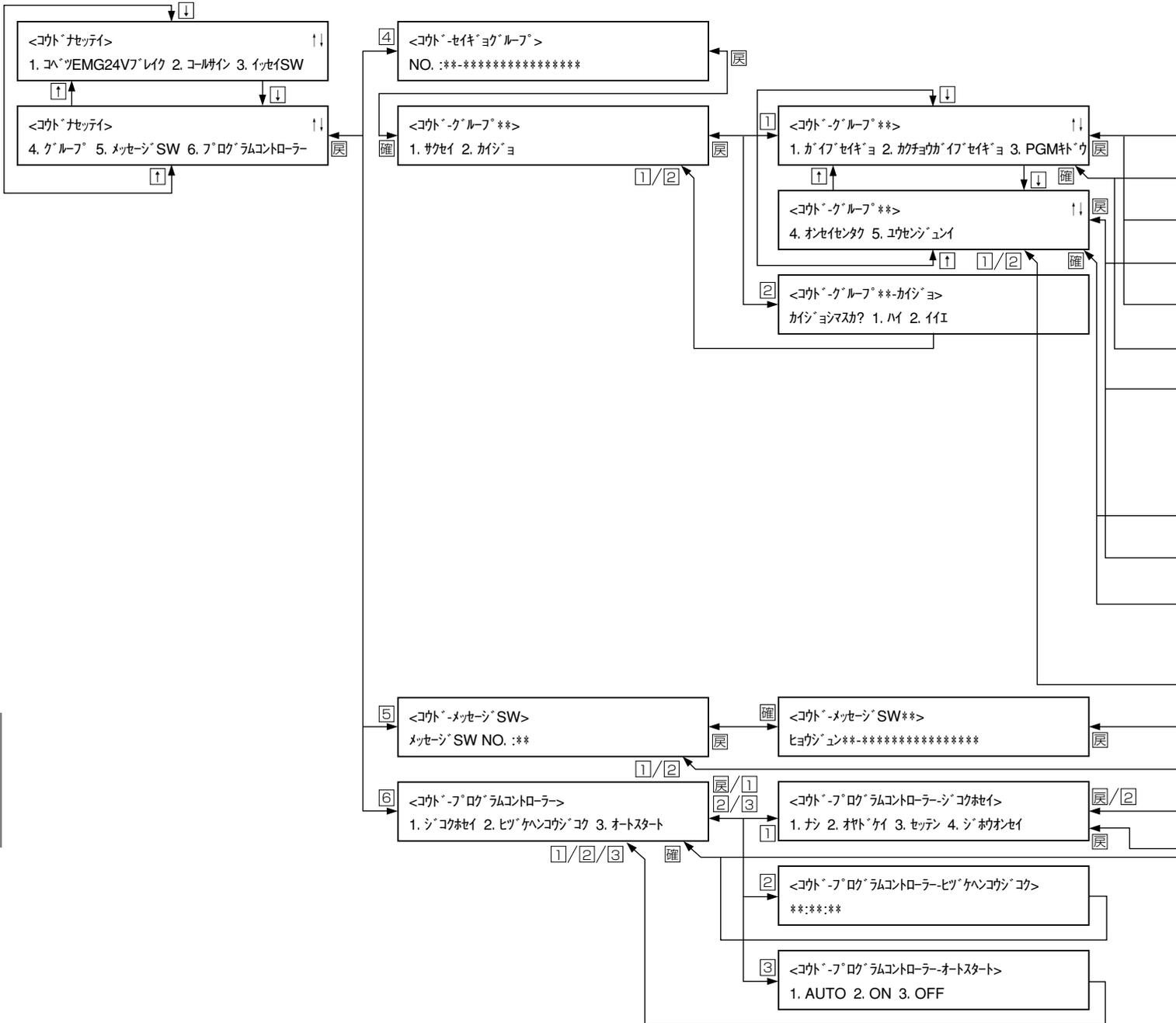
<コウト-ｺｰﾙｻｲﾝ-ﾊﾟｰｼﾞﾝｸﾞ-ﾎﾝソウｼﾞｬｸﾘョウ>
 ﾋョウｼﾞﾝ ﾕﾝ*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*

<コウト-ｲｯｾｲSW-ﾏﾙﾁﾘﾓｺﾝ*>
 1. ﾎﾝﾀｲｲｯｾｲ 2. ﺿﾞｯソウｲｯｾｲ

凡 例

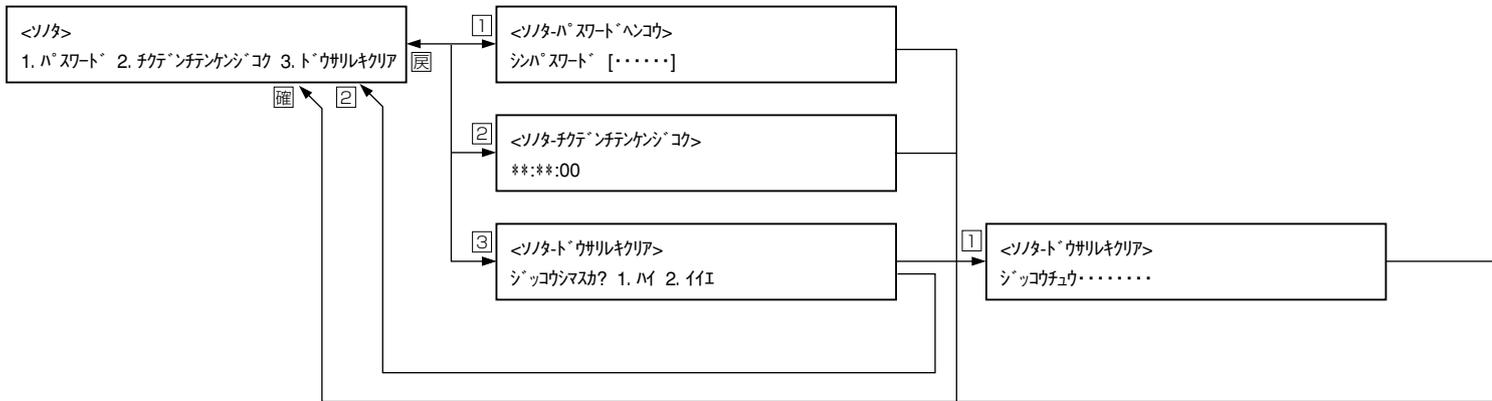
<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	...	<input type="checkbox"/> 9	テンキーの後に <input type="checkbox"/> 確定
<input type="checkbox"/> 確					<input type="checkbox"/> 確定
<input type="checkbox"/> 戻					<input type="checkbox"/> 戻る
<input type="checkbox"/> ↑	<input type="checkbox"/> ↓				<input type="checkbox"/> ↑前画面 / <input type="checkbox"/> ↓次画面

高度な設定画面の流れ <コウドナセッテイ>



書き込み

6. その他の設定画面の流れ <ソノタ>



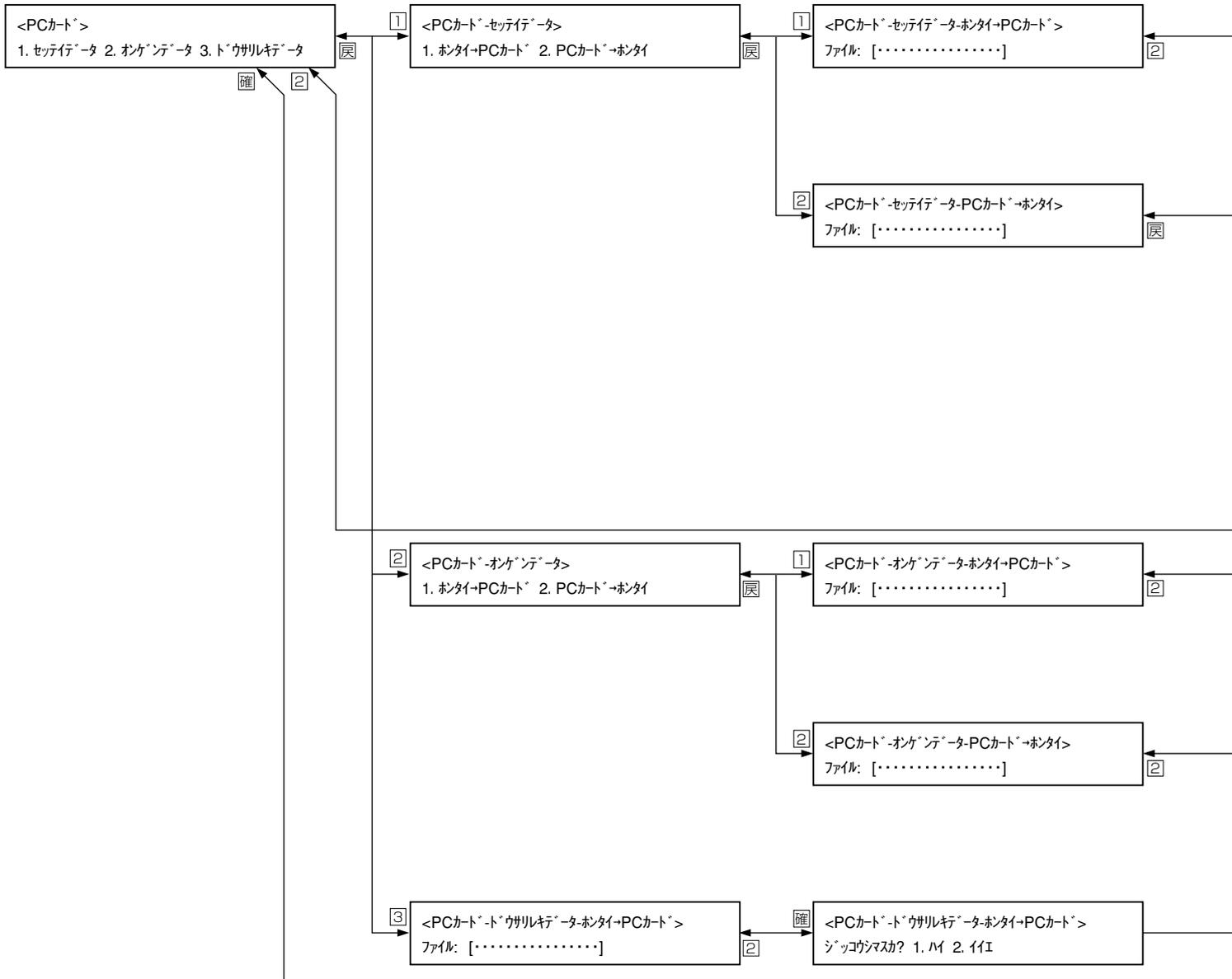
メニュー下



凡 例

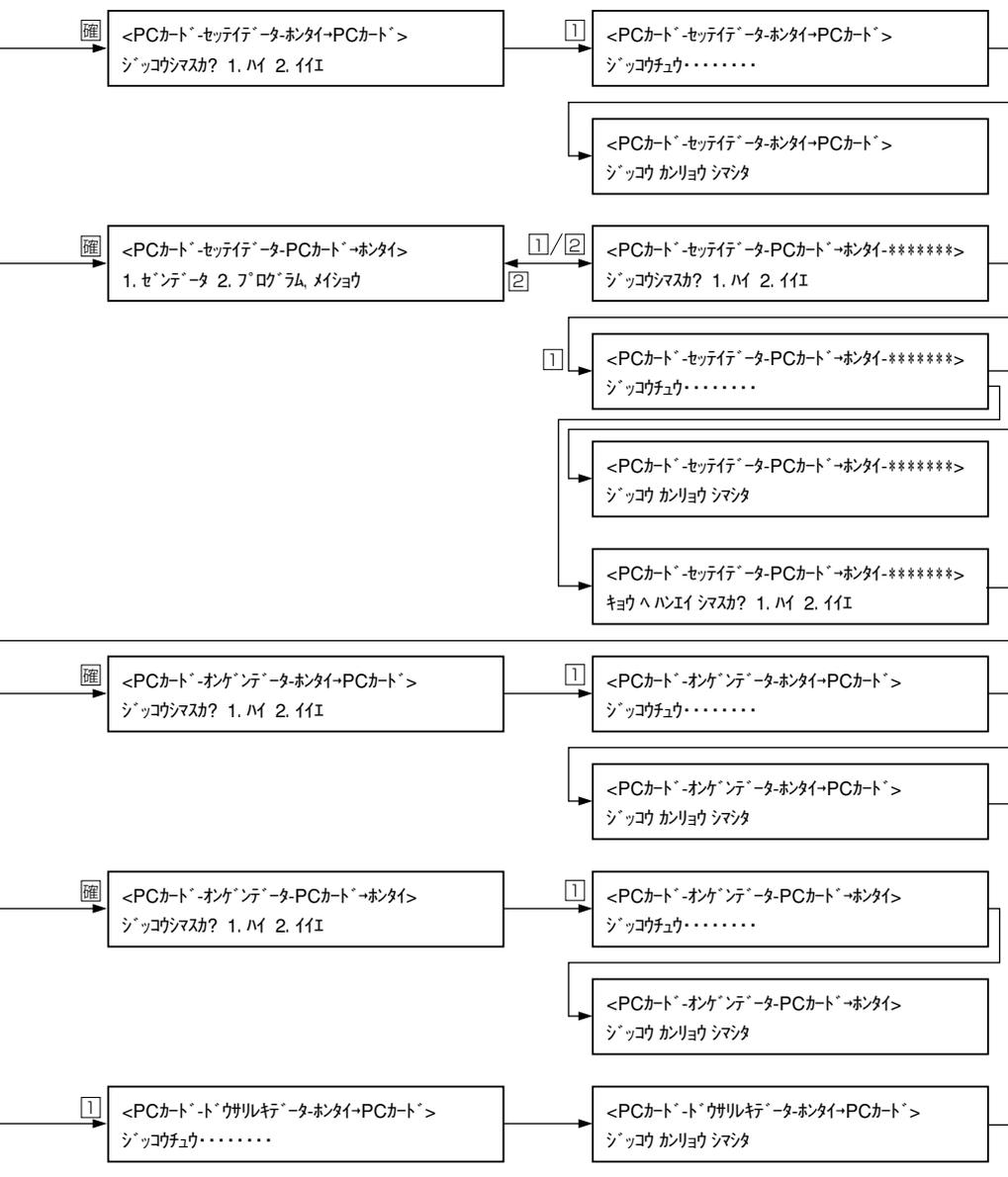
0 1 2 . . . 9	テンキーの後に	確定
確		確定
戻		戻る
↑ ↓		↑前画面 / ↓次画面

7. PCカードの設定画面の流れ <PCカード>



書き込み

メニュー下



凡 例

0 1 2 . . . 9 テンキーの後に **確定**

確 **確定**

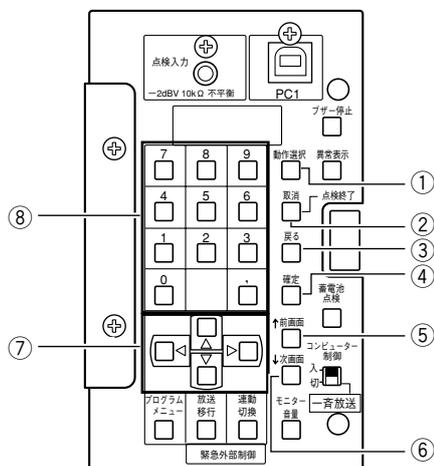
戻 **戻る**

↑ ↓ **↑前画面 / ↓次画面**

基本的な操作のしかた

操作パネルの名称（書き込みに使用する部分のみ）

書き込み作業は、本体の前面左のマイクドア内部で行います。

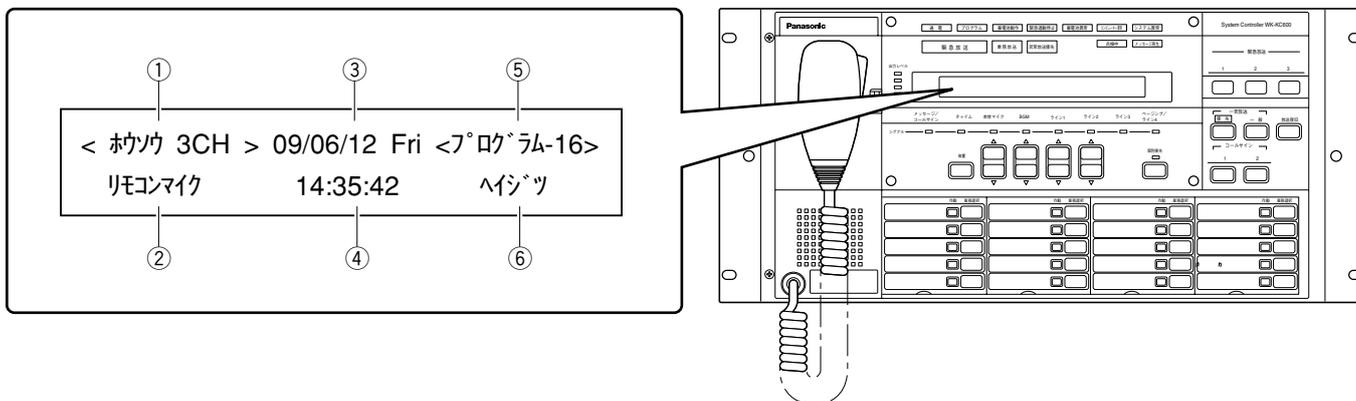


名称	内容
① 動作選択ボタン 動作選択	書き込みを開始／終了するときや、運用点検開始時に押します。
② 取消ボタン 取消	設定画面で入力した項目の値を取り消します。一回押しで1文字消去になります。
③ 戻るボタン 戻る	前に表示していた画面に戻ります。
④ 確定ボタン 確定	設定内容を確定して、画面移行します。
⑤ 前画面ボタン ↑前画面	画面が複数ページ存在する場合、前の画面に切り替わります。
⑥ 次画面ボタン ↓次画面	画面が複数ページ存在する場合、次の画面に切り替わります。
⑦ 十字ボタン	上 [Δ] カースルを上方向に移動します。数値を入力する画面では、数値を増加します。
	下 [▽] カースルを下方向に移動します。数値を入力する画面では、数値を減少します。
	左 [<] カースルを左に移動します。
	右 [>] カースルを右に移動します。
⑧ テンキー (0~9 カンマ)	メニューを選択したり、数値を入力したりします。複数の数値を入力するときは、 [,] キーを使用します。

液晶画面の見かた

通常状態の液晶画面と書き込み作業時の液晶画面の見かたを説明します。

<通常状態の液晶画面例>



①放送状態

放送中のチャンネルを数字とCHで表示します。

②放送内容

放送中の起動入力名を表示します。

③日付

現在の年月日と曜日を表示します。

④現在時刻

24時間制で時刻が表示されます。

⑤プログラム状態

実行中のプログラム番号を表示します。

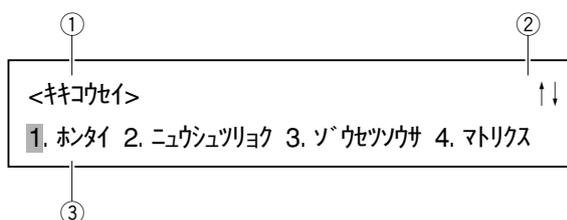
⑥プログラム名称

実行中のプログラム名称を表示します。

メモ

- 放送内容、プログラム名称は、設定した名称の先頭から12文字目まで表示します。

<書き込みの液晶画面例>



①タイトル表示

<>内に書き込み画面のタイトルを表示しています。メニュー階層は、- (ハイフン) でつないで表示されています。

②画面めくり表示

画面が複数存在するときに表示されます。

↑前画面と↓次画面で画面を切り換えます。

③選択項目表示

選択可能な項目が番号と名称で表示されています。

選択対象項目は、番号が点滅します。※



④設定内容表示

設定内容が、番号・名称・設定値などで表示されています。設定対象項目は点滅します。※

※本書中では、点滅を **網かけ** で表記します。設定対象の場合は「カーソル」と呼びます。

この他、2行目には「ジツウチョウ……」「ジツウ カリヨウ シツタ」などの状態を表す言葉も表示されます。

基本的な操作のしかた（つづき）

書き込みメニュー画面を表示する

書き込み作業を行うために、書き込みメニュー画面を表示します。

設定支援ソフトや運用支援ソフトを接続している場合は、「PCセツゾクチュウ・・・」が表示され、書き込み画面を表示することができません。また、誤操作防止のため、パスワード入力が必要です。システム管理者などシステムを十分理解した方が操作するようにしてください。

- 1** 放送が行われていないときに、本体のマイクドア内の **動作選択** を4回押します。

→メニュー画面が順次表示されます。

1回目：<オンリョウチョウセイメニュー>

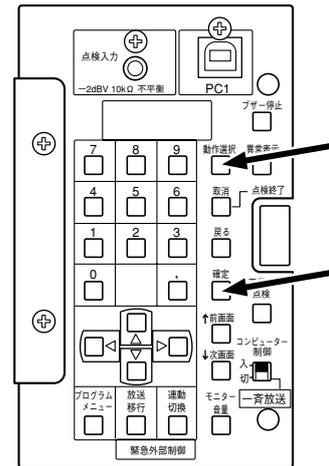
2回目：<プログラムメニュー>

3回目：<テンケンメニュー>

4回目：<カキコミメニュー>

5回目：<PCカードメニュー>

※6回目で元の通常画面に戻ります。以降は、上記メニュー画面が繰り返し表示されます。



- 2** <カキコミメニュー>が表示されているときに、テンキーを使用して、6桁のパスワードを入力します。初期値は「999999」です。

→入力した数値は「*」で表示されます。

書き込みメニュートップ画面

<カキコミメニュー>	4/5
パスワード [■]	

書き込みメニューパスワード画面

<カキコミメニュー>	4/5
パスワード [*****]	

- 3** **確定** を押します。

→パスワードが正しければ書き込みメニュー画面が表示されます。

- 4** 設定したい項目を選択して、**確定** を押します。項目選択のしかたは次ページを参照してください。

書き込みメニュー画面

<カキコミメニュー>	↑↓
1. キコウセイ 2. キンキュウホウ 3. キョウムホウ	

メモ

- パスワードは必ず変更し、第三者による設定変更や誤操作を防止してください。パスワード変更は、<ソノタメニュー>で行ってください。(→195ページ)
- 変更したパスワードを忘れてしまった場合は、販売店（工事店）にご確認ください。

項目選択のしかた

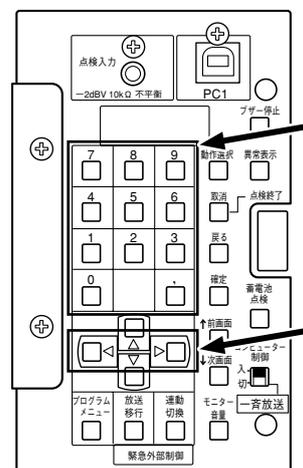
メニューから項目を選択したり、[ハイ] または [イーエ] を選択したりするときの操作を説明します。

1 テンキーを使って、選択したい項目の番号を入力します。
メニュー画面などで項目が1つの画面に表示しきれない場合は、画面右上に [↑↓] が表示され、**↑前画面** / **↓次画面** を押して画面を切り換えることができます。画面に表示されていない番号を押すと、その番号を含む画面に切り換わります。項目として存在しない番号を押した場合は、操作は無効です。

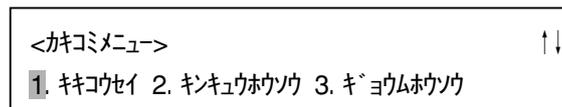
十字ボタンを使用する場合は、左または右を押して選択したい項目の番号にカーソルを合わせます。

画面が複数存在する場合は、**十字ボタンの左/右** ボタンでカーソルを左端または右端に移動すると、画面を切り換えることができます。

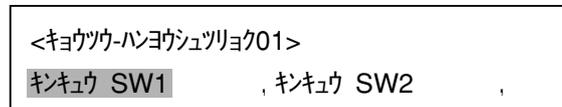
番号のない項目の選択では、十字ボタンでの操作のみになります。(例：汎用出力の設定 (→181ページ))



書き込みメニュー画面



汎用出力設定画面例



2 **確定** を押します。

基本的な操作のしかた（つづき）

数値入力のみ

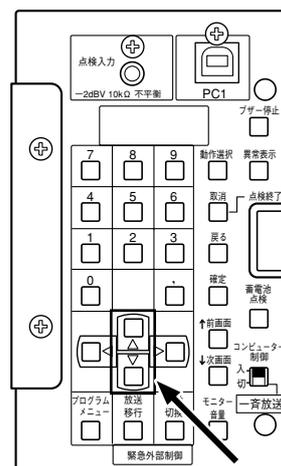
数値入力には、以下の2通りの方法があります。画面によっては、どちらかの方法のみ設定可能な場合があります。

■十字ボタンの上 [△] / 下 [▽] による入力のしかた

- 1 設定する項目にカーソルが合っているときに、**十字ボタンの上**を押すと数値が1つ増え、下を押すと1つ減ります。

それぞれのボタンを押し続けると、連続して数値を増減できます。

画面によっては、設定できる最大値を表示時に上を押すと、最小値になり、設定できる最小値を表示時に下を押すと、最大値になります。



- 2 **確定**を押します。

<キコウセイゾウセツシュツリョク>
セツゾクタイズ: **3**

■テンキーによる入力のしかた

- 1 設定する項目にカーソルを合わせ、反転表示されているときに、テンキーを押します。2桁以上の数値を入力する場合は、大きい桁から順に入力します。

取消を押すと、カーソル位置の数値を消去できます。

同一画面で複数の数値を入力する場合は一つ目の数値のあとにカンマ **,** を押すと、次の数値が入力可能となります。

このとき、入力値が設定可能範囲外の場合は、<スウチ ハンイガイ>と表示されます。**戻る**を押して元の設定画面に戻り、やり直します。

例) 12を入力する場合、**1**、**2**の順にテンキーを押す

<キンキュウキンキュウSW1-SPカイゼン>
SP NO.: **12**

例) カーソルを2に合わせて**取消**を押すと、12→1となる

<キンキュウキンキュウSW1-SPカイゼン>
SP NO.: **1**

例) 123, 124を入力する場合、**1**、**2**、**3**、カンマ **,**、**1**、**2**、**4**の順にテンキーを押す

<キンキュウキンキュウSW1-SPカイゼン>
SP NO.: **123, 124**

- 2 **確定**を押します。

書き込みを保存して終了する

各画面で設定した内容を保存（反映）して終了します。

重要

- 書き込みを保存して終了すると、システムが再起動します。再起動中は放送ができませんので、書き込み作業は放送に支障のないときに行ってください。

1 各設定画面で、**動作選択**を押します。

※パスワード変更画面、質問画面（[ハイ] か [イイエ] を選択する）、自動移行画面（[コウセイチェックチュウ・・・] など）では、**動作選択**は無効です。

→設定データ保存確認画面が表示されます。

2 [1. ハイ] を選択して、**確定**を押します。

→「コウセイチェックチュウ・・・」が表示され、機器構成設定に変更点がある場合は、構成不一致メニュー画面が表示されます。詳細を確認する場合は [1. ショウサイヒョウジ] を選択して**確定**を押してください。詳しくは次ページをお読みください。

3 機器構成設定に変更点がなければ、そのまま保存が実行されます。

また、変更点を保存して書き込みを終了する場合は、構成不一致メニュー画面で [2. データホゾン] を選択して**確定**を押します。

→保存が実行され、完了すると「サイキドウチュウ」と表示されます。

その後、本体が再起動します。再起動後、バージョンが表示されましたら、変更した設定データにしたがって、運用ができるようになります。

メモ

- 書き込みした内容をバックアップしておくとう便利です。（→209ページ）

設定データ保存確認画面

<セッテイデータホゾン>
ジッコウシマスか? 1. ハイ 2. イイエ

構成不一致メニュー画面

<コウセイイチ>
1. ショウサイヒョウジ 2. データホゾン

保存完了～再起動完了の画面の流れ

<セッテイデータホゾン>
ジッコウチュウ

サイキドウチュウ・・・

ホウチュウ・・・

キョウムホウシステム WL-K600

Ver. 2. 00

■書き込みを保存せずに終了するには

設定した内容を保存せずに書き込みを終了するには、上記手順2で [2. イイエ] を選択し、書き込みメニュー画面が表示されたあと、**戻る**を押してください。

機器構成設定のしかた

機器構成設定の概要

ここでは、システムを構成する機器の台数やスイッチの種類を設定します。

初めて機器を設置・接続する場合は、必ず「取得+初期値上書き」を実行して、システムを構成する各機器のアドレス設定やディップスイッチの設定を本体の機器構成情報に取り込みます。ユニットアドレスおよびディップスイッチの設定は、システムの電源投入時に認識されます。変更したときはシステムの電源を「切」→「入」してください。

取得できない情報については、機器構成画面で「確認/設定」を行います。また、あとから機器の追加や削除をした場合は、機器構成画面で「取得」を行ったあと、「確認/設定」を行います。機器の追加や削除の場合は、変更しない機器の情報を初期化しないようご注意ください。

＜機器構成設定メニュー＞ 以下の番号は、メニュー番号と一致しています。

1. 取得 <シュトク>

機器構成情報を取得します。設定データは変更されません。

2. 取得+初期値上書き <シュトク+ショキチウワガキ>

機器構成情報を取得し、構成情報に合わせた設定データを自動的に設定します。すでに設定されているデータが上書きされます。自動的に設定する設定データは後述の「機器構成設定一覧」を参照してください。

3. 確認/設定

機器構成情報を確認または設定します。

■機器構成設定一覧

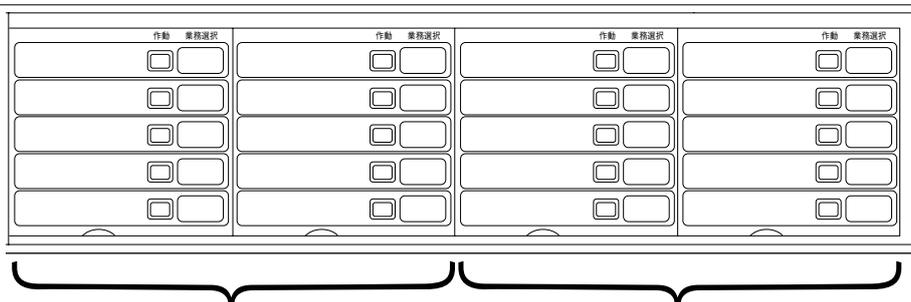
本体から取得可能な設定項目は、先頭に※マークを記しています。また、初期値には下線を引いています。

設定項目	設定範囲	参照ページ
本体のスイッチ構成	<u>パターン</u> 1~5* ¹	159
入出力制御ユニットの入力接点割り当て	リモコンマイクと外部制御入力の合計が20となる組み合わせに設定可 リモコンマイク：0、5、 <u>10</u> 、15、20 外部制御入力：20、15、 <u>10</u> 、5、0	159
入出力制御ユニットの出力接点割り当て	汎用出力：0、5、 <u>10</u> 状態出力：10、5、 <u>0</u> 状態出力と汎用出力の合計が10となる組み合わせに設定可	159
※増設用操作ユニット台数	<u>0</u> ~16	159
※増設用操作ユニットごとの局数	1. <u>20</u> キョク* ² 2. 10キョク	159
増設用操作ユニットごとのスイッチ機能	1. <u>SPセンタクSW</u> 2. ブロックSW 3. メッセージ/ハンヨウSW* ²	159
※入力マトリクスユニットのCH数	1、4、8、12、16、20、24、28、32* ³ (入力CH・出力CHの初期値)	160
※増設用出力制御ユニットの台数	0~16 (アドレスは2~17) アドレス1は入出力制御ユニットに使用	160
※増設用出力制御ユニットごとの回線数	10、 <u>20</u>	160
※拡張制御/非常制御ユニットの台数	<u>0</u> ~7	160

設定項目	設定範囲	参照ページ
※拡張制御／非常制御ユニットごとのユニット種別	1. カクチョウセイギョ 2. ヒジョウセイギョシュツリョク	160
※拡張制御ユニットの入力種別	1. リモコンマイク 2. カクチョウガイブセイギョ	160
※非常制御出力ユニットの入力種別	1. リモコンマイク 2. カクチョウガイブセイギョ	160
※マルチリモコンのアドレス (台数)	1～8およびアドレスなし	160

※1 本体のスイッチ構成

設定項目



パターン1	メッセージスイッチ10局	スピーカー選択スイッチ10局
パターン2	スピーカー選択スイッチ10局	スピーカー選択スイッチ10局
パターン3	放送ブロックスイッチ10局	スピーカー選択スイッチ10局
パターン4	メッセージスイッチ10局	放送ブロックスイッチ10局
パターン5	放送ブロックスイッチ10局	放送ブロックスイッチ10局

※2 メッセージ／ハンヨウSW

増設用操作ユニットの局数を [20] に設定した場合のみ、メッセージ／汎用スイッチ機能に設定できます。(システムで1台のみに設定可能)

※3 以下の表を参考に入力マトリクスユニットの入力CH数、出力CH数を設定します。

入力マトリクスユニットを使用しない場合は、どちらも1に設定してください。

入力マトリクスユニットのCH数は、以下の組み合わせで設定してください。設定できない数値を入力すると、数値範囲外「スウチ ハンイガイ」と表示されます。

入力CH数	出力CH数							
	4	8	12	16	20	24	28	32
4	○	○	○	○	○	○	○	○
8	○	○	○	○	○	○	○	○
12	○	○	○	○	○	×	×	×
16	○	○	○	○	×	×	×	×
20	○	○	○	×	×	×	×	×
24	○	○	×	×	×	×	×	×
28	○	○	×	×	×	×	×	×
32	○	○	×	×	×	×	×	×

「取得」を実行すると、入力マトリクスユニットのアドレスから入力CH数、出力CH数を自動的に決定します。

①入力CH数を決定します。アドレス1、2、3、4、5、6、7、8があれば、入力CH数を4、8、12、16、20、24、28、32とします。

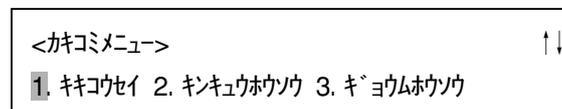
②出力CH数を決定します。アドレス1、9、17、25、33、41、49、57があれば、出力CH数を4、8、12、16、20、24、28、32とします。

③①と②の結果を構成情報に反映します。

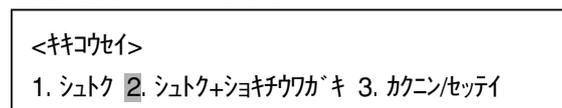
機器構成情報を取得し、初期値上書きする

- 1 書き込みメニュー画面で、[1. キキコウセイ] を選択し、**確定**を押します。
- 2 [2. シュトク+シヨキチウワガキ] を選択し、**確定**を押します。
- 3 初期値上書きを実行する場合は [1. ハイ] を選択し、**確定**を押します。
→「ジッコウチュウ」が表示され、初期化が終了すると初期化完了画面が表示されます。
- 4 3秒経過すると自動的に再起動されます。再起動の画面については、121ページをお読みください。
起動が完了したら、「機器構成情報を確認・設定する」（→159ページ）へ進んでください。

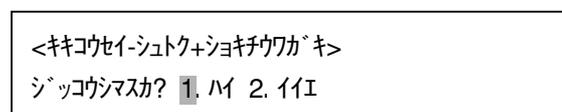
書き込みメニュー画面



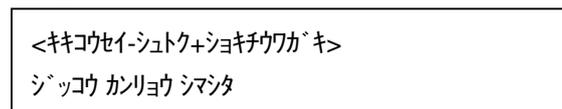
機器構成メニュー画面



機器構成初期化確認画面



初期化完了画面



取得+初期値上書きをやめるには、機器構成初期化確認画面で [2. イイエ] を選択するか、**戻る**を押すと、機器構成メニュー画面に戻ることができます。

■初期値上書きの内容

●システムコントローラー（スイッチ構成：パターン1）

スイッチ	スピーカー回線番号	優先設定	音源	
パターン1	メッセージSW1	なし	点検音源1	
	メッセージSW2	なし	点検音源2	
	メッセージSW3	なし	—	
	：	：	：	
	メッセージSW10	なし	—	
	スピーカー選択SW1	1	なし	—
	：	：	：	
	スピーカー選択SW10	10	なし	—
	コールサイン	SW1	—	上り4音
		SW2	—	下り4音

●増設用操作ユニット（スイッチ種別：スピーカー選択スイッチ）

スイッチ番号は増設用操作ユニットのアドレス順に、システムコントローラーのスピーカー選択SWから連番となります。

スイッチ	スピーカー回線番号	優先設定
スピーカー選択SW11	なし	なし
：	：	：
スピーカー選択SW330	なし	なし

●マルチリモコン（音声：入力CH1）

スイッチ		スピーカー回線番号	優先設定	音源
エリア選択SW1		なし	なし	—
：		：	：	：
エリア選択SW20		なし	なし	—
コールサイン	上り	—	—	上り4音
	下り	—	—	下り4音

●リモコンマイク（音声：入力CH1）

スイッチ		スピーカー回線番号	優先設定	
リモコンマイク	SW1	1	なし	
：	：	：	：	
	SW10	10	なし	
コールサイン	上り	—	—	上り4音
	下り	—	—	下り4音

●入出力制御ユニット（入力接点：リモコンマイク10、外部制御10。出力接点：汎用出力10、状態出力0）

外部制御入力の音声はライン1となります。

スイッチ／入力		スピーカー回線番号	優先設定
外部制御入力	1	1	なし
：	：	：	：
	9	9	：
	10	1～10	なし
チャイム		1～10	なし
BGM		1～10	—
ページング		1～10	なし

●拡張制御ユニット／非常制御出力ユニット

初期値は、割り当てなしとなります。

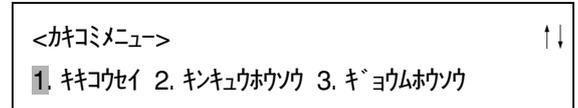
●非常制御出力ユニット（出力接点が個別EMG24Vブレイク20の場合）

初期値は、割り当てなしとなります。

機器構成情報を取得する

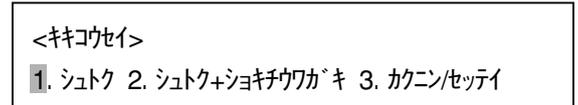
1 書き込みメニュー画面で、[1. キキコウセイ] を選択し、**確定**を押します。

書き込みメニュー画面



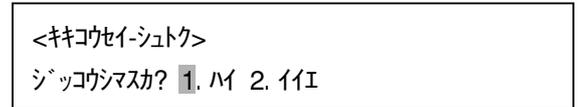
2 [1. シュトク] を選択し、**確定**を押します。

機器構成メニュー画面



3 取得を実行する場合は [1. ハイ] を選択し、**確定**を押します。

機器構成情報取得確認画面



→「ジッコウチュウ」が表示され、取得が終了すると右図の画面が表示されます。

4 **確定**を押すか、3秒経過すると自動的に機器構成メニュー画面に戻ります。



次ページの「機器構成情報を確認・設定する」(→159ページ)へ進んでください。

取得をやめるには、手順3の画面で [2. イイエ] を選択するか**戻る**を押すと、機器構成メニュー画面に戻ることができます。

取得実行後は、必ず機器構成情報を確認してください。

ユニットを追加したり、ディップスイッチやロータリースイッチの設定を変更した場合は、該当ユニットの設定値は空欄となりますので、改めて次ページ以降の設定が必要です。

ユニットを削除した場合は、設定値は削除されます。

機器構成情報を確認・設定する

ここでは、操作手順を中心に説明します。

※初期値、設定範囲：機器構成設定一覧（→154、155ページ）

1 書き込みメニュー画面で、[1. キキコウセイ] を選択し、**確定**を押します。

2 [3. カクニン/セッテイ] を選択し、**確定**を押します。

3 設定する項目を選択し、**確定**を押します。

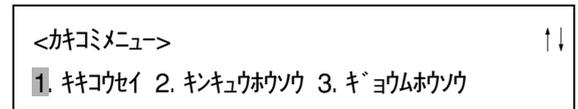
→表示されている設定内容のまま変更しない場合は、**確定**または**戻る**を押して画面移行してください。
変更する場合は、テンキーや十字ボタンを使って設定してください。

1. 本体スイッチの設定 [ホントイ]
本体のスイッチ構成を5つのパターンから選択します。
画面には、パターン番号とスイッチ種類が表示されます。

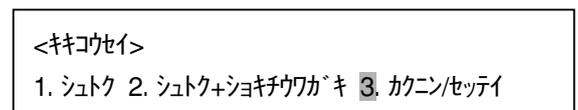
2. 入出力制御ユニットの設定 [ニューシュツリョク]
入力接点および出力接点の種類と数を設定します。
①入力接点画面で、リモコンマイク用の接点数を設定し、残りが外部制御入力となります。
確定を押して、<キキコウセイ-ニューシュツリョク>画面に戻ります。
②出力接点画面で、状態出力用の接点数を設定し、残りが汎用出力用となります。
③両方**確定**したら、**戻る**を押して機器構成設定メニュー画面に戻り、次の設定に進みます。

3. 増設用操作ユニットの設定 [ゾウセツソウサ]
①接続台数を設定し、**確定**を押します。
②アドレス1から順に局数を設定します。アドレスを選択し、**確定**を押します。
③局数を選択、**確定**を押します。
④スイッチ種類を選択し、**確定**を押します。アドレス選択画面に戻りますので、アドレスを指定して接続したユニット台数分、②④を繰り返します。すべて設定したら、**戻る**を押して機器構成設定メニュー画面に戻り、次の設定に進みます。

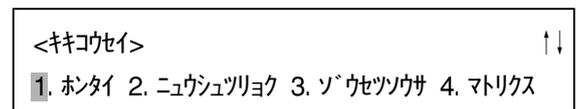
書き込みメニュー画面



機器構成メニュー画面



機器構成確認/設定メニュー画面

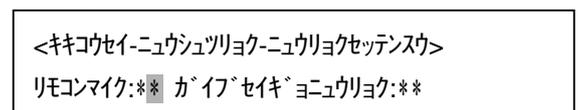


本体SWの設定画面例

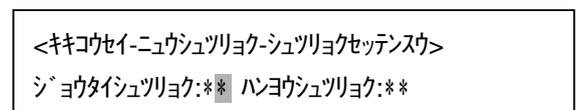


入出力制御ユニットの設定画面例

入力接点の場合

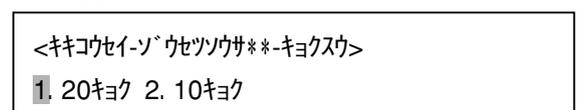


出力接点の場合

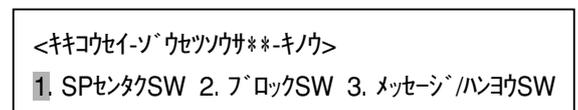


増設用操作ユニットの設定画面例

局数選択



機能選択



機器構成設定のしかた（つづき）

4. 入力マトリクスユニットの設定 [マトリクス]
入力CH数、出力CH数をそれぞれ設定します。設定範囲内の数値を入力してください。（→154ページ）
[戻る]を押して機器構成設定メニュー画面に戻り、次の設定に進みます。

入力マトリクスユニットの設定画面例

<キコウセイ-マトリクス>
ニュウリョクCH数:** シュツリョクCH数:**

5. 増設用出力制御ユニットの設定 [ゾウセツシュツリョク]
①接続台数を設定し、[確定]を押します。
②アドレス1から順に回線数を設定します。アドレスを選択し、[確定]を押します。
③回線数を選択し、[確定]を押します。
④接続したユニット台数分、②と③を繰り返します。すべて設定したら、[戻る]を押して機器構成設定メニュー画面に戻り、次の設定に進みます。

増設用出力制御ユニットの設定画面例
アドレス選択

<キコウセイ-ゾウセツシュツリョク>
アドレス:**

回線数選択

<キコウセイ-ゾウセツシュツリョク**>
1. 20カイセン 2. 10カイセン

6. 拡張制御/非常制御出力ユニットの設定 [カクチョウ/ヒジョウ]
①接続台数を設定し、[確定]を押します。
②アドレス1から順にユニット種類を設定します。アドレスを選択し、[確定]を押します。
③入力接点機能を選択し、[確定]を押します。
④機能を選択し、[確定]を押します。すべて設定したら、[戻る]を押して機器構成設定メニュー画面に戻り、次の設定に進みます。

拡張制御/非常制御ユニットの設定画面例

<キコウセイ-カクチョウ/ヒジョウ*>
1. カクチョウセキ`ヨ 2. ヒジョウセキ`ヨシュツリョク

<キコウセイ-カクチョウ/ヒジョウ*-カクチョウセキ`ヨ>
1. リモコンマイク 2. カクチョウカ`イブ`セキ`ヨ

<キコウセイ-カクチョウ/ヒジョウ*-ヒジョウセキ`ヨシュツリョク>
1. リモコンマイク 2. カクチョウカ`イブ`セキ`ヨ

メモ

- 拡張制御ユニットおよび非常制御出力ユニットの設定はユニット側のディップスイッチの設定とあわせてください。本画面のみでの設定はできません。

7. マルチリモコンの設定 [マルチリモコン]
台数分のアドレスを入力し、[確定]を押します。

マルチリモコンの設定画面例

<キコウセイ-マルチリモコン>
アドレス:**,*,*,*,*,*,*,*

4 続けて他の設定を行う場合は、機器構成設定メニュー画面で、[戻る]を押して書き込みメニュー画面を表示します。ここで設定内容を保存して終了する場合は、[動作選択]を押してください。
※保存のしかた（→153ページ）

■構成不一致画面について

現在運用中の機器構成情報と、保存しようとしている設定データの機器構成情報に一致しない点がある場合、以下のような画面が表示されます。詳細内容を確認し、保存しようとしているデータが正しい場合は保存してください。問題がある場合は、**戻る**を押して保存を中止し、再度機器構成の設定／確認を行い、適宜修正してからデータを保存してください。

ここで表示されるのは、機器構成の変更点のみです。緊急放送や業務放送の各設定内容については表示されません。

画面名称および画面表示例	説明
構成不一致メニュー画面 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <コウセイイチ> 1. ショウサイヒョウジ 2. データホズン </div>	<p>[1. ショウサイヒョウジ] を選択し、確定を押すと構成不一致詳細画面が表示されます。以下を参照して適切な設定を行ってください。</p> <p>[2. データホズン] を選択し、確定を押すと設定データを保存して書き込みを終了し、システムは再起動します。</p>
構成不一致詳細画面例 <増設用操作ユニットの台数不一致> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <コウセイイチ-ショウサイ-ゾウセツウサニツタイスウ> ↑↓ ハードセット:02 コウセイヨウホウ:08 </div> <増設用操作ユニットのスイッチ数不一致> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <コウセイイチ-ショウサイ-ゾウセツウサニツ 01SWスウ> ↑ ハードセット:20 コウセイヨウホウ:10 </div> <入力マトリクスユニットの有無不一致> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <コウセイイチ-ショウサイ-マトリクスニツ02> ↑↓ ハードセット:アリ コウセイヨウホウ:ナシ </div> <拡張制御ユニットの入力機能不一致> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <コウセイイチ-ショウサイ-カクショウセキョ 2ニユリョク> ↑↓ ハードセット:カイブ コウセイヨウホウ:リモコンマイク </div>	<p>構成不一致の内容の数だけ画面が表示されます。各画面は ↑前画面 / ↓次画面 を押すと切り換えられます。</p> <p>対象のユニット名称と不一致の内容がタイトル部分に表示されます。</p> <p>[ハードセット] : 現行の機器構成情報（現在の設定内容） [コウセイジョウホウ] : 今回変更し、保存しようとしている機器構成情報。</p> <p>間違いがない場合は戻るを押して、データを保存してください。もし、実際の機器の接続台数と違う、設定しようとした内容と違うなどの問題がある場合は、いったん書き込みメニュー画面に戻り、機器構成設定を確認してください。</p>

上記画面例以外の変更確認情報：

- ・入力マトリクスユニットの台数
- ・増設用出力制御ユニットの台数
- ・各増設用出力制御ユニット（アドレス）の有無
- ・各増設用出力制御ユニット（アドレス）のスピーカー回線数
- ・各拡張制御ユニット／非常制御出力ユニット（アドレス）の有無
- ・各拡張制御ユニット／非常制御出力ユニット（アドレス）の入力種別
- ・各マルチリモコン（アドレス）の有無

緊急放送設定のしかた

緊急放送設定の概要

ここでは、緊急放送を行うための設定をします。

緊急放送では、本体マイク／ライン2入力／メッセージのいずれかを使用して放送を行います。

放送先はスピーカー回線を番号単位で選択することができます。

初めて機器を設置・接続する場合は、必ずこの設定を行ってください。（工場出荷時は未設定です。）

外部制御入力や拡張外部制御入力による緊急放送に対しては、緊急メッセージ確認機能による「緊急メッセージ再生待ち時間」（外部制御入力が入った時点からメッセージを再生するまでの待ち時間の設定）や、「緊急復旧放送」（緊急放送を行ったあとに同じ放送先に放送する機能）の設定ができます。

外部制御入力や拡張外部制御入力による緊急放送を設定するには、入出力制御ユニットまたは拡張制御ユニットに緊急外部制御入力を設定する必要があります。

外部制御入力と拡張外部制御入力は、緊急放送と業務放送とで共用できませんので、それぞれ専用で使用してください。

<緊急放送設定メニュー> 以下の番号は、メニュー番号と一致しています。

1. 緊急スイッチ

本体の緊急放送スイッチの音声選択と放送先を設定します。

2. 外部制御入力

外部制御入力による緊急放送の音声選択、放送先、優先順位、再生待ち時間、復旧放送を設定します。

3. 拡張外部制御入力

拡張外部制御入力による緊急放送の音声選択、放送先、優先順位、再生待ち時間、復旧放送を設定します。

4. 一斉EMG24Vブレイク

緊急放送時に一斉EMG24Vブレイク制御を行うかどうかを設定します。

5. 汎用出力

緊急放送時に外部機器に接点を出力するかどうかの設定をします。

6. ライン2

本体のライン2入力を緊急専用とするか緊急・業務兼用とするかを設定します。

■緊急メッセージ確認機能・緊急復旧放送機能について

緊急メッセージ確認機能とは、外部制御入力メイクされてから実際に緊急メッセージを放送するまでの間にメッセージ再生待ち時間を設定し、その間に本当に放送を行ってよいかを確認する機能です。

例えば、外部から緊急地震速報の信号を受けたときに、避難放送を緊急メッセージに設定している場合、メッセージ再生待ち時間を設定していると、地震の大きさを確認後、避難放送が必要な場合だけ本体のマイクドア内の「放送移行」を押して放送を行うことができます。

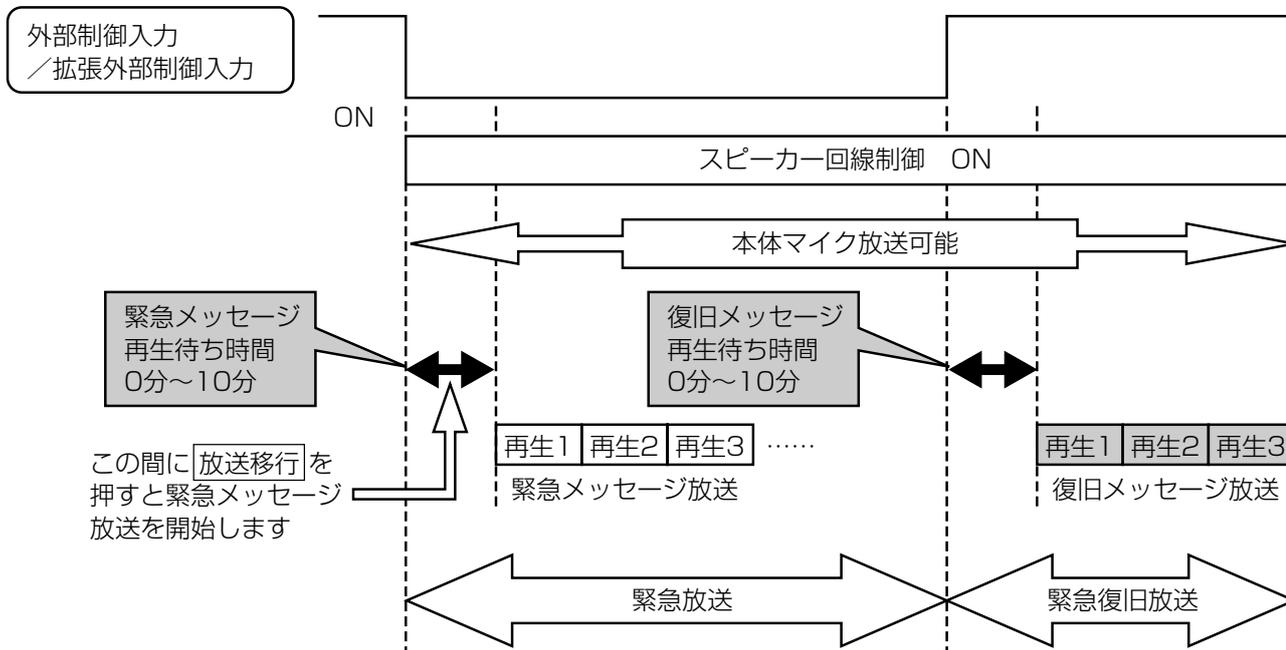
緊急復旧放送機能は、外部制御入力メイクされ緊急放送を行ったあと、外部制御入力解除されてから行う放送で、放送先は緊急放送と同じです。復旧放送が内蔵音源を利用したメッセージの場合は緊急放送と同様、メッセージ再生待ち時間が設定できます。

緊急メッセージ確認機能・緊急復旧放送機能は、それぞれ外部制御入力または拡張外部制御入力ごとに設定が可能です。また、1つの外部制御入力で放送される緊急放送と緊急復旧放送には、異なる音声種別を設定できます。緊急復旧放送を行わない設定にすることも可能です。

音声種別がライン2入力の場合、緊急放送はメッセージ再生待ち時間が無効（外部制御入力メイクされると即時放送状態）となり、かつ、緊急復旧放送は放送先を保持する時間の設定が可能となります。

各機能の動作を以下の図で説明します。

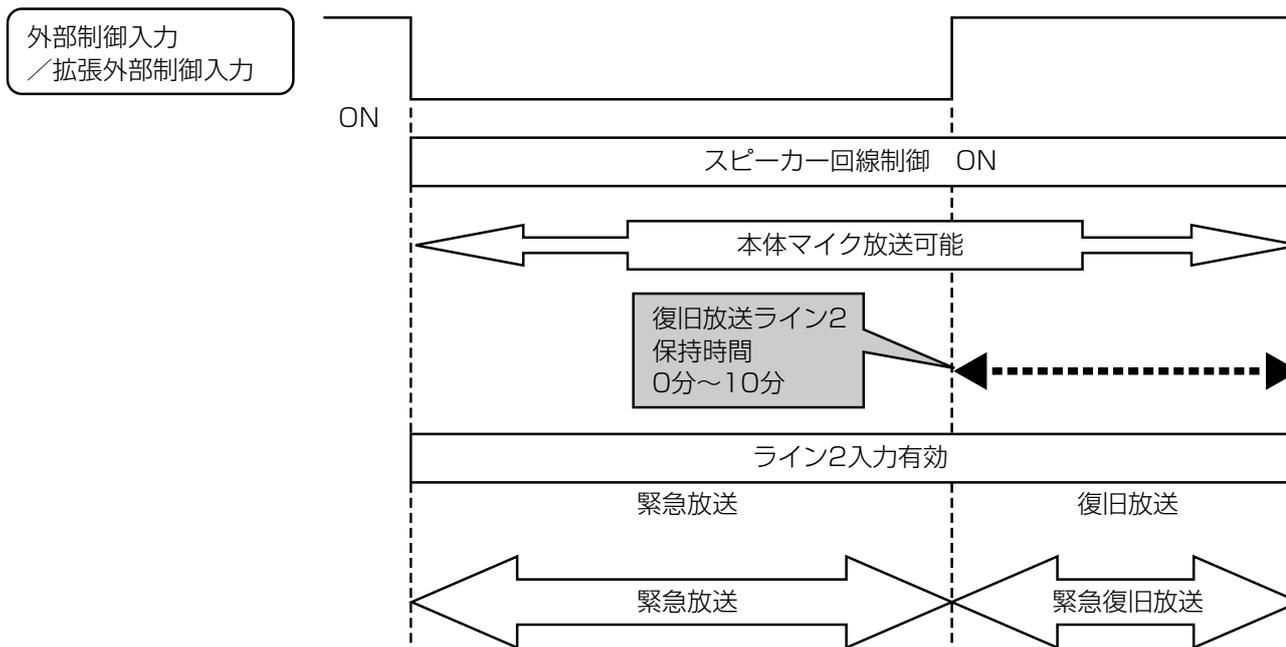
<緊急メッセージ・復旧メッセージの例>



※外部制御入力がメッセージ再生中に解除された場合、繰り返し再生のメッセージはその時点で終了しますが、再生回数指定の場合は、指定された回数分最後まで放送します。

※緊急メッセージ再生待ち時間中にマイク放送を行い、その間に再生待ち時間が経過した場合は、マイク放送の終了時点から緊急メッセージの放送を開始します。

<ライン2入力の場合の例>



緊急放送設定のしかた（つづき）

■緊急放送設定一覧

設定範囲は、システム構成により異なります。初期値は、下線で示しています。

設定項目	設定範囲	参照ページ
緊急放送スイッチ1～3		
音声種別	<u>1. ライン2</u> 2. メッセージ	167
メッセージ番号	ヒョウジュン1～9 <u>オリジナル1～15</u> *1	167
メッセージ再生回数	1. <u>1カイ</u> 2. 2カイ 3. 3カイ 4. <u>クリカエシ</u>	167
スピーカー回線	1～最大330（初期値：なし） 複数選択可	168
外部制御入力		
緊急用外部制御入力接点	1～最大20（初期値：なし） 複数選択可 選択すると、業務放送用には使用不可	168
緊急放送の音声選択	<u>1. ライン2</u> 2. メッセージ	167
緊急放送のメッセージ番号	ヒョウジュン1～9 <u>オリジナル1～15</u> *1	167
緊急放送のメッセージ再生回数	1. <u>1カイ</u> 2. 2カイ 3. 3カイ 4. <u>クリカエシ</u>	167
緊急放送のメッセージ再生待ち時間	<u>00分00秒</u> ～10分00秒	167
復旧放送の音声選択	1. ライン2 3. <u>ナシ</u> 2. メッセージ	167
復旧放送のメッセージ番号	ヒョウジュン1～9 <u>オリジナル1～15</u> *1	167
復旧放送のメッセージ再生回数	<u>1. 1カイ</u> 2. 2カイ 3. 3カイ	167
復旧放送のメッセージ再生待ち時間	<u>00分00秒</u> ～10分00秒 *2	167
スピーカー回線	1～最大330（初期値：なし）	168
優先順位	1～16*3（初期値：12、外部制御入力10のみ初期値：10）	168
拡張外部制御入力		
緊急用拡張外部制御入力接点*4	1～最大140（システム構成による）複数選択可 選択すると業務放送用には使用不可	167
一斉EMG24Vブレイク	1. ON <u>2. OFF</u>	169
汎用出力	<u>1. ユウコウ</u> 2. ムコウ	170
ライン2	1. <u>キンキュウセンヨウ</u> 2. <u>キンキュウギョウムケンヨウ</u>	170

※1 メッセージ一覧

メッセージ番号	内容	変更	時間
ヒョウジュン1	ウェストミンスターの鐘	不可	26秒
ヒョウジュン2	威嚇音		8秒
ヒョウジュン3	省エネ放送（女声） 「<♪上り4音>みなさまにお願いいたします。不要な照明は消して、省エネにご協力ください。」		15秒
ヒョウジュン4	禁煙放送（女声） 「<♪サイン音>館内は所定の場所を除き、終日禁煙となっております。おタバコは所定の喫煙場所をご利用ください。」		14秒
ヒョウジュン5	緊急地震速報-発令時（男声） 「<♪サイン音>緊急地震速報！強い揺れがきます！」		9秒
ヒョウジュン6	緊急地震速報-発令時（女声） 「<♪サイン音>緊急地震速報！強い揺れがきます！」		9秒
ヒョウジュン7	地震発生放送（女声） 「<♪サイン音>ただいま地震が発生しました。落ち着いて身の安全を確保してください。」		10秒
ヒョウジュン8	緊急地震速報-誤報案内（女声） 「さきほどの緊急地震速報は誤りでした。ご安心ください」		6秒
ヒョウジュン9	緊急地震速報-訓練用（女声） 「ただいまより緊急地震速報テストを始めます。（2回） <♪サイン音>緊急地震速報！強い揺れがきます！」		20秒
オリジナル1～15	ユーザーが任意の音源を登録可能（15メッセージ）	可	合計で900秒

- ※2 緊急復旧放送に「ライン2」を設定した場合は、緊急メッセージ再生待ち時間ではなく緊急復旧放送の保持時間設定となります。初期値、設定範囲は緊急メッセージ再生待ち時間と同じです。
- ※3 外部制御入力、拡張外部制御入力による同順位の緊急放送が重なった場合は、あとから放送された方が優先となります。
- ※4 拡張外部制御入力の各設定項目、初期値、設定範囲は、外部制御入力の場合と同様です。

緊急放送の設定対象の選択

ここでは、操作手順を中心に説明します。

※初期値、設定範囲：緊急放送設定一覧（→164ページ）

1 書き込みメニュー画面で、[2. キンキュウホウソウ] を選択し、**確定**を押します。

書き込みメニュー画面

<かきこみメニュー>	↑↓
1. キンコウセイ 2. キンキュウホウソウ 3. キョウムホウソウ	

2 緊急放送メニュー画面で、設定したい内容を選択し、**確定**を押します。

緊急放送メニュー画面

<キンキュウ>	↑↓
1. キンキュウSW 2. ガイブセイギョ 3. カクチョウガイブセイギョ	

※外部制御入力接点、拡張外部制御入力接点が存在しない場合は、メニューの2と3は表示されません。

→ [1. キンキュウSW] を選択した場合は、スイッチ番号を1～3から選択し、**確定**を押します。

緊急SW選択画面

<キンキュウ-キンキュウSW>
SW NO. : *-*****

[2. ガイブセイギョ] [3. カクチョウガイブセイギョ] を選択した場合は、接点番号を入力し、**確定**を押します。

緊急外部制御番号選択画面

<キンキュウ-ガイブセイギョ>
NO. : *-*****

以降の操作手順説明では、設定対象を選択したあとの操作について説明します。

緊急放送の音声の設定

1 各画面で、[1. オンセイセンタク] を選択し、**確定**を押します。
緊急SWの設定の場合は、手順3に進みます。

2 外部制御入力、拡張外部制御入力の場合は、[1. キンキュウホウソウ] を選択して**確定**を押します。

3 音声種別を選択し、**確定**を押します。
緊急SWの設定で「1. ライン2」を選択した場合は、他の緊急SWについて続けて設定を行います。
外部制御入力、拡張外部制御入力の設定で [1. ライン2] を選択した場合は、手順2に戻り、必要に応じて復旧放送の設定を行ってください。
[2. メッセージ] を選択した場合は、手順4に進みます。

4 メッセージ番号を選択して**確定**を押します。
メッセージは、ヒョウジュン1～9→オリジナル1～15の順に表示されます。

5 再生回数を選択して**確定**を押します。
→外部制御入力、拡張外部制御入力の設定の場合は、手順6に進みます。
緊急SWの設定の場合は、次ページの「緊急放送先（スピーカー回線）を設定する」に進みます。

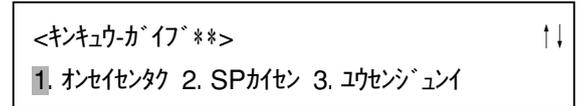
6 メッセージの再生待ち時間を設定し、**確定**を押します。
→外部制御入力の音声選択画面に戻りますので、復旧放送の設定をしない場合は、**戻る**を押して次ページの「緊急放送先（スピーカー回線）を設定する」に進みます。復旧放送の設定をする場合は、手順7に進みます。

7 [2. フッキウホウソウ] を選択して**確定**を押します。
→以降の設定は、緊急放送設定一覧（→164ページ）と手順3～6を参照してください。

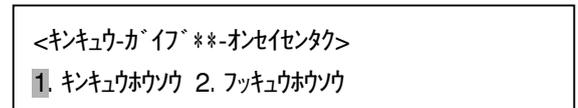
緊急SWメニュー画面例



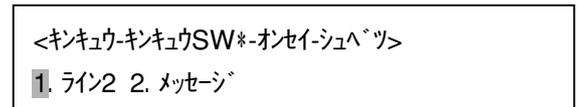
緊急外部制御メニュー画面例



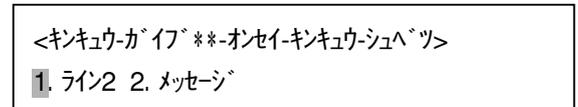
緊急外部制御の音声選択画面



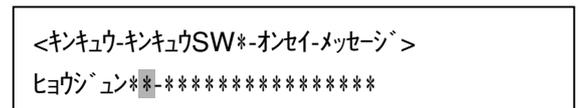
緊急SW音声種別選択画面



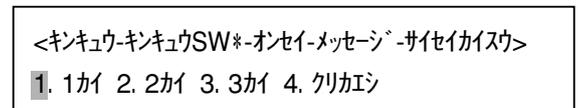
緊急外部制御の音声種別選択画面



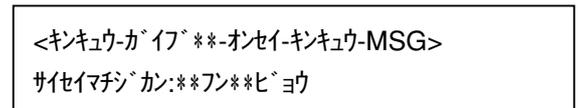
緊急SWメッセージ選択画面例



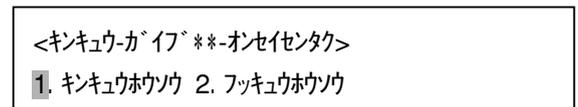
緊急SWメッセージの再生回数選択画面例



緊急外部制御の再生待ち時間設定画面



緊急外部制御の音声選択画面



外部制御入力による緊急放送の設定解除

一度緊急放送を設定した外部制御入力および拡張外部制御入力の設定を解除すると、その入力接点は業務放送用に使用できるようになります。

- 1 外部制御入力または拡張外部制御入力の緊急放送メニュー画面で、[4. セッテイカイジヨ] を選択し、**確定**を押します。

→緊急放送解除確認画面が表示されます。

緊急外部制御メニュー画面例

<キンキュウ-ガイブ***>
4. セッテイカイジヨ

- 2 [1. ハイ] を選択し、**確定**を押します。

→緊急放送メニュー画面に戻ります。
次の設定に進んでください。

緊急外部制御解除確認画面例

<キンキュウ-ガイブ***>
カイジヨシマスカ? 1. ハイ 2. イイ

一斉EMG24Vブレイクの設定

- 1 緊急放送メニュー画面で、[4. イッセイEMG24Vブレイク] を選択し、**確定**を押します。

緊急放送メニュー画面

<キンキュウ>
4. イッセイEMG24Vブレイク 5. ハンヨウシュツリョク 6. ライン2

- 2 緊急放送時に一斉EMG24Vブレイク接点制御を行う場合は「1. ON」を、行わない場合は「2. OFF」を選択し、**確定**を押します。

→緊急放送メニュー画面に戻ります。
次の設定に進んでください。

緊急一斉EMG24Vブレイク設定画面

<キンキュウ-イッセイEMG24Vブレイク>
1. ON 2. OFF

汎用出力の設定

1 緊急放送メニュー画面で、[5. ハンヨウシュツリョク] を選択し、**確定**を押します。

緊急放送メニュー画面

<キンキュウ> ↑↓
4. イッセイEMG24Vブレーク 5. ハンヨウシュツリョク 6. ライン2

2 緊急放送時に汎用出力接点制御を行う場合は [1. ユウコウ] を、行わない場合は [2. ムコウ] を選択し、**確定**を押します。

緊急汎用出力設定画面

<キンキュウ-ハンヨウシュツリョク>
1. ユウコウ 2. ムコウ

→緊急放送メニュー画面に戻ります。
次の設定に進んでください。

ライン2入力の設定

1 緊急放送メニュー画面で、[6. ライン2] を選択し、**確定**を押します。

緊急放送メニュー画面

<キンキュウ> ↑↓
4. イッセイEMG24Vブレーク 5. ハンヨウシュツリョク 6. ライン2

2 ライン2入力を緊急放送専用にする場合は [1. キンキュウセンヨウ] を、緊急放送と業務放送との兼用にする場合は [2. キンキュウギョウムケンヨウ] を選択し、**確定**を押します。

緊急ライン2設定画面

<キンキュウ-ライン2>
1. キンキュウセンヨウ 2. キンキュウギョウムケンヨウ

※緊急専用を設定した場合は、業務放送の音声としてライン2を選択することができなくなります。

すでに業務放送の設定でライン2を選択している場合は設定が解除されます。

→緊急放送メニュー画面に戻ります。

業務放送設定のしかた

業務放送設定の概要

業務放送とは、緊急放送以外の通常の放送です。

基本的には、「何を（音声選択）」「どこへ（放送先）」放送するかを設定します。放送先はスピーカー回線番号を選択することで設定します。

業務放送では、起動要因（放送元）ごとに優先順位を設定し、同順位の放送が重なったときに、先に放送していた方とあとから放送する方のどちらを優先するかを、順位ごとに設定できます。（同順位設定）

また、放送元ごとに、放送先の音量調整器の設定を無効にして放送する「優先放送」の設定を行うことができます。

＜業務放送設定メニュー＞ 以下の番号は、メニュー番号と一致しています。

1. 本体スイッチ

スピーカー選択スイッチの放送先と優先放送の設定をします。また、放送ブロックスイッチの音声選択、放送先、優先放送の設定をします。

優先順位は、本体スイッチとしてまとめて設定します。

2. マルチリモコン

マルチリモコンごとに音声選択、放送エリアスイッチの放送先、優先順位の設定をします。優先放送は、一斉スイッチとブロックスイッチについて設定します。

3. リモコンマイク

音声選択、個別放送スイッチの放送先、優先順位の設定をします。優先放送は、一斉スイッチとブロックスイッチについて設定します。

4. 外部制御入力

外部制御入力による業務放送の音声選択、放送先、優先放送、優先順位の設定をします。音声にはライン入力の他に本体内蔵音源を設定することができます。

5. 拡張外部制御入力

拡張外部制御入力による業務放送の音声選択、放送先、優先放送、優先順位の設定をします。音声にはライン入力の他に本体内蔵音源を設定することができます。

6. チャイム

放送先、優先放送と優先順位の設定をします。

7. ページング

放送先、優先放送と優先順位の設定をします。

8. BGM

放送先を設定します。

9. プログラム起動

プログラムコントローラーによる業務放送の音声選択、放送先、優先順位の設定をします。音声にはライン入力、チャイム入力、BGM入力の他に内蔵音源を設定することができます。

0. 同順位設定

優先順位が同じ放送が重なったときの優先権を順位ごとに設定します。

業務放送設定のしかた（つづき）

■業務放送設定一覧

設定範囲は、システム構成により異なります。また、初期値は下線で示しています。

設定項目	設定範囲	参照ページ
1. 本体スイッチ		
スピーカー選択スイッチの スピーカー回線	1～最大330 ※初期値（→156ページ）	複数選択可 174
スピーカー選択スイッチの 優先放送	1. ON 2. <u>OFF</u>	
放送ブロックスイッチの 音声選択	<u>CH1</u> ～最大CH32	173
放送ブロックスイッチの スピーカー回線	1～最大330 複数選択可	177
放送ブロックスイッチの 優先放送	1. ON 2. <u>OFF</u>	177
本体スイッチの優先順位	1～16 (初期値：2)	178
2. マルチリモコン（アドレス1～最大8）／3. リモコンマイク		
音声選択	<u>CH1</u> ～最大CH32	174
ブロックスイッチの スピーカー回線	1～最大330 複数選択可	177
ブロックスイッチの優先放送	1. ON 2. <u>OFF</u>	177
優先順位	1～16 (初期値：マルチリモコン：4、リモコンマイク：6)	178
一斉スイッチの優先放送	1. ON 2. <u>OFF</u>	177
4. 外部制御入力（1～最大20）／5. 拡張外部制御入力（1～最大140）		
音声選択	CH2～最大CH32 ヒョウジュン1～9 オリジナル1～15 ^{*1} <u>ライン</u> 1～4	175
メッセージ再生回数	1. <u>1カイ</u> 2. クリカエシ	175
スピーカー回線	1～最大330 複数選択可	177
優先放送	1. ON 2. <u>OFF</u>	177
優先順位	1～16 (初期値：12、外部制御入力10のみ10)	178
6. チャイム、7. ページング		
スピーカー回線	1～最大330 複数選択可	177
優先放送	1. ON 2. <u>OFF</u>	177
優先順位	1～16 (初期値：チャイム14、ページング：8)	178
8. BGM		
スピーカー回線	1～最大330 複数選択可	177
9. プログラム起動（1～20）		
音声選択	CH2～最大CH32 ヒョウジュン1～9 オリジナル1～15 ^{*1} チャイム BGM ライン1～4	176

※1 緊急放送設定一覧の注釈（→165ページ）

業務放送の音声の設定

ここでは、操作手順を中心に説明します。

- 1** 書き込みメニュー画面で、[3. ギョウムホウソウ] を選択し、**確定**を押します。

書き込みメニュー画面

<カコミメニュー>	↑↓
1. キコウセイ 2. キンキュウホウソウ 3. ギョウムホウソウ	

- 2** 設定対象を選択し、**確定**を押します。
※マルチリモコン、リモコンマイク、外部制御入力接点、拡張外部制御入力接点が存在しない場合は、メニューの2～5の名称は表示されません。

業務放送メニュー画面

<ギョウム>	↑↓
1. ホンタイ 2. マルチリモコン 3. リモコンマイク 4. ガイブセイギョ	

- [1. ホンタイ] を選択した場合は、さらに [1. SPセンタクSW] または [2. ブロックSW] を選択し、**確定**を押します。

業務本体選択画面

<ギョウム-ホンタイ>	
1. SPセンタクSW 2. ブロックSW 3. ヲウセンジユイ	

スピーカー選択スイッチは音声の設定が不要ですので、[1. SPセンタクSW] を選択した場合は、「業務放送先（スピーカー回線）の設定」（→177ページ）に進みます。

- [2. マルチリモコン] を選択した場合は、さらにアドレスを選択し、**確定**を押します。

業務マルチリモコンアドレス選択画面

<ギョウム-マルチリモコン>	
アドレス:*****	

- [4. ガイブセイギョ] [5. カクチョウガイブセイギョ] を選択した場合は、接点番号を入力し、**確定**を押します。

業務外部制御番号選択画面例

<ギョウム-ガイブセイギョ>	
セッテン NO. :*****	

- [9. PGMキドウ] を選択した場合は、プログラム起動番号を入力し、**確定**を押します。

業務プログラム起動番号選択画面

<ギョウム-PGMキドウ>	
NO. :*****	

以降の操作手順説明では、設定対象を選択したあとの操作について説明します。

放送ブロックスイッチの音声設定

1 業務本体選択画面で、[2. ブロックSW] 選択し、**確定**を押します。

業務本体選択画面

<キョウム-ホンタイ>
1. SPセンタクSW 2. ブロックSW 3. エンジェンイ

2 設定する放送ブロックスイッチ番号を選択し、**確定**を押します。

業務本体ブロックSW番号選択画面

<キョウム-ホンタイ-ブロックSW>
SW NO. :***-*****

3 [1. オンセイセンタク] を選択して**確定**を押します。

業務本体ブロックSWメニュー画面

<キョウム-ホンタイ-ブロックSW***>
1. オンセイセンタク 2. SPカケン

4 入力CHの番号を入力して、**確定**を押して完了です。

業務本体ブロックSW音声選択画面例

<キョウム-ホンタイ-ブロックSW***-オンセイセンタク>
CH NO. :**

→業務本体ブロックSWメニュー画面に戻ります。
他の放送ブロックスイッチの音声設定をする場合は、設定する放送ブロックスイッチ番号を再度選択し、手順2~4を繰り返します。

5 放送先を設定する場合は、「業務放送先（スピーカー回線）の設定」（→177ページ）に進みます。

マルチリモコン／リモコンマイクの音声設定

1 それぞれの画面で [1. オンセイセンタク] を選択し、**確定**を押します。

業務マルチリモコンメニュー画面

<キョウム-マルチリモコン*> ↑↓
1. オンセイセンタク 2. ブロックSW 3. エンジェンイ

2 入力CHの番号を入力して、**確定**を押して完了です。

業務リモコンマイクメニュー画面

<キョウム-リモコンマイク> ↑↓
1. オンセイセンタク 2. ブロックSW 3. エンジェンイ

→手順1の画面に戻ります。
他のマルチリモコンの音声設定をする場合は、**戻る**を押して設定するマルチリモコンのアドレスを選択し、手順1、2を繰り返します。

業務マルチリモコン音声選択画面例

<キョウム-マルチリモコン*-オンセイセンタク>
CH NO. :**

3 放送先を設定する場合は、「業務放送先（スピーカー回線）の設定」（→177ページ）に進みます。

外部制御入力／拡張外部制御入力の音声設定

1 それぞれの画面で [1. オンセイセンタク] を選択し、**確定**を押します。

業務外部制御メニュー画面

<キョウム-ガイフ***>
1. オンセイセンタク 2. SPカイセン 3. ヲセンジユンイ

2 入力CH2～32を選択する場合は、番号を入力して**確定**を押します。
ライン入力またはメッセージを設定する場合は、CH1を設定して、**確定**を押します。手順3へ進んでください。

業務拡張外部制御メニュー画面

<キョウム-カクチャウ***>
1. オンセイセンタク 2. SPカイセン 3. ヲセンジユンイ

→入力CH2～32を設定した場合は、それぞれ手順1の画面に戻ります。

業務外部制御音声選択画面

<キョウム-ガイフ***-オンセイセンタク>
CH NO. :**

3 音声種別を選択して、**確定**を押します。

[2. メッセージ] を選択した場合は、手順5に進んでください。

業務外部制御音声種別選択画面例

<キョウム-ガイフ***-オンセイ-シユベツ>
1. ライン 2. メッセージ

4 ライン番号1～4を選択し、**確定**を押します。

→それぞれ手順1の画面に戻ります。
※ライン2が緊急放送専用設定されている場合、ライン2は選択できません。(→170ページ)

業務外部制御音声ライン選択画面

<キョウム-ガイフ***-オンセイ-ライン>
ライン:**

5 メッセージ番号を選択して**確定**を押します。
メッセージは、ヒョウジユン1～9→オリジナル1～15の順に表示されます。

業務外部制御メッセージ選択画面例

<キョウム-ガイフ***-オンセイ-メッセージ>
ヒョウジユン***-*****

6 再生回数を選択して**確定**を押して完了です。

→それぞれ手順1の画面に戻ります。
他の入力接点の音声設定をする場合は、**戻る**を押して設定する入力接点を選択し、手順1～6を繰り返します。

業務外部制御メッセージ再生回数選択画面例

<キョウム-ガイフ***-オンセイ-メッセージ-サイカイイヌ>
1. 1カイ 2. クリカイ

7 放送先を設定する場合は、「業務放送先（スピーカー回線）の設定」(→177ページ)に進みます。

チャイム／ページング／BGMの音声設定

チャイム、ページング、BGMの音声設定はありません。

業務放送メニュー画面でそれぞれの項目を選択したら、「業務放送先（スピーカー回線）の設定」に進みます。（→177ページ）

プログラム起動の音声設定

1 業務プログラム起動メニュー画面で [1. オンセイセンタク] を選択し、**確定**を押します。

業務プログラム起動メニュー画面

<キョウム-PGMキトウ**>
1. オンセイセンタク 2. SPカイトン 3. コウセンジュンイ

2 入力CH2～32を選択する場合は、番号を入力して**確定**を押します。
ライン入力、メッセージ、チャイム、BGMを設定する場合は、CH1を設定して、**確定**を押します。

業務外部制御音声選択画面

<キョウム-PGMキトウ**-オンセイセンタク>
CH NO. :**

→入力CH2～32を設定した場合は、手順1の画面に戻ります。

3 音声種別を選択して、**確定**を押します。

業務プログラム起動音声種別選択画面例

<キョウム-PGMキトウ**-オンセイ-シユベツ>
1. ライン 2. メッセージ 3. チャイム 4. BGM

[2. メッセージ] を選択した場合は、手順5に進みます。
[3. チャイム] [4. BGM] を選択した場合は、手順1の画面に戻ります。

4 ライン番号1～4を選択し、**確定**を押します。

業務プログラム起動音声ライン選択画面

<キョウム-PGMキトウ**-オンセイ-ライン>
ライン:*

→それぞれ手順1の画面に戻ります。

※ライン2が緊急放送専用設定されている場合、ライン2は選択できません。（→170ページ）

5 メッセージ番号を選択して**確定**を押します。
メッセージは、ヒョウジュン1～9→オリジナル1～15の順に表示されます。

業務プログラム起動メッセージ選択画面例

<キョウム-PGMキトウ**-オンセイ-メッセージ>
ヒョウジュン**-*****

6 再生回数を選択して**確定**を押して完了です。

業務外部制御メッセージ再生回数選択画面例

<キョウム-PGMキトウ**-オンセイ-メッセージ-サイカイズ>
1. 1カイ 2. クリカシ

→手順1の画面に戻ります。

他のプログラム起動の音声設定をする場合は、**戻る**を押して設定する番号を選択し、手順1～6を繰り返します。

7 放送先を設定する場合は、「業務放送先（スピーカー回線）の設定」（→177ページ）に進みます。

業務放送先（スピーカー回線）の設定

1 業務放送の各メニュー画面で、[2. SPカイセン] を選択し、**確定**を押します。

※スピーカー選択スイッチの場合は、設定するスイッチ番号を選択し、**確定**を押します。

チャイム、ページングの場合は、[1. SPカイセン] を選択し、**確定**を押します。

また、BGMの場合は、業務放送メニュー画面で [8. BGM] を選択すると、スピーカー回線設定画面に移行します。

2 放送先に選択するスピーカー回線番号を入力します。
※入力のしかた（→152ページ）

↑前画面 / **↓次画面** を押すと、画面を切り換えて設定内容を確認できます。

3 **確定**を押します。

→BGM以外の設定の場合は優先放送設定画面（手順4）に移行します。

BGMは業務放送メニュー画面に戻ります。

4 優先放送に設定する場合は [1. ON] を、優先放送に設定しない場合は [2. OFF] を選択し、**確定**を押して完了です。

→それぞれ手順1の画面に戻ります。他の放送のスピーカー回線を設定する場合は、手順1～4を繰り返します。

業務本体ブロックSWメニュー画面例

<キョム-ホンタイ-ブ`ロックSW***>
1. オセセンタ 2. SPカイセン

業務チャイムメニュー画面例

<キョム-チャイム>
1. SPカイセン 2. ヲセン`ンイ

業務本体SP選択SWのSP回線設定画面例

<キョム-ホンタイ-ブ`ロックSW***-SPカイセン> ↑↓
SP NO. :***, ***, ***, ***, ***, ***, ***, ***, ***,

業務本体SP選択SWの優先放送設定画面

<キョム-ホンタイ-ブ`ロックSW***-ユセンホウソウ>
1. ON 2. OFF

メモ

- プログラム起動の音声設定で [3.チャイム]、[4.BGM] を選択した場合は、スピーカー回線の設定は、チャイム/BGMの設定と同一に設定されます。

■マルチリモコン／リモコンマイクの一斉スイッチの優先放送設定

優先放送設定は、マルチリモコンとリモコンマイクの一斉スイッチについても設定できます。

1 マルチリモコンまたはリモコンマイクの各メニュー画面で、[4. イッセイSW] を選択し、**確定**を押します。

業務マルチリモコンメニュー画面

<キョム-マルチリモコン*> ↑↓
4. イッセイSW

2 優先放送に設定する場合は [1. ON] を、優先放送に設定しない場合は [2. OFF] を選択し、**確定**を押して完了です。

業務マルチリモコン一斉SW優先放送設定画面

<キョム-マルチリモコン*-イッセイSW-ユセンホウソウ>
1. ON 2. OFF

→それぞれ手順1の画面に戻ります。

業務放送の優先順位の設定

- 1 業務放送の各メニュー画面で、[3. ユウセンジュンイ] を選択し、**確定**を押します。

※スピーカー選択スイッチと放送ブロックスイッチは、本体スイッチとして1つの優先順位を設定されます。
チャイム、ページングの場合は、[2. ユウセンジュンイ] を選択し、**確定**を押します。

- 2 優先順位を設定し、**確定**を押します。

→それぞれ手順1の画面に戻ります。他の放送の優先順位を設定する場合は、設定対象を選択し、手順1、2を繰り返します。

業務本体SWメニュー画面例

<キョウム-ホンタイ>
1. SPセンタクSW 2. ブロックSW **3. ユウセンジュンイ**

業務チャイムメニュー画面例

<キョウム-チャイム>
1. SPカケン **2. ユウセンジュンイ**

業務本体SW優先順位設定画面例

<キョウム-ホンタイ-ユウセンジュンイ>
ユウセンジュンイ(1-16):**

同順位の放送が重なる場合の設定

同じ優先順位に設定してある業務放送が複数起動したときに、どの放送を優先するかを放送を起動するタイミングの先/後によって優先順位（1位～16位）ごとに設定します。

- 1 業務放送メニュー画面で、[0. ドウジュンイセツテイ] を選択し、**確定**を押します。

→業務同順位設定画面が1位から表示されます。

- 2 先に放送している放送を続ける場合は [1. サキユウセン] を、あとから放送する方に切り換える場合は [2. アトユウセン] を選択します。

↑前画面 / **↓次画面** で1位～16位の設定や内容確認をします。

- 3 **確定**を押して完了です。

→業務放送メニュー画面に戻ります。

業務放送メニュー画面（3枚目）

<キョウム> ↑↓
8. BGM 9. PGMキョウ **0. ドウジュンイセツテイ**

業務同順位設定画面例（1位）

<キョウム-ドウジュンイセツテイ-1> ↑↓
1. サキユウセン 2. アトユウセン

共通機能の設定のしかた

共通設定の概要

ここでは、本システムで共通の汎用出力、状態出力、入力マトリクスユニットを増設した場合のスピーカー回線登録などを設定します。

汎用出力と状態出力は、入出力制御ユニットの汎用出力の10個の接点を使用します。機器構成設定で接点数を0に設定にしていると、ここで設定することはできません。

＜共通設定メニュー＞ 以下の番号は、メニュー番号と一致しています。

1. 汎用出力

入出力制御ユニットの汎用出力を使って、放送の起動状態を外部機器に出力します。起動状態は、スイッチごと、外部制御入力ごと、プログラム起動ごとに設定可能で、複数の起動を割り当てることができます。

2. 拡張汎用出力

拡張制御ユニットの出力接点を使って、放送の起動状態を外部機器に出力します。起動状態は、スイッチごと、外部制御入力ごと、プログラム起動ごとに設定可能で、複数の起動を割り当てることができます。

3. 状態出力

入出力制御ユニットの出力接点を使って、放送状態やシステムの異常状態などを、外部機器に出力します。

4. スピーカー回線登録

入力マトリクスユニットを増設して出力CH数を増やした場合に、入力マトリクスユニットの各出力CHとスピーカー回線番号の対応を登録します。

■共通設定一覧

設定範囲は、システム構成により異なります。

設定項目	設定範囲	参照ページ
各汎用出力接点（1～10）の起動状態	キンキュウSW1～3	181
各拡張汎用出力接点（1～140）の起動状態	SPセンタクSW1～340 ブロックSW1～340 ハンヨウSW1～10 ガイブセイギョ1～20 カクチョウ1～140 チャイム ページング BGM PGMキドウ1～20 複数選択可 ^{※1}	
各状態出力接点（1～10）の状態出力内容	16項目複数選択可 ^{※2 (→180ページ)}	182
入力マトリクスユニットの出力CHごとのスピーカー回線登録	1～330（システム構成による） 複数選択可	183

※1 汎用出力、拡張汎用出力の設定範囲として表示される内容は、機器構成設定された内容のみです。設定されていない項目は表示されません。

共通機能の設定のしかた（つづき）

※2 設定できる状態出力および出力接点のメイク制御条件は、以下のとおりです。

状態出力名称	制御条件
マイクハウソウチュウ	本体マイクによる放送の開始から終了まで。本体マイクスイッチがONであり、かつ音声が発送されていること。
キンキュウハウソウチュウ	緊急放送の開始から終了まで。緊急放送スイッチによる放送では、緊急放送スイッチONから放送復旧されるまで。 外部制御入力／拡張外部制御入力による放送では、制御入力接点がメイクされている間となります。
キンキュウMSGサイセイマチ	緊急放送のメッセージ再生待ち開始から終了（緊急放送メッセージ放送開始）まで。
キンキュウフッキュウハウソウチュウ	緊急復旧放送の開始から終了まで。
ギョウムハウソウチュウ	業務放送（スイッチ種類、外部制御入力などの起動種類にかかわらず）の開始から終了まで
リモコンマイクハウソウチュウ	リモコンマイクによる放送の開始から終了まで。1箇所でもリモコンマイクによる放送が行われていること。 他の優先順位の高い放送により保留されている間はメイク制御されません。
マルチリモコン＊ハウソウチュウ （＊：アドレス1～8）	各マルチリモコンによる放送の開始から終了まで。1箇所でもマルチリモコンによる放送が行われていること。 他の優先順位の高い放送により保留されている間はメイク制御されません。
メッセージサイセイチュウ	緊急放送、業務放送によらず、本体のメッセージ再生の開始から終了まで。本体前面パネルのメッセージ再生中表示灯の点灯状態と連動します。コールサインは含みません。
システムセッテイチュウ	本体が書き込みメニューに入っている間。パスワード入力後から書き込みメニュー画面を抜けるまで。 業務放送中に書き込みメニューに入った場合もメイク制御されます。
テンケンモードチュウ	本体が点検を実行している間。 本体前面パネルの点検中表示灯の点灯状態と連動します。
チクデンチイジョウ	蓄電池異常発生から、すべての蓄電池異常が解消されるまで。
EMG24Vイジョウ	個別および一斉EMG24Vブレイク制御の異常発生から、すべての異常が解消されるまで（異常の解除には画面操作が必要です）。
SPカイセンタンラク	スピーカー回線異常発生から、すべてのスピーカー回線異常が解消されるまで（異常の解除には画面操作が必要です）。
ガイブキキイジョウ	外部機器の異常発生を示す接点入力が行われている間
ツウシンイジョウ	本体と接続されたユニットとの通信異常発生から、すべての通信異常が解消されるまで。 入出力制御ユニットおよび設定／運用支援ソフト用PC、マルチリモコンとの通信異常は含みません。
リモコンマイクデンゲンイジョウ	マルチリモコン、リモコンマイクの電源の異常発生から、すべての異常が解消されるまで。

汎用出力／拡張汎用出力の設定

1 書き込みメニュー画面で、[4. キョウツウセッテイ] を選択し、**確定**を押します。

書き込みメニュー画面

<カキコミメニュー>	↑↓
4. キョウツウセッテイ 5. コウトウセッテイ 6. ソフト	

2 入出力制御ユニットの接点を使用する場合は [1. ハンヨウシュツリョク] を、拡張制御ユニットの接点を使用する場合は [2. カクチョウハンヨウシュツリョク] を選択し、**確定**を押します。

共通設定メニュー画面

<キョウツウ>	↑↓
1. ハンヨウシュツリョク 2. カクチョウハンヨウシュツリョク	

※拡張制御ユニットが存在しない場合は、[2. カクチョウハンヨウシュツリョク] は表示されません。

3 設定する汎用出力番号または拡張汎用出力番号を選択し、**確定**を押します。

共通設定汎用出力番号選択画面例

<キョウツウ-カクチョウハンヨウシュツリョク>
NO. :***-*****

4 設定可能な項目が画面に2つずつ表示されます。同じ種類の項目では、番号順に表示されます。
※共通設定一覧 (→179ページ)

共通設定汎用出力割り当て画面例

<キョウツウ-ハンヨウシュツリョク**>	↑↓
*****, *****,	

十字ボタンの上／下で、設定対象項目を切り換えられます。また、**↑前画面**／**↓次画面**を押すと、次の画面に移行できます。

複数の項目を設定するときは、**[.]**を押して、次の項目を選択してください。

設定したい項目を選択して**確定**を押して完了です。

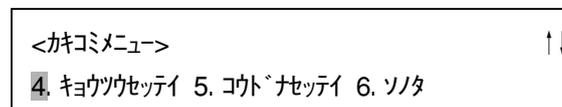
→共通設定汎用出力番号選択画面に戻ります。

5 他の設定をする場合は、**戻る**を押してください。

状態出力の設定

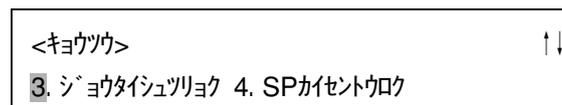
1 書き込みメニュー画面で、[4. キョウツウセッテイ] を選択し、**確定**を押します。

書き込みメニュー画面



2 [3. ジョウタイシュツリョク] を選択し、**確定**を押します。

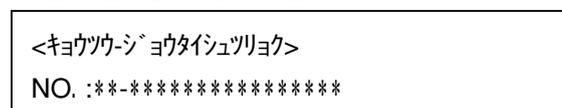
共通設定メニュー画面



※状態出力接点が存在しない場合は表示されません。

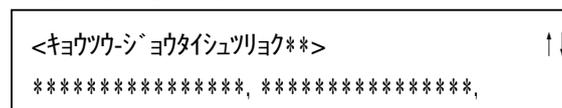
3 設定する状態出力番号を選択し、**確定**を押します。

共通設定状態出力番号選択画面例



4 設定可能な項目が画面に2つずつ表示されます。[マルチリモコンハウソウチュウ] はアドレス順に表示されます。
※共通設定一覧（→179ページ）

共通設定状態出力割り当て画面例



十字ボタンの上/下を押すと、設定対象項目を切り換えられます。また、**↑前画面**/**↓次画面**を押すと、次の画面に移行できます。

複数の項目を設定するときは、**[,]**を押して、次の項目を選択してください。

設定したい項目を選択して**確定**を押して完了です。

→共通設定状態出力番号選択画面に戻ります。

5 他の設定をする場合は、**戻る**を押してください。

出力CHのスピーカー回線登録

1 書き込みメニュー画面で、[4. キョウツウセッテイ] を選択し、**確定**を押します。

書き込みメニュー画面

<カキコミメニュー>	↑↓
4. キョウツウセッテイ 5. コウトウセッテイ 6. ソツタ	

2 [4. SPカイトウロク] を選択し、**確定**を押します。

共通設定メニュー画面

<キョウツウ>	↑↓
3. ショウタイシュツヨク 4. SPカイトウロク	

3 設定する入力マトリクスユニットの出力CH番号を設定し、**確定**を押します。

共通設定SP回線登録出力CH選択画面例

<キョウツウ-SPカイトウロク>
シュツヨクCH:**

4 登録するスピーカー回線番号を入力します。設定方法は、緊急放送先や業務放送先の設定方法と同様です。

共通設定SP回線登録SP回線設定画面

<キョウツウ-SPカイトウロク-シュツヨクCH**>	↑↓
SP NO. :***, ***, ***, ***, ***, ***, ***, ***, ***,	

5 **確定**を押して完了です。

→手順3の画面に戻ります。手順3、4を繰り返してすべての出力CHについて設定します。
他の設定に移る場合は、**戻る**を押してください。

メモ

- 初期値では、すべてのスピーカー回線は出力CH1に登録されています。
- スピーカー回線を複数の出力CHに登録することはできません。
出力CHにスピーカー回線を重複登録すると、もともと登録されていた出力CHから自動的に削除されます。

高度な設定のしかた

高度な設定の概要

ここでは、応用的なシステムの設定をします。必要に応じて行ってください。

＜高度な設定メニュー＞ 以下の番号は、メニュー番号と一致しています。

1. 個別EMG24Vブレイク

非常制御出力ユニットの出力接点を使って、緊急放送時に個別にEMG24Vブレイク制御をします。設定されたスピーカー回線がONになると出力接点も連動して動作します。

2. コールサイン

本体、マルチリモコン、リモコンマイクのコールサインスイッチに割り当てる音源を設定します。また、ページングについては開始時／終了時に鳴動する音源を設定します。

3. 一斉スイッチ

マルチリモコン、リモコンマイクの一斉スイッチの動作を、本体の一斉スイッチと同じにするか、それぞれの全ブロックスイッチにするか設定します。

4. 制御グループ

外部制御入力、拡張外部制御入力、プログラム起動から任意の番号を選択し、グループとしてまとめます。同じグループ内の構成要素は、それぞれの放送先を加算します。

制御グループにまとめられた構成要素は、個々の設定よりも制御グループとしての設定が優先されます。

5. メッセージスイッチ

メッセージスイッチに割り当てるメッセージの種類と再生回数を設定します。

6. プログラムコントローラー

プログラムコントローラーを正しく動作させるために、時刻補正を行う方法、プログラムを切り換える日付変更時刻、本体電源投入時のプログラムの実行状態を設定します。

■高度な設定一覧

設定範囲は、システム構成より異なります。また、初期値は下線で示しています。

設定項目	設定範囲	参照ページ
1. 個別EMG24Vブレイク (1~20)		187
スピーカー回線	1~最大330 (初期値：なし) 複数選択可	
緊急放送時	1. ユウコウ 2. ムコウ	
2. コールサイン*1		188
本体スイッチ1	<u>ヒョウジュン</u> 1~5 (スイッチ1： <u>ヒョウジュン</u> 1)	
本体スイッチ2	オリジナル1~5 (スイッチ2： <u>ヒョウジュン</u> 2)	
マルチリモコン上りスイッチ	ナイゾウ (上りスイッチ： <u>ヒョウジュン</u> 1)	
マルチリモコン下りスイッチ	<u>ヒョウジュン</u> 1~5 (下りスイッチ： <u>ヒョウジュン</u> 2) オリジナル1~5	
リモコンマイク上りスイッチ	<u>ヒョウジュン</u> 1~5 (上りスイッチ： <u>ヒョウジュン</u> 1)	
リモコンマイク下りスイッチ	オリジナル1~5 (下りスイッチ： <u>ヒョウジュン</u> 2)	
ページング放送	<u>ヒョウジュン</u> 1~5 (放送終了： <u>ヒョウジュン</u> 2) オリジナル1~5	
3. 一斉スイッチ		189
マルチリモコン一斉スイッチ	1. <u>ホンタイイッセイ</u>	
リモコンマイク一斉スイッチ	2. <u>ジッソウイッセイ</u>	

設定項目	設定範囲	参照ページ
4. 制御グループ (1~20)		190
グループ内構成	外部制御入力 (1~20) 拡張外部制御入力 (1~140) プログラム起動 (1~20) 複数選択可	
音声選択 ^{*2}	CH2~最大CH32 (入力マトリクスユニットの入力CHを指定) ヒョウジュン1~9 オリジナル1~15 ライン1~4	
メッセージ再生回数	1. 1カイ 2. クリカエシ	
優先順位	1~16	
5. メッセージスイッチ (1~20) ^{*2}		192
メッセージ番号選択	ヒョウジュン1~9 (メッセージスイッチ1: テンケンヨウオンゲン1) オリジナル1~15 (メッセージスイッチ2: テンケンヨウオンゲン2) テンケンヨウオンゲン1~2	
メッセージ再生回数	1. 1カイ 2. クリカエシ	
6. プログラムコントローラー		193
時刻補正 ^{*3}	1. ナシ 2. オヤドケイ 3. セッテン 4. ジホウオンセイ	
日付変更時刻 ^{*4}	00:00:00~23:59:59 (1秒単位)	
オートスタート ^{*5}	1. AUTO 2. ON 3. OFF	

※1コールサイン種類

コールサイン番号	内容	時間 (単位: 秒) (小数点以下切上げ)
ヒョウジュン1	上り4音	5
ヒョウジュン2	下り4音	5
ヒョウジュン3	コールサイン1	6
ヒョウジュン4	コールサイン2	7
ヒョウジュン5	コールサイン3	5
オリジナル1	ユーザーのオリジナルコールサイン	60
:		(1~5の合計)
オリジナル5		

高度な設定のしかた（つづき）

※2 メッセージ種類

メッセージ番号	内容	変更	時間
ヒョウジュン1	ウェストミンスターの鐘	不可	26秒
ヒョウジュン2	威嚇音		8秒
ヒョウジュン3	省エネ放送（女声） 「<♪上り4音>みなさまにお願いいたします。不要な照明は消して、省エネにご協力ください。」		15秒
ヒョウジュン4	禁煙放送（女声） 「<♪サイン音>館内は所定の場所を除き、終日禁煙となっております。おタバコは所定の喫煙場所をご利用ください。」		14秒
ヒョウジュン5	緊急地震速報-発令時（男声） 「<♪サイン音>緊急地震速報！強い揺れがきます！」		9秒
ヒョウジュン6	緊急地震速報-発令時（女声） 「<♪サイン音>緊急地震速報！強い揺れがきます！」		9秒
ヒョウジュン7	地震発生放送（女声） 「<♪サイン音>ただいま地震が発生しました。落ち着いて身の安全を確保してください。」		10秒
ヒョウジュン8	緊急地震速報-誤報案内（女声） 「さきほどの緊急地震速報は誤りでした。ご安心ください」		6秒
ヒョウジュン9	緊急地震速報-訓練用（女声） 「ただいまより緊急地震速報テストを始めます。（2回） <♪サイン音>緊急地震速報！強い揺れがきます！」		20秒
オリジナル1～15	ユーザーが任意の音源を登録可能（15メッセージ）	可	合計で900秒
テンケンヨウオンゲン1	点検用メロディ	不可	60秒
テンケンヨウオンゲン2	点検用メッセージ（女声） 「<♪サイン音>ただいま放送設備の点検を行っています。ご協力をお願い致します。」		13秒

※3 時刻補正タイミング

親時計の場合 : 0:42、4:42、8:42、12:42、16:42、20:42の±15秒間（6回/日）

接点の場合 : 0:00、4:00、8:00、12:00、16:00、20:00の±15秒間（6回/日）

時報音声の場合 : 12:00（正午）の±14秒間（1回/日）

時報音声を選択した場合、モニタースピーカーから音を聴きながら入力レベル（音量）を調整するため、放送をいったん止める必要があります。支障のないときに設定してください。

時刻補正の設定を「ナシ」とすると、プログラムコントローラーが正しい時刻を保持できなくなる場合があります。いずれかの方法で自動的に時刻補正をするように設定するか、定期的に手動で時刻補正を行ってください。

※手動の時刻補正方法（→業務放送システム 取扱説明書）

※4 「日付変更時刻」とは、

プログラムの切り換え時刻を設定できる機能です。例えば、02:00:00に設定されている場合は、実際の日付が変わった2時間後にプログラムを当日のスケジュールにあわせて切り替えます。

※5 オートスタートの各項目は、以下の動作となります。

AUTO : 電源を切ったときもプログラムコントローラーの状態を維持します。

電源を切ったとき、プログラム実行中であれば、電源を再投入したときもプログラムは実行します。

電源を切ったとき、プログラム停止中であれば、電源を再投入したときもプログラムは停止のままです。

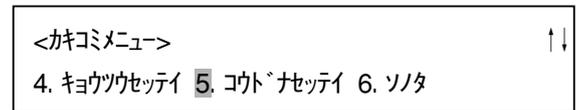
ON : 電源投入時はプログラムを実行します。

OFF : 電源投入時はプログラムは実行されません。

個別EMG24Vブレークの設定

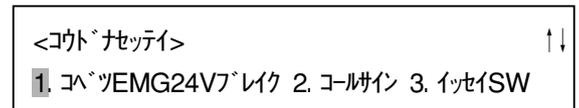
1 書き込みメニュー画面で、[5. コウトナセッテイ] を選択し、**確定**を押します。

書き込みメニュー画面



2 [1. コベツEMG24Vブレーク] を選択し、**確定**を押します。

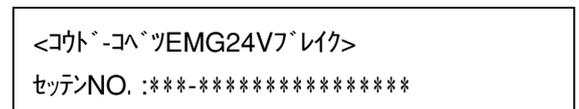
高度な設定メニュー画面



※非常制御出力ユニットが存在しない場合は画面には表示されません。

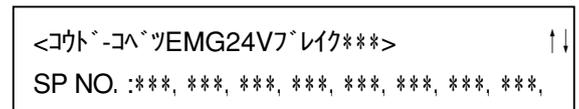
3 設定する出力接点番号を設定し、**確定**を押します。

高度な設定個別EMG24V接点番号選択画面例



4 出力接点を動作させるためのスピーカー回線番号を入力します。

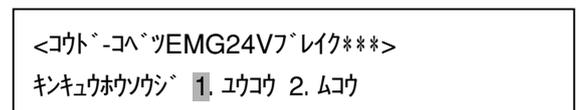
高度な設定個別EMG24VSP回線設定画面



5 **確定**を押します。

6 緊急放送時に接点制御を行う場合は、[1. ユウコウ] を、行わない場合は [2. ムコウ] を選択し、**確定**を押して完了です。

高度な設定個別EMG24V緊急放送時設定画面



→手順3の画面に戻ります。

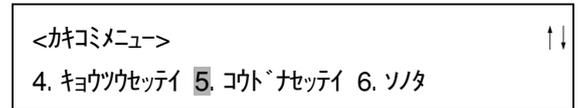
複数の接点について設定する場合は、手順3～6を繰り返します。

他の設定に移る場合は、**戻る**を押してください。

コールサインスイッチへの音源の設定

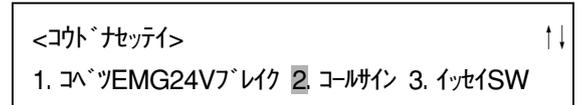
1 書き込みメニュー画面で、[5. コウドナセッテイ] を選択し、**確定**を押します。

書き込みメニュー画面



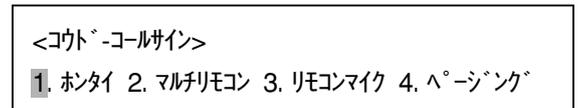
2 [2. コールサイン] を選択し、**確定**を押します。

高度な設定メニュー画面



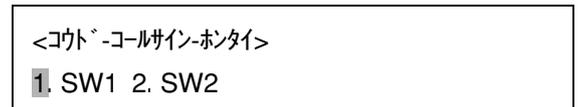
3 設定対象を選択し、**確定**を押します。
※マルチリモコンが存在しない場合は、メニューの2は画面には表示されません。

高度な設定コールサインメニュー画面



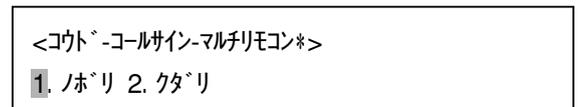
→ [1. ホンタイ] を選択した場合：
[1. SW1] または [2. SW2] を選択し、**確定**を押します。

高度な設定コールサイン本体SW選択画面



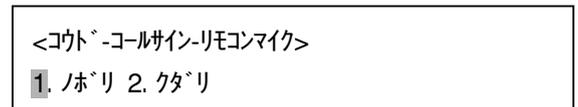
→ [2. マルチリモコン] を選択した場合：
アドレスを選択し、**確定**を押します。
[1. ノボリ] または [2. クダリ] を選択し、**確定**を押します。

高度な設定コールサインマルチリモコンSW選択画面



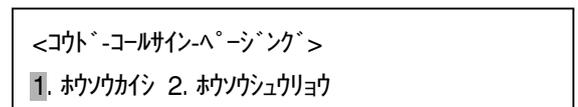
→ [3. リモコンマイク] を選択した場合：
[1. ノボリ] または [2. クダリ] を選択し、**確定**を押します。

高度な設定コールサインリモコンマイクSW選択画面



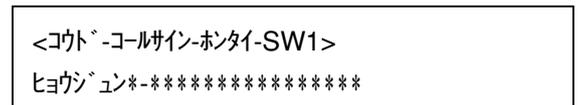
→ [4. ページング] を選択した場合：
[1. ホウソウカイシ] または [2. ホウソウシュウリョウ] を選択し、**確定**を押します。

高度な設定コールサインページング種別選択画面



4 コールサイン番号を選択して**確定**を押します。
表示順：ヒョウジュン1～5→オリジナル1～5

高度な設定コールサイン本体SW1音源選択画面例



マルチリモコンの場合は、[ナイズウ] も選択できます。
ページングの場合は、「ナシ」も選択できます。

→それぞれスイッチや種別を選択する画面に戻ります。
他のスイッチを設定する場合は、手順3～5を繰り返します。
他の設定に移る場合は、**戻る**を押してください。

マルチリモコン／リモコンマイクの一斉スイッチの動作設定

1 書き込みメニュー画面で、[5. コウトナセッテイ] を選択し、**確定**を押します。

書き込みメニュー画面

<カキコミメニュー> ↑↓
4. キョウツクセッテイ **5. コウトナセッテイ** 6. ソノタ

2 [3. イッセイSW] を選択し、**確定**を押します。

高度な設定メニュー画面

<コウトナセッテイ> ↑↓
1. コハツEMG24V7レク 2. コルサイン **3. イッセイSW**

3 設定対象を選択し、**確定**を押します。

高度な設定一斉SW対象選択画面

<コウトナセッテイ-イッセイSW>
1. リモコンマイク 2. マルチリモコン

→ [2. マルチリモコン] を選択した場合：
アドレスを選択し、**確定**を押します。

4 本体の一斉スイッチと同じ動作にする場合は [1. ホンタイイッセイ] を、マルチリモコン／リモコンマイク側の一斉スイッチ動作にする場合は [2. ジッソウイッセイ] を選択し、**確定**を押して完了です。

高度な設定一斉SWリモコンマイク設定画面例

<コウトナセッテイ-イッセイSW-リモコンマイク>
1. ホンタイイッセイ 2. ジッソウイッセイ

→手順3の画面に戻ります。

複数のマルチリモコンの設定をする場合は、手順3、4を繰り返します。

他の設定に移る場合は、**戻る**を押してください。

9 高度な設定制御グループ作成メニュー画面で [5. ユウセン
ジュンイ] を選択し、**確定**を押して完了です。

→優先順位の設定のしかた (→178ページ)

→手順5の画面に戻ります。

他の制御グループを新たに作る場合は、**戻る**を2回押し
て手順3の画面に戻ります。

他の設定に移る場合は、高度な設定メニュー画面に戻って
ください。

高度な設定制御グループ作成優先順位設定画面

<コウト^-グループ°**-ユウセンジュンイ>
ユウセンジュンイ (1-16):**

制御グループの解除

一度グループ化した制御グループを解除しても、その構成要素の音声と優先順位は制御グループで設定された内容を保持します。

個々に音声設定、優先順位設定をしたい場合は、業務放送設定を行ってください。

※「外部制御入力/拡張外部制御入力の音声の設定」(→175ページ)

※「プログラム起動の音声の設定」(→176ページ)

1 「制御グループを設定する」の手順1~3を行い、解除する
グループ番号を選択して、**確定**を押します。

高度な設定制御グループ番号選択画面

<コウト^-セキョグループ°>
NO. :**-*****

2 [2. カイジヨ] を選択し、**確定**を押します。

高度な設定制御グループメニュー画面

<コウト^-グループ°**>
1. サケイ 2. カイジヨ

→制御グループ解除確認画面が表示されます。

3 [1. ハイ] を選択し、**確定**を押して完了です。

高度な設定制御グループ解除確認画面

<コウト^-グループ°**-カイジヨ>
カイジヨシマスか? 1. ハイ 2. イエ

→手順2の画面に戻ります。

他の制御グループの解除を行う場合は、**戻る**を押して手
順1の制御グループ番号選択~手順3を繰り返します。

他の設定に移る場合は、高度な設定メニュー画面に戻って
ください。

メモ

- 制御グループを解除すると内蔵音源や優先順位設定がグループ化する前の設定とは変更されています。

メッセージスイッチの音声設定

- 書き込みメニュー画面で、[5. コウドナセッテイ] を選択し、**確定**を押します。
- [5. メッセージSW] を選択し、**確定**を押します。
※メッセージスイッチが存在しない場合は、メニューの5は表示されません。
- 設定するメッセージSW番号を選択し、**確定**を押します。
- メッセージ番号を選択し、**確定**を押します。
表示順：ナン→ヒョウジュン1～9→オリジナル1～15
→テンケン1～2
- 再生回数を選択して**確定**を押して完了です。

→手順3の画面に戻ります。
他のメッセージSWの設定をする場合は、手順3～5を繰り返します。
他の設定に移る場合は、高度な設定メニュー画面に戻ってください。

書き込みメニュー画面

<カキコミメニュー>	↑↓
4. キョウツクセッテイ 5. コウドナセッテイ 6. ソノタ	

高度な設定メニュー画面

<コウドナセッテイ>	↑↓
4. グループ 5. メッセージSW 6. プログラムコントローラ	

高度な設定メッセージSW番号選択画面

<コウドナメッセージSW>
メッセージSW NO. : **

高度な設定メッセージSWメッセージ番号選択画面

<コウドナメッセージSW**>
ヒョウジュン**-*****

高度な設定メッセージSWメッセージ再生回数選択画面

<コウドナメッセージSW**-サイカイズ>
1. 1カイ 2. クリカイ

プログラムコントローラーの設定

補正方法に時報音声を選択した場合、入力レベルを調整する間、放送を強制的にいったん止めますので、支障のないときに設定してください。

■時刻補正方法の設定

- 書き込みメニュー画面で、[5. コウドナセッテイ] を選択し、**確定**を押します。
- [6. プログラムコントローラー] を選択し、**確定**を押します。
- [1. ジコクホセイ] を選択し、**確定**を押します。
- 設定する項目を選択し、**確定**を押します。
※ [1. ナシ] は、プログラムコントローラー機能を使用しないか、または定期的に手動で時刻補正ができる場合を選択してください。

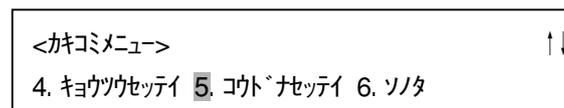
→1~3を選択した場合は完了です、手順3の画面に戻ります。
[4. ジホウオンセイ] を選択した場合は、放送停止確認画面が表示されます。
- 放送を停止しても問題ないことを確認し、[1. ハイ] を選択して**確定**を押します。
※ [2. イイエ] を選択すると、設定を続けることができません。時報音声に設定する場合は、必ずいったん放送を止める必要があります。
- 右の画面表示中は、本体のモニタースピーカーから外部FMチューナーの音声流れます。前面パネルの「出力レベル」メーターの赤の表示灯がひんぱんに点灯するように**十字ボタンの上/下**を押して音量を調整してください。

重要

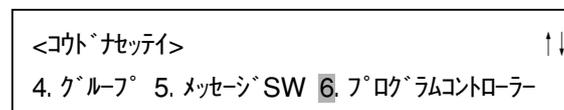
- システムコントローラーの時報音声入力には外部のラジオチューナーから音声を入力してください。
- ラジオチューナーはNHK-FM放送に合わせてください。それ以外の放送では正しく補正できない可能性があります。
- 音量の調整は、レベルの比較的大きい音楽番組をおすすめします。

→手順3の画面に戻ります。
他の設定に進んでください。

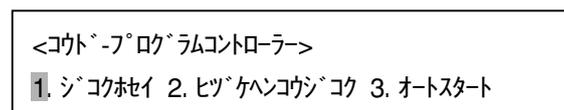
書き込みメニュー画面



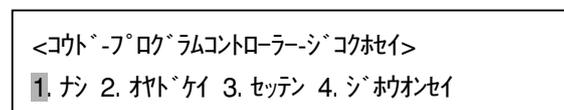
高度な設定メニュー画面



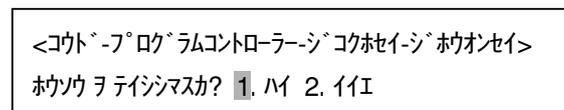
高度な設定プログラムコントローラーメニュー画面



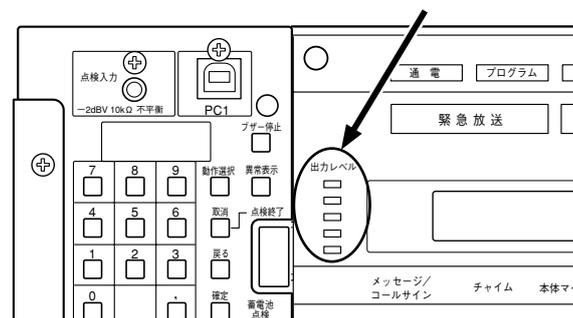
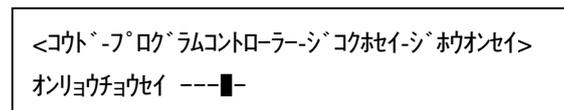
高度な設定プログラムコントローラー時刻補正メニュー画面



高度な設定時報音声放送停止確認画面



高度な設定時報音声レベル設定画面



高度な設定のしかた（つづき）

■日付変更時刻を設定する

ユーザー設定済みの時刻を変更する場合は、設定済み運用プログラムの時刻設定が重複する可能性がありますので、相互の設定に矛盾がないか、設定完了後によく確認してください。

1 「時刻補正方法の設定」の手順1、2を行い、[2. ヒツケヘンコウジコク] を選択して**確定**を押します。

2 **十字ボタンの左/右**を押して、時、分、秒を切り換えながら日付変更時刻を設定し、**確定**を押して完了です。

→手順1の画面に戻ります。
他の設定に進んでください。

高度な設定プログラムコントローラーメニュー画面

```
<コウト^-プログラムコントローラー>  
1. ジコクホセイ 2. ヒツケヘンコウジコク 3. オートスタート
```

高度な設定プログラムコントローラー日付変更時刻設定画面

```
<コウト^-プログラムコントローラー-ヒツケヘンコウジコク>  
***:**
```

■電源投入時のプログラムの実行状態を設定する

電源投入時のプログラムの実行状態を設定します。

1 「時刻補正方法の設定」の手順1、2を行い、[3. オートスタート] を選択して**確定**を押します。

2 前回の電源オフ時と同じ状態に自動的にする場合は、[1. AUTO] を、必ずプログラム実行状態にする場合は、[2. ON] を、必ずプログラム停止状態にする場合は、[3. OFF] を選択し、**確定**を押して完了です。

→手順1の画面に戻ります。
他の設定に進んでください。

高度な設定プログラムコントローラーメニュー画面

```
<コウト^-プログラムコントローラー>  
1. ジコクホセイ 2. ヒツケヘンコウジコク 3. オートスタート
```

高度な設定プログラムコントローラーオートスタート設定画面

```
<コウト^-プログラムコントローラー-オートスタート>  
1. AUTO 2. ON 3. OFF
```

その他の設定

その他の設定の概要

ここでは、システムの設定には直接関係ありませんが、知っておくと便利な機能を説明します。

<その他の設定メニュー> 以下の番号は、メニュー番号と一致しています。

1. パスワード変更

書き込みメニューに入る際に入力するパスワードを変更できます。

3. 動作履歴クリア

本体に保存されている動作履歴データを消去できます。

2. 蓄電池点検時刻

蓄電池を使用する場合に、1日1回の点検時刻を設定できます。

■その他の設定一覧

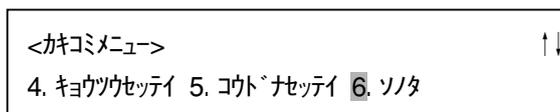
設定範囲は、システム構成より異なります。

設定項目	設定範囲	参照ページ
パスワード変更	6桁の数字（初期値：999999）	195
蓄電池点検時刻	00:00:00～23:59:00（初期値：02:00:00） 1分単位で設定 ※「秒」は00秒に固定	196

パスワードの変更

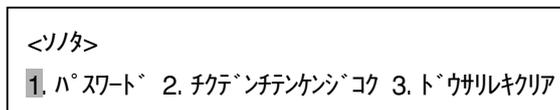
1 書き込みメニュー画面で、[6. ソノタ] を選択し、**確定**を押します。

書き込みメニュー画面



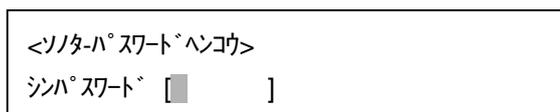
2 [1. パスワード] を選択し、**確定**を押します。

その他メニュー画面



3 新しいパスワードを数字で6桁入力します。液晶画面上では、入力した数値は [*] で表示されます。**確定**を押して完了です。

その他パスワード変更画面



→手順2の画面に戻ります。
他の設定に進んでください。

蓄電池点検時刻の設定

- 書き込みメニュー画面で、[6. ソノタ] を選択し、**確定**を押します。
- [2. チクデンチテンケンジコク] を選択し、**確定**を押します。
- 点検時刻を、時、分について入力します。24時間表示で入力してください。
設定したら、**確定**を押して完了です。

→手順2の画面に戻ります。
他の設定に進んでください。

書き込みメニュー画面

<かこメニュー> ↑↓
4. キョウツウセッテイ 5. コウト^oセッテイ 6. ソノタ

その他メニュー画面

<ソノタ>
1. パスワード 2. チクデンチテンケンジコク 3. ドウサリレクリア

その他蓄電池時刻設定画面

<ソノタ-チクデンチテンケンジコク>
::00

動作履歴データの消去

設置・調整作業を完了して、運用開始するとき、点検作業を行ったあと、動作履歴データの保存を行ったあとなどの、これまでの動作履歴が不要となったときに本体から動作履歴データを消去できます。
消去した動作履歴を元に戻すことはできません。

- 書き込みメニュー画面で、[6. ソノタ] を選択し、**確定**を押します。
- [3. ドウサリレクリア] を選択し、**確定**を押します。
→動作履歴クリア確認画面が表示されます。
- [1. ハイ] を選択して**確定**を押します。
→消去中は「ジッコウチュウ・・・」が表示され、消去が完了すると「ジッコウ カンリョウ シマシタ」が表示されます。
- 確定**を押すか、3秒経過で自動的に手順2の画面に戻れば完了です。

書き込みメニュー画面

<かこメニュー> ↑↓
4. キョウツウセッテイ 5. コウト^oセッテイ 6. ソノタ

その他メニュー画面

<ソノタ>
1. パスワード 2. チクデンチテンケンジコク 3. ドウサリレクリア

動作履歴クリア確認画面

<ソノタ-ドウサリレクリア>
ジッコウシマスカ? 1. ハイ 2. イイレ

音量調整

システム設定が終了したら、次に音量調整を行います。

音量調整項目一覧

項目	調整時に操作する場所	初期値	参照ページ
メッセージ	マイクドア内 動作選択 1回押し → 1 ボタン	20	201
コールサイン	マイクドア内 動作選択 1回押し → 2 ボタン	20	201
チャイム	マイクドア内 動作選択 1回押し → 5 ボタン	45	202
本体マイク	前面パネル 音量 → 各音量調整ボタン	35	198
BGM	前面パネル 音量 → 各音量調整ボタン	45	198
ライン1	前面パネル 音量 → 各音量調整ボタン	45	198
ライン2	前面パネル 音量 → 各音量調整ボタン	45	198
ライン3	マイクドア内 動作選択 1回押し → 3 ボタン	45	202
ページング/ライン4	マイクドア内 動作選択 1回押し → 4 ボタン	45	202
リモコンマイク入力	マイクドア内 動作選択 1回押し → 6 ボタン	35	202
点検用音源	マイクドア内 動作選択 1回押し → 7 ボタン	20	201
BGM ミキシングレベル	マイクドア内 動作選択 1回押し → 8 ボタン	20	202
モニタースピーカー	マイクドア内 モニター音量	45	198

■音量調整の範囲

音量の最大、最小、初期値、音量推移幅は以下のとおりです。
参考にしながら調整を行ってください。



音量調整（つづき）

本体マイク、BGM、ライン1、ライン2の音量調整

システムコントローラー前面パネルの音量ボタンおよび音量調整上／下ボタンで音量を調整します。

1 [音量]を押します。

→音量調整画面が表示されます。
名称の下には、現在の音量の設定値が表示されます。

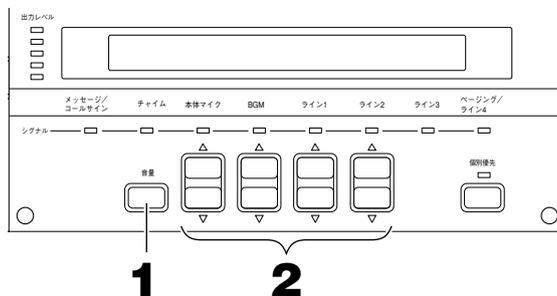
2 音量調整ボタンのそれぞれ、上／下を押して調整します。 (調整可能範囲：0～50)

上ボタン：1回押すと音量が大きくなり、画面中の数値が1つ大きくなります。

下ボタン：1回押すと音量が小さくなり、画面中の数値が1つ小さくなります。

各ボタンを長押しすると、連続して音量を変更でき、画面中の数値はすばやく変化します。

3 再度[音量]を押すか、無操作で10秒経過すると、自動的に通常画面に戻り、完了です。



音量調整画面例

<ホントマイク>	<BGM >	<ライン1>	<ライン2>
22	15	20	20

メモ

- 音量調整値はボタンを押すと同時に変更が反映されますので、[確定]などを押す必要はありません。

モニタースピーカーの音量調整

マイクドア内のボタンを操作します。

モニタースピーカーはマイクドア下にあり、放送音声やボタンの操作音、異常発生を知らせる音声のほかに、音量調整時の音声が流れます。

1 [モニター音量]を押します。

→モニター音量設定画面が表示されます。
画面中央付近にレベルメーター、その右隣に0から50の数値で現在の音量設定値が表示されます。

2 [十字ボタンの上／下]を押して調整します。 (調整可能範囲：0～50)

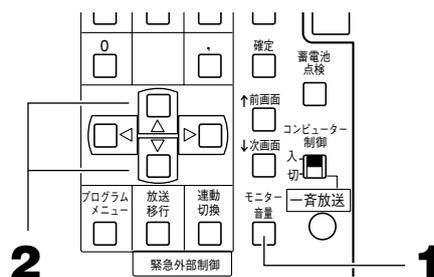
上ボタン：1回押すと音量が大きくなり、画面中の数値が1つ大きくなります。

下ボタン：1回押すと音量が小さくなり、画面中の数値が1つ小さくなります。

各ボタンを長押しすると、連続して音量を変更でき、画面中の数値はすばやく変化します。

画面中のレベルメーターには現在の音量を■によって相対的に表しています。音量が大きくなるにつれて右に、小さくなるにつれて左に移動します。

3 再度[確定]を押すか、無操作で10秒経過すると、自動的に通常画面に戻り、完了です。



モニター音量調整画面（最大音量例）

<オリョウチョウセイ-モニター-SP>
-----■ 50

モニター音量調整画面（最小音量例）

<オリョウチョウセイ-モニター-SP>
■----- 0

メモ

- モニター音量調整後、[確定]を押す前の10秒間に[戻る]を押すと設定前のレベルに戻ります。

その他の音量調整

以下の音量調整や音量に関する設定は、マイクドア内の「動作選択」を押して、音量調整メニュー画面にて行います。

<音量調整メニューの設定項目> 表中の番号は、メニュー番号と一致しています。

	項目	設定対象	設定範囲	初期値
1	メッセージの音量調整	ヒョウジュン1~9 オリジナル1~15 ^{*1}	0~50	20
2	コールサインの音量調整	ヒョウジュン1~5 オリジナル1~5 ^{*2}		
3	ライン3の音量調整	ライン3		45
4	ページング/ライン4の音量調整	ページング/ライン4 (共用)		
5	チャイムの音量調整	チャイム		
6	リモコンマイク入力の音量調整	リモコンニューリョク		
7	点検用音源の音量調整	テンケンヨウオンゲン1・2		20
8	BGMミキシングレベルの設定	BGMミキシングレベル ^{*3}		20

※1 メッセージ一覧 (緊急放送設定一覧の注釈→165ページ)

※2 コールサイン一覧 (高度な設定一覧の注釈→185ページ)

※3 BGMミキシングレベルとは、BGMを放送中に他の放送が行われたときのBGMの音量です。

音量調整（つづき）

■音量調整メニュー画面を表示する

音量調整を行うために、音量調整メニュー画面を表示します。操作は、すべてマイクドア内のボタンを使用します。

1 [動作選択]を押します。

→メニュー画面が順次表示されます。

押す回数と表示される画面は以下のとおりです。これらのメニュー画面は繰り返し表示されます。

1回目：<オンリョウチョウセイメニュー>

2回目：<プログラムメニュー>

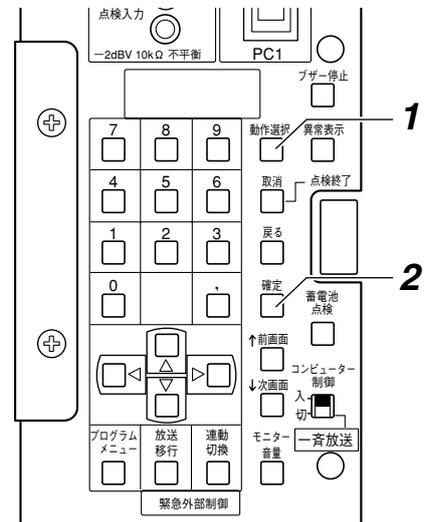
3回目：<テンケンメニュー>

4回目：<カキコミメニュー>

5回目：<PCカードメニュー>

6回目：元の通常画面

マイクドア内ボタン図



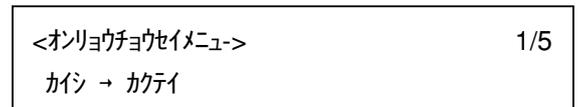
2 <オンリョウチョウセイメニュー>表示中に[確定]を押します。

→音量調整メニュー画面が表示されます。

3 設定対象を選択し、[確定]を押します。

→各音量調整画面が表示されます。

音量調整開始画面



以降の操作は、設定対象を選択する手順から説明します。

■音量調整終了後は

[戻る]で音量調整メニューを退出し、通常画面に戻ってください。

■メッセージ、コールサイン、点検用音源の音量調整

音声を再生しモニタースピーカーから聞こえる音声を聞きながら調整することができます。

1 音量調整メニュー画面で、設定対象を選択し、**確定**を押します。

対象は、

1. メッセージ
2. コールサイン
7. テンケンヨウオンゲン の3種類です。

→各音量調整画面が表示されます。

画面中央付近にレベルメーターの■、その右隣に0から50の数値で現在の音量設定値が表示されます。

2 テンキーの**1**を押すと再生が始まり、音声モニタースピーカーから流れます。その音声を聞きながら調整します。再生中に**1**または**戻る**を押すか、最後まで再生すると、再生を停止します。

※音声は、モニタースピーカーからのみ流れます。

3 **十字ボタンの上/下**を押して調整します。

上ボタン：1回押すと音量が大きくなり、画面中の数値が1つ大きくなります。

下ボタン：1回押すと音量が小さくなり、画面中の数値が1つ小さくなります。

各ボタンを長押しすると、連続して音量を変更でき、画面中の数値はすばやく変化します。

画面中のレベルメーターには現在の音量を■によって相対的に表しています。音量が大きくなるにつれて右に、小さくなるにつれて左に移動します。

4 ほかの項目の音量を調整するには、**↑前画面**/**↓次画面**

を押して画面を切り換えます。

表示順は、以下のとおりです。

メッセージ : ヒョウジュンメッセージ1~9

↓
: オリジナルメッセージ1~15

コールサイン : ヒョウジュンコールサイン1~5

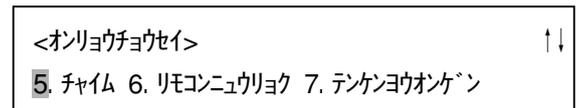
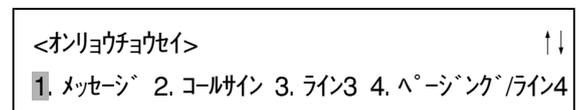
↓
: オリジナルコールサイン1~5

点検用音源 : テンケンヨウオンゲン1、
テンケンヨウオンゲン2

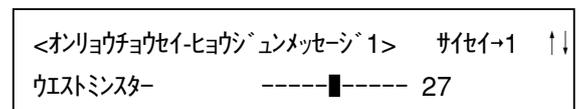
5 **確定**を押すと、手順1の画面に戻ります。

→**戻る**を押すと、手順3で調整した結果が破棄されます。

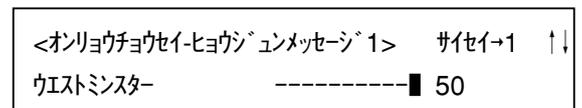
音量調整メニュー画面①



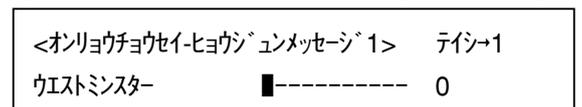
標準メッセージ1 音量調整画面例



標準メッセージ1 音量調整画面（最大音量例）



標準メッセージ1 音量調整画面（最小音量例）



音量調整（つづき）

■ライン3、ページング／ライン4、チャイム、リモコン入力の音量調整

- 1 音量調整メニュー画面で、設定対象を選択し、**確定**を押します。
対象は、
3. ライン3
4. ページング／ライン4
5. チャイム
6. リモコンニューリョク の4種類です。

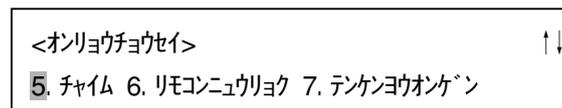
→各音量調整画面が表示されます。
画面中央付近にレベルメーター、その右隣に0から50の数値で現在の音量設定値が表示されます。

- 2 **十字ボタンの上／下**を押して調整します。
詳しくは、前ページの手順3をお読みください。

- 3 **確定**を押すと、手順1の画面に戻ります。

→**戻る**を押すと、手順2で調整した結果が破棄されます。

音量調整メニュー画面



ライン3音量調整画面例



■BGMミキシングレベルの設定

BGMミキシングレベルとは、BGM放送中に他の音声入力や本体マイクからの音声を放送するときのBGMの音量を設定するものです。

- 1 音量調整メニュー画面で、[8. BGMミキシングレベル] を選択し、**確定**を押します。

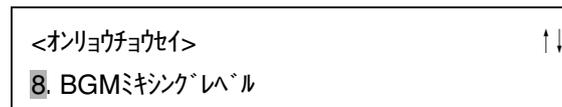
→現在の設定値が、レベルメーターと数値で表示されます。

- 2 **十字ボタンの上／下**を押します。
詳しくは、前ページの手順3をお読みください。

- 3 **確定**を押すと、手順1の画面に戻ります。

→**戻る**を押すと、手順2で調整した結果が破棄されます。

音量調整メニュー画面



BGMミキシングレベル設定画面例



動作確認

動作確認

設置後の初期動作確認、システム設定が終わったあと、システム全体の動作確認を行います。システムの設定表を手元に準備し、放送先など設定どおりに放送されるかどうかを確認します。ここでは、設置工事直後の動作確認を想定し、説明します。実際に放送を実施しながら確認を行いますので、事前に周囲へ知らせるなど、十分に注意したうえで、実施してください。業務放送、緊急放送なども実際の動作を行って確認します。点検メニュー（→212ページ）を利用すると、スピーカーからの音声をOFFにするなど周囲への影響を少なくした動作点検ができます。

緊急放送の動作確認

緊急放送スイッチによる放送の確認

- 1 緊急放送スイッチ（1～3のいずれか）を押す
- 2 ほかの放送が遮断される
 - ・内蔵音源再生の設定の場合、指定したメッセージが再生されることを確認
 - ・ライン2が有効になるように設定されている場合には、ライン2の機器の音声が放送されることを確認
- 3 本体マイクで放送する
 - ・あらかじめ設定された放送先に放送されることを確認する
- 4 放送復旧スイッチを押し、放送を終了する
- 5 ほかの緊急放送スイッチについても同様に確認する

<キキョウホウソウ>
キキョウSW1

※上記画面例は緊急放送スイッチ1を押した場合の液晶表示です。

業務放送の動作確認

手動による業務放送の確認

- 1 スピーカー選択スイッチまたはブロック選択スイッチを押す
- 2 本体マイクで放送する
 - ・あらかじめ設定された放送先に放送されることを確認
- 3 放送復旧スイッチを押し、放送を終了する
- 4 ライン1へ機器が接続されている場合、業務選択スイッチを押して、ライン1の音声が放送されることを確認する
- 5 ほかの業務選択スイッチについても同様に確認する

< ホウソウ 1CH > 09/06/12 Fri <プログラム-01>
ホウソウ 14:35:42 ハイジツ

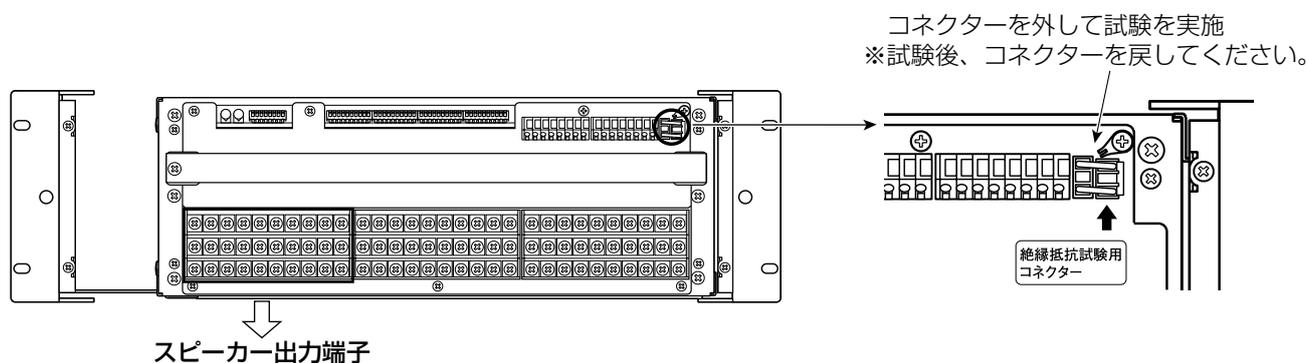
絶縁抵抗試験のしかた

(スピーカー出力端子)

- 1 電源制御ユニット (WU-L62) のブレーカーと非常電源ユニット (WP-570B) の蓄電池スイッチを「切」にする

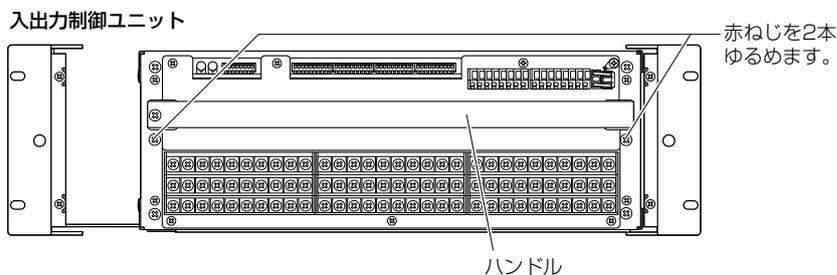
※非常電源ユニットは停電放送を行うシステムにのみ実装しています。

- 2 入出力制御ユニット前面の「絶縁抵抗試験用コネクター」と記載されたコネクターを取り外す



- 3 入出力制御ユニットの内部と端子台を切り離す

①端子台左右の中央赤ねじ2本をゆるめます。



②ハンドルで前に止まるまで引き出します。

- 4 回線ごとにスピーカー出力端子と大地 (シャーシ: 電源制御ユニット [WU-L62] のGND端子) 間の絶縁抵抗を測定する

250 V絶縁抵抗測定器で絶縁抵抗値が0.1 MΩ以上であることを確認してください。

- 5 試験終了後、元どおりに端子台を本機と接合させ、「絶縁抵抗試験用コネクター」を取り付ける

重要

- 指定されたコネクターを外してから絶縁抵抗試験を行います。外さないで試験を行うと、端子と大地間のサージアブソーバーにより不良と見誤ることがあります。
- 絶縁抵抗試験は、大地と対象の信号線間で行います。信号線同士間で行うと、接続されている機器および本機が故障する場合があります。

表示カードの記入・取り付け

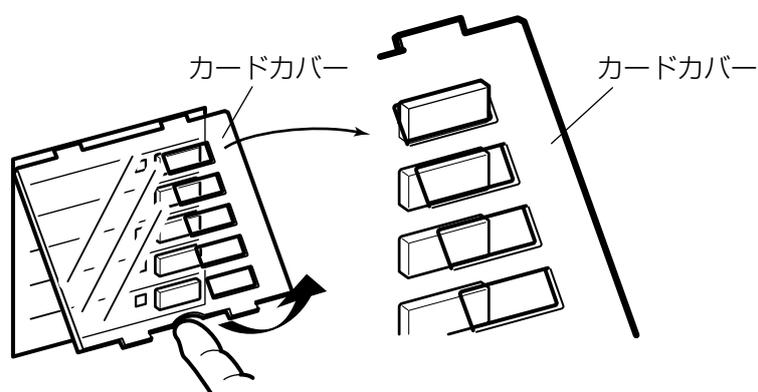
設定表の作成

設定表（→229ページ）を使用して設定内容を記入します。

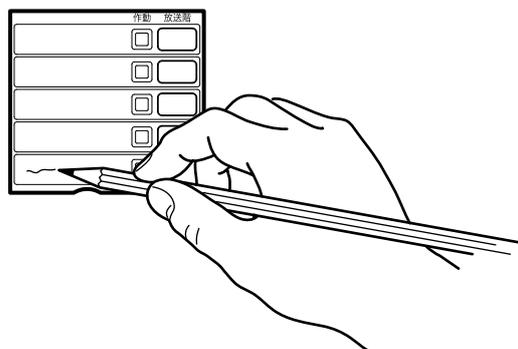
表示カードの記入

業務選択スイッチには、各スピーカーの設置場所やブロック指定した場所などを記入する表示カードが付いています。

- ・カードカバーは、下側中央の溝に爪をかけ、持ち上げながら手前に引くと外れます。



- ・表示カードに、スピーカーの設置場所やブロック指定した場所を記入します。スイッチをメッセージスイッチとして使用するときは、音源名や外部機器名を記入します。



- ・記入が終わったら、表示カードとカードカバーを元どおり業務選択スイッチに取り付けてください。

PCカードによるデータの扱いかた

取り扱うデータについて

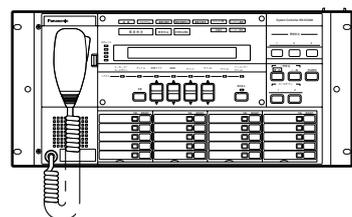
本機で扱うデータは以下のとおりです。

データの種類	内容	データファイル
設定データ	放送を行うために必要な機器の設定などが含まれます。 中でもプログラムとスケジュールについてのデータを「プログラムデータ」と呼び、設定データから抜き出して、単独で本体に書き込むことができます。	拡張子：.gs1 サイズ：約2 MB
音源データ	オリジナルコールサイン用・オリジナルメッセージ用の音源を指します。	拡張子：.gk1 サイズ：約100 MB
動作履歴データ	本システムの放送状態、異常状態の発生／復旧、各イベントの起動情報などの履歴が含まれます。上限を超えると古い履歴から順に自動的に上書き消去されます。 ※動作履歴データを本体へ書き込むことはできません。	拡張子：.glg サイズ：約1 MB

各種データは、本体とPC（設定支援ソフト、運用支援ソフト）間で受け渡しすることができます。媒体としてPCカードを使う方法とケーブル接続して通信する方法があります。

媒体	対象データ種類	設定データ		音源データ	動作履歴データ
		プログラムデータのみ			
PCカード	本体→PC	○	○	○	○
	PC→本体	○	○ 自動起動	○ 自動起動	×
ケーブル接続 ・PC1（USBコネクター、マイクドア内） ・PC2（RS-232Cコネクター、前面パネル内部、→78ページ）	本体→PC	○	○	×	○
	PC→本体	○	○ 自動起動	×	×

本体（システムコントローラー）



読み込み

設定データ
音源データ
動作履歴データ

運用支援ソフト
設定支援ソフト



設定データ
音源データ

書き込み

ここでは、各種データのPCカードへの保存、PCカードからの読み込みについて説明します。設定支援ソフトおよび運用支援ソフトとの [本体読込]、[本体書込] については、それぞれの取扱説明書をお読みください。

重要

- 設定支援ソフトを使用して現在の本システムの設定を変更する場合は、必ず本体からデータを読み込み、そのデータを元に編集してください。設定支援ソフト起動時は、設定データが新規ファイルとなりますので、そのまま編集し、「本体書込」を行うと本体側のそれまでの内容が失われてしまいます。

PCカードについて

使用上のご注意

- 使用できるPCカードは、次のとおりです。
 - ①SDカードをPCカードアダプターに挿入したもの
miniSDカード、microSDカード、SDHCカードは使用できません。
 - ②コンパクトフラッシュをPCカードアダプターに挿入したもの
- SDカード、コンパクトフラッシュ、PCカードアダプターの推奨品は、販売店にお問い合わせください。
- 必要なPCカードの空き容量の目安は以下のとおりです。

設定データ	2 MB
音源データ	100 MB
動作履歴データ	1 MB
- PCカードのドライブ直下に置くファイル数（フォルダー数を含む）は、35個以下にしてください。36個以上の場合、ファイルを認識できないことがあります。使用しないファイルは削除するか、ドライブ直下からフォルダーに移動するようにしてください。

挿入・取り出し

PCカードの設置と取り外し

1 PCカードを挿入する

- ・図のように本体前面パネル内のPCカードスロットに挿入します。向きを間違えずに挿入してください。
- ・本機が通電状態のときでもPCカードは挿入できます。
- ・PCカードを挿入すると、アクセス表示灯がいったん点灯してカードが認識されたことを示します。点灯しない場合は、カードが使用できない状態である可能性があります。

2 データの読み込み／書き込みを行う

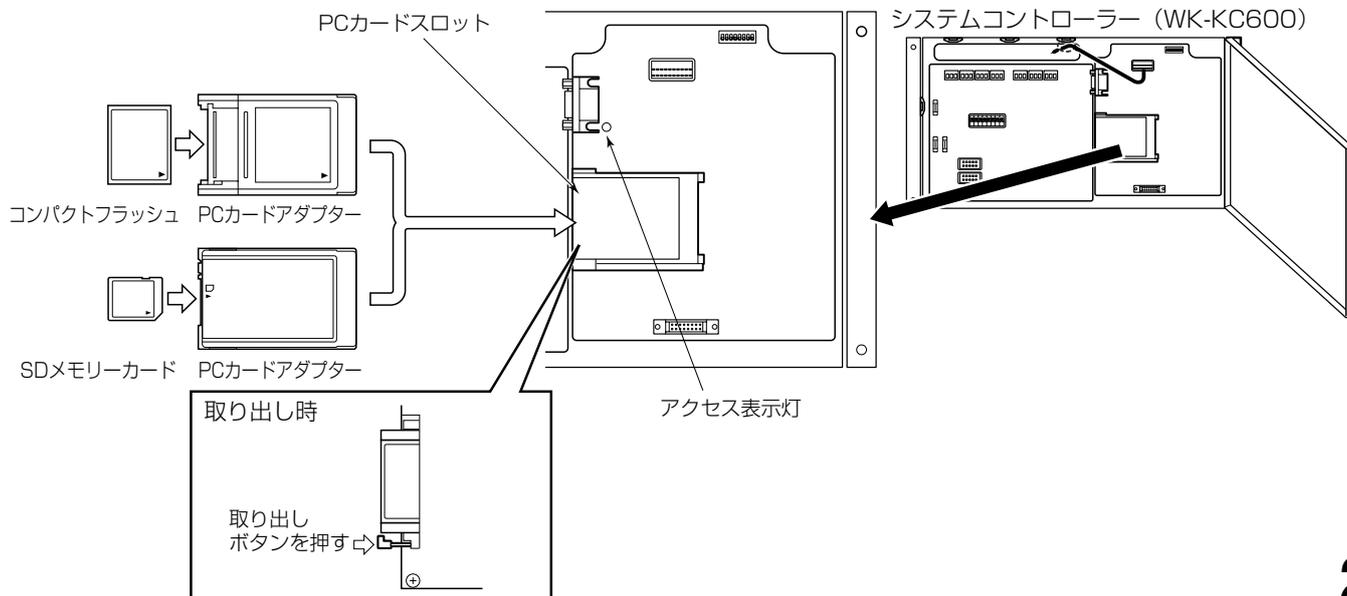
データの読み込み／書き込み中は、アクセス表示灯が点滅します。

重要

- アクセス表示灯点滅中は、絶対にカードを取り出さないでください。データが破壊される恐れがあります。

3 PCカードを取り出す

- ・操作が終了し、アクセス表示灯が完全に消灯し、PCカードがアクセス中でないことを確認します。
- ・カード横の取り出しボタンを押し、PCカードを取り出します。



PCカードによるデータの扱いかた（つづき）

PCカードメニュー画面を表示する

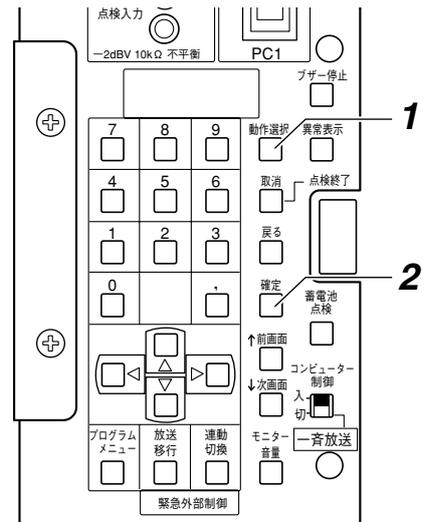
PCカードを使って本体からのデータ保存や、本体へのデータ書き込みを行うために、PCカードメニュー画面を表示し操作を進めます。

大切なデータを誤操作で失わないために、PCカード操作はパスワードで保護されています。システム管理者などシステムを十分理解した方が操作してください。

- 1** 放送が行われていないときに、本体のマイクドア内の動作選択を五回押します。

- メニュー画面が順次表示されます。
押す回数と表示される画面は以下のとおりです。これらのメニュー画面は繰り返し表示されます。
- 1回目：<オンリョウチョウセイメニュー>
 - 2回目：<プログラムメニュー>
 - 3回目：<テンケンメニュー>
 - 4回目：<カキコミメニュー>
 - 5回目：<PCカードメニュー>
 - 6回目：元の通常画面

マイクドア内ボタンの図



- 2** <PCカードメニュー>が表示されているときにテンキーを使用して、6桁のパスワードを入力し、**確定**を押します。
入力した数値は「*」で表示されます。
※初期値は「999999」です。

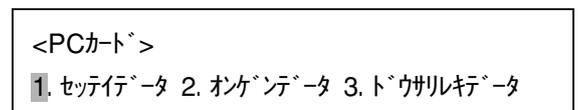
PCカードパスワード画面



→PCカードメニュー画面が表示されます。

- 3** 実行したい項目を選択して、**確定**を押します。
※項目選択のしかた（→151ページ）

PCカードメニュー画面



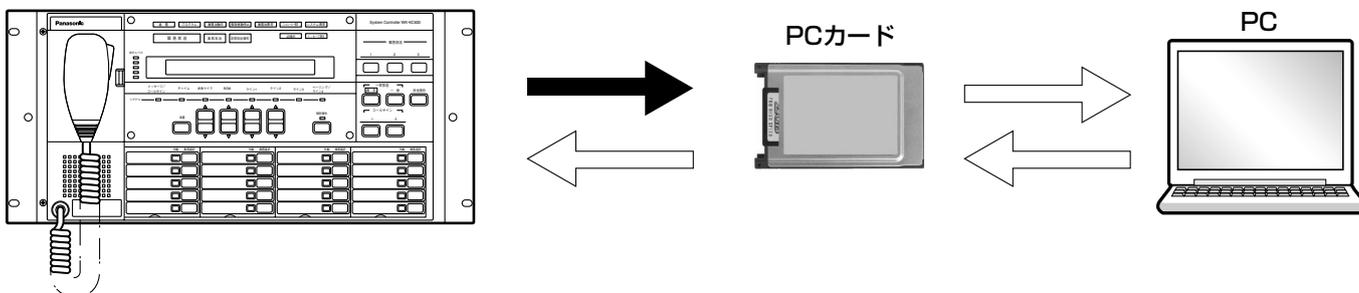
以降の操作説明は、PCカードメニュー画面を表示した後からの説明とします。

メモ

- パスワードは必ず変更し、第三者による設定変更や誤操作を防止してください。
※パスワード変更（→195ページ）
- 変更したパスワードを忘れてしまった場合は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

本体からPCカードに

データをPCカードに保存



本体からPCカードにデータを保存することを「保存」と呼びます。

- 1** PCカードメニュー画面で、保存したいデータを選択し、**確定**を押します。
→ [3. ドウサリレキデータ] を選択した場合は、手順3に進みます。
- 2** [1. ホンタイ→PCカード] を選択し、**確定**を押します。
- 3** 保存するデータにファイル名をつけて、**確定**を押します。
※ファイル名はテンキー中の 以外の0~9までの数字を自由に組み合わせます。最大16個の数字が入力できます。
→保存確認画面が表示されます。
- 4** [1. ハイ] を選択し、**確定**を押します。
→データ保存中は「ジッコウチュウ・・・」が表示され、「ジッコウ カンリョウ シマシタ」が表示されれば完了です。所要時間は最大10秒程度です。
- 5** **確定**を押すか、無操作で3秒経過すると、画面退出してPCカードメニュー画面に戻ります。終了するには、**戻る**を押してください。

PCカードメニュー画面

<PCカード>

1. セッテイデータ 2. オンゲンデータ 3. トウサリレキデータ

PCカード設定データメニュー画面

<PCカード-セッテイデータ>

1. ホンタイ→PCカード 2. PCカード→ホンタイ

PCカード設定データファイル名入力画面

<PCカード-セッテイデータ-ホンタイ→PCカード>

ファイル: [.....]

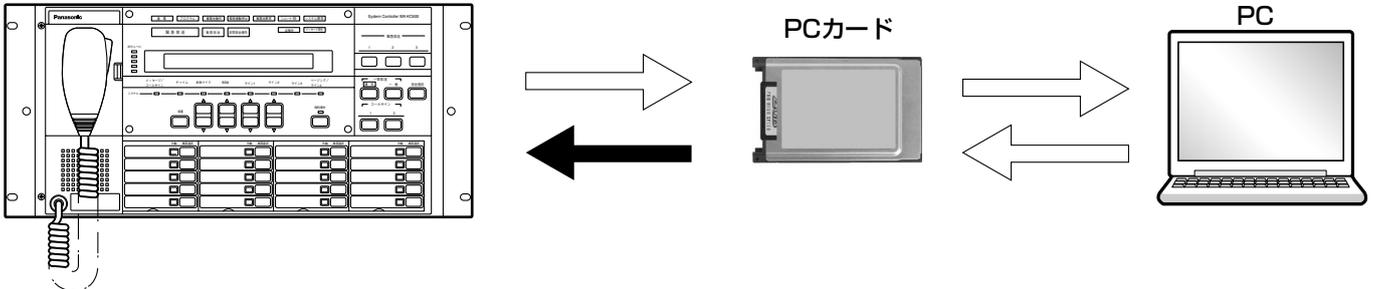
PCカード設定データ保存確認画面

<PCカード-セッテイデータ-ホンタイ→PCカード>

ジッコウシマスか? 1. ハイ 2. イイ

PCカードから本体に

PCカードから本体に「設定データ」を書き込む



設定データをPCカードから本体に書き込む場合は、その対象を「すべての設定データ」か「プログラムデータ、名称データのみ」から選択します。

「すべての設定データ」

を書き込むと、その内容をすぐ反映し、直後に本体が再起動しますので、放送に支障のないときに行ってください。

「プログラムデータ、名称データのみ」

を書き込む場合は、再起動しません。変更内容を実行中のプログラムにも反映するかどうかの選択を行ってください。

重要

- 「すべての設定データ」を選択すると、本体が再起動し、それまでの放送が復旧されますので運用に支障がないときに行ってください。

- 1 PCカードメニュー画面で、[1. セッテイデータ] を選択し、**確定**を押します。
- 2 [2. PCカード→ホンタイ] を選択し、**確定**を押します。
- 3 書き込む設定データのファイル名を選択し、**確定**を押します。
十字ボタンを押すと、PCカード内に保存されている設定データファイルを順次表示できます。
- 4 データの種類を選択します。
プログラムデータを含むすべての設定データを書き込む場合は、[1. ゼンデータ] を、プログラムデータ、名称データのみを書き込む場合は、[2. プログラム、メイショウ] を選択し、**確定**を押します。
- 5 書き込み確認画面で、[1. ハイ] を選択し、**確定**を押します。

PCカードメニュー画面

<PCカード>
1. セッテイデータ 2. オンゲデータ 3. トウカリデータ

PCカード設定データメニュー画面

<PCカード-セッテイデータ>
1. ホンタイ→PCカード 2. PCカード→ホンタイ

PCカード設定データファイル選択画面

<PCカード-セッテイデータ-PCカード→ホンタイ>
ファイル: [.....]

PCカード設定データ書き込み種別選択画面

<PCカード-セッテイデータ-PCカード→ホンタイ>
1. ゼンデータ 2. プログラム、メイショウ

→データ書き込み中は「ジッコウチュウ.....」が表示されます。

所要時間はデータの大きさによって変わりますが、最大5秒程度です。

完了すると [ジッコウ カンリョウ シマシタ] が表示され、3秒後にシステムが再起動し、再起動完了後は、通常画面になります。

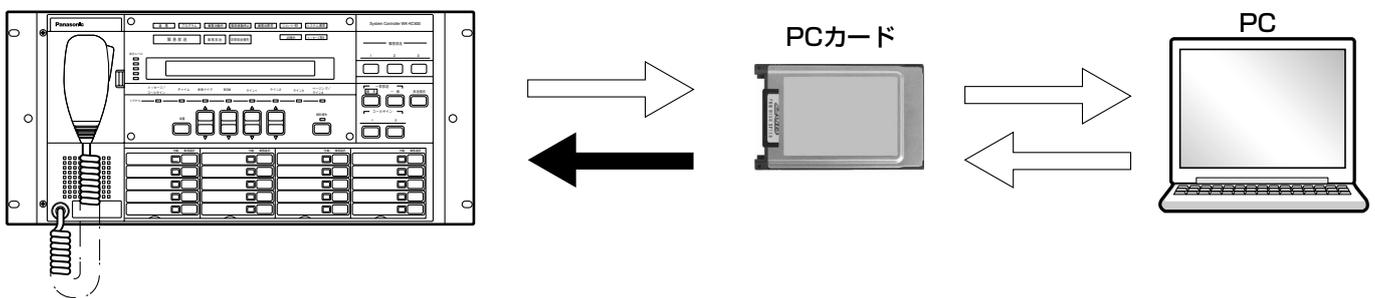
6 プログラム反映確認画面で、変更内容を今すぐ反映する場合は [1. ハイ] を、今すぐ反映しない場合は [2. イイエ] を選択し、**確定**を押します。

PCカード設定データプログラム反映確認画面

<PCカード-設定データ-PCカード-ホントイ-プログラム>
キョウハルイシマスカ? **1. ハイ** 2. イイエ

7 → [1. ハイ] を選択した場合は、通常画面に戻り、変更されたプログラムに沿って放送が行われます。
[2. イイエ] を選択した場合は、PCカードメニュー画面に戻ります。終了するには、**戻る**を押してください。

PCカードから本体に「音源データを」書き込む



重要

●PCカードから本体に音源データを書き込むと、本体は再起動し直後にその内容を反映します。運用に支障のないときに行ってください。

1 PCカードメニュー画面で、[2. オンゲンデータ] を選択し、**確定**を押します。

PCカードメニュー画面

<PCカード>
1. セッテイデータ **2. オンゲンデータ** 3. トウサリキデータ

2 [2. PCカード→ホントイ] を選択し、**確定**を押します。

PCカード音源データメニュー画面

<PCカード-オンゲンデータ>
1. ホントイ→PCカード **2. PCカード→ホントイ**

3 書き込む設定データのファイル名を選択し、**確定**を押します。
十字ボタンを押すと、PCカード内に保存されている設定データファイルを順次表示できます。

PCカード音源データファイル選択画面

<PCカード-オンゲンデータ-PCカード→ホントイ>
ファイル: [.....]

→書き込み確認画面が表示されます。

4 [1. ハイ] を選択し、**確定**を押します。

PCカード音源データ書き込み確認画面

<PCカード-オンゲンデータ-PCカード→ホントイ>
ジッコウシマスカ? **1. ハイ** 2. イイエ

→データ書き込み中は「ジッコウチュウ.....」が表示されます。
所要時間はデータの大きさによって変わりますが、最大12分程度です。
完了すると「ジッコウ カンリョウ シマシタ」が表示され、3秒後にシステムが再起動します。
再起動完了後は、通常画面になります。

点検のしかた

点検の概要

点検には、点検メニューで行う手動点検と運用点検のほかに、以下の項目があります。本体か設定支援ソフトのどちらかでしかできない内容がありますので、下記内容をご確認のうえ、作業してください。操作箇所も方法も異なりますので、下表を参照し、目的に応じて使い分けてください。

本体で行えない項目については、設定支援ソフトの取扱説明書（PDFファイル）をお読みください。

点検項目	内容	本体	設定支援ソフト
スピーカー短絡検出	スピーカー回線短絡がないかを一括または個別に確認します。	○	×
EMG24Vブレイク強制出力	EMG24Vブレイクを強制制御して状態を確認します。一斉+個別、一斉、個別、個別指定の4通りの方法があります。	○	×
運用点検	業務放送・緊急放送の動作を実運用で確認できます。このとき、スピーカー回線やEMG24VブレイクをOFFにするなど、周辺システムへの影響を最小限にするよう、点検用の設定ができます。	○	×
蓄電池点検	本体・増設出力制御ユニット・拡張制御ユニット・非常制御出力ユニットに接続した非常電源ユニットの蓄電池の点検を行います。（→220ページ）	○	○
バージョンチェック	本体・増設出力制御ユニット・拡張制御／非常制御出力ユニット・マルチリモコンの機器ごとのソフトウェアバージョンを確認できます。	×	○
制御入出力チェック	制御入出力接点の状態表示および強制制御を行います。	×	○
マトリクス状態表示	入力マトリクスユニットのクロスポイント制御状態を確認します。	×	○
動作履歴確認 (リアルタイムモニター)	本体にて収集している動作履歴データをリアルタイムで確認します。	×	○

ここでは、本体の点検メニューについて説明します。

<点検メニュー> 以下の番号は、メニュー番号と一致しています。

手動点検 1. スピーカー短絡検出

スピーカー回線のN-C間、R-C間の短絡検出をします。

1. イッカツ：すべてのスピーカー回線が対象
2. コベツ：点検する対象のスピーカー回線を任意に選択

※点検は1回線当たり約20秒かかります。60回線の場合は、1 200秒=約20分かかります。

2. EMG24Vブレイク強制出力

EMG24Vブレイク出力を強制制御し、状態を確認します。

1. イッセイ+コベツ：すべての一斉・個別出力が対象
2. イッセイ：すべての一斉出力が対象
3. コベツ：すべての個別出力が対象
4. コベツシテイ：点検する対象の個別出力を任意に選択

運用点検 1. 点検用動作設定

以下の項目について、点検中の動作を設定します。

- | | | |
|---------------|----------------|---------------|
| 1. ニュウリョクオンゲン | 2. SPカイセン | 3. EMG24Vブレイク |
| 4. ハンヨウシュツリョク | 5. ジョウタイシュツリョク | 6. プログラムテスト |

2. 運用点検実行

運用点検を開始します。

手動点検

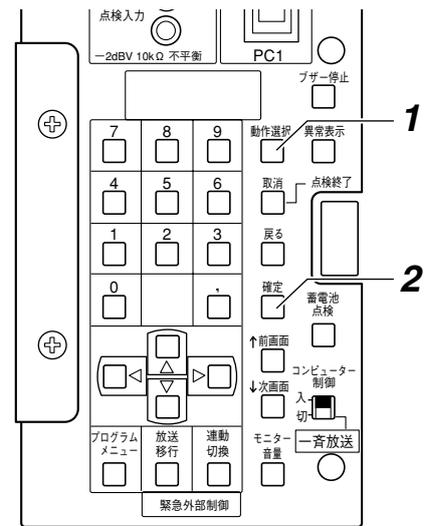
■点検メニュー画面を表示する

点検作業を行うために、点検メニュー画面を表示します。

業務放送中・緊急放送中は点検画面を表示できません。また、設定支援ソフトや運用支援ソフトと通信中も点検画面を表示することができません。

- 1 放送が行われていないとき（スタンバイ状態）に、本体のマイクドア内ボタン図

- メニュー画面が順次表示されます。
押す回数と表示される画面は以下のとおりです。これらのメニュー画面は繰り返し表示されます。
- 1回目：<オンリョウチョウセイメニュー>
 - 2回目：<プログラムメニュー>
 - 3回目：<テンケンメニュー>
 - 4回目：<カキコミメニュー>
 - 5回目：<PCカードメニュー>
 - 6回目：元の通常画面



- 2 <テンケンメニュー>が表示されているときに「確定」を押します。

→点検メニュー画面が表示されます。

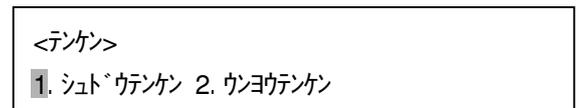
点検メニュー選択画面



- 3 目的に応じて選択し、「確定」を押します。

- 手動点検 [1. シュドウテンケン] :
スピーカー回線短絡またはEMG24Vブレイク
出力確認をする場合
- 運用点検 [2. ウンヨウテンケン] :
運用点検を行う場合

点検メニュー画面



以降の操作説明は、点検メニュー表示後からの説明とします。

■点検を終了する

手動点検は、1つの項目の点検を終了するごとに、自動で通常画面に戻ります。

手動点検を途中終了する場合や運用点検を終了するには、以下の操作を行ってください。

- 1 各点検画面表示中に、「取消」（点検終了）を押します。

点検のしかた（つづき）

■スピーカー回線短絡の点検

- 1 点検メニュー画面で、[1. シュドウテンケン] を選択し、**確定**を押します。
- 2 [1. SPタンラクケンシュツ] を選択し、**確定**を押します。
- 3 目的に応じて選択し、**確定**を押します。
一括 [1. イッカツ]
：すべてのスピーカー回線について点検する場合
個別 [2. コベツ]
：個別にスピーカー回線番号を指定して点検する場合

→一括の場合は点検実行確認画面が表示されます。手順5に進んでください。
- 4 点検するスピーカー回線番号を入力し、**確定**を押します。
複数のスピーカー回線を入力できます。
※テンキーによる入力方法（→152ページ）

→点検実行確認画面が表示されます。
- 5 [1. ハイ] を選択し、**確定**を押します。

→スピーカー回線短絡検出用の音源を出力します。
スピーカー短絡検出中画面が表示されます。
点検しているスピーカー回線番号について、①N-C間の短絡、②R-C間の短絡の順に検出します。

異常がなければ次のスピーカー回線の点検に自動的に移ります。（所要時間：1回線当たり約20秒）

点検したすべてのスピーカー回線に異常がなければOK画面が表示されます。

異常が検出された場合は、すべてのスピーカー回線を点検後、該当するスピーカー回線番号が表示されます。接続を確認してください。
- 6 内容を確認したら、**確定**を押します。

→点検メニューを終えて通常画面に戻ります。

点検メニュー画面

```
<テンケン>  
1. シュドウテンケン 2. ウンヨウテンケン
```

点検手動メニュー画面

```
<テンケン-シュドウ>  
1. SPタンラクケンシュツ 2. EMG24V7`レイクキョウセイシュツリョク
```

SP短絡点検メニュー画面

```
<テンケン-シュドウ-SPタンラク>  
1. イッカツ 2. コベツ
```

個別SP短絡点検対象選択画面

```
<テンケン-シュドウ-SPタンラク-コベツ> ↑↓  
SP NO. :101, 102, 103, 104, 105, 151, 152, 153,
```

点検実行確認画面（一括の例）

```
<テンケン-シュドウ-SPタンラク-イッカツ>  
ジッコウシマスカ? 1. ハイ 2. 11E
```

N-C間短絡検出中画面（一括の例）

```
<テンケン-シュドウ-SPタンラク-イッカツ>  
N-Cテンケンチュウ: 001
```

SP短絡検出OK画面（一括の例）

```
<テンケン-シュドウ-SPタンラク-イッカツ> テンケンケツカ(OK)  
イジヨウアリマセン → カケイ
```

SP短絡検出NG画面（一括の例）

```
<テンケン-シュドウ-SPタンラク-イッカツ> テンケンケツカ(NG) ↑↓  
***N, ***R, ***R, ***R, ***R, ***R, ***N, ***N, ***N,
```

■EMG24Vブレーキ制御出力の点検

- 1 点検メニュー画面で、[1. シュドウテンケン] を選択し、**確定**を押します。
- 2 [2. EMG24Vブレーキキョウセイシュツリョク] を選択し、**確定**を押します。
- 3 目的に応じて選択し、**確定**を押します。
 - 一斉+個別 [1. イッセイ+コベツ] :
すべての一斉/個別EMG24Vブレーキ接点を点検する場合
 - 一斉 [2. イッセイ] :
すべての一斉EMG24Vブレーキ接点を点検する場合
 - 個別 [3. コベツ] :
すべての個別EMG24Vブレーキ接点を点検する場合
 - 個別指定 [4. コベツシテイ] :
点検する個別EMG24Vブレーキを指定する場合

→個別指定を選択した場合は、点検する個別EMG24Vブレーキ接点番号を入力し、**確定**を押します。
それ以外は、手順4に進んでください。

- 4 確認画面で [1. ハイ] を選択し、**確定**を押します。

→強制出力が開始され、出力中は液晶画面に「キョウセイシュツリョクチュウ……」が表示されます。

- 5 出力を確認したら、**取消**を押して終了します。

→点検メニューを終えて通常画面に戻ります。

点検メニュー画面

```
<テンケン>
1. シュドウテンケン 2. ウンヨクテンケン
```

点検手動メニュー画面

```
<テンケン-シュドウ>
1. SPタンクケンシュツ 2. EMG24Vブレーキキョウセイシュツリョク
```

EMG24Vブレーキ点検メニュー画面

```
<テンケン-シュドウ-EMG24V>
1. イッセイ+コベツ 2. イッセイ 3. コベツ 4. コベツシテイ
```

EMG24Vブレーキ点検個別指定画面

```
<テンケン-シュドウ-EMG24V-コベツシテイ> ↑↓
NO. :101, 102, 103, 104, 151, 152, 153, 154, 155,
```

EMG24Vブレーキ強制出力確認画面（一斉+個別の例）

```
<テンケン-シュドウ-EMG24V-イッセイ+コベツ>
ジッコウシマスか? 1. ハイ 2. イイ
```

EMG24Vブレーキ強制出力中画面

```
<テンケン-シュドウ-EMG24V-イッセイ+コベツ>
キョウセイシュツリョクチュウ……………
```

点検のしかた（つづき）

運用点検

運用点検は、実運用の内容で行う点検です。周辺システムへの影響を最小限に抑えるために、以下の項目について点検中の動作を設定します。運用点検中は実運用とは動作が異なりますのでご注意ください。

番号	動作設定項目	設定範囲
1	入力音源	点検時に流す音声を選択します。 1. ナシ : 通常放送の音声を点検時に使う場合 2. テンケンニューリョク : 各種プレーヤーなどを接続して、お好みの音源を点検時に流すことができます。マイクドア内の点検入力ジャック※1に接続します。 3. テンケンヨウオンゲン1 : 本体内蔵の点検用音源1※2 4. テンケンヨウオンゲン2 : 本体内蔵の点検用音源2※2
2	スピーカー回線	点検中のスピーカー回線の状態を選択します。 1. ツウジョウ : 通常 : システム設定どおりに制御し、音声を出力 2. ゼンOFF : 全OFF : すべてのスピーカー回線制御をOFF 3. コベツOFF : 個別OFF : OFFにするスピーカー回線を任意に選択
3	EMG24Vブレイク	ローカルアンプの放送を中断せずに点検を行うかどうかを選択します。 1. ツウジョウ : 通常 : システム設定どおりに制御、放送を中断 2. ヨウコウ (OV) : 有効 : 点検中は必ず放送を中断 3. ムコウ (24V) : 無効 : 点検中も放送を中断しない
4	汎用出力	点検時に汎用出力制御を有効にするか無効にするかを設定します。 1. ツウジョウ : 通常 : システム設定どおりに制御 2. ムコウ : 無効 : 点検中は汎用出力制御を行わない
5	状態出力	点検時に状態出力制御を有効にするか無効にするかを設定します。 1. ツウジョウ : 通常 : システム設定どおりに制御 2. ムコウ : 無効 : 点検中は状態出力制御を行わない
6	プログラムテスト	点検時にプログラムをテスト実行するかどうか、実行する場合はプログラム番号とテスト時刻※3を設定します。 1. ON : プログラムテスト実行 2. OFF : プログラムテストは行わない

※1 点検入力ジャック

ポータブルCDプレーヤーやMDプレーヤー、テープデッキなど、φ3.5 mmミニジャック（-2 dBV, 10 kΩ, 不平衡）に適合するプラグを接続して使用します。



※2 点検用音源の種類

点検用音源	内容
テンケンヨウオンゲン1	点検用メロディ
テンケンヨウオンゲン2	点検用メッセージ

※3 テスト時刻

テストするプログラムの中で、特に確認したいステップの開始時刻直前の時刻を設定します。本体の時刻が仮想的にその時刻となり、長時間待たずにプログラム実行の確認ができます。

■運用点検のしかた

1 点検メニュー画面で、[2. ウンヨウテンケン] を選択し、**確定**を押します。

点検メニュー画面

```
<テンケン>
1. シュト`ウテンケン 2. ウンヨウテンケン
```

2 [1. テンケンドウサセッテイ] を選択し、**確定**を押します。

点検運用メニュー画面

```
<テンケン-ウンヨウ>
1. テンケント`ウサセッテイ 2. テンケンジ`ッコウ
```

3 動作設定する項目を選択し、**確定**を押します。

点検運用動作設定メニュー画面

```
<テンケン-ウンヨウ-テンケント`ウサセッテイ> ↑↓
1. ニュウリョクオンゲン 2. SPカイセン 3. EMG24Vブ`レイク
```

→前ページを参照し各項目を選択してください。

[2. SPカイセン] で [3. コベツOFF] を選択した場合は、OFFにするスピーカー回線番号を入力します。

動作設定SP回線個別OFF設定画面

```
<テンケン-ウンヨウ-ト`ウサセッテイ-SPカイセン-OFF> ↑↓
SP NO. :101, 102, 103, 104, 105, 151, 152, 153,
```

[6. プログラムテスト] で [1. ON] を選択した場合は、テストするプログラム番号 (1~16) を選択し、**確定**を押します。

動作設定プログラムテスト番号選択画面

```
<テンケン-ウンヨウ-ト`ウサセッテイ-フ`ロク`ラムテスト>
フ`ロク`ラムNO. :16-フ`ロク`ラム16
```

さらにテスト時刻を設定してください。

動作設定プログラムテスト時刻設定画面

```
<テンケン-ウンヨウ-ト`ウサセッテイ-フ`ロク`ラムテスト>
テストジ`コク 08:59:00
```

上記以外は、手順4に進んでください。

4 必要な設定をすべて行ったら**戻る**を押して手順2の画面に戻ります。

5 [2. テンケンジッコウ] を選択し、**確定**を押します。

点検運用メニュー画面

```
<テンケン-ウンヨウ-テンケンジ`ッコウ>
ジ`ッコウシ`マスカ? 1. ハイ 2. イ`イ
```

→運用点検実行確認画面が表示されます。

6 [1. ハイ] を選択し、**確定**を押します。

運用点検中画面 (プログラムテストなし)

```
< 杓`ウ > ****テンケン**** < フ`ロク`ラム >
22:01:32
```

→プログラムテストの有無により、右のような画面が表示されます。

運用点検中画面 (プログラムテストあり)

```
< 杓`ウ > *フ`ロク`ラムテスト* <フ`ロク`ラム-16>
*08:59:00* フ`ロク`ラム16
```

7 出力を確認したら、**取消** (点検終了) を押します。

→点検メニューを終えて通常画面に戻ります。

システム監視と異常発生時の確認

保守目的で行う点検機能のほかに、通常運用中に以下のシステム監視を行っています。

これらの項目で異常が発生した場合は、本体前面パネル上部の「システム異常」表示灯が点灯し、ブザー音が鳴ったりしてお知らせします（ブザー音が鳴らない異常もあります）。

マイクドア内の「異常表示」を押すと、発生した異常の内容を液晶画面にて確認することができます。

また、「ブザー停止」を押すとブザー音だけ先に止めることができます。

次の表を参照して対処してください。

監視項目/ ブザー音有無	監視内容	異常表示例と対処方法
蓄電池異常 ブザー音：あり	本体・増設用出力制御ユニット・拡張制御ユニット・非常制御出力ユニットに接続または増設される非常電源ユニットを蓄電池点検時刻（一日に一回）または「蓄電池点検」を押したときに点検	<p>[蓄電池異常] 表示灯が点灯→「異常表示」を押す</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><チケンチジヨウ> ホタイ</p> </div> <p>→表示されたユニットの蓄電池を交換してください。交換充電後満充電になると（約48時間）、正常検出され「蓄電池異常」表示灯が消灯します。</p>
コンピューター異常 ブザー音：無	本体のコンピューター（CPU）の異常を常時監視	<p>[コンピューター異常] 表示灯が点灯</p> <p>→マイクドア内のコンピューター制御スイッチを「切」→「入」操作します。</p> <p>※復旧しない場合は、故障の可能性があります。</p>
通信異常 ブザー音：あり	本体と、増設用操作ユニット、入力マトリクスユニット、増設用出力制御ユニット、拡張制御／非常制御出力ユニットとの通信異常を常時監視	<p>[システム異常] 表示灯が点灯→「異常表示」を押す</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><ツウシジヨウ> ゾケツツウサ： 1, 2, 3, 4,</p> </div> <p>→該当するユニット間を接続する回線やコネクタを確認してください。正常に通信ができると、「システム異常」表示灯は自動的に消灯します。</p>
SP回線短絡異常 ブザー音：無	スピーカー回線短絡の常時監視 →短絡検出時、該当するスピーカー回線を強制OFFして制御を無効にします。	<p>[システム異常] 表示灯が点灯→「異常表示」を押す</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><SPカセンタンラク> イジヨウワッキョウトリカ SP NO. : 10, 20, 30, 40,</p> </div> <p>→該当するスピーカー回線や端子部の配線を確認してください。短絡状態を修復後、「取消」を押すと「システム異常」表示灯は消灯します。</p>

監視項目/ ブザー音有無	監視内容	異常表示例と対処方法
一斉／個別 EMG24V ブレーキ異常 ブザー音：あり	一斉／個別EMG24Vブレーキ出力の 常時監視 →短絡検出時、システムを強制OFFして制 御を無効にします。	[システム異常] 表示灯が点灯→ 異常表示 を押す <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <EMG24Vイジョウ-イッセイ> イジョウフクキュウ→トリカシ シュツリョク:01-0, 01-2, 02-1, 02-2 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <EMG24Vイジョウ-コハツ> イジョウフクキュウ→トリカシ セツテシNO.: 1, 2, 3 </div> →EMG24Vブレーキ系統や端子部の配線を確認し てください。不具合状態を修復後、異常表示画面 が表示されているときに 取消 を押してください。 [システム異常] 表示灯は消灯します。
データ異常 ブザー音：無	本体起動時に、設定データ、音源デー タをチェックします。	[システム異常] 表示灯が点灯→ 異常表示 を押す <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <データイジョウ> セツテデータ </div> → マイクドア内のコンピューター制御スイッチを [切] → [入] 操作します。
マルチリモコン/ リモコンマイク 電源異常 ブザー音：あり	マルチリモコン／リモコンマイクに供 給する電源異常監視 →短絡検出時、システムを強制OFFし て電源供給を止めます。	[システム異常] 表示灯が点灯→ 異常表示 を押す <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <デンガンイジョウ> マルチリモコン </div> →マルチリモコン、リモコンマイクの電源の回線や 接続を確認して、不具合状態を修復してください。 電源異常が復旧すると、自動的に [システム異常] 表示灯が消灯します。

※蓄電池点検は約10秒間です。続けて行くと蓄電池の寿命を縮めますのでご注意ください。

蓄電池の点検と交換

システムに接続されている緊急業務放送用非常電源ユニット（WP-570B）の蓄電池点検を、システムコントローラーのマイクドア内の蓄電池点検ボタンで一括して行います。

※点検状態は、システムコントローラーの液晶画面には表示されません。非常電源ユニットの表示灯で確認してください。

※システムコントローラーマイクドア内の「異常表示」を押すと、蓄電池異常が発生している非常電源ユニットの系統を確認することができます。

メモ

- 蓄電池の点検および交換は、停電放送を行うために非常電源ユニットを使用しているシステムのみ必要です。停電放送を行わないシステムでは必要ありません。
- 交換した新規の蓄電池が使用可能な状態になるのは約24時間後です。
- 放電した蓄電池が使用可能な状態になるのは約48時間後です。
- AC100 V通電中で蓄電池が接続されている場合、蓄電池点検を「切」にしても充電できます（非常電源ユニットの「充電中」表示灯が点灯します）。

手動点検

1 システムコントローラーのマイクドア内の蓄電池点検を押す

各非常電源ユニットの充電中表示灯が約10秒間消灯して点検を行います。

このとき、各非常電源ユニットの非常電源表示灯は蓄電池の状態を表示します。

緑：正常電圧の範囲内

橙：正常電圧の下限（蓄電池の交換時期が間近です。）

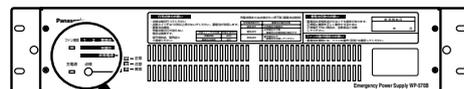
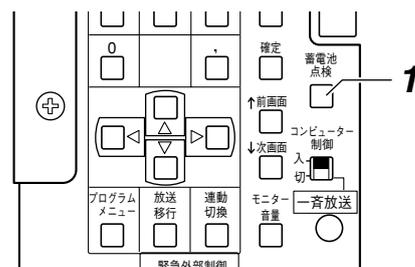
赤：動作電圧以下（蓄電池を交換が必要です。）

点検の結果、異常がない場合はそのまま運用画面を表示します。

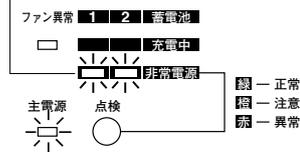
点検の結果、異常がある場合は、システムコントローラーの「システム異常」表示灯が点灯し、ブザーが鳴ります。

ブザー音を停止させる場合は、システムコントローラーマイクドア内の「ブザー停止」を押すと止まります。

システムコントローラーマイクドア内



非常電源表示灯



自動点検

24時間おきに1回、自動で蓄電池点検を行います。

蓄電池異常を検出すると、システムコントローラーの「システム異常」表示灯が点灯し、ブザーが鳴ります。ブザー音を停止させる場合は、システムコントローラーマイクドア内の「ブザー停止」を押すと止まります。

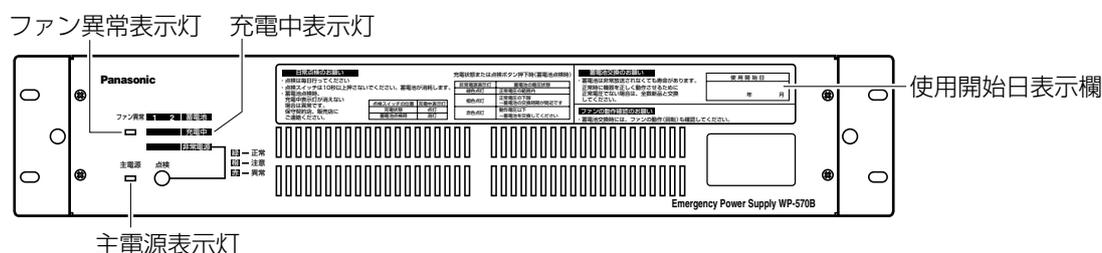
メモ

- 24時間おきの自動点検の点検時刻は設定可能です。（→196ページ）
- 非常電源ユニットを使用していないシステムでは本機能は動作しません。
- 蓄電池の充電が不十分な場合も蓄電池異常を検出しますが、十分充電されたのちに自動点検が行われると、自動的に復旧します。

非常電源ユニット単体の点検

1 主電源表示灯、充電中表示灯、ファン異常表示灯を確認する

使用開始日から4年を過ぎていないか確認する。



正常状態……主電源表示灯、充電中表示灯は点灯、ファン異常表示灯は消灯

メモ

- 接続された蓄電池が1個だけのとき、もう一方の充電中表示灯は点灯しません。

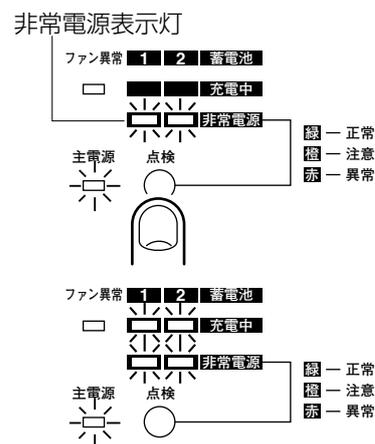
2 点検スイッチを押しながら非常電源表示灯を確認する

点検スイッチを押している間、充電中表示灯は消灯します。

緑：正常電圧の範囲内

橙：正常電圧の下限（蓄電池の交換時期が間近です。）

赤：動作電圧以下（蓄電池を交換してください。）



重要

- 押している時間が短いと正しい点検ができませんので、5秒以上は押ししてください。
- 点検時は蓄電池を消耗します。点検スイッチは10秒を超えて押さないでください。

3 点検スイッチを放し、充電中表示灯が点灯するか確認する

●蓄電池の交換について

⚠ 注意

蓄電池の交換は、販売店か
保守契約店に依頼する



感電の原因になります。

- 蓄電池の寿命は、使用するしないにかかわらず4年間です。これを過ぎると、たとえ点検時に正常電圧が表示されても全数交換が必要です。
- 交換した蓄電池の取り扱いは注意してください。
- 不要になったニッケル・カドミウム蓄電池は貴重な資源を守るために、廃棄しないでニッケル・カドミウム蓄電池のリサイクルにご協力ください。



Ni-Cd

保守点検

注意喚起表示と対処方法

ここでは、操作中に液晶画面に表示される注意喚起表示について説明します。
メッセージは、表示中に[戻る]のボタンを押すか、無操作で8秒経過すると自動的に消えます。

本機の操作ができないとき

注意喚起表示	原因・対策
<p><カキコミメニュー> PCセツゾクチュウ</p> <p><プログラムメニュー> PCセツゾクチュウ</p> <p><プログラムメニュー> プログラムメニュー ハ ヒョウジデキマセン</p> <p><PCカードメニュー> PCセツゾクチュウ</p>	<ul style="list-style-type: none">● [動作選択] や [プログラムメニュー] を押して本体操作をしようとしたときに、PC-本体が接続中だった。 →このような場合は、本体操作を行うことができません。運用支援ソフトからの運用モニター画面を終了してから本体操作を行ってください。
<p><PC キョウセイセイギョチュウ> ホントイソウサ ハ デキマセン</p>	<ul style="list-style-type: none">● 本体操作をしようとしたときに、PCと本機とが接続中で、PCから設定支援ソフトを使って保守・点検の制御入出力チェック中だった。 →設定支援ソフトからの「強制制御」を中止してから本体操作を行ってください。
<p>セッテイデータ ジュシンチュウ・・・</p> <p>セッテイデータ ソウシンチュウ・・・</p> <p>ドウサリレキデータ ソウシンチュウ・・・</p>	<ul style="list-style-type: none">● 本体操作をしようとしたときに、PCと本機とが接続中で、PCから運用支援ソフトまたは設定支援ソフトを使って、本体読み込み・本体書き込み・動作履歴データの送信が実行中だった。 →本機とPC間でデータの送受信を行っているときは、本機の操作はできません。データ送受信終了後に行ってください。
<p><チクデンチ ショウチュウ> チクデンチ テンケン ハ デキマセン</p>	<ul style="list-style-type: none">● [蓄電池点検] を押したとき、蓄電池から電源供給中（「蓄電池動作」表示灯点灯中）だった。 →蓄電池動作中は、蓄電池点検はできません。「通電」表示灯が点灯していることを確認してから行ってください。
<p>サイキドウチュウ・・・</p>	<ul style="list-style-type: none">● 設定データの更新により、本機が再起動している。 →再起動中の本体操作は無効です。誤作動防止のため、操作しないでください。再起動が完了し、通常画面が表示されるのを待ってから操作してください。

設定するとき

注意喚起表示	原因・対策
<p><スウチ ハンイガイ> ニュウリョク カノウナ スウチ ニ ヘンコウシテクダサイ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●入力した値が設定範囲外だった。 例：スピーカー回線番号に実在しない大きな値（500など） 例：存在しない時刻（25時など） →有効な値を入力してください。
<p><ライン2 ショウフカ> ライン2 ハ キンキュウセンヨウ デス</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●業務放送の音声として「ライン2」を選択しようとしたが、緊急放送専用を設定してあった。 →緊急放送の設定でライン2を「緊急・業務兼用」に設定してください。
<p><ホンタイムメモリー ホゾンシッパイ> モウイチド ソウサシテクダサイ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●設定データの保存に失敗した。 →設定の変更内容を確認し、動作選択を押して再度保存を行ってください。
<p><プログラム**－サクセイ> ヒツケヘンコウジコク ケイカ ヘンコウ ハキシマシタ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●プログラム作成中に、日付変更時刻になった。 →日付変更時刻には、スケジュールで設定されたプログラムが読み込まれ、保存されていないプログラムデータは破棄されます。再度変更操作を行ってください。

PCカードおよびPC関連

注意喚起表示	原因・対策
<p><PCカード ニンシキシッパイ> PCカード ヲ カクニンシテ モウイチ ド ソウサシテクダサイ</p> <p><PCカード ホゾンシッパイ> PCカード ヲ カクニンシテ モウイチ ド ソウサシテクダサイ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●本機に挿入したPCカードが認識されなかった。 →取り扱い可能なPCカードであることを確認し、再度操作してください。 ●PCカードに保存しようとしたができなかった。 →保存しようとしているPCカードにライトプロテクトがかかっていないか（書き込み禁止ではないか）確認してください。保存可能なPCカードと交換するか、ライトプロテクトをはずしてください。
<p><ファイル ナシ> PCカード ノ ファイルヲ カクニンシ テクダサイ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●[PCカード→ホンタイ]を実行しようとしたが、そのPCカードには必要なデータは保存されていなかった。 →データファイルが保存されているPCカードを使用してください。

注意喚起表示と対処方法（つづき）

注意喚起表示	原因・対策
<p><オナジ ナマエ ノ ファイル アリ> ファイル メイ ヲ ヘンコウ シテクダサイ</p>	<ul style="list-style-type: none">●PCカードにデータを保存しようとしたが、入力したファイル名がすでにPCカード中に存在していた。 →上書きによるデータ消失を防ぐため、PCカードに保存するファイルには異なる名前を付与してください。
<p><ヨウリョウ ブソク> PCカード ヲ カクニン シテクダサイ</p>	<ul style="list-style-type: none">●PCカードにデータを保存しようとしたが、保存するファイルの容量よりPCカードの残容量が少ないため、保存できなかった。 →残容量に余裕のあるPCカードに保存してください。
<p><データジュシン シツパイ> PCセツゾク ヲ カクニンシテ ヤリナ オシテクダサイ</p> <p><データソウシン シツパイ> PCセツゾク ヲ カクニンシテ ヤリナ オシテクダサイ</p>	<ul style="list-style-type: none">●運用支援ソフトまたは設定支援ソフトで本体書き込みまたは本体読み込みを行った際の本機とPCとの接続が正しくなかった。 →本機とPCの接続状態を確認してください。また、運用支援ソフト、設定支援ソフトの通信設定を確認してください。

故障かな!?

修理を依頼される前に、この表で症状を確かめてください。

これらの処置をしても直らないときや、この表以外の症状のときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

症 状	原 因 ・ 対 策	参照ページ
システムコントローラーの通電表示灯が点灯しない	<ul style="list-style-type: none"> ●PWR CONTケーブルが正しく接続されていますか？ ●電源制御ユニットにAC100 Vは通電されていますか？ →電源制御ユニットに商用電源が供給されているか確認してください。 →PWR CONTケーブルの接続を再確認してください。 	42~53
入出力制御ユニットの通電表示灯が点灯しない	<ul style="list-style-type: none"> ●PWR CONTケーブルが正しく接続されていますか？ ●電源制御ユニットにAC100 Vは通電されていますか？ →電源制御ユニットに商用電源が供給されているか確認してください。 →PWR CONTケーブルの接続を再確認してください。 	42~53
マルチリモコンマイク (WR-MC100A) に電源が供給されない	<ul style="list-style-type: none"> ●システムコントローラーのシステム異常表示灯が点灯し、異常詳細表示で「リモコンデンゲンイジョウ」が表示されていませんか？ →マルチリモコンマイクの電源端子は、電源供給の異常を検出して、回路を遮断する機能があります。マルチリモコンマイクへの配線やマルチリモコン側の状態に故障がないか確認してください。 →入出力制御ユニットのマルチリモコンマイク電源端子から供給できる電源は、4台までです。5台以上のマルチリモコンを接続する場合は、ACアダプターにより、マルチリモコンマイクに直接電源を供給してください。 	56~58
マルチリモコンマイク (WR-MC100A) が動作しない	<ul style="list-style-type: none"> ●システムコントローラーでマルチリモコンマイクを認識させる必要があります。 →システムコントローラーの機器構成を再度行う必要があります。 →本システムで使用可能なマルチリモコンマイクは、WR-MC100Aです。WR-MC100は動作しません。 	154~161
リモコンマイクに電源が供給されない	<ul style="list-style-type: none"> ●システムコントローラーのシステム異常表示灯が点灯し、異常詳細表示で「リモコンデンゲンイジョウ」が表示されていませんか？ →リモコンマイクの電源端子は、電源供給の異常を検出して、回路を遮断する機能があります。リモコンマイクへの配線やリモコンマイク側に故障がないかを確認してください。 	59~60

必要なとき

故障かな!? (つづき)

症 状	原 因 ・ 対 策	参照ページ
<p>リモコンマイクに電源が供給されない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●優先順位が高い他の放送が行われていませんか？ ●リモコンマイクの個別放送スイッチと一緒に放送スイッチも押されていますか？ <p>→リモコンマイクの電源は、リモコンマイクが放送できるときに供給されます。他に優先順位が高い放送が行われているとリモコンマイクは放送できないため、電源は供給されません。</p>	<p>178</p>
<p>増設用操作ユニット、入力マトリクスユニットが動作しない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●それぞれのユニットの通電表示灯は点灯していますか？ ●システムコントローラーで機器構成を設定しましたか？ <p>→CONT BUS AケーブルはIN、OUTが正しく接続しないと各ユニットに電源が供給されません。</p> <p>→ユニットなどを追加し、機器構成を変更したときはシステムコントローラーから機器構成を再設定必要があります。</p>	<p>89~90、 107~111、 154~161</p>
<p>増設用出力制御ユニットが動作しない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●それぞれのユニットの通電表示灯は点灯していますか？ ●システムコントローラーで機器構成を設定しましたか？ <p>→CONT BUS BケーブルはIN、OUTが正しく接続しないと各ユニットに電源が供給されません。</p> <p>→ユニットなどを追加し、機器構成を変更したときはシステムコントローラーから機器構成を再設定する必要があります。</p>	<p>91~97、 154~161</p>
<p>システムコントローラーの内蔵時計の時刻がリセットされる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●長期間（約10日間以上）、システムに電源を入れない状況が続くと内蔵時計のバックアップができなくなり、内蔵時計の時刻がリセットされます。プログラムコントローラー機能をご使用になる場合は、常時通電をおすすめします。 	<p>119</p>
<p>システムコントローラーの内蔵時計の時刻がずれる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●温度変化が激しい場所に設置されている場合、内蔵時計の精度が低下し、時刻のずれが大きくなります。室温を25℃前後にするか、時刻補正を行ってください。 	<p>119</p>
<p>音声入力に接続された音源機器やマイクの入力音量が小さい（大きい）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●各音声入力の音量調整は行いましたか？ <p>→システムコントローラーの前面パネルにより、本体マイク、BGM、ライン1、ライン2の音量調整が可能です。</p> <p>それ以外の音声入力は、システムコントローラーマイクドア内のスイッチ操作により行います。</p>	<p>197~202</p>

必要なとき

症 状	原 因 ・ 対 策	参 照 ペ ー ジ
内蔵音源の音量が小さい (大きい)	<ul style="list-style-type: none"> ●内蔵音源の音量調整はしましたか？ →内蔵音源 (メッセージ、コールサイン) は、あらかじめ音量調整が必要です。 	199~201
システムコントローラーの音声が出力されない	<ul style="list-style-type: none"> ●システムコントローラーの非常放送優先表示灯が点灯していませんか？ →外部 (非常用放送設備) から非常放送優先信号が入力されています。 	71
内蔵音源のオリジナルメッセージが放送できない	<ul style="list-style-type: none"> ●オリジナルのメッセージを正しく登録していますか？ →オリジナル音源を作成するためには、パソコンで標準的に使用されている音源ファイル(WAV形式)、設定支援ソフト (無償提供) とPCカードが必要になります。WAV形式ファイルは、サンプリング周波数44.1 kHz、16ビット、モノラルに対応しています。 ※設定支援ソフトの入手方法については、販売店にお問い合わせください。なお、弊社ソフトウェアダウンロードサイトからも入手できます。 	設定支援ソフト 取扱説明書
内蔵音源のオリジナルコールサインが放送できない	<ul style="list-style-type: none"> ●コールサインを正しく登録しましたか？ →コールサイン用の音源データが正しく書き込まれているか、再度確認してください。PCカードから本体に音源データを登録した後、そのオリジナルコールサインを、コールサインスイッチに割り付ける設定が必要です。 	設定支援ソフト 取扱説明書
非常放送優先入力が動作しない	<ul style="list-style-type: none"> ●入出力制御ユニットの非常放送優先設定のディップスイッチが「する」になっていますか？ →本ディップスイッチは出荷時は、「しない」に設定されています。 →入力可能な信号は、非常放送を行っていないときは、DC24Vの信号 (EMG24Vブレイク信号) です。無電圧メイク接点で動作させることはできません。 	71
システムコントローラー (増設用操作ユニット) の作動表示灯が点滅している	<ul style="list-style-type: none"> ●システムコントローラーのシステム異常表示灯が点灯し、異常詳細表示に「SPカイセンタンラク」が表示されていませんか？ →スピーカー回線が短絡検出をしています。該当するスピーカー回線の感度切換スイッチ設定が正しいか、スピーカー回線が短絡していないかを確認します。(複数のスピーカー回線短絡が発生している場合は、<input type="button" value="↑前画面"/> / <input type="button" value="↓次画面"/> を押すと表示されます。) →不具合箇所を改修後、異常詳細表示画面で異常の復旧を行ってください。 	218

必要
な
と
き

故障かな!? (つづき)

症 状	原 因 ・ 対 策	参照ページ
<p>スピーカー回線の短絡を修理したが、作動表示灯の点滅が消えない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●スピーカー回線短絡表示の復旧を行いましたか？ →異常表示を押して、異常詳細表示画面を表示し、取消を押します。 	<p>218</p>
<p>システムコントローラーの内蔵音源が放送できない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●多元放送時に入力マトリクスユニットの音声入力CH2以降に設定しているリモコンマイクや放送起動から、システムコントローラーの内蔵音源（メッセージ、コールサイン）を放送することはできません。 →多元放送時にシステムコントローラーの内蔵音源を使用する場合は、音声入力ch1になるようシステム設定を行ってください。 	<p>105~107</p>
<p>リモコンマイクのコールサインが放送できない</p>		
<p>システムコントローラーに蓄電池異常が表示される</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●蓄電池の電圧が低下しています。 →蓄電池の寿命（約4年）か、充電時間が短いために蓄電池充電が不十分です。寿命の場合は、すみやかに蓄電池交換を実施し、停電放送を行うためにシステムに非常電源ユニットと蓄電池を使用している場合は、AC100Vを常時通電してください。 	<p>221</p>
<p>システムコントローラーのコンピューター異常表示灯が点灯している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●システムコントローラーマイクドア内のコンピューター制御スイッチが「切」になっていませんか？ →コンピューター制御「切」状態では、本体マイクからの一斉放送、ライン1入力（設定時のみ）が放送されません。 →システム設定データ書き込み中などに電源を「切」にすると、システムデータが壊れ、正常にシステム起動することができないためコンピューター異常表示となる場合があります。このときは、コンピューター制御スイッチを「切」→「入」して、正常に立ち上がるかを確認してください。 	<p>74</p>

■当社製品のお買物・取り扱い方法・その他ご不明な点は下記へご相談ください。

システムお客様ご相談センター

フリーダイヤル

パナハ ヨイワ



0120-878-410

受付：9時～17時30分（土・日・祝日は受付のみ）

ホームページからのお問い合わせは https://connect.panasonic.com/jp-ja/support_cs-contact

ご相談窓口における個人情報のお取り扱いについて

パナソニック コネクト株式会社およびグループ関係会社（以下「当社」）は、お客様の個人情報やご相談内容をご相談への対応や修理、その確認などのために利用し、その記録を残すことがあります。また、折り返し電話をさせていただくときのために、ナンバーディスプレイを採用している場合があります。当社は、お客様の個人情報を、適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に提供しません。お問い合わせはご相談された窓口にご連絡ください。

便利メモ	お買い上げ日	年	月	日	品番	WL-K600
おぼえのため 記入されると 便利です	販売店名	電話（	）	—		

パナソニック コネクト株式会社

パナソニック エンターテインメント & コミュニケーション株式会社

〒812-8531 福岡県福岡市博多区美野島四丁目1番62号